

7. 自己点検・評価報告書

(1) 2019 年度第 3 クォーター 掲載目次

専任教員

【所属】

人文学部	キリスト教学科	1
人文学部	人類文化学科	9
人文学部	心理人間学科	17
人文学部	日本文化学科	22
外国語学部	英米学科	26
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	36
外国語学部	フランス学科	40
外国語学部	ドイツ学科	44
外国語学部	アジア学科	47
経済学部	経済学科	50
経営学部	経営学科	58
法学部	法律学科	68
総合政策学部	総合政策学科	77
理工学部	システム数理学科	86
理工学部	ソフトウェア工学科	89
理工学部	機械電子制御工学科	92
国際教養学部	国際教養学科	95
短期大学部	英語科	104
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	105
教職センター		106
国際センター		107
情報センター		108
外国語教育センター		108
体育教育センター		118
南山宗教文化研究所		120

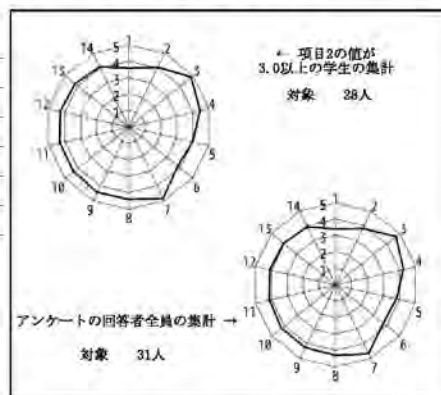
非常勤教員

【所属】

人文学部	人類文化学科	121
人文学部	心理人間学科	123
人文学部	日本文化学科	125
外国語学部	英米学科	127
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	128
外国語学部	フランス学科	131
外国語学部	ドイツ学科	133
外国語学部	アジア学科	133
経済学部	経済学科	135
経営学部	経営学科	139
法学部	法律学科	142
総合政策学部	総合政策学科	144
理工学部	システム数理学科	146
国際教養学部	国際教養学科	147
共通教育	仏語	147
共通教育	中国語	148
共通教育	共通	150
共通教育	体育	161
教職センター		161
外国語教育センター		162

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[B]2
授業コード 10A01-010
教員名 MCMULLEN, Matthew
教員コード 103838
登録人数 141
回答数 31
回答率 22.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



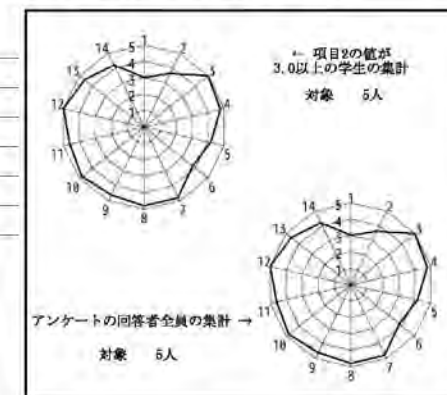
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I changed the course slightly from last year. I required students to write their thoughts on the lecture topic before the lecture and then note how their perspective changed based on the material covered during the class. Occasionally, students followed these instructions, but for the most part they just repeated themselves or gave generic responses to the questions. The exam consisted of short answer and essay questions. There were a few exceptional students, but I was disappointed by the inability of most students to express their ideas in writing. I provided them with the questions in advance, so I am not sure how I could make it any easier. Next year I will require more work outside of the classroom to help prepare students for in-class assignments.

Regarding the 宗教論 course, I would find it extremely helpful if there were guidelines stipulating the goals of the course and what is expected from and by the students. My goal was to encourage them to think about how religion affects their daily lives. However, based on their writing and exams, that goal mostly failed. The students seemed to prefer the reputation of data to critical analysis.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[P]1
授業コード 10A51-014
教員名 SUSAI, Raj
教員コード 101347
登録人数 7
回答数 5
回答率 71.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

In the class on Introduction to Christianity in the 3rd Quarter there were only seven students. Since it was a small class enough attention was paid in focusing on the students. The goals that were set in the syllabus were achieved. Further the syllabus was followed with a few changes due to students interest or the lack of it. The students were more or less, took active participation in the class and also paid attention to what was being said in the class. Almost all the students had no idea of Christianity, so time to time the class had to deviate from the syllabus to help the students understand the subject. As it is evident from the students' evaluation that most of the time and most of the content of the class was followed. More visual aids, such as power points can be included to make the subject easy to understand. As a student pointed out in the evaluation, visual presentation through DVD was good but could include more. In the next year's curriculum more visual presentation can be added to make the class interesting at the same time to help the students understand the subject. In over all view purpose of the course had been achieved.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[P]3

授業コード 10A51-016

教員名 KISALA, Robert

教員コード 018275

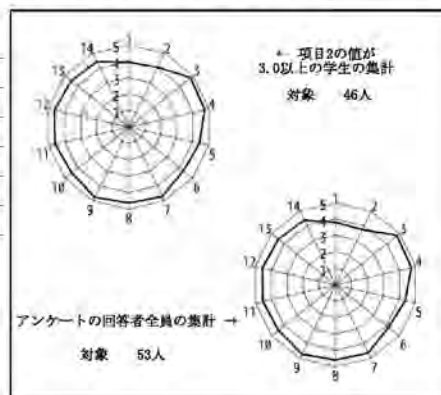
登録人数 129

回答数 53

回答率 41.1%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標として「キリスト教の価値観を理解し、現実社会でどのように実現されているかを探究する知識を獲得する」と「現代社会の諸問題を意識し、それらの解決についてキリスト教的価値観を用いて考察することができる」という二つを初回授業で学生に提示した。学生評価の結果（設問番号5：平均値4.38；設問番号6：平均値4.17）から、学生らは到達目標をある程度理解して授業に取り組んでいたと捉えることができる。また、自由記述式設問の回答結果からは特に映像資料の使用は積極的に評価されていると言える。一方で、講義内容とテーマの意図を十分に理解できなかったと感じる学生もいたようだ。講義で紹介された各概念やテーマに関するさらなる説明が必要であろう。

本講義の改善点として、上述した講義中のさらなる説明の工夫とともに、講義の各テーマに関連する視聴覚教材の積極的使用を通して学生の理解度を高くして、学生の学習意欲を引き出していきたい。また、学生の学習意欲を引き出すために講義に扱う各テーマに関連する具体的な社会現象などを紹介したつもりだが、それらをさらに展開する余地があると思う。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 性と生命における人間の尊厳6

授業コード 10D06-006

教員名 RAJCANI, Jakub

教員コード 103281

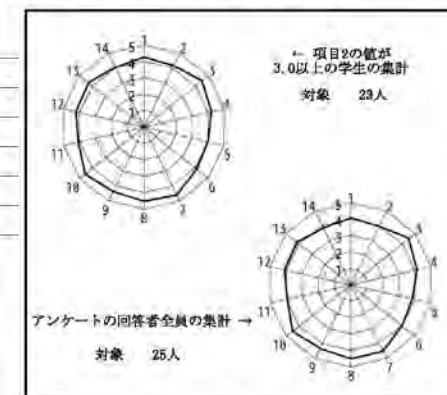
登録人数 50

回答数 25

回答率 50.0%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① この授業の目標であった人間の尊厳の歴史的なツールと内容を知ったり、その尊厳が様々な時代と地域で損なわれて問題になったりする具体例について考えるということを実感させることができたと思います。いつも繰り返しますが、教員の価値観に賛成することを求めているのではなく、こちらから投げかけた疑問について各自で考え、人生の中で一番良いと思う答えを出していくことが狙いです。このような分野であるからこそ、深刻な問題、悩ましい問題、はっきりとした解決のない問題が山ほどあるので、どれに絞れば良いかいつも迷っているのは正直なところですが。毎回少し時間が足りない感じがして、紹介したいテーマは多過ぎるのかもしれない。
- ② 学生によって気に入る、ためになるテーマややり方は異なります。皆に喜ばれることは不可能です。しかも、もちろん誰が書いているのかわかりませんが、きちんと授業に出ているかどうかは確かではありません。集中率、積極的な準備だけではなく、出席率もここ最近気になっています。スライドについてですが、ウェブクラスにもそのまま載せていますが、ゆっくり大きい字で読みたければ閲覧できますが、見ている人は少ないです。眠くなることについては、如何せん実習ではなく、講義型の授業なので話を聞いてノートを取らないといっていけないのは当然です。授業全体から分かることもあるので、毎回出ないと勘違いする部分もあります。
- ③ 改善策を常に真剣に考えているつもりです。スライドについて不平・不満を言われるなら、やめてみようかなと思っています。プリントも、聞き逃さないように大まかなレジメを配っていましたが、逆効果のようなので、今度からは引用文以外には一切配布資料をやめることを検討中です。また、言葉遣いについて色々誤解を招くことがあるかもしれないので、もっと客観的・一義的な言い方に気をつけていきたいと思っています。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテン語II文法[HC]<全>1

授業コード 11J02-001

教員名 井上 淳

教員コード 100301

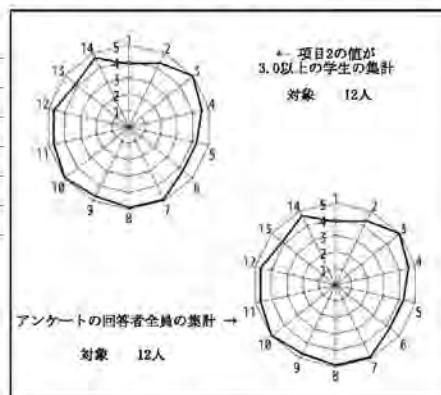
登録人数 23

回答数 12

回答率 52.2%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設定していた目標には到達できた。小人数クラスなので評価は概ね良い。特にあげるなら、3と10が5.00であり、全体の満足度の14が4.67であった。今回の原典解説の課題はマルコ・ポーロの『東宝見聞録』のジパング（Zipangu）の部分である。ラテン語原典は省略するが、日本語訳は次の通り。

1. ジパングは東方の或る島であり、陸地（中国大陸）から1,500マイル（約2,400km）離れた沖の海にある。
2. それはとても大きな島で、その国民は色白であり、美しい慣習に従っており、美しい。（礼儀正しく上品だと訳すこともできる）
3. 彼らは諸々の偶像（おそらく仏像のこと）を崇拝しており、また彼ら自身を独力で維持管理している。すなわち、彼ら自身の王によって治められている。（つまり、どこかの国の植民地ではなく独立した王国だということ）
4. 彼らは最大の豊富さにおいて金（きん）を保有している。と言うのも、そこでは度を越えて金が見つかるからである。
5. そして、誰もその島から金を奪わない。なぜかと言うと、商人にせよその他の人にせよ、大陸からその地域をしばしば訪れる人はほとんど誰もいないからである。
6. だから、これほど多くの金があるのだ。
7. その上、この島では無数の真珠が見つかる。それらは赤く、丸く、厚い。それらは白い真珠と同じかそれ以上の値打ちがある。

これからも、できるだけ興味深く面白いラテン語原典を探してゆきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテン語II文法<全>2

授業コード 11J02-002

教員名 松根 伸治

教員コード 101833

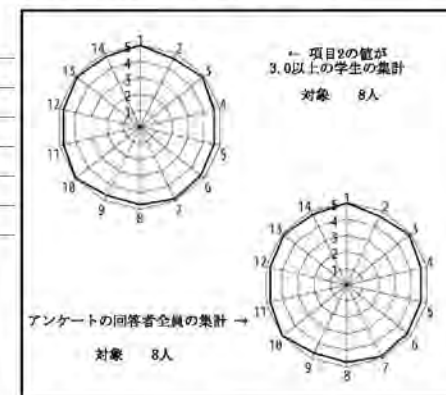
登録人数 11

回答数 8

回答率 72.7%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスで二つの目標「動詞変化の全体を身につけている」「接続法の用法を理解している」を掲げたが、接続法のくわしい説明と練習問題はQ3であつことができなかった。原因はQ1、Q2で復習に力を入れたことで、進むスピードが落ちたことが大きい。結果的にこのクォーターでは（1）動名詞、動形容詞、（2）デポーネンス、（3）直説法のすべての時制という三点を中心に学んだ。とくに時制の練習に集中したおかげで、定期試験の点数は大部分の受講者が満足 of いく結果だった。今回の試験でふるわなかった人には、来たるQ4では文法知識の復習をうながすなどの対応をして、クラス全体の勉強のレベルを保持したい。4月に全員が初めてラテン語を学ぶ状態でスタートしたが、現在、理解度、習熟度と勉強の基本的な姿勢という点で、10数名の中に相当の差が出ているように思われる。そこでとくに、理解が進んでいてもっと勉強したいという受講者の期待にどう応えるかが難しい課題である。今期の授業評価自体は、ラテン語への興味と理解、全体的な満足度の面で、数値は非常によかった。この評価をQ4での授業運営につなげていけたらと思う。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテン語IV文法＜全＞

授業コード 11J04-001

教員名 岡崎 隆哲

教員コード 103614

登録人数 6

回答数 2

回答率 33.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

「初級から中級レベルのラテン語の文献に親しみ、中級レベルまでの文法内容、語彙を確実に身につける」としていた目標にたいし、文法内容の習得にかんしては、講読テキストの読み進めと合わせて、毎回の授業で例文を板書して該当する文法内容の説明を行っており、初級レベルの文法にかんしては基礎が固められて行っていると考え。語彙力にかんしても、講読テキストの一つの読み物が終わるたびに暗記すべき単語をまとめたプリントを作成して配り、3回分たまるごとに問題プリントを配って解かせるということをしており、こちらも一定の語彙力の習得に至っていると考え。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

講読テキストの予習以外に、定期的に行う語彙力確認の問題プリントなど、さらには毎回行っている暗唱課題など授業にのぞむにあたって多くの課題があるため、授業について行くのが大変な受講生もいることが考えられる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

一定でいどのラテン語の習得のためにどうしても必要な課題を課すことと、受講生にとって負担にすぎることとのバランスについて考慮する必要があると考える。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 哲学B5

授業コード 12A02-005

教員名 渡邊 学

教員コード 017186

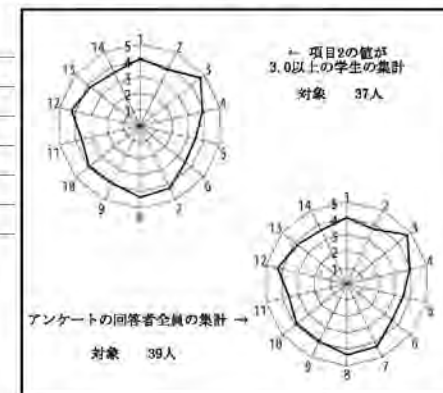
登録人数 87

回答数 39

回答率 44.8%

休講回数 2 回

補講回数 2 回

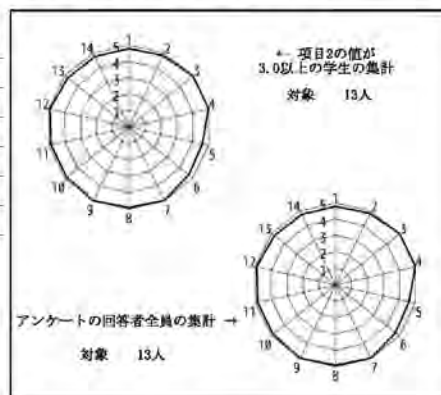


授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標としては、1) 現代の哲学・思想の問題意識の説明、2) 現代の哲学・思想の種類の説明、3) 現代の哲学・思想と今日的な問題の説明、の3点を挙げた。それらに関しては、だいたい目標を達成することができた。この講義では教科書は使わず、配付資料とPowerPointと板書によって講義を進めた。それらは、板書を除いて、WebClassにすべて掲示した。毎回、講義の初めにリアクションペーパーを配布し、講義の終わりに時間を取って記入させ、毎回、それに答える形で受講生の質問や要求や感想に答える努力をした。大きな質問に対しては、講義のはじめに取り上げて説明した。講義内容としては、多岐にわたる哲学や思想を扱ったため、使っている用語の概念規定がそれぞれで異なることもあり、学生の間に混乱を招いた点もあるように思われたのが残念だった。受験科目としての高校の倫理の明晰さを大学の講義科目としての哲学に得られないギャップに違和感を持った受講生も少なからずいたように思われる。学生の自由記述を読んで、学問としての哲学が単なる入門書に書かれた解答で済まないものであることを理解させることの困難さを痛感させられた。毎回提出するリアクションペーパーを採点に20%入れ、レポートを80%とすることとした。そのため、学生のリアクションペーパーが充実したものになったのは評価できる。講義の改善すべき点としては、予習復習のポイントを明示して学習効果を高める努力をすること、文字情報に偏っているPowerPointを図式や画像などを増やし、視覚的にも興味を抱きやすいものに変えること、などが挙げられる。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 思想・文化をめぐって1<国際科目群>
授業コード 13A06-901
教員名 SWANSON, Paul
教員コード 016683
登録人数 17
回答数 13
回答率 76.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

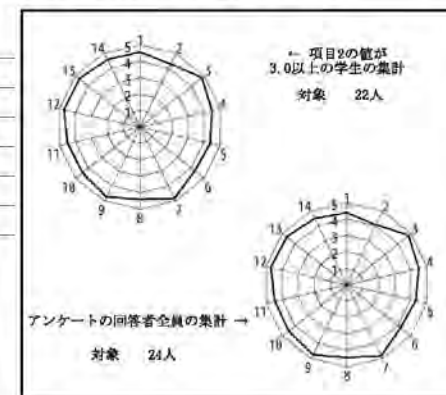


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) 学生の反応もよく、シラパスの内容を十分カバーすることができて、クラスの目標を到達したといえる。
- (2) 回答率 (14/15) も評価 (平均値 5.0 が 4 項目、最低の平均値が 4.77) も高く、総合的な評価はいままで最も高い数値になった。自由記述も 7 件の肯定的なコメント (先生は優しく英語で教えていたので、とても良かったです。そして先生の授業のおかげで、この後 Bob Dylan のことも興味を持つようになりました; I really like the content of this class. Professor Swanson transmits his passion and makes the class very interesting; など) 南山大学の教員として教える最後のクラスだったので、満足できる結果となった。
- (3) 私は今年度で南山大学から定年退職するので、次年度にむけての改善点などを考慮してない。ただ、今回のクラスに留学生が多く、英語で勉強したい日本の学生も少なくないので、南山大学としてこのような英語で開催するクラスをもっと開催することを期待したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教文化
授業コード 20A08-001
教員名 清水 美佐
教員コード 152757
登録人数 51
回答数 24
回答率 47.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① シラパスで設定した目標に関して、履修生の到達程度は良好とみられる。講義の到達目標を簡潔にして講義内でも度々これに言及し、どのような点に留意して講義を受けたらよいか繰り返し伝えたことは、一定の効果があったと考えられる。
- ② 全体集計平均値と比べると、項目8(教員の声や音声機器の音はよく聞き取れたか)の評価が平均より低く、自由記述欄においてもマイクの音量を上げてほしいという意見が1つあったため、声の聞き取りやすさについては前回の授業評価から引き続いての課題である。そのほか、自由記述欄の改善すべき点において複数名から挙げた意見に、パワーポイントのスライド全体を配布資料に入れてほしいというものがあった。配布資料の枚数が多くなりすぎないように重要度の低いスライドを度々省略して印刷していたが、次回以降はなるべく全体を載せるようにしたい。
今回、アンケートは授業の末尾10分の時間帯で実施し、回答を終えた履修生から退出可という方法を取ったが、すぐに退出してしまう履修生も少なからずおり、回答率は半分に満たなかった。次回の授業評価時には、授業の冒頭に回答時間をとる、なるべくなら項目を読み上げるなどの方法を考えたい。
- ③ 履修生が様々な学科や学年にわたる科目であるため、背景知識に差があっても、それぞれが興味を持ち理解しやすい講義となるよう心掛ける。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教史(近世教会史)

授業コード 21C04-001

教員名 三好 千春

教員コード 101173

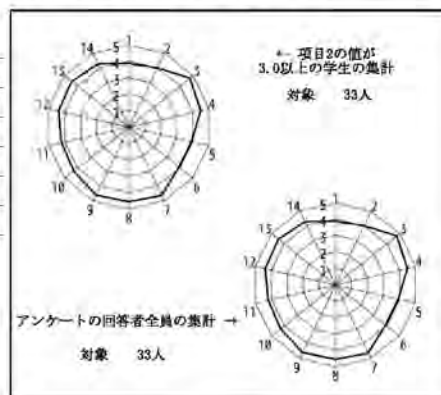
登録人数 52

回答数 33

回答率 63.5%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度、新しく導入したのが、講義開始時に、前回の講義に関する学生の質問に答える時間であった。学生は実に様々な質問、時にはハッとさせられるような質問をリアクションペーパーに記してくるし、時に誤解していることが分かるコメントを寄せるので、これらに答える、誤解を解く必要があると感じて始めたものだが、学生の回答を読むと、これがかなり高く評価されていることがわかった。このQ&Aは単に口で説明するだけでなく、A4一枚に簡潔にまとめて配布しているのだが、実はこの作成にはかなりの労力と時間がかかり、多忙の時などはやめたくなったりもした。しかし、学生側の理解を深めることができ、またコミュニケーションのツールとなり得ることが分かったので、大変ではあるが、今後もできるだけ続けていきたいと思う。

問題としては、学生が到達目標を理解しているか、また目標に近づいていると感じているかという設問についての点数が低いことで、これは改善の余地がある。また、世界史をとっていないためか、分かりづらいという意見もあり、世界史を高校で履修していないという前提のもとでいかに講義をするかが課題である。来年度は、到達目標の見直しと共に、世界史やキリスト教の知識が乏しいことを考慮に入れた上での講義内容の組み立てを考えたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 旧約聖書学(預言書B)

授業コード 21C21-001

教員名 加藤 久美子

教員コード 103475

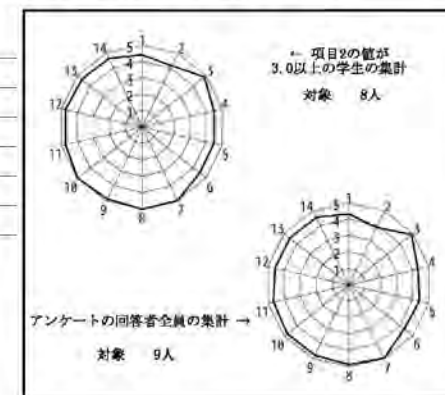
登録人数 17

回答数 9

回答率 52.9%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今期の授業は、旧約聖書の中でも、独特の文学形式と複雑な編集過程のゆえに、理解に特に多くの知識を必要とする預言書を主題とするものだった。そこで授業計画では詳細な解釈を行うテキストの分量を限定する方針をとり、授業の目標は、聖書学の方法論に関する基礎知識の修得と授業で取り上げた具体的なテキストの思想の理解とした。期末レポートからは特定のテキストの理解という目標はある程度達成されたことが見てとれた。しかし基礎知識の修得については不足した面があると思われる。設問2の数値には自主的な学習の不足が見てとれるが、基礎知識の獲得と定着のために各自の自主的な学習を促す必要があると思われる。設問4および自由記述欄に授業の進行が速かったという評価がみられるので、来学期はこの点に注意したい。授業では授業評価のために時間を設けたが、回答率が低くなってしまった。理由の一つとして、Q1で評価対象だった旧約聖書学がQ3でも対象となったことがあるかもしれない。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教哲学B
授業コード 21C35-001
教員名 佐藤 啓介
教員コード 102874
登録人数 12
回答数 3
回答率 25.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

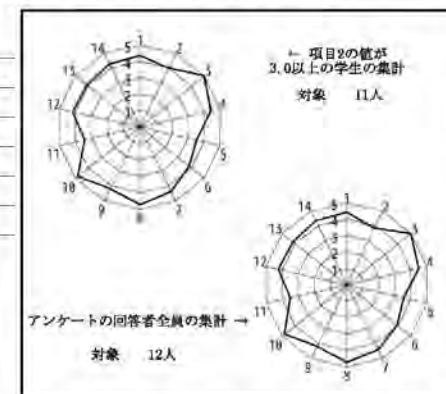
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本科目は、以下の3つを到達目標として設定していた。1. 近代以降の西洋世界において、キリスト教思想がもつ哲学的な意義を理解する、2. 近代以降におけるキリスト教思想の変容とその背景を理解する、3. 現代世界を他者とともに生きるうえで求められる価値観や態度を学ぶ。しかし、残念ながら今年度は受講者数が少なく、しかもアンケート記入者も多くなかったため(5名未満)、アンケートの数値結果は得られなかった。そのため、到達の程度については判断できない。②自由記述についても特に記入がなかったため、学生側の意見等はうかがえないが、受講者の受講態度は良く、課題等からも高い理解度がうかがえる。③例年に比べ(60~70名)、時間割の関係で受講者が少なくなりましたが、これについては、本学科の専門科目全体から考えると、むしろ例年の受講者数のほうが突出していたといえる。次年度の受講者数の様子を見たい。また、次年度はアンケート記入者の割合を増やすよう、何よりも心掛けたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織神学(キリスト論B)
授業コード 21C37-001
教員名 VARGHESE, Rejimon
教員コード 100555
登録人数 17
回答数 12
回答率 70.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2019年度Q3で組織神学(キリスト論B)は講義形式で行いました。

- この授業の到達目標は、イエス・キリストの誕生の前と後で彼を表すそれぞれのタイトルの神学的意味を探り、最初の7つの公会議によるキリスト論を基にしてイエスに対する「真の神、真の人間」という信仰は人類の救いのために不可欠であると学んでいることでした。15回の講義を通して開講当初に設定していた目標に到達したと評価した学生もいれば、ややだと評価した学生もいました。まず、講義内容を十分に把握するために、学生による興味と自習が必要です。
- 学生による総合的な評価は4点台です。だが、テーマが難しいや配布資料が不十分だと評価した学生がいる一方、改善が必要ではないと評価した学生もいます。この授業は組織神学なので、難しい内容になっているのは当然です。学生が自習してくることも大切だと思います。質問をする時間を与えても、学生はあまり質問しなかったです。
- 次回からはもう少し皆に分かりやすく講義や配布資料を作成していきたいと思っています。それに、評価が低かった項目を考慮していきたいと思っています。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織神学(三位一体論)

授業コード 21C38-001

教員名 鳥巢 義文

教員コード 017848

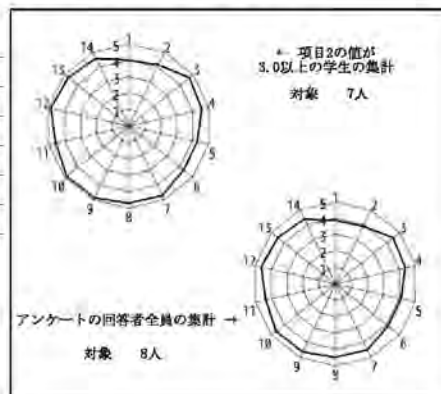
登録人数 25

回答数 8

回答率 32.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 目標と達成の程度

目標は、旧約と新約の両聖書における神理解の特徴をつかむこと、キリスト教教理史における三位一体の神理解の成立と内容を理解すること、さらに、「父と子と聖霊」に関する類比的説明の事例を紹介できることにおいた。付論として、イスラームの理解との比較をした。受講者の授業への興味（設問1）は当初3.88であったが、授業評価時点で、理解度（設問5）で4.13、力がついたか（設問6）で4.13と、少し上昇した。また、満足度（設問14）は4.38となった。

② 総合的な自己点検・評価

学習意欲の引き出し、自主的学習の促し（設問11）は4.38であるが、学生の理解度への配慮、配布教材の利用（設問9）は4.63、質問や相談の機会、事前・事後の指導（設問12）は4.63であった。今回、アンケートへの回答数が例年より少なかったことは残念である。また、自由記述の評価項目に「知らないことをしれたこと」とあり、これは、新しい知識、理解の深化（設問13）の4.50に呼応した。

③ 改善点・豊富・方針

改善すべきこととして、アンケート実施のために、十分に時間を取るなどの配慮が必要という点が挙げられる。また、配布する教材については、自らの研究成果の紹介と合わせて、今後も分かりやすいものに改訂を続けていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教思想B

授業コード 21C60-001

教員名 SOUSA, Domingos

教員コード 100753

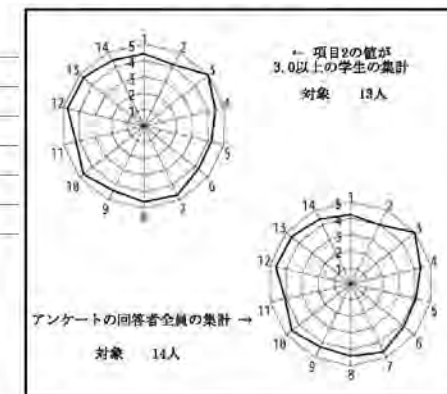
登録人数 24

回答数 14

回答率 58.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義は、極めて多様な価値観が存在する現代において、相互理解や対話が、どのような根拠の上に立って成立するのかを追究するとともに、思想の比較を通して自分たちの文化と他国の文化についての理解を深めながら、グローバルな視座で現代世界の動向を考えることを目指している。パワーポイント利用で講義したが、学習の補助のため各項目の内容をまとめるプリント教材も配布した。

講義に対する学生の評価結果は、全体として比較的高いと思われる。自由記述には肯定的評価として「授業の初めに前回のフィードバックの時間が多く設けられていて、受講者への情報の補足などが十分に用意されていた点良かったです」などがあげられている。設問項目、5、6、11については、評価が特に低かった来年度には、講義の各項目についてより分かりやすいレジメを提供し、関連文献を紹介することにより、主体的な学習と学習意欲を向上させる工夫をしたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 聖書ギリシア語(初級)I
授業コード 21C69-001
教員名 KUCICKI, Janusz
教員コード 101877
登録人数 10
回答数 4
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

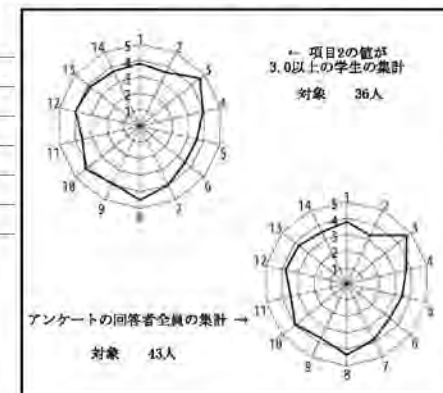
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

「学生による授業評価」の結果によると、「初級ギリシア語」は全般的に良い評価を得た科目であったと思われる。科目の内容と教え方については問題がなかった。学生授業評価の結果によると、学生たちは授業の準備と学習に対して自主的な動機を持っていた。しかし、学生による授業評価をしました学生達の人数がすくなかった(四人しかいませんでした)。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 倫理学1
授業コード 12A09-001
教員名 谷口 佳津宏
教員コード 016550
登録人数 61
回答数 43
回答率 70.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

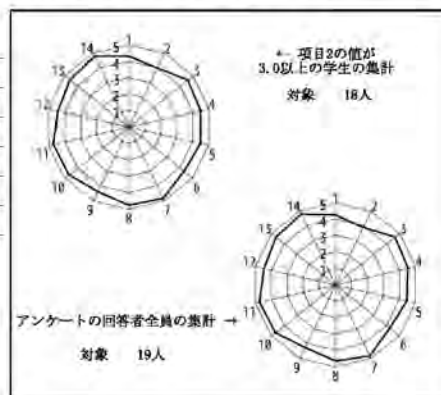


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した授業の到達目標は「1. 倫理と道徳の異同を理解している。2. 倫理と倫理学の違いを知っている。3. 伝統的な倫理学の基本内容をある程度知っている。4. 普段の生活のなかで倫理的な行動を行なうことができる。」であった。試験結果(合格率)からみれば、全体の64パーセントの受講生が到達目標を達成したといえる(平均点は63.9点)。自由記述欄からみると、「毎時間配布されるプリントが丁寧にまとめられており、とても分かりやすかった」ということを評価する者がいる一方で、「渡される紙の資料が見にくい点」を改善すべきとする者もあり、「一つの事柄についてかなり詳しく、細部まで説明があった」、「説明が細やかでわかりやすかったこと」、「一つ一つの用語や人物に丁寧な説明がなされていて、深い理解を促している点」を評価する者がいる一方で、同じ事態は「「〇〇は～ですが」「**は…と思うのですけど」といった言葉が多く、話が長くなる点」として改善すべき点となるという具合で、学生によって受け取り方が真逆であることがわかったが、こうなると、どこに基準を絞ったらよいのかわからず、途方にくれている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 考古学A
授業コード 12B01-001
教員名 大塚 達朗
教員コード 019372
登録人数 29
回答数 19
回答率 65.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

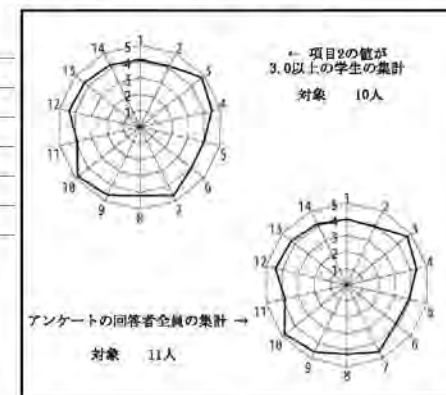


授業評価結果を踏まえた点検・評価

考古学の生業研究にもとづいて、食文化から日本人とは誰のことかを見通すことを修得させるのが、本講義に関して掲げた目標である。授業評価は、集計表によれば、全体では項目1から14の平均が4.33、項目3から14の平均が4.37であるのに対して、本講義はそれぞれ、4.51、4.58である。また、全体的な評価を問う設問（13・14）をみると、全体ではそれぞれ4.34、4.28であるのに対して、本講義はそれぞれ4.63、4.79で、高く評価されたといえよう。故に、目標はおおむね達成できたと考える。自由記述をみると、博物館での講義が「日本人がどのようなものを食事や身体性から読み解くという講義内容は、常に新しい視点を得られ、教授のものの考え方に驚くばかりの素晴らしい授業であった」「博物館で実際に土器を観察することや、少人数で集中的に教えてくれた部分もとても良かった」「図や写真を用いて先生が分かりやすく説明してくださったことと、博物館で数回土器の見学を行ったことです」などの記述の一方で、博物館での講義がなじめなかった記述もあった。ともあれ日本人を自明視する受講者に対して、考古学が提示する生業研究を踏まえた、過去の人びとの在り方の探索は従来とは大きく違う日本人像を提供したといえよう。また、知識が抽象的にならないように、人類学博物館所蔵考古資料を最大限に活用する次第である。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本史A2
授業コード 12B03-002
教員名 青山 幹哉
教員コード 019323
登録人数 42
回答数 11
回答率 26.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

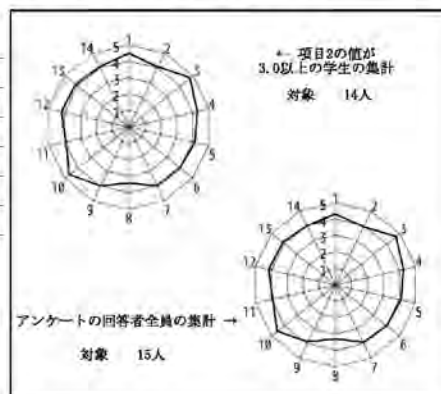


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 設定した到達目標は、(1) 日本中世史についての知識を習得することができる (2) 一つの歴史的事実に対して複数の見方があることを理解し、多面的な思考力を養うことができる、であった。項目6の平均値は3.82であり、受講生からするともう少し達成感が欲しかったかもしれない。
- ② 本科目は2019年度Q1学期における学生評価の対象であったので、設問が同じ項目を比較してみると、アップした項目が12、ダウンした項目が1、同じ項目が1という結果であった。ただし、前はほぼすべての項目に「1」を付けた学生がいたために数値が低下したのであって、前々回と比較すれば、大差ない結果となった。また、今期は図版資料に力を入れたこともあって、自由記述欄では「写真などの資料があって分かりやすかった」等の意見を見ることができた。さらに今期はWeb Class の「掲示板」を用いた質問コーナーを設けたこともあって、項目12の平均値は4.45と大幅にアップした。
- ③ 自由記述で2名から「課題(小レポート)が多い」との意見があった。前期から提出期間を少し伸ばしてみたが、それでも勉強する時間を確保できない(したくない)学生は多いようである。そのためなのか、今期の受講生は昨年度と比べると大幅に減少した。しかし、学生が授業内容を見直す機会が必要である以上、来期も複数回の小レポートを実施するつもりである。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 科学技術論B
授業コード 12E06-001
教員名 横山 輝雄
教員コード 015149
登録人数 27
回答数 15
回答率 55.6%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

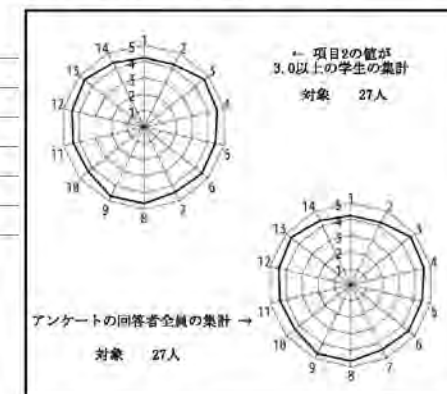


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
・設問5（到達目標の理解）が、4. 13点であり、設問6（到達目標にむかって力がついてきているか）が、4. 00点であった。目標目標の理解に比べて、到達間が、若干点数が低くなっている。
- 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
・最も点数の高かった項目は、設問1（内容への興味）であり、4. 33点であった。そのことと関連していると思われるのが、設問2（主体的な参加）の3. 93点であった。この点数は、この科目の点数全体のなかではかならずしも高くないかもしれないが、「Q3各種集計」でこの項目の平均値3. 73点よりは高い。これは、自由記述に複数の指摘があったが、授業にクリティカルシンキングの参加型を取り入れたことが反映しれているのではないと思われる。
- 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
・上記2で力確認された、参加型をとり取り入れる形式を今後より充実した形にしていことを検討したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本との出会い1
授業コード 13B01-001
教員名 藤川 美代子
教員コード 103115
登録人数 177
回答数 27
回答率 15.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバス通りに授業が進み（一部、順序の入れ替えが生じた）、当初設定していた2つの目標「自らと異なる環境に暮らす人々の生活や考え方について理解するための素地を作ること。日本の中にある異文化を理解することで、自らの文化や考え方を相対化する姿勢を身につけること」は達成できたものとする。当該授業は日本の事例を扱うものであるが、「自分の知らない話ばかりで聞いて楽しかった」と感想が寄せられるなど、学生にとっては身近ながら異文化との接触と自文化の省察を果たすことができる授業内容になったようである。また、映像を使用したことに対して高評価があり、映像はインパクトを与えながら理解を深める上で受講生にとって大いに役立ったものとする。ただし、受講人数が多く教室も階段状ではないことから教室後方への注意が及びにくく、結果的に一部の学生にスマートフォンの使用や私語を許すことになり、それが他の学生の注意力を散漫させたり内容理解の妨げになったりしたことは非常に遺憾である。授業の理解度はレポートの採点で測れるものと確信しているが、今後の授業運営にあたっては、教室全体に目を配り、これまで以上に注意を促すなど工夫するつもりである。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ことばとは<国際科目群>1

授業コード 13E02-901

教員名 青柳 宏

教員コード 017004

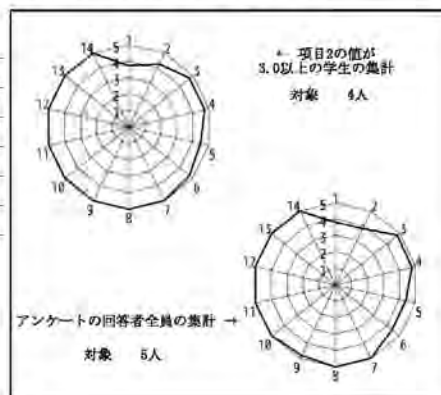
登録人数 10

回答数 5

回答率 50.0%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①授業目標と到達度

開講当初設定した目標はつぎの3つである。

1. われわれは母語について親や学校の教師から教わる以上のことを知っていることが理解できる。
 2. 言語間や方言間の表面的な違いはほとんどすべてが人間言語に許される範囲内でのバリエーションであることを理解できる。
 3. 国際音声字母 (IPA)、音素と異音、音節構造、アクセントなどの概念に習熟し、外国語学習に役立てられるようになる。
- 毎回のフィードバック・ログにおける質問や感想の質、期末テストの採点結果にみるかぎり、今学期はこれら3つの目標がかなり高いレベルで達成できたように思われる。

②総合的自己点検・評価

設問1-14の平均点が4.70、3-14の平均が4.85であり、いずれも全学平均、科目カテゴリーの平均を上回っており、自由記述欄にも「毎回の授業の冒頭で前回の授業に関する質問に答えてくれたのがよかった」「教え方や説明の仕方がよい。さらに興味が湧く」などの肯定的なものがほとんどだった。特に今回は総合政策学部と国際教養学部の留学生の履修者が多く、<国際科目群>らしい雰囲気醸成されたこともプラスに働いたと思う。

③今後の改善点

自由記述欄の記述の一つにスライドに使われた文字の見にくさに関する言及があった。具体的にどのスライドを指すのか分からないが、国際音声字母など履修生が見慣れない記号も使うので、さらに見やすいスライドへの改善を行いたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報資源組織演習I2

授業コード 15P10-002

教員名 浅石 卓真

教員コード 103263

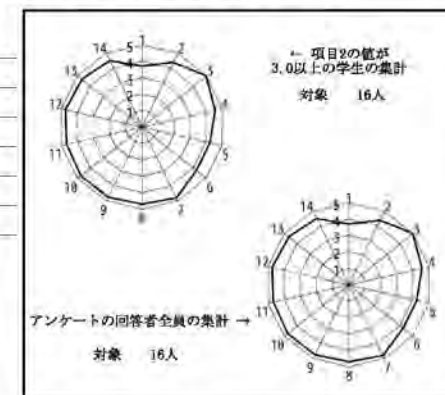
登録人数 30

回答数 16

回答率 53.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

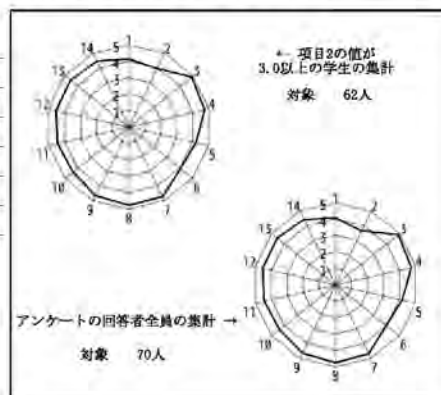
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：本科目では「1. Excelのデータベース機能を使いこなすと共に、マクロ機能を用いて簡単な検索システムを作成できる」「2. Accessを用いて論文の書誌データベースを作成できる」「3. Rの基本操作を習得すると共に、テキストデータを整形してKWIC索引を作成できる」という3つの目標を設定した。それぞれの目標に対応したレポート（成果物）を見る限り、上記の目標は概ね達成できたように思われる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：項目1から14の平均は4.55、項目3から14の平均は4.64で、いずれも「資格科目」「30名以下」の平均を上回っている。自由記述を見ると、質問時間を多く取り分らない所に丁寧に答えている所が評価されている。以上より、全体として大きな問題はないと思われる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
本科目を担当するのは2年目だが、資料にまだ若干の不備が見られた。来年度以降は、より完全な資料を作成したい。また早口であるという指摘は毎回のアンケートで見られるので、継続的に気をつけたい。なお、現在はPC教室で授業を行なっているが、将来的にはPC教室が無くなるため、来年度以降は学生にノートPCを持参させて一般教室で行うことを検討する。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 考古学概論
授業コード 22B04-001
教員名 渡部 森哉
教員コード 101237
登録人数 127
回答数 70
回答率 55.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバス通りに授業を行った。

登録者127名中70名から回答があった。

①学生からの授業評価の内容を見ると概ね授業の目標は達成できたと思われる。

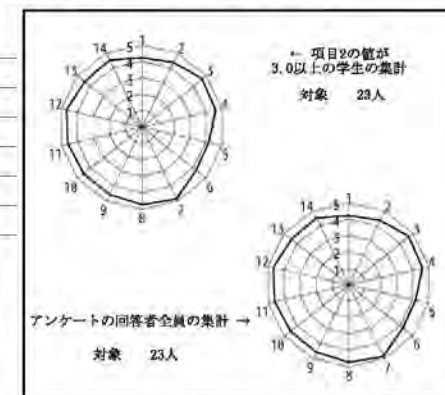
②質問2（予習復習に関する質問）と質問6（授業の到達目標の達成度に関する）の数値が低い。小レポート、期末レポートはいずれも具体的にものを観察して作成する内容であった。講義で扱った情報に関する知識を問う試験は行わなかったため、受講者がどのように授業の到達目標に近づいているのかが分からないためと思われる。授業評価が期末レポートの締め切り前に行われたので、判断できなかったと考えられる。

19名が授業を評価するコメントを書いている。キープ作りが楽しかったこと（6名）、質問に答えること（4名）などについての記述であった。

③4名が改善点について自由記述をしている。2名は質問をしても答えてもらえないと書いている。授業で説明したことに関する質問は取り上げず、意味のない質問も取り上げなかった。どのような質問ならば取り上げられるのかを学生自身が学ぶ仕組みを考えたい。また眠くなるという意見が1名からあった。眠くならないよう、授業の内容をさらに改善していきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代の倫理学
授業コード 22C11-001
教員名 奥田 太郎
教員コード 100642
登録人数 96
回答数 23
回答率 24.0%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標は、(1)倫理学におけるメタ倫理学の位置づけを理解していること、(2)メタ倫理学において何が問題になっているかを理解していること、(3)提示された分析や議論に対して、自分自身がどのようなスタンスと考えをもっているのかを意識できること、であったが、概ねこれらは高い程度で到達されたと思われる。

評価項目は概ね良好な数値であり、レベルを下げずに、かつ、受講者の理解を可能な限り促す試みは成功したと思われる。自由記述での回答からもそれが窺われる。自由記述には、改善点の提案もあり、この授業内容であれば週1のペースが適切ではないか、という提案や、理論を学んでから考えることとともに、考えてから理論を学ぶことも並行して行えるとよりよいのではないか、という提案があった。

次期に同じテーマを扱うかは未定だが、授業内容とペース配分をより適切なものに見直し、また、授業の構成も受講者にとって有益な形に改善を試みて臨みたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会人類学

授業コード 22C34-001

教員名 坂井 信三

教員コード 034264

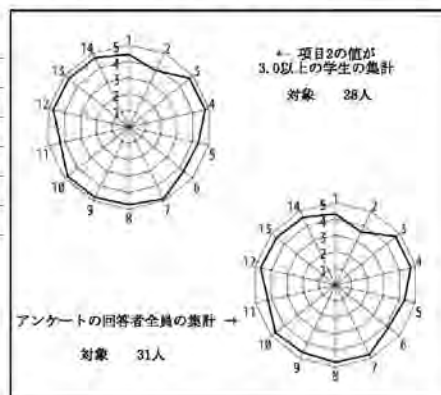
登録人数 78

回答数 31

回答率 39.7%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

社会人類学の授業は、毎年出席を取らない代わりに毎回リアクションペーパーの提出を求め、授業のはじめに、できるだけ前回に出た質問・意見に対してコメントするようにしてきた。今年度も同様の方法で授業を進めた結果、アンケートのうち質問12に対する高い評価が出たものと思う。ただ、自由記述の中に、「リアクションを求める割に回答が少ない」という意見があったが、これはある程度やむをえない面がある。

授業の内容については、前年度と同様、社会人類学の基本的な考え方と諸民族の事例を提示すると同時に、それを必ず自分たちの日本社会、あるいは現代社会に関連づけて、その研究や問題意識の重要性を身近に感じられるよう工夫した。その結果は、質問13の数値や自由記述の評価に表れている。ただし、質問11の数値が他と比べて高くないことは、私としては予想外で、残念だった。

社会人類学の講義は、定年退職のために今回で最後だった。私としては、大学の授業で示すべきことは、手近な回答ではなく、むしろ疑問を深めることだと、ずっと考えてきた。そこで学生諸君に対しては、問題意識をもって自分で考えられるようになることを目指して講義した。その姿勢を好意的に受け取った学生と、そうでない学生がいたようで、それが質問5、6の結果に表れたようだ。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域の文化と歴史(ヨーロッパ)

授業コード 22C50-001

教員名 坂下 浩司

教員コード 100471

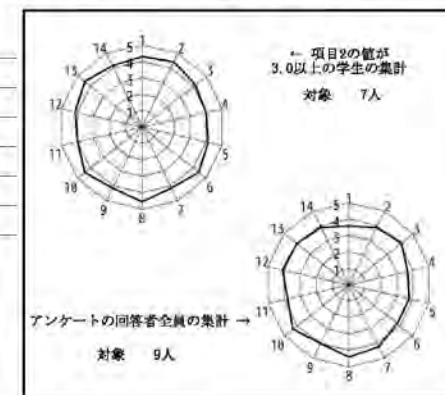
登録人数 31

回答数 9

回答率 29.0%

休講回数 3 回

補講回数 3 回

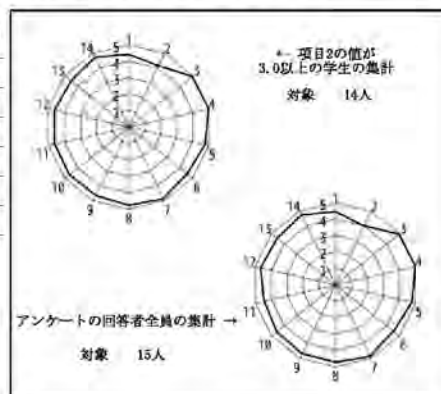


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、「古代ゲルマニア諸族の特性を理解している。同一原典の2つの訳を比較して読解する力が身につけている」というものであった。到達の程度は、この授業が、「参加者が発表を担当する、演習形式」とシラバスに記載したとおりであったので、発表と質疑、班討論、提出されたレポートをみた限りでは、達成されていたように思われる。数値データは、おおむね「4」前後であり、今回のやり方を、下記のような改善は必要であろうが、維持していけばいいように思われる。自由記述ですが、15「よかった点、評価できること」は、「先生が優しくかった」であった。特別に優しくしたわけではなく、いつも年どおりであったが、どの点が優しく思われたか記述が詳しくなければよかった。16「改善すべき点」は、「〔班討論での〕班の振り分けが学科ごとだったためか、議論のもりあがりに欠ける場面が多く感じた」であった。出席簿の前から順に班分けしただけであったが、結果として、指摘されたとおりになり、いつも話をしていて新鮮味のないメンバーになってしまったようである。今後は、班討論のメンバーがよりいっそう混ざるように工夫したいと考える。また、割り当てられたE11教室はグループワークには不向きであったという指摘もあった。次回からはこの点も配慮したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化コミュニケーション＜国際科目
群＞2
授業コード 22C53-902
教員名 ANTONY SUSAIRAJ
教員コード 103820
登録人数 17
回答数 15
回答率 88.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals set for the course was to understand the other cultures and ability to communicate well with people of other cultures. It was achieved by the lectures and also by the interview with Exchange students from other countries and cultures.
2. 8
3. Thinking of creating more opportunities to interview with students from different cultures and countries.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文献資料講読(西洋)A
授業コード 22C59-001
教員名 和泉 悠
教員コード 103645
登録人数 6
回答数 2
回答率 33.3%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

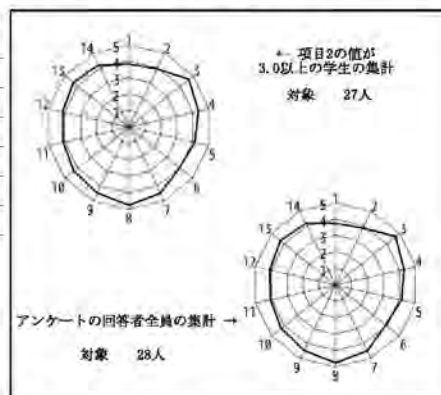
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1の目標は「英語で書かれた人文学の文献資料を利用できるようになる」であり、受講生に応じて英語読解力に大きなばらつきはあるものの、概ね到達できたと思う。クォーターの後半では、比較的難易度の高い文章についての抽象的な問い（たとえば、著者が示す 'speciesism' とはどのような概念か説明しなさい、といったもの）について十分に答えることが可能になっていた。
2. 数値データをよび自由記述は履修者、回答数が少なすぎるため（自由記述はない）参考にならない。
3. 履修者が少ない分、個別に対応ができたことは間違いない。個別の問題点を助ける（単語が弱い、文法が弱い、発音が弱い）などそれぞれに焦点を当てて授業内容を修正することができた。しかし、履修者数は毎年変動するため、同じような状況は望めないように思われる。そこで、来年度はとくに講読テキストの選択を慎重に行う。すでに検討を開始したいと思う。履修生は英語力がばらばらであるため、難易度の設定がきわめて難しい。来年度は比較的易しめのテキストをあらかじめ複数選定しておき、柔軟に採用しようと思う。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(アフリカの社会人類学)
授業コード 22C68-001
教員名 石原 美奈子
教員コード 100080
登録人数 88
回答数 28
回答率 31.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、以下の3点を到達目標とした。

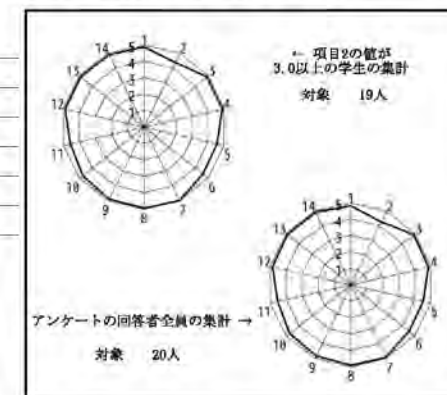
1. 社会人類学とアフリカの関係について理解している。
2. 社会人類学が明らかにしてきたアフリカ諸社会についての知見を理解している。
3. アフリカ諸社会の現代的な状況に関心をもち、その可能性と課題について多角的視点から考えることができる

講義は、まず5回目まで、アフリカに関する基本的な知識（自然環境、人類史と言語民族分布、狩猟・農耕・牧畜）について解説した上で、6回目で欧米列強による植民地支配と英国の社会人類学の関係について取り上げ、7回目以降は、植民地時代及び独立直後のアフリカにおいて、社会人類学的研究を行った主要な人類学者とその功績について講義を行った。1. 2. については、時間をかけて取り上げたが、3. については、不十分であったのではないかと反省している。

すべてパワーポイントのスライドで授業を行い、スライドは事前にwebclassで公開したが、公開が授業直前になることもあり、学生から前日には公開して欲しいという声があがっていたので、来年度はそうように心がけたい。また、スライドが終了した後、「練習問題」を課していたが、解答はスライドのなかにあることとして模範解答は準備していなかったが、それについて提示して欲しかったというコメントもあったので、来年度は、準備しておくことにする。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(農耕文化論)
授業コード 22C73-001
教員名 黒沢 浩
教員コード 100758
登録人数 27
回答数 20
回答率 74.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

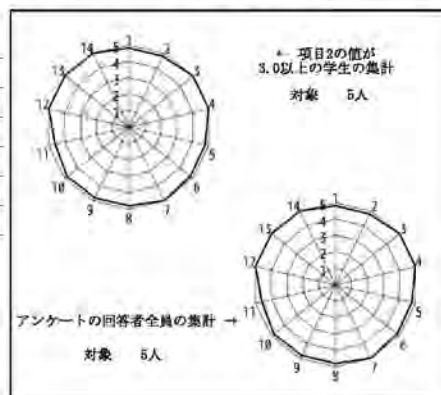


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度のこの授業は、昨年度、科目名称と内容があっていないのでは、との指摘を受けて、かなり内容を変更した。そのため、授業のペースがうまくつかめず、予定していたテーマのうちいくつかについては省略せざるを得なかった（試験には影響はでないようにした）。学生の評価は、予想外に高かったため、次年度はこの反省を踏まえて、授業の進行にも留意して進めていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育・文化における人間の尊厳4
授業コード 10D07-004
教員名 坂中 正義
教員コード 102720
登録人数 5
回答数 5
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は以下の通りであった。

- ・ロジャーズを中心とした人間性心理学の基礎的事項を理解している。
- ・パーソンセンタードな姿勢や発想で自分や他者と関わることができる。
- ・自己理解を深める。

この目標実現するため、以下の取り組みを中心に授業を展開した。

- ・理論学習と体験学習を有機的に組み合わせた。
- ・傾聴を軸とした実習を多く取り入れた。
- ・毎回、振り返りシートを用いて自己理解を促した。

授業時の感想やレポート、定期試験としてのレポート、授業別評価アンケートによる到達目標達成度4.80等を勘案すると到達目標について各学生なりの形で手応えを感じていることが伺えた。

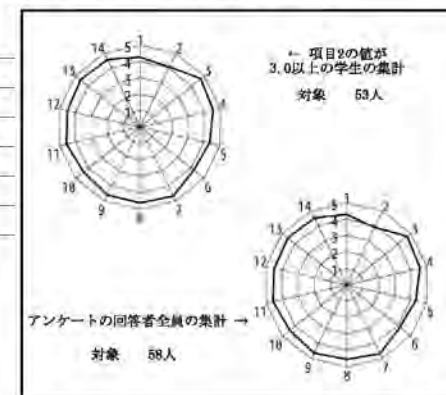
授業別評価アンケートの全項目が4以上を示した。全体との比較においてもすべての項目で平均を上回っていた。

これは、ワークや話し合いを取り入れた授業が学生の興味や関心を引き出したことなどが影響している。こういった要因が授業への総合的な満足度につながっていると考えられる。

よって、今後もこの水準で授業が維持できるよう努力するとともに、到達目標に貢献するような新たな試みも試行錯誤していきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 美術A2
授業コード 12A05-002
教員名 伊東 留美
教員コード 063834
登録人数 125
回答数 58
回答率 46.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、全学部対象の共通教育科目（基盤：思想と文化芸術）である。美術を受講するのが中学校ぶりという学生も少なくなく、日本史や日本美術史の知識があまりないという学生たちも多くいた。そうした受講生の状況ではあったが、学生たちの美術史への関心（設問1：平均値4.28）は割合に高かったと言える。

授業の達成目標については、「1. 日本の近代化がどのように芸術作品に表現されているか理解できること」「2. 日本史と西洋史の流れに沿って、芸術の変容が理解できること」「3. 鑑賞した作品について日本の近代化の観点から意見を述べるができること」の3つをシラバスで提示し授業を進めていった。学生からの達成目標に対する理解についての設問5の評価平均値は4.34であり概ね理解されていたと捉えることができる。一方で、設問6の達成目標に向けての力の向上については平均値4.14であり、設問5と比べるとやや減少している。

また、設問13の新しい知識の獲得、理解の深まりについても平均値は4.55であり、日本美術史に対する知識の獲得ができたようだ。そのことについては、自由記述欄に記されているように、授業中に作品鑑賞と解説を行ったこと、また、授業内で紹介した作品をインターネット上で観ることができる美術館サイトなどのURLを提示したことで、授業外での鑑賞ができるという点で、学生が評価したと思われる。

今後の課題としては、学生の達成目標に向けての力をいかに向上していくかを検討することである。具体的には、作品鑑賞や作品解説などの他に、作品に対する意見を述べる機会をもう少し提供するなどし、学生自身が発言する場を提供できるようにしていきたい。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間と環境1

授業コード 13D02-001

教員名 林 雅代

教員コード 018796

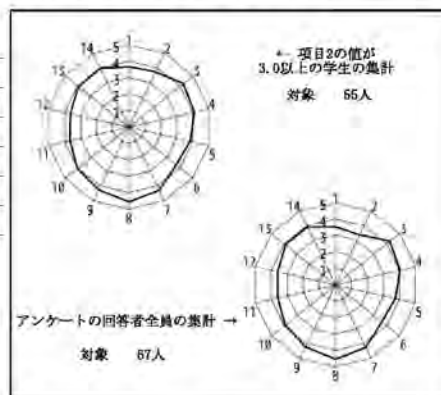
登録人数 132

回答数 67

回答率 50.8%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価の回答数が、受講者の半数程度であるという点が限界ではあると思うが、どの項目も3.5以上の得点となっており、また全体的な満足度も3.9となっていることから、一定の評価は得られたと思う。評価が4.0以上の項目は、項目3の開始・終了時刻、項目4の授業の構成・進度、項目6の授業に取り組む姿勢、項目8の音声、項目9の学生の理解度への配慮であった。項目4や項目9は、以前よりも高くなったが、これは今回の授業評価を14回目の授業で行ったことや（以前は15回目で行なっていた）、WebClassの活用といった効果があったかもしれないと思われる。評価が低かった項目は、項目11の適切な指導・情報提供、項目12の質問・相談機会の提供という点で、従来から相対的には低い項目であり、学際科目全体でも評価が相対的に低い項目でもあるので、この授業だけの課題ではないのかもしれないが、WebClassの活用も検討していきたいと思う。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 こころとは1

授業コード 13E01-001

教員名 藤田 知加子

教員コード 100382

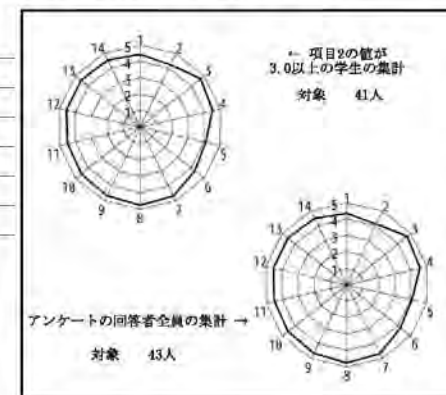
登録人数 76

回答数 43

回答率 56.6%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
「こころとは何か論じられるようになる」が到達目標であった。最終課題の結果から考えるに、一応の到達は認められたと言って良いであろう。ただし、受講生からの評価は、すべての調査項目中もっとも平均点が低く、どちらともいえないと考える学生が2割程度あったようだ。もっとも、評定値2以下をつけた学生はいなかったため、自信はなくなるとある程度到達したと学生自身も感じていると推察される。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
自由記述からは、資格教材が適切で理解の助けになったこと、毎回の質問への返答があったことなどが高く評価されたことが読み取れた。また「あらゆるものに対して客観的に考える力を鍛えることができたことが良かったです。」などのように、高く目標として設定していた事柄についてのポジティブな感想が複数あったことは大変喜ばしいことであった。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今年度初めて2コマ連続で実施したため、休憩のはさみ方など迷うことが多くあったが、感想などを参考に時間配分の仕方をさらに工夫したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IC

授業コード 23A06-003

教員名 解良 優基

教員コード 103910

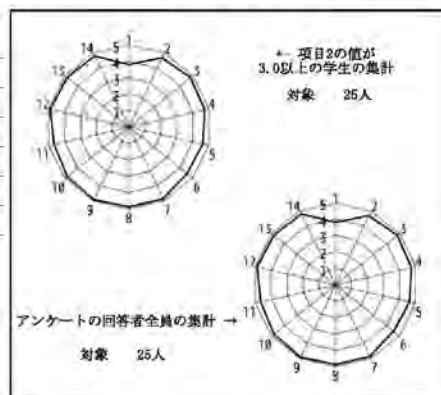
登録人数 28

回答数 25

回答率 89.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①：本授業では、以下の4点を学習目標としていた。

- ・統計の必要性を理解する。
- ・新聞等に掲載されるアンケート結果を的確に読み取るための知識を身につける。
- ・表計算ソフト（Excel）を用いて簡単な統計処理ができる。
- ・記述統計についての基礎知識を習得する。

毎時間提出を求めている課題や最終回に行われた小テストの結果を踏まえると、本授業で扱った基本的な知識については多くの学生が身に付けていると考えられた。

一方で、Excelの活用については今年は授業1コマ分しか扱わなかったこともあり、一部の学生には苦手意識や操作に不安な様子が伺えた。

②、③：本授業は、昨年度までは教員による講義主体の授業形式で行われていたものの、今年度は反転授業とグループ学習とを組み合わせた形式へと授業運営の面で大きく変更した。

アンケートの結果から、多くの学生は新しい授業形式に対して肯定的である様子が見て取れた。

毎回課した予習課題は、学生にとって一定程度の負荷があったと考えられる。しかし、予習でわからなかった部分をグループメンバーに尋ねて解決したり、ときには自分が教える側になることで理解が深められたというコメントもみられたことから、授業運営を改変したことによる一定の成果はあったと推測できる。

来年度に向けては、予習として課す課題の内容や授業中に取り組みを求める応用問題の内容について、さらなる工夫や精査を重ねる予定である。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IIB

授業コード 23A09-002

教員名 高橋 亜希子

教員コード 103582

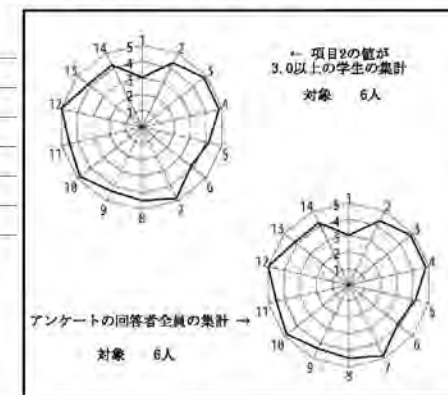
登録人数 24

回答数 6

回答率 25.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの回答ありがとうございます。全体的に好意的な意見が多く、「グループに合わせて資料を用意していた」「レジュメのアドバイスを具体的にしてくれたので、直すべき所がわかりやすかった」などありがとうございました。グループ形式の探究授業でしたが、「グループのメンバーで協力して進めて行くのが新鮮で、勉強になった。」という意見もあり、グループ研究という形に意義を感じてくれたことはよかったです。反省すべき点としては、授業全体への満足度や力がついてきているかという項目への返答が、他の項目に比べると低く、その点への反省があります。ただ、私の指導に関する項目から手がかりがない（誠実さ、指導、質問の機会については低い項目がなかった）ので、カリキュラムやグループ構成などへの不満、問題点があったら教えてもらえるとうれしいです。来年度も私がコーディネーターなので、カリキュラムについての意見があったらお寄せください。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IIB

授業コード 23A09-003

教員名 青木 剛

教員コード 103923

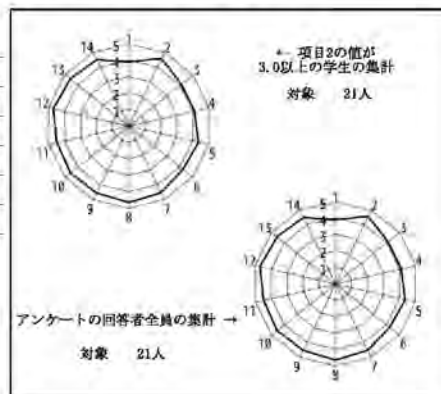
登録人数 24

回答数 21

回答率 87.5%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本科目では、これまでに修得した知識・技法を活用し、研究テーマに実際にアプローチし、その成果を発表することを通して、研究を深めていくことや成果を効果的に伝えること、他者の発表をクリティカルに検討する観点を持つことを目標としていた。実際に学生は、熱心に取り組んでおり、限られた時間の中で研究を進めることを体験できていたように見受けられた。また、発表もそれぞれが創意工夫を凝らしており、質疑も活発になされていた。これらのことから、限られた時間ではあったが、本科目の到達目標は達成できていたのではないと思われる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

アンケート結果から、概ね4以上であり学生から高い評価が得られたことが見受けられた。また、自由記述からも、教員に質問することが出来た点等のサポートが評価されていたことが伺えた。本科目は、全受講者数に対して十分なサポートを教員ができるようにという配慮のもとで、教員当たりの学生数・グループ数が決められており、この配慮がうまく機能した結果、上述の評価が得られたものと考えられる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

上述の評価が得られた一方で、発表準備にかかる時間が足りないという自由記述が複数認められた。この意見・感想に対応するためには、同じ15回の授業でも、週2回のクォーター制での実施ではなく、週に1度の形態にするなどの工夫が必要であるが、この点に関しては筆者個人の判断では難しい。学生には、限られた時間ではあるが、その中でできることを今後もサポートできればと考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 質的研究法II

授業コード 23C50-001

教員名 川浦 佐知子

教員コード 055855

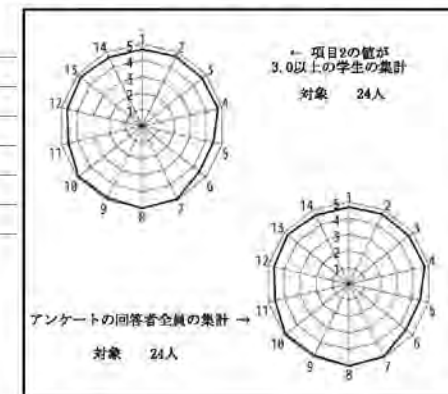
登録人数 24

回答数 24

回答率 100.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は、1) 研究実施に関わる倫理的配慮の理解、2) 研究課題設定とデータ収集・分析の関係の理解、3) インタビュー調査実施、及び逐語分析の手法の習得、4) データに真摯に向き合う姿勢の習得であった。「文献を用いての問題提起」、「対象者設定、及びインタビュー質問の作成」、「KJ法によるサンプルデータ分析」、「逐語録の作成・提出」、「逐語分析」を順次、課題として課した。学生は自ら設定した研究テーマに沿って課題に取り組み、提出週の授業において他の学生とペアになって互いの提出物についてフィードバックを交した。教員は課題にコメントを付して翌週返却し、授業内でいくつかの提出課題をケースとして取り上げ、優れた点、改善点などを示した。課題が多く、学生にとっては負担のかかる授業であったため、予習・復習の自主学習に関する設問2の平均値は4.71と高い。設問1の平均は4.67であり、受講生が自分の研究を進めるために興味をもって授業に臨んでいたことが窺える。学生からは、「毎回、異なる人とペアになってやり取りをしたので、様々な意見交換ができてよかった。」、「教員が一人ひとりの研究に丁寧に向き合ってくれた。」、「課題として持ち帰って学習することに偏らず、授業内で説明を聴きながら実習を行うように進んでいったのでついていけた。」、「一つ一つの課題に対して、教員から沢山のコメントが返ってくるので、どこを直す必要があるのかをきちんと確認することができた点よかった。」、「ステップ毎に丁寧に説明があったので、知識が身に着いた実感がある。」といったコメントが寄せられた。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 自己と社会

授業コード 23C52-001

教員名 加藤 隆雄

教員コード 019349

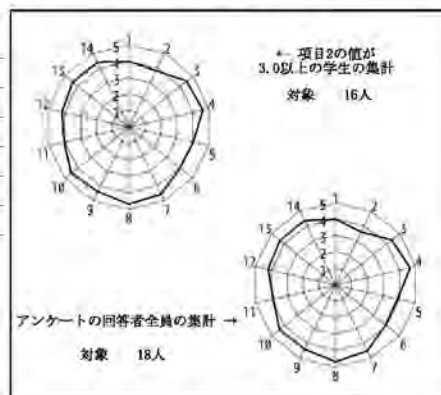
登録人数 79

回答数 18

回答率 22.8%

休講回数 2 回

補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2を除く項目のほとんどで4.0以上であり、受講者の反応はおおむねよかったといえ、授業前の目標を達成したといえる。しかし、それ以前に大きな問題点があり、授業開始時に回答の時間を取ったにもかかわらず、18名しか回答していなかった。考えられる原因の一つが「自分一人くらいはいいだろう」という意識の集積であるが、学生の側にもやらされている感があり（年4回）、このような事態に至っていることが推察される。もう一点は、この授業は今年度をもって閉講する講義で、今回の結果は同じ講義として今後に生かすことはできない。同様の事情で過去に調査対象を変更してもらったことがあるが、学部長の許可があるなど、かなりハードルの高い手続きが必要であったため、今回はそうした手続きは見合わせた。今年度で最後であることは受講生に伝えたので、回答率の低さはもしかしたらそのことに関係するのかもしれない。

回答内容として特に目立ったのはQ10が、従来の調査になく高かったことだが、特別なことをした記憶はなく、むしろ回答した学生の意識が高かったというべきかもしれない。Q1も、最近の調査対象科目に比べれば高いが、同様の理由とも解釈できる。また、Q4、Q13が（同じ理由かもしれないものの）高いが、Q5、Q6は4点を若干割り込むなど、授業内容が高度であること、あるいは学生の自己評価が謙虚であることがうかがわれる。（試験結果はおおむね良好なので、後者のような気がする。）

自由記述として、よかった点として「要点を板書で書いてくれたこと。」「現代文化と織り交ぜた授業が面白かった。」などがあり、改善点は記述がなかった。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 健康・医療心理学

授業コード 23C71-001

教員名 中野 有美

教員コード 103995

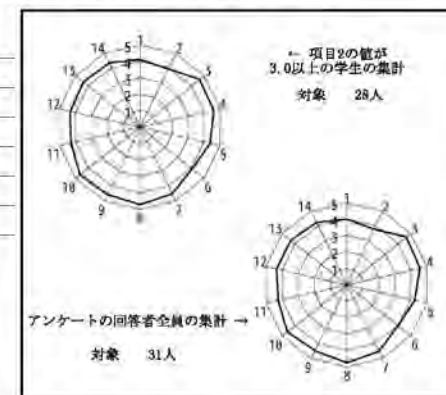
登録人数 106

回答数 31

回答率 29.2%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

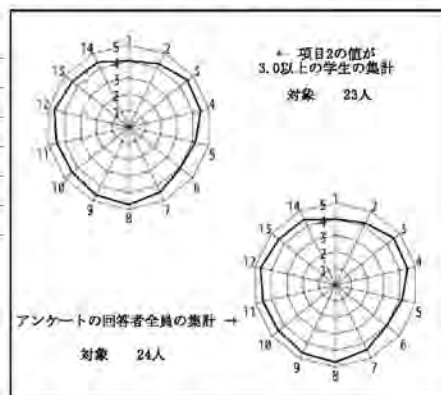


授業評価結果を踏まえた点検・評価

ストレス状態の理解とストレスのセルフマネジメントが出来るようになること、発達障害への理解と二次障害の予防、生活習慣病の理解と予防、医療の中での心理的支援の立ち位置や種類について理解していることを到達目標としたが、医療の中での心理的支援の立ち位置については十分な時間を取ることが叶わなかった。来年度は今年度の内容を引き継ぎながら医療の中での心理学の活用についての内容を充実させる予定である。当科目名は初開講科目であり講義の構成に工夫を凝らしたが、その熱意が学生に伝わっていることが分かる場面が何度かありやりがいいと感じられた。席順については当初指定席にする予定だったが受講者の強い反対にあい、私語が多ければ次週から指定席にすることを約束して自由席とし経過を観察した。私語が多い週もあったが注意をすると静かになった。担当教官は南山大学での講義が初めてだったため、パソコンのつなぎ方など授業環境に慣れず、時間をロスすることもあった。来年度は今年度より環境に慣れるため、そのような不手際も減るものと考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 知識の探求1
授業コード 13E03-001
教員名 坂井 博美
教員コード 102981
登録人数 129
回答数 24
回答率 18.6%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

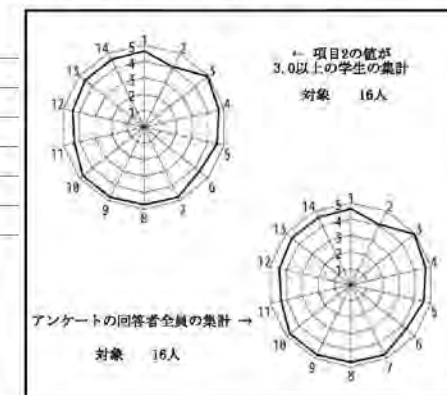


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、今年度はじめて担当したものであった。資料の形態ごとに、その資料ジャンルの成立の歴史や性格等を説明し、受講生らにもそのジャンルの資料から読み取ることができることと読み取ることができないこと等について考えてもらった。受講生たちの協力もあり、到達目標は概ね達成できたと思う。質問項目の中では、項目11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」、項目12「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。」という問いの平均値はその他の項目よりも高めになった。これは、項目11と12について、受講生自身に公共空間に身近にある資料をみつけてきてもらう課題やあらかじめ資料を配布し、その性格を考えてきてもらうなどの課題をしたことがプラスに働いたかと思う。その他の科目についても、この方法を生かして改善を行いたいと思う。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語の多様性1
授業コード 20A10-001
教員名 平子 達也
教員コード 104112
登録人数 30
回答数 16
回答率 53.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

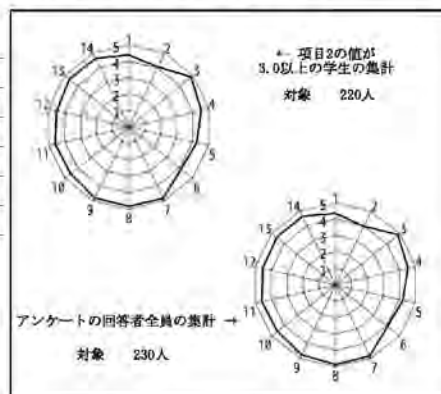
総じて、開講当初に設定していた「ことばの多様性を捉える視点として、様々な視点があることを理解し、それぞれの視点から捉えた日本語の多様性について、具体例を交えて説明することができる」という目標について、半数程度の学生は達成できたように思われるが、授業担当者としては、もう少し授業の展開のあり方に工夫が必要だったと考えている。シラバスにあるように「ワイワイ」はできなかった。Q4に同科目を担当することになっているので、授業中の問いかけのあり方など、改善をはかりたい。

数値データからは、概ね高い評価を得ているようにも思われるが、受講態度などからすると、アンケートに答えていない学生を含めた学生の満足度は大きくないと感じている。一方、リアクションペーパーに書かれている学生からの質問へのWebClassを通じての回答については好評を得たようなので、今後も継続していくとともに、その質問から授業内容を掘り下げるなど、改善に取り組みたい。

ただ、WebClassを通じてのクイズへの回答率が低かったので、授業中にクイズへの取り組みを促すなどの策を講じたい。また、レポートの枚数を、欠席数に応じて増やした点などについて厳しすぎるとの意見があった。枚数が増えたとしても課している内容に比して多すぎるとは思わないが、欠席者にとって「罰」と感じられる点が良くないようである。出欠席とレポート提出の意義などについても授業中に説明するなどしたい。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本文学入門
授業コード 24C01-001
教員名 福本 拓
教員コード 104126
登録人数 278
回答数 230
回答率 82.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

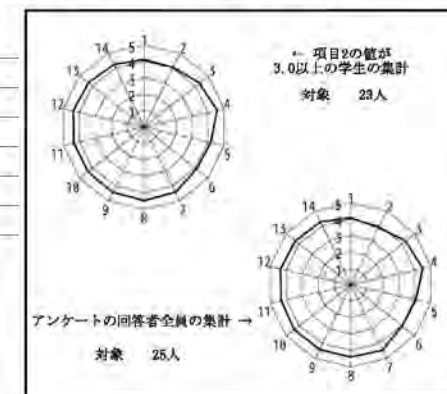
開講当初に掲げた目標に関しては、おおむね講義で関連性を十分意識できたと思うが、しかし、それに向けて力がついているかという設問の得点は相対的に低かった。シラバス記載の目標がやや抽象的な印象もあり、より分かりやすく改変し、また講義の各段階で目標との対応関係を明示できるように努めたい。

数値データに関して、大人数の講義であったことを斟酌すれば、全体として悪くない評価が得られたものとする。Webclassの積極的な活用により、身近な問題関心を講義の目標に照らして授業を展開できたこと、また、事前学習として様々なコンテンツを呈示できたことが評価につながったものと考えている。ただ、各回の授業の感想などを見る限り、難易度はやや高めで、1年生が履修する入門科目という意味での課題は残った。各回の内容でかなり詰め込みすぎたことも影響していたと考えられる。

1年目の授業の試行錯誤の中で、分かりやすさの点や、全体としての目標とのつながりをいかに意識させられるかという点が課題として浮き彫りになった。各回の目標・到達点と全体のそれとの関連性が明瞭に把握されるよう、各回の有機的な関連性を明示できるように努めたい。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本文学史A
授業コード 24C11-001
教員名 松田 京子
教員コード 100789
登録人数 62
回答数 25
回答率 40.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

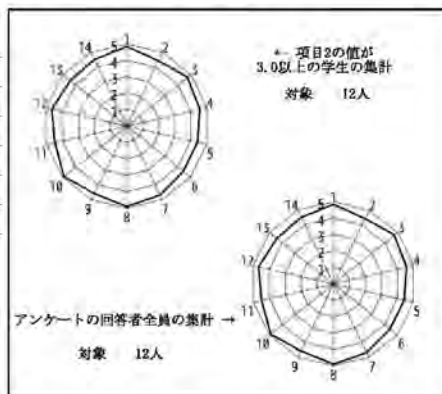
①この授業では、近代日本の社会・文化および思想状況を、博覧会という具体的な出来事を切り口とし、博覧会の開催地となった都市空間の変容にも焦点をあてて考察するという全体テーマのもと、教員作成の配布プリントとそれへの解説を中心にテーマを掘り下げていった。そしてほぼ毎回、授業の最後10分程度を小レポートの時間にあて、授業で扱った内容に対する感想や、授業で取り扱った資料に関して気づいた点および全般的な質問などを受講生全員に書いてもらった。そして次の授業の冒頭で、前回の復習も兼ねて、そこに書かれた感想を教員がいくつか紹介し、質問に答えることで双方向の授業展開を目指した。このような方法で授業を進め、開講当初に示した授業計画は、ほぼ予定通り進行することができた。

②上記のような授業の構成や進度、授業に取り組む姿勢や方法については、「学生による授業評価」の授業評価集計の設問4の平均値4.52、設問7の4.44、設問9の4.40という比較的高い数値から、おおむね好評であったと思われる。反面、自主的学習を促す働きかけに関する設問11の平均値は4.32と、大学全体の平均4.25をやや上回っているものの、設問2の平均値は3.88であり、大学全体の平均4.08を下回る値となった。毎回の授業の最後に、自主的学習を促す働きかけに努めてきたが、実際の主体的な学習に十分にはつながっていない傾向をこの数値は示していると考えられ、その点は反省点として残る。

③以上のような反省から、今後は、自主的学習を促す働きかけが主体的な学習により有効に結びつくよう、予習の課題の内容等について再考していきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本文学史C
授業コード 24C31-001
教員名 岸川 俊太郎
教員コード 103907
登録人数 63
回答数 12
回答率 19.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2019年度Q3の開講科目「日本文学史C」について自己点検・評価報告を以下に行う。

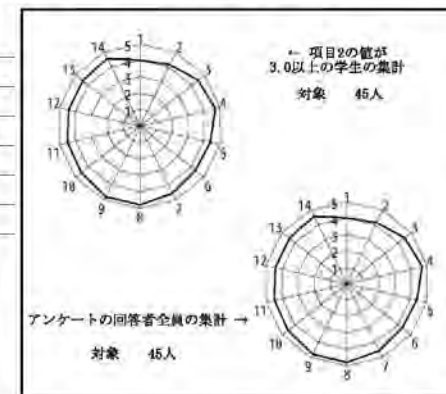
まず、①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。この点については、「学生による授業評価」の設問5、設問6とともに4.42、4.42という高い評価を得たことから確かめられる。

次に、②数値データを踏まえての総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では、全ての設問項目で全学部（全体）の平均値を上回った。また、全体的な評価となる設問13、14では、それぞれ4.42、4.50という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

最後に、③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針についてであるが、設問9（「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」）の平均値は、全学部（全体）の平均値を上回ったものの、学科の箇所別平均値を下回ったため、次クォーター・学期以降に向けて改善したい。具体的には、多様な教材を積極的に取り入れるとともに、適切な課題を課し、学生の主体的な学びの充実を図りたい。また、理解が難しい概念的な事項についてはレジュメに詳しい説明を加え、学生の更なる理解に努めたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 古典資料講読
授業コード 24C40-001
教員名 森田 貴之
教員コード 102286
登録人数 88
回答数 45
回答率 51.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

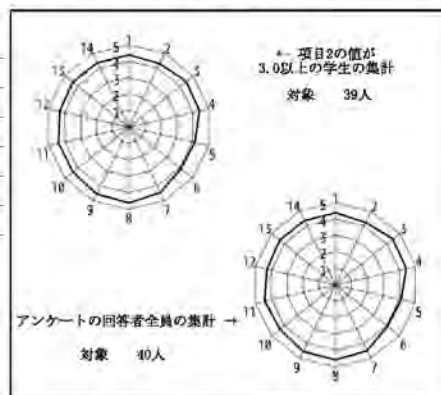


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問1の授業開始前の興味が4.00であるのに対して、設問14の満足度が4.58であり、当初の講義目標はだいたいにおいて達成されたと考えている。調査対象科目は、日本文化学科の学科科目の一つであり、古典文学のうち、とくに学生にはあまりなじみがないと思われる和漢比較文学の資料講読を扱っており、専門性の高い内容となっていた。そのため日本文学や古典文学を扱う経験の乏しい学生にも配慮し、できるかぎり現代の事象や一般論のようなものと結びつけながらできるだけ具体的な関心を高められるように努めた。その意図はある程度は伝わっていたと感じる。設問4の毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたかという問も4.71であり、また、設問9の教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか、という問も4.78であった。時には派生した関連する題材をとりあげて学生の主体的な理解を導くよう試みたが、その点においても自由記述欄の回答にも好意的なものが多かったように思う。次学期、次年度へむけさらなる向上をはかりたい。全体の平均値から比べて大きく下回る事項はなかったと思うが、今後も学生の状況に気を配り、授業内での課題の在り方、フィードバックの仕方など、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい。また本アンケートの回収率が45と半数程度にとどまり、授業時間においてきちんと回答時間を設け、回答を呼びかけたが、それでも回答率は向上しなかった。今後の課題である。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 古文入門
授業コード 24C42-001
教員名 辻本 裕成
教員コード 019042
登録人数 71
回答数 40
回答率 56.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業のシラバスに掲げた到達目標は以下の通りであった。

- 1 簡単な漢字が混じった平仮名のくずし字を読めるようになっている。
- 2 日本の古い書物の形態についての基礎的な知識を身につけている。
- 3 書誌学についての入門的知識を得ている。
- 4 活字からではなく、原本をみて研究することの意味に気付いている。

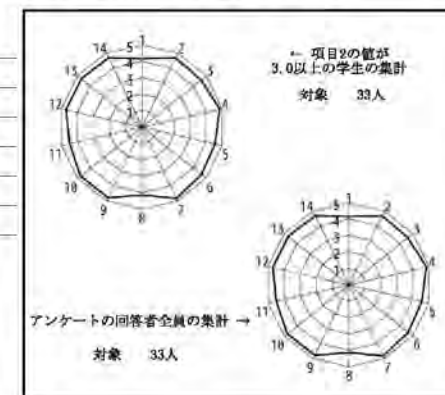
試験の結果をみると、1・2・3について多くの学生は一定のレベルに達しており、くずし字、および書誌学の入門科目としては、一定の成果を挙げることができたと考えられる。4については、試験に出題しなかったこともあり、ややおぼつかないが、演習科目や卒業研究などの過程で本授業の内容が役立つことを期待している。

アンケート結果は全項目で4.0を超えており、受講生からはよい評価を得たと考えられる。受講者数が適正であったことは助かった点である。

自由記述欄には、進度が早すぎる、難しかったとの記述や、練習問題を解く時間が短すぎたなどの批判が複数見受けられた。しかし、現行の進度、スピードでやや時間をもてあましていような受講生も見られたので、今後どうするかは難しいところである。進度が早いとの指摘には、クォーター制になり、授業が週2回のペースで進むようになったことも関係するかもしれない。語学の授業に近い性格を持つこのような授業で、クォーター制の下での進め方にどのような工夫が必要かについて、検討をしていきたい。また、ホワイトボードの字を丁寧に書いてほしいとの批判は率直に反省したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 漢文学研究I
授業コード 24C45-001
教員名 西岡 淳
教員コード 019315
登録人数 49
回答数 33
回答率 67.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

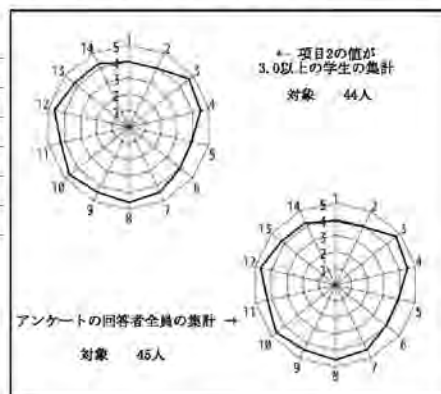


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の主な目標は、漢文の語法や語彙および基本的な工具書の使用法を身につけ、原文に即して適切な解釈ができる能力を体得すること等である。本学期は、受講者に毎時間課した提出物の出来具合には着実な進歩が見られ、それが定期試験にも反映していたこと、授業評価のほぼ全ての質問項目において高めの評価を得ていること（全項目の平均が4.62）などから、目標は一定程度達成されたと思われる。今回は、正史『三国志』呉書・呂蒙伝の和刻本をテキストとして用い、これを訓読によって読み進めた。授業形式は、次回読む部分を前もって指定しておき、受講生はその部分の書き下し文を準備した上で授業に臨み、授業における担当者とのやり取りを通じて各自添削し、毎回提出するというものである。自由記述では肯定的な評価として「丁寧な解説によって疑問点が解決され、スムーズに進められた」「毎回丁寧に添削したものが返却されるので楽しく続けられる」「特にまちがえやすい点を詳しく解説してくれる」「プラスアルファのことも教えてくれることは本当によかった」「少しの休憩を挟むなど工夫されていた」「作品を楽しみながら力がついたと思う」などの評価が見られた。その一方で、「少し聞き取りづらい」「マイクを使うとより良いと思う」等、同様の否定的指摘が複数あった。対応可能なことであり、聴き取りやすく十分な説明をするよう心がけたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代日本語の構造
 授業コード 24C49-001
 教員名 榎山 洋介
 教員コード 041806
 登録人数 62
 回答数 45
 回答率 72.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「レポート」（1回）、「質問・コメントシート」（毎時間提出）「授業時の学生の発言」から判断して、この授業が目標とする水準に十分達した受講者が50%強、授業内容を相当程度身に付けた受講者が約25%、授業内容の一部を身に付けた受講者が20%強であった。なお、自由記述に「レジュメなどの参考資料が充実していた」「毎回リアクションペーパーを使って、色々な課題に取り組む機会が多く設けられていた点がよかった」「リアクションペーパーに対する回答や授業後の質問時間が充実していた」「細かく分析することで、日頃何気なく使っている日本語に焦点を当て、考える機会を得られた」等の回答があった。今後、特に、学習意欲の高い学生がより満足できるように、内容及び教材の充実をはかっていきたい。一方で、「もう少し我々学生に考えさせて発言を求める機会を増やしてもよいのではないか」「自分には、授業内容が難しすぎて理解できませんでした」という記述もあった。授業を難しいと感じる学生に対して、今後、難しさの原因を探ると共に、個別的な対応も考えていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A III5
 授業コード 31A03-005
 教員名 TOLAND, Sean
 教員コード 103616
 登録人数 22
 回答数 2
 回答率 9.1%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

レーダーチャートなし
 (回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of the Academic English A course were covered during the third quarter. The end of the quarter report revealed that only four students completed the online survey. Needless to say, it would have been beneficial to hear the voices of the entire class, not just a handful of students. Having said that, the formal feedback (i.e., peer & self-evaluation forms for Speaking & Writing Assignment #2) I received in conjunction my own classroom observations revealed that the majority of the students felt that the collaborative assignments were beneficial. There were a couple of groups that did not work well together for a variety of reasons. During quarter four, I will increase the size of the groups and try to resolve problematic group dynamics issues earlier to ensure that everyone has a fruitful collaborative learning experience. I also plan on enhancing the assignment task checklist to confirm that students fully comprehend each element of the writing and presentation assignments.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A IIII6

授業コード 31A03-006

教員名 SAKAMOTO, Fern

教員コード 103615

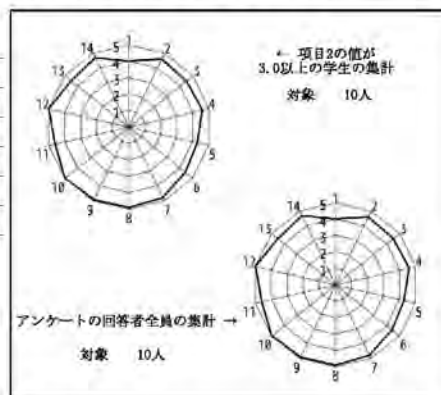
登録人数 23

回答数 10

回答率 43.5%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall, this course aimed to equip students with academic skills necessary for future study in English. This quarter I asked students to complete the evaluation for homework, which resulted in a lower completion rate than previously. I will return to in-class completion. All respondents expressed a high degree of satisfaction with the instruction and teaching materials. Many students commented positively on the availability of individual assistance out of class. I hope to be able to continue to offer individual support. The lowest score related to interest prior to taking the course. This is a compulsory language course so it is to be expected that students do not choose it based on interest. I hope that their interest was higher by the end of the course. Other lower scores related to the course goals. One student did not understand what they were and one did not feel that s/he had made progress towards the goals. It may be that these were students who missed a lot of class, or it may be that the goals need to be explained more clearly. I will endeavour to do so in the fourth quarter and hope I will be able to encourage students to attend class more regularly.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Society
B<国際科目群>2

授業コード 31C02-902

教員名 DORMAN, Benjamin

教員コード 100695

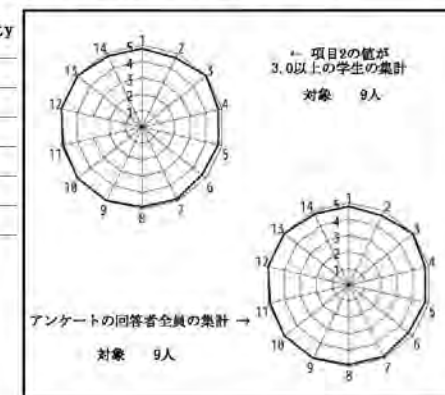
登録人数 24

回答数 9

回答率 37.5%

休講回数 1 回

補講回数 1 回

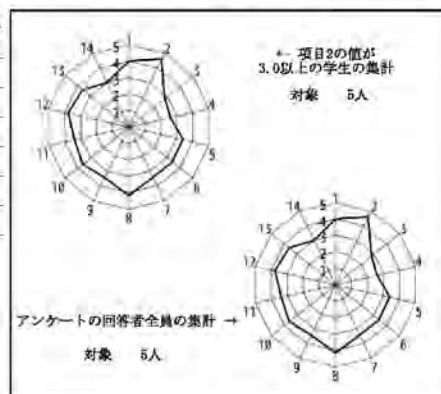


授業評価結果を踏まえた点検・評価

One goal was to add in more theoretical perspectives in the course. To this end, I included Goffman's theories of "Codes of Gender" in order to take into account certain issues related to advertising in particular. I also included a new section on the history of media through different "revolutions" - print media, radio/TV, social media. Another goal was to focus more on group work - the students had discussions in every class based on questions set the previous week. Each group had a group facilitator, chosen by the students. Each student had a chance to present the ideas of the group. Students commented that the class style - using films and then holding discussions, was satisfying. One important aspect of the course is to allow students to consider the impact of media in their daily lives. We discussed each film within that context. One comment mentioned "The Truman Show" in particular as a valuable film for this. As the group work is relatively new to this class, with a different facilitator for each class, I will work to make this structure more efficient and effective for learning.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Society
E<国際科目群>
授業コード 31C05-901
教員名 上村 直樹
教員コード 102463
登録人数 12
回答数 5
回答率 41.7%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の受講者は12名で、そのうち5名から回答があり、今回は少人数授業での授業評価の難しさを改めて考える機会ともなった。

本講義では、①現代の国際関係についての知識と理解を深める、②国際関係に関して英語で考え、議論できる、③国際関係理論を実際の問題に応用できる、という三つの到達目標を掲げた。そして、少人数授業の特性を活かし、発表やディスカッションにも重点を置いて授業を進めた。発表や英文レポートから判断すれば、①と③の目標に関して、受講生が国際関係に関する理解を一定程度深めていったと判断できる。また②に関して、発表とディスカッションを繰り返す中で一定の手ごたえが感じられた。

反省点としては、全体としての評価点の低さがある。総合平均が3.38というのはこれまでにない低さであり、3.50を下回ったのは初めてである。一つの要因としては、5名のうちの1名の回答者が、自らの受講態度に係る設問1・2を除いてすべて1を付けていることが影響していると思われる。授業において特定の学生から反感を買うようなことはなかったと思うが、やはり今後は授業運営に関して、特に少人数授業の場合、一人ひとりの学生の様子にもっと注意を払っていきたい。もう一つは、今回の国際関係論を英語で学ぶという授業は初めての試みであったこともあり、学生の英語力を事前に過大評価していたため、授業開始後に何度か授業計画を変更し、扱う内容も最終的に大幅に減らすことを余儀なくされた。そのためもあってか、設問4が2.60と極端に低い結果となっている。この点は、次回同様の授業の際に教訓として活かしたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Culture
D<英米学科2017生用>
授業コード 31C09-001
教員名 TEE, Ve-Yin
教員コード 101626
登録人数 17
回答数 2
回答率 11.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is a course on British poetry with an especial focus on the Songs of Innocence and of Experience by William Blake. Students were given the opportunity to make a presentation on different poems, and they had to write a 5-paragraph essay on a chosen topic in 50-minutes at the end of the course. Only two students evaluated the course, one of whom clearly found it difficult. As the syllabus for the course was uploaded later than usual, I suspect that this student may have registered without having an idea of the content. I am only saying this because I was surprised by how few of the students who signed up were actually literature majors. As for improvements, I will reduce the material a little for next year.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 歴史研究の基礎（アメリカ）

授業コード 31D09-001

教員名 川島 正樹

教員コード 048116

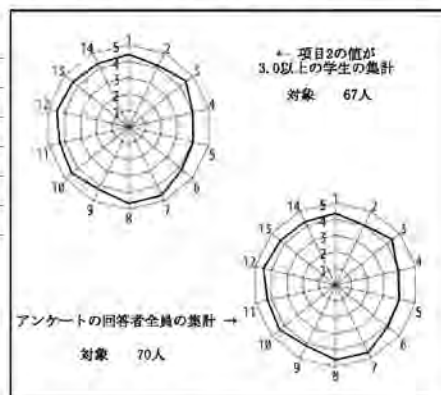
登録人数 93

回答数 70

回答率 75.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、項目5（到達目標の理解度：4.00）と6（到達目標の達成度：4.09）ではなお改善の余地がある一方、両項目で4以上の点数をつけた者が4分の3もいる。さらに筆記試験結果からはほぼ理解の程度は到達目標に達していると判断される。年度毎の評点の変動の背景には受講生における学習意欲や基礎知識にかなりの格差があると思われるが、それへの対応は困難を極めると言わざるを得ない。②昨年度の同じ授業の評価と比べると、総合的な評価は若干下落した（1～14の平均：4.39⇒4.27）。昨年度は一昨年度よりかなり上昇したが、その理由は、本授業の受講資格を本年度より「Q1の『人権をめぐる2』を受講済みの者」に限定した点にあった。授業実施時期がQ2からQ3になったことが多少影響したかもしれない。また昨年度に続き今回もWebClassでの小テスト（3択×3問）を導入したが、毎回明らかに数名（5～10名）の者が教室外からのアクセスが疑われた。そのために後半で2回にわたってリアクションペーパーを配布し、討論をさせ、結果を筆記させ、回収した。疑いが実証された一方、まじめに出席してきた受講生に時間の浪費とともに不快な気分を抱かせた。③個別の改善要求の欄には昨年と同様に「時間配分」への不満（終わりごろに駆け足になる傾向など）が見られた。その一方で「よかった点」の記述者は全受講生70名中27名に及び、その内容も前年度と同様に大変に励みになるものが目立った。二つ例を挙げる。「複雑なトピックについて、何度も繰り返し説明があったため理解を深めることができました。」「些細な発言にも気を遣っていて先生と反対の考え方を真っ向から否定したりしても授業が平和だった。」今回はすべての項目で評価を1とする悪意ある受講生が1名、また類似の態度が疑われる者がさらに若干名いたが、多分にWebClass小テストへの不正アクセスをチェックされた数名の者の「復讐」が疑われる。不正を防ぐ手を早期から講じるなどの改善を加えつつ、これまで以上に全体的な理解度を復習で確保しながら授業を進めたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アメリカの政治

授業コード 31E03-001

教員名 平松 彩子

教員コード 103468

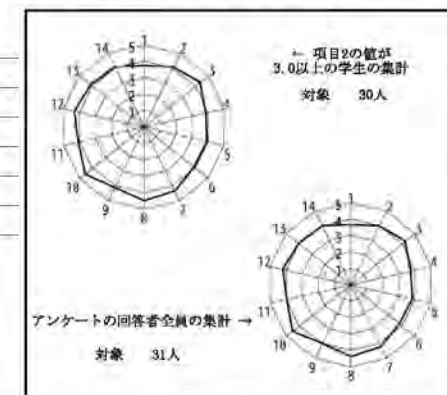
登録人数 137

回答数 31

回答率 22.6%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

（1）本授業には、「1. アメリカ合衆国の統治制度について、建国当初の憲法創設者の意図と、その後の社会経済の変動にあわせて制度が発展した経緯について、知識を得る。」「2. 歴史的にアメリカの政治言説において「自由」、「平等と公正」、「民主主義」、「多から一を」といった概念がなぜ、どういった文脈で問題視され、重要であると考えられてきたのかを理解する。」「3. アメリカ政治史の原典資料や近年の政治演説を英語で読解・視聴し、その内容の理解を深める。これにより、アメリカ政治に関する語彙を増やし、英語力を強化する。」という三つの到達目標があった。これらの目標は、いずれも達成された。

（2）合衆国憲法の設立方針をアメリカ政治の時事テーマにも関連させて説明したため、進行が遅れた部分はあった。数値データからは、授業内容に関しては概ね学生が満足したようであるが、例えば授業の進行速度について「スライドを書き写す時間をもっとゆっくりとって欲しい」と言ったコメントもあることから、講義の速度と内容についてこれた学生と、そうでなかった学生に分化したことも読み取れる。さらに私語や頻回の席離れをする特定の学生がおり気づく範囲で教壇から注意したが、広い教室であったため後部まで見えなかった部分もあり、授業に集中したい学生にとっては不快であったと思う。

（3）ノートテキングを苦手とする学生への対策は今後の課題としたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アメリカの文学

授業コード 31E04-001

教員名 山辺 省太

教員コード 103138

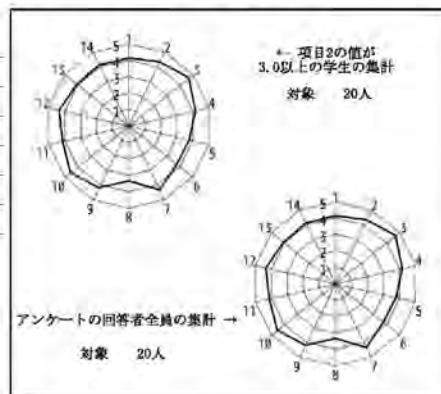
登録人数 78

回答数 20

回答率 25.6%

休講回数 1 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価自体は悪くない結果だが、説明が分かりにくいという指摘もあり、今後はその辺りを改善していきたい。ただ、難しい内容だったにもかかわらず、好意的なコメントを残してくれた学生がいたのは、正直うれしかった。時間配分に問題があると感じた学生もいたようなので、その辺りの配慮も行うよう心掛けたい。今後も学生が文学に関心を持ってもらうよう、授業改善に努めていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 イギリスの歴史

授業コード 31E06-001

教員名 大澤 広晃

教員コード 102964

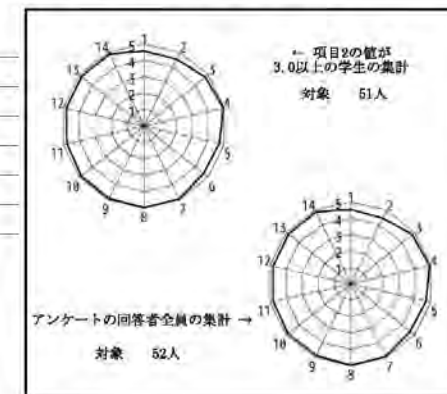
登録人数 105

回答数 52

回答率 49.5%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

<授業目標と目標達成度>

シラバスで設定した授業目標と授業内容については、おおむね達成できたと考える。

<点検・評価および改善点>

昨年よりも受講者は少なかったが、それでも登録者数は100名を超えるので、講義が主体の授業となった。これまでと同様、学生の集中力を持続させるべく、適宜質問をしたり、小休止を挟んだり、気分転換となるような話を盛り込んだりして、教員が一方的に話し続けることのないよう心がけた。また、読書課題に基づくディスカッションの時間を2回取り、学生同士で意見交換したり、学びを深め合ったりする機会を設けた。結果として、全体的な授業評価はおおむね高く、自由記述欄にもポジティブなコメントが多く記されており、学生たちから好意的に受け止められたことに安堵している。他方で、1限の授業ということもあってか、時間に遅れて授業に来る学生が散見された。出席管理について、もう少し厳格な方針で臨むべきだった。

<今後の抱負>

今回の授業については、おおむね良い評価を得ることができた。ただし、講義形式の授業で学生の主体的な学びと参加をどう促していくかは、引き続き大きな課題である。授業の質を高める方策を引き続き検討していきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間関係とコミュニケーション

授業コード 31E10-001

教員名 今井 達也

教員コード 102469

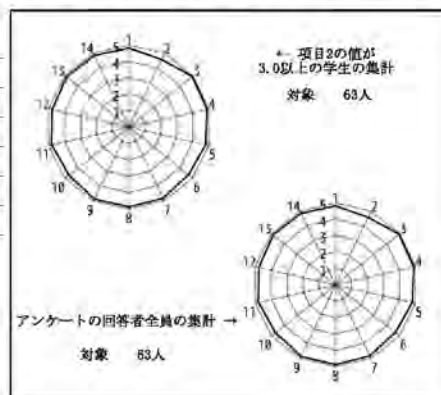
登録人数 99

回答数 63

回答率 63.6%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

授業の目的は、学生にコミュニケーションの理論を理解させ、そして応用できることであった。学生はグループディスカッションに意欲的に取り組み、その目的を達成させているようであった。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※

項目2：受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。

が比較的低い数字であった。この授業では予習を必要としないため、そこで学生が学びに物足りなさを感じていたのかも知れない。今後は、参考となるニュースなどに事前に目を向けてもらうように工夫をする。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

上記にあるように、事前の課題を出すことを考えている。私の授業は人間関係や偏見に関わる内容であるため、ニュースやSNSなどでその話題を拾いやすい。学生がそこから興味をもって授業に参加してくれる可能性もあるので、早速04から取り入れる予定である。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 メディアとコミュニケーション

授業コード 31E12-001

教員名 花木 亨

教員コード 101269

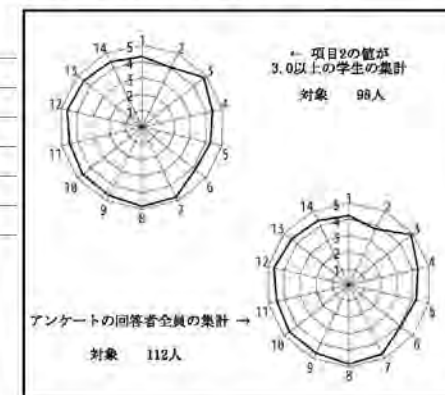
登録人数 208

回答数 112

回答率 53.8%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、各種メディアの特徴を理解すること、アメリカ合衆国や日本のような民主主義社会におけるメディアの役割を理解すること、メディアリテラシーを高めることを目標とした。目標はある程度達成されたように思うが、さらなる改善の余地もある。

項目3から14の平均値は4.51だった。これは科目登録者数が同程度（121～240名）の科目の平均値4.27を上回っている。一定の評価は得られたようだが、さらに高い数値を得られるよう努力したい。

自由記述欄について、「多くの動画や画像、音源を使用していたので、理解がしやすかった」、「前回の授業のリアペを用いたリフレクションの際、また授業中も、学生の意見を尊重し、教員の意見や考えを押し付けることなく、かつわかりやすく解説、回答してくれた」などの肯定的な意見が寄せられた。その一方で、「リアクションペーパーの解説の時間の配分が少し多い気もした」などの改善を求める意見もあった。互いに矛盾する意見もあったが、さらに多くの受講者たちの満足度をできるだけ高められるように努めたい。

受講者数が多い授業ではあるが、質疑応答の時間を設けたり、リアクションペーパーにフィードバックしたりするなどして、できるだけ対話的な授業を心がけた。引き続き、学生の主体的な学びを促すような授業運営を目指していく。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外国語教育論

授業コード 31E13-001

教員名 浅野 享三

教員コード 070912

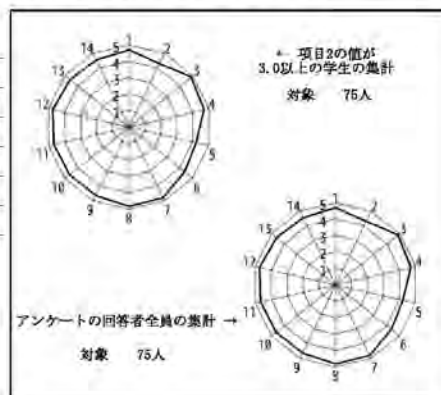
登録人数 100

回答数 75

回答率 75.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 目標と到達程度

シラバス授業概要及び到達目標は「1. 外国語教育の変遷と現状について理解できること。2. 自己の外国語教育観の形成を目指すようになること。2. 市民として外国語教育政策に関心を寄せられるようになること。」としていたことに対して、項目16の改善点として3名の学生から「イマイチ授業の内容の意図がわからなかった」「真面目に聞いていたつもりではいるが、理解できない部分が多かった」「授業でなにを伝えたいのかよくわからなかった」との指摘があった。全体の平均値が4.62の授業でこの項目は4.23だったことから、自由記述がない学生にも同様な反応があったのだろうと推測できる。

2. 総合的な自己点検・評価

次の2つの理由から、本授業は高評価できる（登録100に対して75の回答）。①項目15に関して28名（約37%）の自由記述が「良かった」ことを示している、そして②100名規模の授業で全15回の平均出席率が85%であり、毎回の「振り返り」提出と授業中の雰囲気から熱心な参加があったことが推測できるからである。

3. 次年度の改善点

シラバス明示の授業概要と到達目標を正しく理解しないままに受講したと判断できる学生がごく少数いたことを改善する。その方法として、本授業の到達目標を随時思い起こさせるようにし、毎回自分の到達度を「振り返り」に記載させることを試みる。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英文法論＜国際科目群＞

授業コード 31E16-901

教員名 鈴木 達也

教員コード 017871

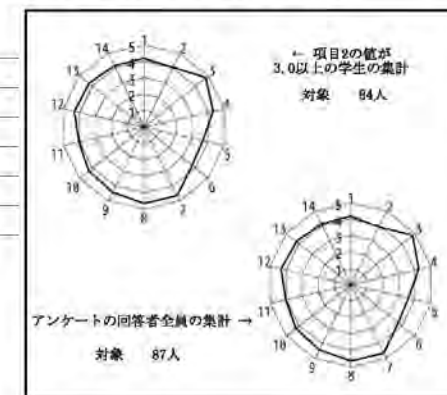
登録人数 140

回答数 87

回答率 62.1%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標は、1. 英語の音声の仕組みについて理解している。2. 英語の文法について理解している。3. 英語の歴史的変遷及び国際語としての英語の実態について理解している。4. 生成文法論的言語学方法論を理解している。の4つである。これらは、WebClassにアップロードしたハンドアウトにも再掲し、授業でも確認したにもかかわらず、到達目標が理解できたかを問う設問の評価は3.61と低く、非常に残念であった。自由記述欄には、国際科目群であるにもかかわらず、授業での日本語の説明を求めるコメントもあることを考えると、根本的に英語力が不足しているのではないかと考える。一方、新しい知識を得たり、理解が深まったかを問う設問では4.21の評価を得、満足度を問う設問についても4.10の評価を得ているので、登録者数140名の比較的大きなクラスの講義であり、かつ国際科目群の授業としてすべて英語で行なった授業としては、まずまずの出来であったのではないかと判断する。

自由記述欄では、ハンドアウトの他に授業で使用したスライドも配布して欲しいという意見があった。ハンドアウトは、スライドをより詳しく説明したものであったが、そのことに気が付いていないということは、英語力の面でかなり問題があるのではないかと考える。年々学生の英語力は低下しており、国際科目群の趣旨、意義について再検討すべき時期にあるのではないかと考える。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理言語学2

授業コード 31E18-002

教員名 村杉 恵子

教員コード 019034

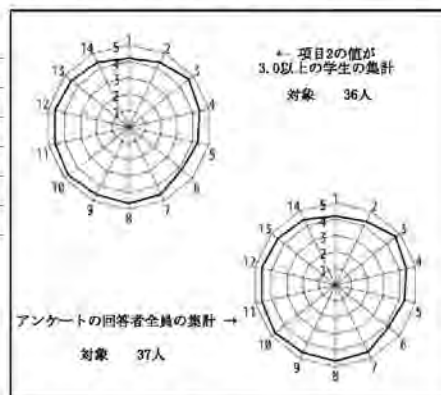
登録人数 49

回答数 37

回答率 75.5%

休講回数 4 回

補講回数 4 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業内でのリアクションペーパーや期末考査の結果を見る限り、開講当初に設定していた目標は、ほぼ達成できたと思われる。項目5と6について4以上をつけたものが9割近いことから、それが裏付けられるように思われる。
2. 総合的には、従来とあまり変わらず、数値としては4.5前後の結果となり、今後もこのような評価が得られるように努力していきたいと思う。自由記述では、休講についてのコメントがあった。今学期は、台湾清華大学や日本語韓国語学会に懇話され、学期中であることから、ひきうけるか否かについて大変迷ったが、民間交流の大切な時期であることにも鑑み、懇話講演を行い、休講については、3学期冒頭の、登録変更可能期間内の授業において、予定される補講の授業日程について、具体的な日時と場所を発表した。しかし、今学期はそれに加え、体調を崩し救急車で運ばれたことにより一度休講せざるをえなくなってしまった。教務課の協力を賜り、できるだけ学生の多い時間帯に補講を行ったが一部の学生は出席できないこともあり、学生に迷惑をかけてしまった。この点について反省する。
3. 「心理言語学」は受講生が比較的多い科目であり、年間複数回開講している。Q3は、春学期の二つの学期に比して、一般的に期待度（設問1）が多少低く始まることがあるが、今回も同様の傾向が見られた。一方、休講のことなどもあったが、最終的な達成に関する数値的な評価は他の学期と変わらないことから、今後も、映像もとりいれながら、知識を与えとともに、学生に考える機会を設けていきたい。休講については、今学期の反省に立ち、体調管理にもつとめたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英米政治特殊研究B

授業コード 31E29-001

教員名 手塚 沙織

教員コード 103911

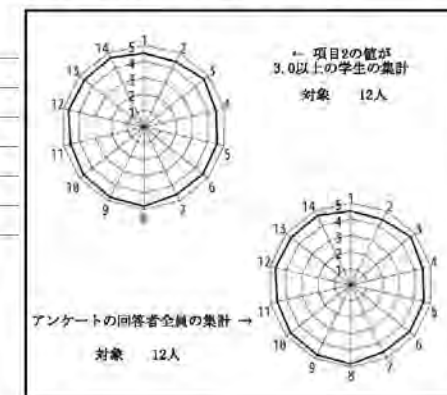
登録人数 20

回答数 12

回答率 60.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

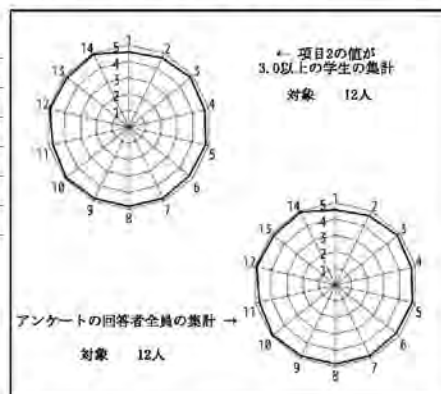


授業評価結果を踏まえた点検・評価

英米政治特殊研究Bの到達目標は、「1. 英米政治の基礎を理解できる、2. 英米政治と社会の関係がわかる、3. ある事象に対する多角的な見方を養える」と設定してあるが、特殊研究という科目名から一定の英米政治の知識があるという前提で講義を作っていたが、英米学科の学生だけでなく、他学科の学生で英米の政治や歴史の事前知識が全くない学生が受講しており、それらの学生と英米の学生の事前の知識ギャップから特殊研究という科目名を反映した、英米政治の応用つまり研究という形の講義ではなく、どちらかというと、英米政治の基礎の側面が強くなった。また、そういった基礎を理解する教科書の指定も必要だったと感じた。総合的な自己点検として、英米学科と他学科の学生の双方の理解度が十分高まるように、時代背景がより理解しやすいような映像を多数使い、リアクションペーパーを講義毎に書かせ、学生の理解度を計りながら、講義内容を再構築したため、70点ほどである。今後は、履修学生のレベルに合わせ、適切な教科書と論文の指定を考えたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英米文学特殊研究B<国際科目群>
授業コード 31E35-901
教員名 PURCELL, William
教員コード 016501
登録人数 25
回答数 12
回答率 48.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



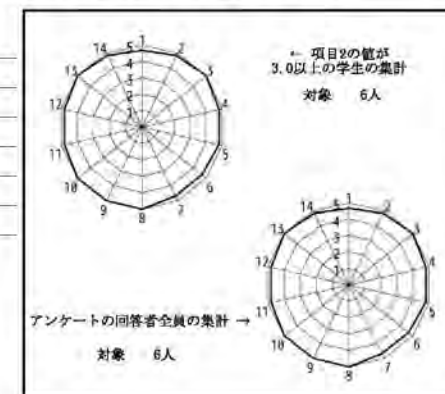
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Only about half of the registered students took the time to do the evaluation. I suppose that is one of the unavoidable consequences of having the students do these surveys online rather than filling out and submitting a hard copy. Those who did take the time to respond were probably those students most interested in the subject, and their evaluation was very high. For most the topic, African literatures, is a new area and consequently the materials and ideas presented were similarly new. The few who took the time to offer comments expressed satisfaction with learning about peoples, their cultures, histories and ways of life with which they had been previously unfamiliar. This, to me, should be one of the goals of the sort of Catholic education Nanzan claims to offer, one that encourages respect for the dignity of all people.

With this course I am constantly tweaking the material, especially the PowerPoint presentations, and this is something that continuously needs to be done in order to improve the overall level of the course. One student expressed satisfaction with group work in particular. For me this is an area that constantly needs rethinking and improvement, as my aim is for the students to actively engage with the materials and develop their own points of view rather than be passive receptacles of information.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語教育特殊研究A<国際科目群>
授業コード 31E38-901
教員名 CRIPPS, Anthony
教員コード 102357
登録人数 12
回答数 6
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course proceeded as planned.

The focus throughout the course was to develop the students' knowledge of course planning and material development.

The students prepared well for each class and took part actively in group discussions.

As part of the course they were asked to give two group presentations on planning courses and lesson planning. All the presentations were excellent.

The overall positive feedback from the students is a clear indicator of a successful course.

The students worked very hard throughout the course and I am extremely happy with their effort and attitude.

I will continue to try and improve both my teaching and the content of the course.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語教育特殊研究B<国際科目群>
授業コード 31E39-901
教員名 SHILLAW, John
教員コード 100560
登録人数 9
回答数 3
回答率 33.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

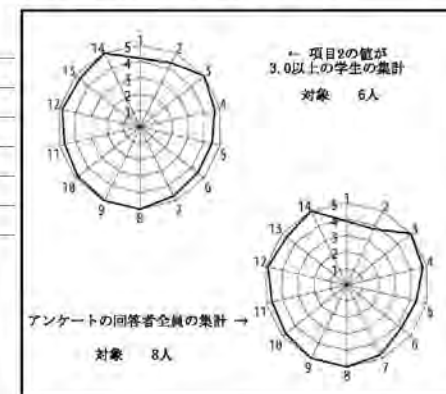
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I find it very satisfying and also challenging to teach this course. The course aims to introduce students to the three major responsibilities of language teachers: choosing how to teach, what to teach, and how to assess learners. The students' different prior learning experiences also leads to a great deal of learning about and differences in the philosophy and culture of education of each person in the group.

The course is divided into three parts, each made up of five weeks, which explore the topics mentioned above. Much of the class time is spent watching videos of teaching in action, or analysing documents, such as curricula, syllabi and language tests. In this way, the students are encouraged to explore the three themes from a comparative theoretical perspective. The feedback on the course that I have had from students over the years has been rather positive. However, this year some students commented to me directly that the content is rather difficult to absorb since they have to get to grips with so many new ideas in a short time. This may also explain why students have fallen from earlier years. I will reconsider the information overload before the next year's course.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英米言語学特殊研究B2
授業コード 31E41-002
教員名 今井 隆夫
教員コード 104239
登録人数 11
回答数 8
回答率 72.7%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講時に設定した目標と到達の程度については、授業を行う中での受講生の関心を考慮して、多少の調整をした面はあるが、おおむね到達できたものと思われれます。②数値データと自由記述から、受講生が少なかったため、インタラクティブに行えたこともあり、満足度も100%と高く、「先生が様々な例や文献を用いて説明してくださり、分かりやすかったです。」「先生が一人一人の意見に対して確実に回答してくれたこと。」「内容が面白いところ、授業がわかりやすい」「グループワークをすることが多く、自然と積極的に授業に関わることが出来ること。」「個人的にずっと興味を持てなかった言語学について、少なからず興味を湧かせてくれる内容や切り口であったこと。」などのプラスのコメントがあり、こちらの意図が伝わったと思います。一方で、ハンドアウトの誤植と内容の重複というマイナスのコメントがありましたので、対応したいと思います。③次クォーターにつきましては、今回の内容をベースに、さらに充実させたいと思います。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IIII6

授業コード 48A07-006

教員名 伊藤 聡子

教員コード 102445

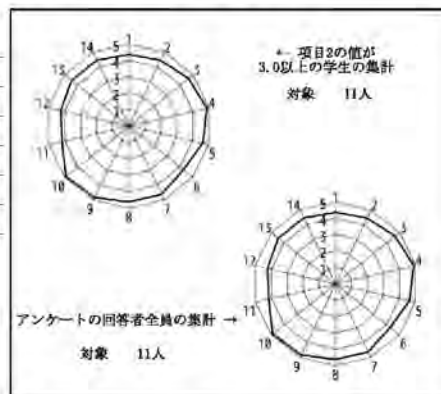
登録人数 18

回答数 11

回答率 61.1%

休講回数 3 回

補講回数 3 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

グループディスカッションを中心にテキストから得た知識を応用して身近な事象を分析・考察する力、その結果を意見として英語で述べる力の養成を目標とし、今学期はPechaKuchaを組み合わせた。英語での授業運営に対する抵抗感が少ないクラスだったことからほぼ英語ですべてを通したが、学生同士での話し合いもほぼ英語で行えており、スピードを求められる最終課題発表のPechaKuchaの質も、相対的に高いものであった。ただ運営言語もほぼすべて英語にした結果、声の大きさがその分小さく聞こえたようで、これは今後改善をしたい。また英語で質問することに対するためらいがあったのか、今回は理解度などへの配慮はされていると感じているものの、質問の機会については十分に感じられなかったようで、この点についても工夫をしていきたい。逆に評価されている点は学生主体の授業としたことに起因するものと思われるものが多く、理解度に合わせた進度調整がしやすいこと、私語が自然と減っていたこと、予習時間が確保できていたことが特に好意的に受け止められている点として挙げられる。学生主体であることを評価する旨は記述式回答にもあり、今後も学生のグループ活動を中心として授業を構成していきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IIC2

授業コード 32A15-002

教員名 泉水 浩隆

教員コード 102114

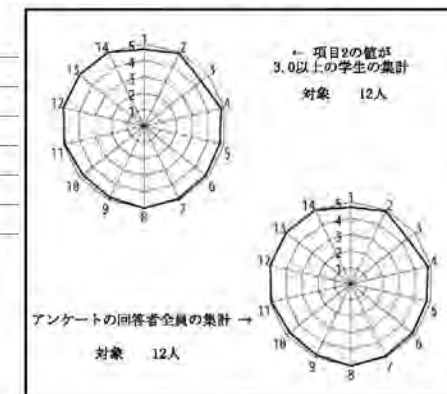
登録人数 32

回答数 12

回答率 37.5%

休講回数 2 回

補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価では、設問4～18の平均値が4.85、全設問の平均も4.85で、レーダーグラフもほぼ外周に沿うような形になりました。設問13および2、設問14がともに5.0という結果になりましたので、この授業の目標はほぼ達成されたと言えるのではないかと考えます。授業の進捗は、最後の方でやや押ししましたが、プリント教材を配布してフォローしました。

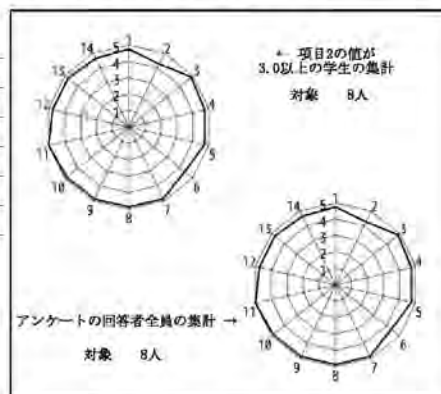
自由記述欄には、「わかりやすい」「文法解説がかなり丁寧。不規則動詞の規則性や考え方を教えてくれたので覚えやすかった。別解もくれたのでありがたかった」「文法を丁寧に教えてもらえる」という意見がありました。

前回 Q2 では回収率が低く、分析対象にならなかったもので、今回はこの科目がアンケート対象になっていることを十分にお知らせし、回答への協力を呼びかけました。そのためか、幾分回収率が向上しましたが、履修者数に比べ、回答者数が未だ十分とは言えないので、今後も呼びかけを続けたいと考えます。

得られた結果を見る限り、全体としては特筆すべき問題はなかったと推測されるので、これまでの方針を踏襲し、スペイン語文法の基本の完成を目指す科目としてふさわしい内容の授業を続けていく所存です。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語口語表現特殊研究II
授業コード 32B06-001
教員名 CARDENAS, Abel
教員コード 017525
登録人数 10
回答数 8
回答率 80.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

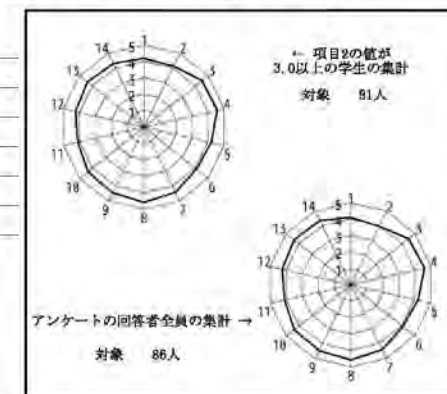


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main objective of this course was to further develop students' oral skills in Spanish. This was achieved by using a task-based approach to language teaching which involved students in carrying out meaningful tasks in the target language, using pair and small group work. Judging from the numerical results on the survey and the comments written by the students we can clearly see their complete satisfaction with the course. The overall average score achieved was 4.78, which was higher than the average obtained university wide. When all the items related to the class in general, class management and overall evaluation are reviewed individually we can see once again that most of them achieved a higher rating than the average achieved in the department, the faculty and the university. Comments written by the students were also very encouraging. They particularly valued the fact that classes were based on topics of interest selected by the students themselves, as well as the use of pair and small group work, which together with the non-threatening atmosphere of the course encouraged students to actively participate in all sessions.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペインの文化と社会B
授業コード 32C07-001
教員名 永田 智成
教員コード 103900
登録人数 190
回答数 86
回答率 45.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標は、スペインには数多くの世界遺産があるため、その世界遺産の考察を通じて、スペインの歴史や地理などを紐解き、その背後にある歴史や文化、地理などを理解することであった。日頃のコメントペーパーから、大変多くの学生にスペインの魅力について知ってもらえ、なおかつスペインの世界遺産の背景にある歴史や文化について理解してもらえたと考えられる。したがって、開講当初の目標は達成されたと考えている。

アンケート結果の数字も平均して4.36と比較的高い数字を示しており、満足度は高かったのではないかと考えられる。やはりDVDを用いての講義はこうした種類の講義においては有効性が高いと再認識した。

他方、いくつかの批判があったことも事実である。例えば、DVDを鑑賞する際、読解問題を渡したが、それがあつたために、DVDに集中できないという批判やDVDのナレーションが早すぎるため、結局調べなきゃいけないという批判があつた。家でくつろぐためにDVDを見ているわけではないので、そのような批判は適当ではないと考えられる。また、調べるというのは学生の本分であり、DVDだけで理解できるものではない。ホワイトボード記入の際、照明を付けるというのは今後考えていこうと思うが、後列ばかりに座っている学生に言う資格があるのか疑問である。基本的には引き続き同様にやっていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン特殊研究A

授業コード 32C12-001

教員名 小阪 知弘

教員コード 103689

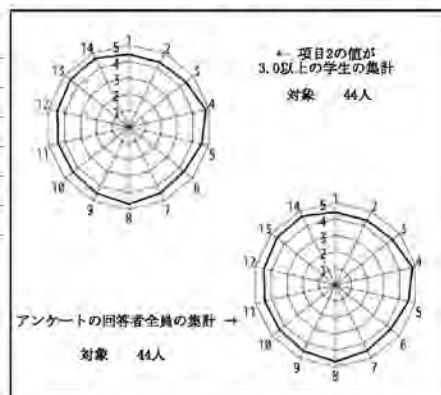
登録人数 103

回答数 44

回答率 42.7%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度に関しては、ある程度、到達できたと自負している。その理由は、学生たちがすべての設問に対して、4.3以上の数字を記入してくれているからである。目標として掲げていた作品を全て、鑑賞することができただけでなく、世界映画におけるスペイン映画の立ち位置とスペイン映画がハリウッド映画に与えた影響にまで踏み込むことができたので、概ね満足している。

②数字データは前述したように、全ての項目に4.3以上の数字が記入されており、ある程度、結果を残すことができたが、項目(10)の学生による遅刻、欠席及びスマートフォンの使用の項目に関しては、4.39とやや他の項目と比べて、数字が低かったため、次回からは遅刻、欠席及びスマートフォンの使用に注意して、他の学生たちに迷惑がかからぬよう取り締まっていく所存である。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などについてであるが、今回はスペイン内戦(1936-1939)を扱った映画を多くあつかったため、次回の2020年度は、『穢れなき悪戯』のようなカトリックの神学的要素が看守される映画も鑑賞作品として取り上げ、スペインにおけるカトリックの神学的思想の重要性などにも言及していくよう心掛けたい。今後は講義内容をさらに進化させるだけでなく、深化させていくつもりである。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカの文化と社会C

授業コード 32C25-001

教員名 遠藤 健太

教員コード 103936

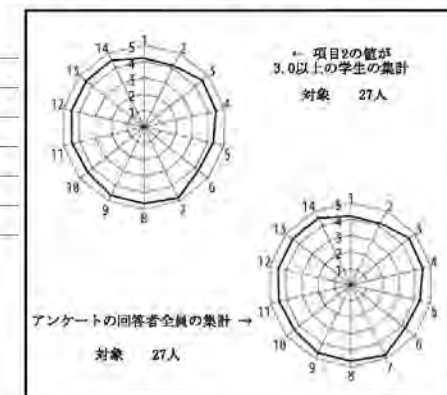
登録人数 47

回答数 27

回答率 57.4%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

ラテンアメリカの「人種」問題についての理解を深め、学生各自が自分なりの問題意識を持てるようになるという到達目標は、提出された期末レポートを概観する限り、概ね達成されたと考える。アンケートの結果もすべての項目で平均値が4.0を上回っており、総じて大きな欠点はなかったとみなせる。自由記述回答の項目15をみても、この授業を通じて学生たちのラテンアメリカへの関心が高まった様子が確認できる。とくに初学者向けを意識した基礎知識の丁寧な解説や、日本のマスメディアでも話題になった時事問題への言及が、かれらの関心を高めることに繋がっていたようである。他方、自由記述回答の項目16をみると、スライドを進めるのが早くて十分にノートを取ることができなかったという声が複数あった。すべてを書き写すのではなく要点を自分なりにまとめてノートする訓練をして欲しいということを伝えたつもりだったが、いまのままの進め方ではどうしても消化不良感が残ってしまう学生がいるようなので、今後は最低限の要点を記したレジュメを配布するなどの対応をする必要があると考える。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカ特殊研究B

授業コード 32C36-001

教員名 ESCANDON, Arturo

教員コード 102090

登録人数 8

回答数 2

回答率 25.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set for this course were achieved. An extraordinary participation both from native Spanish speakers and Spanish learners took place. Students openly discussed sociological concepts, social structure and current affairs, focusing on the role of social movements in social change in Latin America.

Students also participated through group work and presentations. Using newly acquired sociological concepts, they proceeded to analyze Latin America and Japan. I am sure many students got to know the challenges facing Latin America nowadays. I am very grateful for the students' participation and commitment.

I look forward to teaching this course again next year.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域と文明C(アメリカ)

授業コード 46B03-001

教員名 浅香 幸枝

教員コード 000165

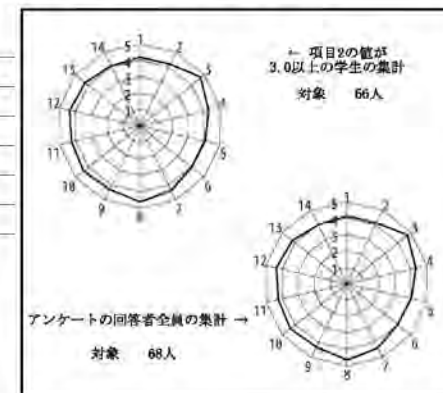
登録人数 142

回答数 68

回答率 47.9%

休講回数 3 回

補講回数 3 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標はだいたい達成できたと思う。項目1～14の平均値は4.28であり、項目3～14の平均値は4.30であった。4.5以上の項目は2つあり、授業の開始と終了の時間が守られており、教員の声や音声機器の音は良く聞き取れたとしている。4.3以上の項目は5つあり、毎回の授業構成や進行速度は適切で、担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じ、教員は学生の理解度に配慮し、教科書、板書、配布資料などを用い、学生の私語など授業の妨げになる学生の行為について適切な指導をし、質問や相談の機会が十分にあってと回答している。

一方、学生は4.16の平均値で履修以前に興味を持っており、4.10で予習や復習を含み主体的に授業に参加し、授業の到達目標を理解し、新しい知識を得て全体として満足したとしている。しかし、残念なことに項目6「この授業の到達目標について力がついてきていると思うか」の評価は3.97という最低値であった。学生は事前に教科書を読んできて準備をし、疑問を持って授業に臨む約束である。しかし、受講生に1年生が多く、事前の準備が難しかったようである。

補講に関しては、151年前には日本がアメリカ大陸への移民送出国であったということが実感できないようだったので、映像を皆で見た。また、補講に参加できない学生は、移民に関する映画やYouTubeやホームページの公開動画、関連本を読んでもよいこととした。スマホを使って、公開されている移住資料の見方や政策についてアクセスする方法を教えた。現地調査に基づく授業内容や新聞を使った分かりやすい授業が良かったと学生は回答している。今後も双方向の授業で学生の能力を高めたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語V[FF]1

授業コード 11B05-003

教員名 茂木 良治

教員コード 102698

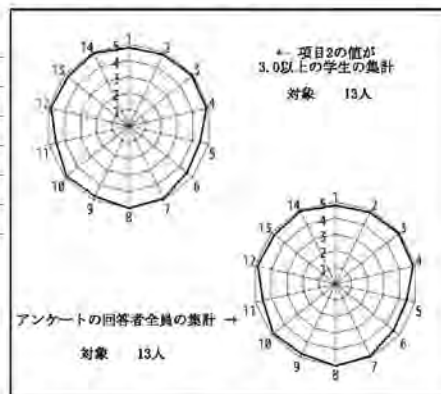
登録人数 26

回答数 13

回答率 50.0%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Z6 nith2という教科書を使用して、予定していた1~12課を全て終わらせることができ、当初設定していた授業目標は達成できたと思う。学生たちは欧州言語共通参照枠のA2レベルへの到達に向けて学習したことになる。フランス学科1年生向けの科目のため、教員から見ても授業進捗は比較的早い。設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」で4.54点と高い数値を得られていた、また、設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」で4.92点だったことから適切な授業運営だったことがうかがえる。設問3~14の平均点が4.78と高得点であることから、授業全体でも満足度が高いといえる。自由記述欄に、「文法など丁寧に教えてくれたこと。」「細かいところまでプラスの情報を常に教えてくださいました。」「音声を聞きながら、生徒が発音して学習する点が良かった。」とあるように、肯定的な記述が見られた。否定的な意見は見られなかったが、Q3では授業の進行が少し早かった印象があった。Q4では学習項目の難易度が上がるため、復習を適宜入れながら進めていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語V[FF]2

授業コード 11B05-004

教員名 平田 周

教員コード 103583

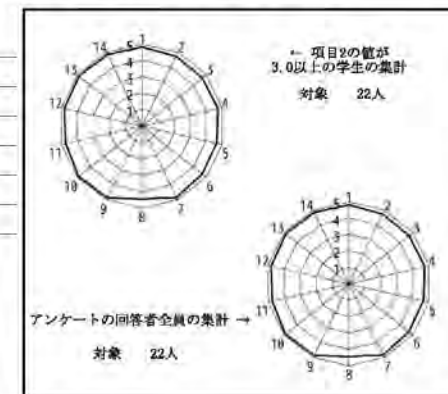
登録人数 26

回答数 22

回答率 84.6%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

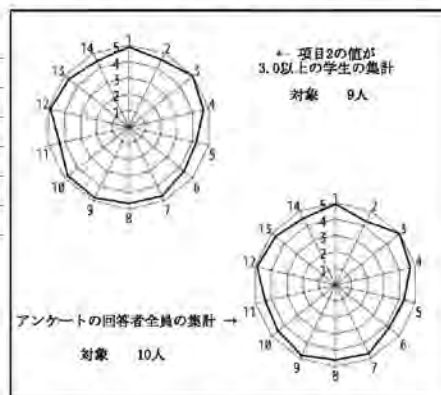


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた12課の文法項目を予定通り教えることができた。毎回の小テストにおいて、学生の文法の習熟度を測ったが、学生の大多数が8割以上の点数を獲得した。また授業内で課したアクティビティにも学生が積極的に参加し、筆記のみならず、口頭での表現を意欲的に学び、当初の目標以上の習熟度を示した。
- ②設問項目のなかで平均値が4.45と最も低い設問項8「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか」と自由記述回答欄の「人に対して教室が大きすぎる」を考慮すると、声がよく通っていない場面がみられる。マイクが使用できない教室のため、精一杯の音量を出したり、学生に前に来るように促したりしたが、教室を人数に見合った大きさに変更する手続きを取るなどの方策を取るべきなのかもしれない。
- ③とにかく学生が熱心に取り組んでくれたが、学生の熱意に答えられるように、教える側が日々いろいろな教育方法を学び、実地で試して、研鑽を重ねたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIB2
授業コード 33A15-002
教員名 REBOLLAR, Patrick
教員コード 100084
登録人数 22
回答数 10
回答率 45.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

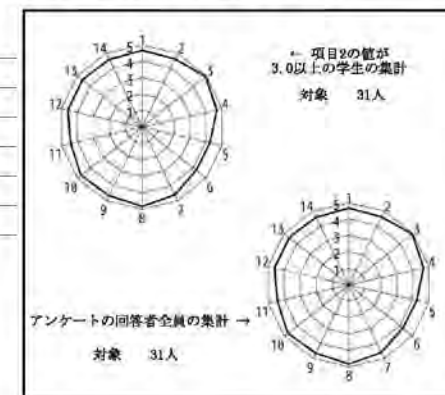


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course was given twice a week for 3 groups at the same time and using the same text book for grammar, communication and culture in French. The important range of educative activities with the book, including audio and video programs and exercises was modulated and modified, this year, by the use of topic-related documents from the Internet. With the vocabulary and grammar already acquired by our second-year students, they were able to search, retrieve and use real documents or informations from the Internet and through the WiFi provided by the university. Sometimes working in groups of 3 ou 4 students, they improved their skills to share tasks and write / speak a group paper. They could get self-confidence to speak louder than before, correcting their own mistakes and managing their course by a part of self-evaluation. Our goal is to elevate their basic knowledge of the French language to a level of understanding or feeling the nuances of expressions or phrases, in the same time they've been learning something of the French Society and Culture.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語文法III
授業コード 33A18-001
教員名 松川 雄哉
教員コード 103644
登録人数 39
回答数 31
回答率 79.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

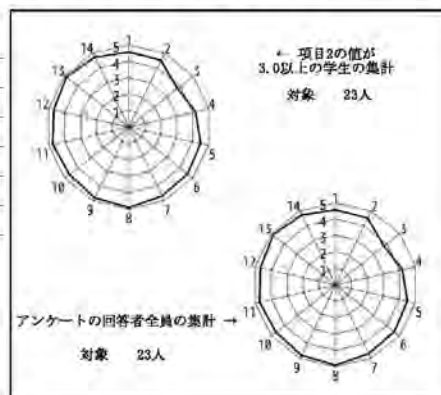
本授業のシラバスで予定されていた進度は守れ、滞りなく終えることができた。使用している教科書は、文法項目のラインナップは良いのだが、例文や練習問題で使われている語彙が学生によって非常に難しく、学生の注意が語彙に反れてしまうため、授業では、簡単な語彙を使って新出の文法事項を説明するなどといった工夫が必要であった。

その甲斐もあり、学生から「わかりやすかった」といったコメントが見受けられた。また、「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」という項目についても比較的高い評価を得た。反省点としては、「教員の態度が悪い」という酷評があった。毎回、授業終了後（昼休み）には30～40分学生からの質問に答えていたが、一部の学生には冷たく、質問しづらい雰囲気を感じ出していたようである。

今後は、引き続き分かりやすい文法の授業を実践しつつも、誰でも気軽に質問ができるような姿勢を心がけつつ授業に臨みたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランスの経済
授業コード 33A24-001
教員名 COURRON, David
教員コード 019026
登録人数 30
回答数 23
回答率 76.7%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives

The aim of this course was to have students get acquainted with the latest facts on the French economy through a pluralist approach involving geographical, demographical and sectorial (agriculture, industry and services) factors along with some fundamental notions on what economics is all about.

2. Degree of achievement of initial course objectives

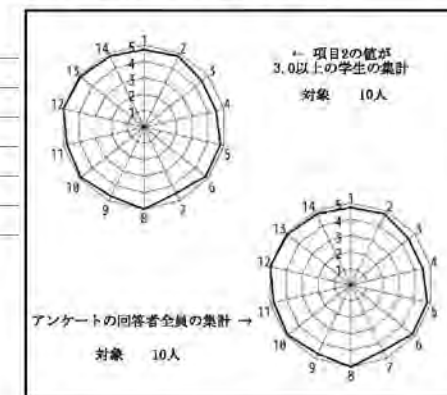
This quarter, though the amount of preparation may have seemed heavy for some, most of the students committed themselves to meet the challenge of a class relying extensively on French-written material. Many valued the precise explanations of background information that I added throughout each class as well as more general French-language related issues.

3. Areas requiring improvement and general remarks

According to many students' comments, I managed to create a stimulating atmosphere for studying. I will then do my best to preserve it in the future. A majority seem also to have appreciated the fact that I gave extra materials on my homepage. However, due to the lack of previous basic knowledge of the field, I will pay more attention to make sure key concepts are accurately understood before I refer to them.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アカデミックフランス語III
授業コード 33A28-001
教員名 齋藤 山人
教員コード 104150
登録人数 34
回答数 10
回答率 29.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① アンケートの結果（特に項目5、6、9、10、11、13）を見る限り、「開講当初に設定していた目標と到達の程度」については問題がなかったと考えられるのではないだろうか。フランス語の必修授業が終わり、語学力が落ちてしまっている学生も少なからず見られた。全ての学生がついてこられるようにレベルを調節したため、目標に到達することは決して難しくなかったはずである。しかし、熱心な学生にとっては簡単すぎる内容になってしまったかもしれない。
- ② 項目7のポイントが他の項目と比べて相対的に低かったが、上記のように、場合によっては簡単すぎると感じられる可能性のある授業内容であったことが、一つの理由として考えられる。
- ③ とはいえ、項目14のポイントに見られるように、多数の学生のレベルに合わせて授業を組み立てたことに関しては（少なくとも基本的な方針として）決して間違っていなかったと言えるだろう。授業の中で視聴覚教材を積極的に用いたため、学生の受講態度も概ね積極的であり、楽しんで学習していることが伺えた。今後は、学生の習熟度と要望を踏まえて、授業内容のバランスを再検討することにした。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アカデミックフランス語II2

授業コード 33A28-002

教員名 小林 純子

教員コード 102488

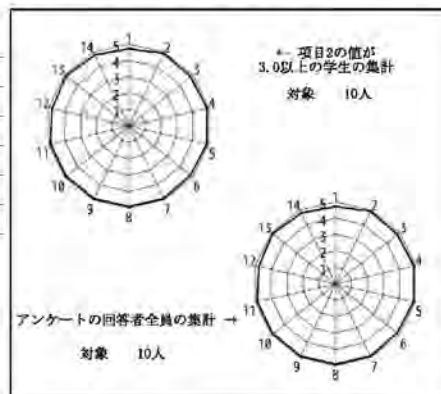
登録人数 12

回答数 10

回答率 83.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、フランス語の資料を使用した表やグラフの読解を通じて、受講生が(1)フランス語を正確に読み取ることができるようになり、(2)その内容を日本語で解説できるようになるということを到達の目標にした。

自由記述回答から、資料のテーマについてディスカッションを行い、グループごとにプレゼンテーションを行うなど、受講生の主体的な取り組みを促進したことが学びへのインセンティブにつながっていることがわかった。また外国語学習のうえにそのスキルを使い、さまざまなテーマについて思考する取り組みを行ったことで、受講生は他科目とのつながりも見出していることがわかった。

本講義では、学習の形式や方法だけでなく、取り上げる内容にも工夫が必要であることがわかったため、受講生がもっている知識や、かれらが行っているその他の学習との関連を見出せるよう、次のクォーターでは授業の進展に応じて小レポートなどを実施し、かれらの関心に応じたテーマ設定を行いたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス文化特殊講義A

授業コード 33C12-001

教員名 吉澤 英樹

教員コード 103584

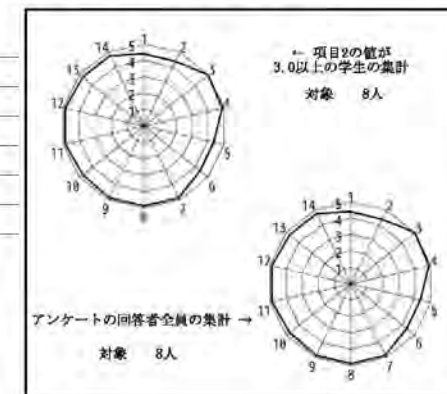
登録人数 31

回答数 8

回答率 25.8%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①今年度は2専攻制になってから持ち上がってきた学生を初めてこの講義で担当することになったが、蓋を開けてみると履修者の3分の1が社会専攻の学生だった。文化専攻の学生はモードや芸術などに関心を持ち、社会専攻の学生は人類学や地理学といった学知と植民地行政との関係についてに関心を持つ学生が多いことなどが、毎回のコメントペーパーやレポートで確認できた。②主題をフランスの1920年代という時間枠に絞り、統合的な視点から授業の組み立てを心がけたが、学生各人の関心を拾い切ることができたかという反省点もある。それがアンケートの集計数にも表れているように思える。③この科目はそもそも文化専攻の学生向けに授業を構成していたが、今後は社会専攻の学生の登録可能性も踏まえ、文化専攻の学生と社会専攻の学生の間で意見交換ができるような機会を授業内に設けたい。またこの科目が自身の研究成果を一番反映しやすいこともあり、最新の研究成果を授業に取り入れていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語VI[FG]3

授業コード 11C06-005

教員名 角山 朋子

教員コード 104039

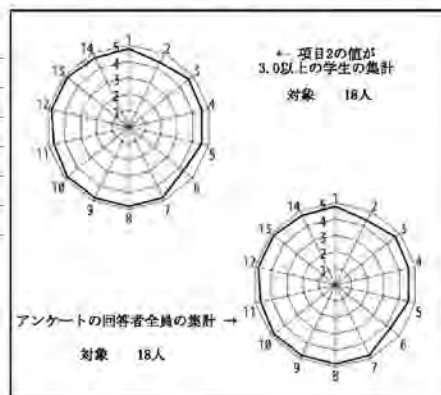
登録人数 20

回答数 18

回答率 90.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

第2クォーターのアンケート結果と比較し、ほとんどの設問で平均値が上がった。設問(6)の平均値4.28は第2クォーターから変化がなく、多くの学生が、授業の到達目標に向けて力がついてきていると認識している。また、設問(13)は平均値が4.83と最も高い。学生たちは到達目標を意識しながら学びの実感を得ており、開講当初に設定していた目標におおむね到達したと考える。

他方で、平均値が若干下がったのは、設問(4)、(9)、(11)である。この結果について、年度後半となり学習内容の難易度が上がり、これまで通りの授業構成や進度では、十分に内容を理解できない学生が出てきたという可能性がある。学生たちの学習意欲の低下を防ぐため、授業中に新しいアクティビティを取り入れたり、授業外のドイツ語関連イベントを紹介したりするなど、教員側から学生への積極的な働きかけが必要だと考える。第4クォーターではこれらの点に注意して授業を運営していく。

前回、自由回答欄に記述のあった教室の温度管理について、第3クォーターでは意識的にこまめに冷房の温度調整を試みた。その結果、今回は特に温度管理に関する意見は寄せられなかった。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 基礎演習III (言語文化)

授業コード 34A13-001

教員名 林田 雄二

教員コード 017434

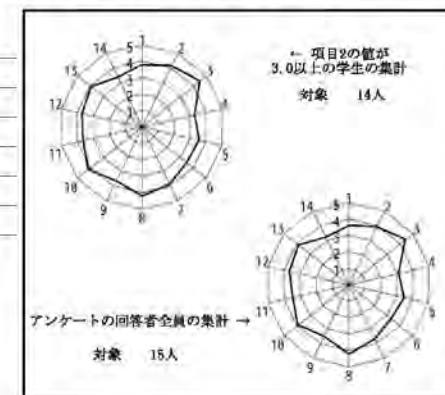
登録人数 37

回答数 15

回答率 40.5%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標:

講義前半の6回の講義では、ヨーロッパ文学の歴史的・文化的潮流の中でのドイツの立ち位置を説明した。その際、ドイツ語の「標準語成立」の特異性についても言及した。昨年の「講義形式」授業への批判を踏まえ、履修生に各時代で代表的な、作家・作品についての発表をしてもらうことにした。ドイツの作家と作品リストを作成し、各作家について説明した後、履修生2名のグループを作り、リストの中から作家を選択させ、作品内容、時代背景などの発表させた(難易度に応じ発表順番の調整を行う)。発表中、補足、訂正が必要な場合は適宜行った。思ったより発表に苦勞したようで、粗筋がうまくまとまらない、粗筋が作品と違う発表が幾つかあった。「学生が本を読まない」という批判はあるが、「学生は作品(日本語)が読めなくなっている」のではないかという危惧を抱いた。授業評価は3.65と低い、学生には貴重な文学体験だったと考える。各発表後には評価・助言のコメントを書かせた。学生からは「教員の態度、プレゼンをしている最中にも関わらず口を挟んでくるという礼儀のない行為」という本末転倒の批判、「学生のプレゼンを聞かずに寝ている」(あり得ない)といった根も葉もない中傷、「自分の耳の遠さが原因なのに返事をしていないと言い張る」といった非礼。これらは授業評価の趣旨を逸脱している。評価を匿名記載にし、自分の発言に責任を持たせる必要を感じる。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 基礎演習III (社会)

授業コード 34A13-002

教員名 岡地 稔

教員コード 015206

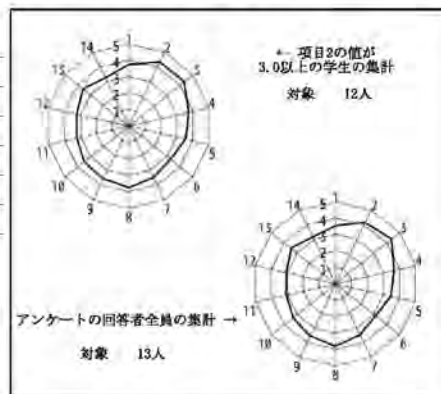
登録人数 21

回答数 13

回答率 61.9%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業はドイツ学科社会専攻2年次生の必修科目で、ドイツ・ドイツ語圏の歴史/社会・文化に関する基礎的諸事項について理解が深まること、および、レジュメやレポートの作成など、専門的な研究を行なうために必要となる基礎的な研究方法を修得すること、を目標とした。このため、授業期間の前半は講義形式で上記の事項を概説し、受講生にはこの間に自らの研究を進めてもらい、授業期間の後半をその発表にあてた。

学生による授業評価は、全項目の平均値が3.52であり満足度のいく結果ではなかった。ただ、回答者の人数(母数)が13名と少なく、少しの回答数が平均値を大きく動かしていると思われる。ことに今回、受講生の個別発表のさい厳しく、しかし真摯に批評したところ、数名の特定の受講生には気に入らなかったようで、質問項目のほとんどに最低点を入れられてしまった。しかも同じ受講生らが自由記述欄で「良かった点は一つありません」「自分の授業も分かりにくく自己満のくせに、人に文句ばかり言い散らして、生徒を泣かせてばかりでおかしいと思う」と極めて主観的、独善的な批判を繰り返すなど、授業評価制度を悪用していると思われたい。ちなみに昨年度Q3でも同じ科目が授業評価対象となり、回答者も偶然同じ13名であったが、例えば全項目の平均値は4.15であり、上記の特定の受講生たちの参加がなければ、昨年度とほぼ同じ結果となる。

とはいえ、少数の学生のやる気をなくさせたことは自省すべきことであり、今後、注意したい。もとより批判的な評価ばかりではなく、「(良かった点)一人30分で自分の興味を持った事柄について研究発表ができる点。他の授業でこのような機会はあまりないのでいいきっかけになったと感じました」と語る受講生もあり、こうした意見を励みに、研鑽に励みたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツの政治と社会

授業コード 34A16-001

教員名 中屋 宏隆

教員コード 102885

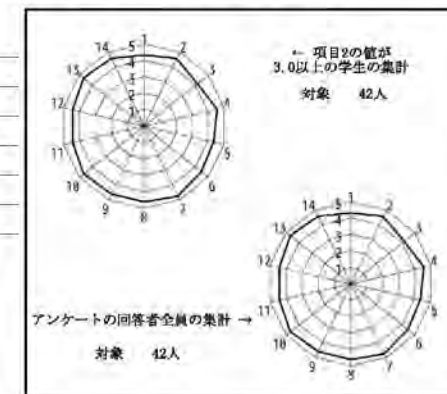
登録人数 55

回答数 42

回答率 76.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

当初目標として掲げたのは、以下の二点である。

・学生は、情報を整理し分析する力・Eラーニングスキルを習得することができる。

・学生は、ドイツ社会の基本的な政治経済制度を理解することができる。

一点目に関しては、図表の分析などを授業では行った。学生もある程度、図表解読能力を身につけた。

二点目に関しては、授業を通じて話してきた。ある程度目標を達成した。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

学生の満足度を示す質問14が4.57なので、概ね学生の希望にそう授業がおこなえたのではない。

一方で質問11の「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」は低めの4.43であった。この辺りは改善に取り組みたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

質問3が4.17で最も低かった。これに関してはすぐに改善可能なので、実行に移したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級ドイツ語II2

授業コード 34A18-002

教員名 水守 亜季

教員コード 103678

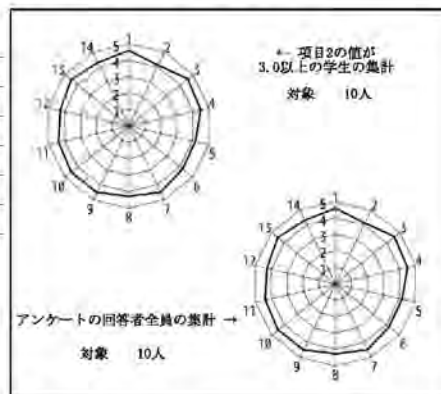
登録人数 17

回答数 10

回答率 58.8%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）に基づいた B2.1レベル相当の教科書を用い、ドイツ語を「実際に使える」能力の養成、主体的学習の活性化、学習ストラテジーの向上を図った。そのため授業には、①ペアワークやグループワーク、②文法規則などを学生自らが発見する活動、③既に持っている知識・経験を手掛かりにドイツ語の意味を推測するトレーニングといった要素を取り入れた。受講者は、1年次、2年次とアクティブラーニングで語学を学んでおり、本授業の形態にも違和感を感じることなく取り組んでいたようだ。本授業でのアクティブラーニングの効果が学生にも感じられていることは、授業全体の満足度を問う設問(14)の平均値4.30、設問(3)～(14)の平均値4.40が、いずれも学生からの比較的高い評価を示していることや、知識の増加や理解の深まりについて問う設問(13)が4.50と高い数値であることからうかがえる。設問(2)の値が4.10と他の項目と比べると低い点は、自律的な課外学習を促す工夫を続けることで改善を図りたい

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文献講読（ドイツ語圏の文化）2

授業コード 34A23-002

教員名 坂本 真一

教員コード 104127

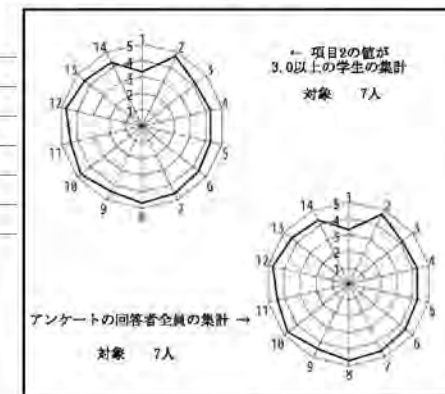
登録人数 19

回答数 7

回答率 36.8%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当該科目で設定した「ドイツ語で書かれた文献を精読し、重要な情報を選択し、内容をまとめることができる。」の目標は達成できた。授業回数と履修人数のバランスから、ひとつの章を3、4人程度で分担し、各自で内容をまとめ、チームによる発表の形式をとった。どの学生も担当箇所は当然ながら、章全体の内容と照らし合わせたうえで、重要な情報を選択しまとめるということができていた。これは、学術的な内容の論文や書物を読む際に必須となるスキルである。

今回は、履修者総数19名のうちアンケート回答者は7名の36.8%の回答率であるため、授業評価の平均が4.3以上であっても信頼性自体は決して高いとはいえない。気になるのは設問1のみが4を下回る3.29という点である。この数値からは、必修科目であるため履修した学生が大半であったという背景が推測される。つまり、授業への内容的期待による履修ではなかったことを示す。

授業の運営に関しては、現状のままで良さそうだが、次年度のシラバスの記入においては、ディプロマ・ポリシーを意識した上で、分かりやすく書くことは当然のこととし、さらには学生の知的好奇心を刺激し履修への興味を引くような書き方を旨とする。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級ドイツ語会話II

授業コード 34C06-001

教員名 BAYERLEIN, Oliver

教員コード 100842

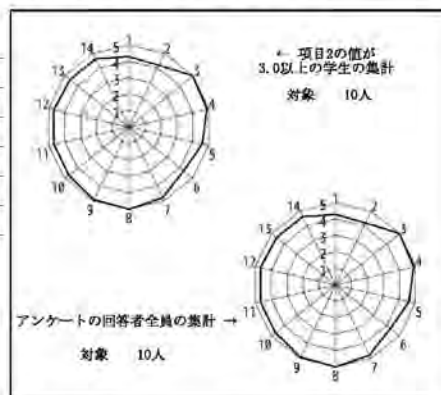
登録人数 15

回答数 10

回答率 66.7%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class was taught for the first time. The purpose was to improve the student's ability regarding academic presentations. In the beginning, I was concerned a little bit, because the language level was quite high. But from the radar chart and the comments on the back, it is obvious, that there were no complaints concerning this course. Vice versa, the students were very satisfied with the fact that they finally could experience real German and could express their self in the German language.

From the comments on the back, I learned that the students find the fact very motivating, that I used only the German language during the lessons. However, as always, I think about changes for further improvement.

For myself, I enjoyed this class and the vigour activity of the participants.

For sure I will go on with this course also in the coming year without any major change.

As always, the contents and the form of this course are not fixed, but a matter of continuous improvement.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国文学研究

授業コード 35C13-001

教員名 中 裕史

教員コード 017830

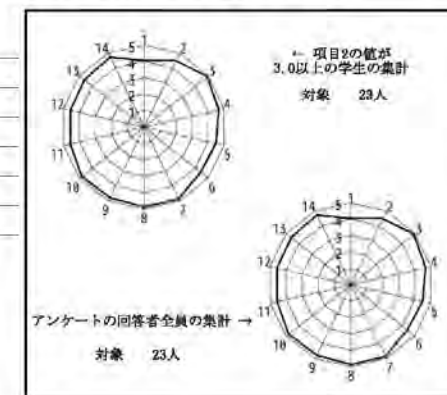
登録人数 46

回答数 23

回答率 50.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

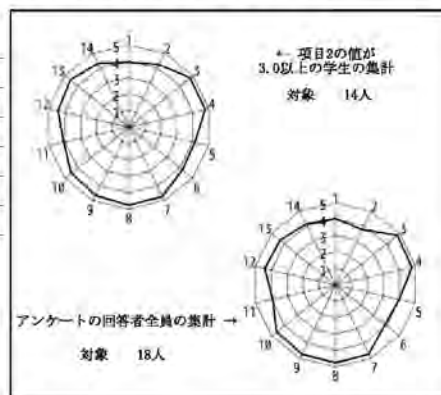


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、中国文学の流れを把握していること、詩文それぞれについて作者と作品を認識していること、中国文学の特長について理解していることの3点である。毎回の授業において発問に対する答えを書かせたが、その内容および設問5の数値を見ると、この到達目標は一定程度達成することができたように思える。個別の設問の数値を見ると、事前レポートを課して各回で取り上げる作者または作品に対して予備知識を持った上で授業に臨むようにさせていたこともあり、設問2の数値も高くなっている。また、上述の発問に対する答えについても、次回の授業の冒頭でフィードバックを行って他の学生がどのように考えていたかを紹介して自分の答えを振り返る時間を作ったこともあって、設問11および12の数値もまずまずの値となっている。自由記述でも、これらの点や時代・ジャンルの異なる作品を取り上げた点が評価されていた。次回以降も基本的な授業の進め方は一応維持していくが、作者や作品についてはなお選択、入れ替えの余地があるので、その時その時で受講生の関心を引くことのできる材料を慎重に選んで、好奇心を刺激する講義になるよう工夫を怠らないようにしたい。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国文化研究
授業コード 35C14-001
教員名 蔡 毅
教員コード 100086
登録人数 33
回答数 18
回答率 54.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価は南山に赴任して以来一番得点が低かったもので、真剣に反省しなければならないと思います。

統計の数値から見れば、(3)(5)(6)、すなわち授業に主体的に参加しているか、到達目標に対する理解そして到達目標に向けて力がついてきているかという点では、評価が十分ではありません。これは学生側の努力にもかかわることとはいえ、自分には学生に到達目標を明白に示せず、授業の内容について説明不足という問題があるのではないかと思います。

なお、(11)、すなわち学生の学習意欲を引き出し、自主的な学習を促すための指導や情報提供という点において評価が高くないことも気になります。これは勿論自分の責任で、学生が不満であれば、適切とは言えないでしょう。

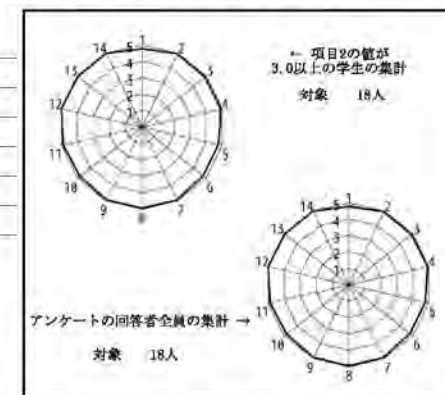
その他、学生の自由記述に、漢詩のみならず中国文化についてもっと教えてほしいなどの要望があったので、これからは次の二点にさらに力を入れようと考えています。

まず、アジア学科生以外の中国語未履修受講生に授業の難易度を十分に配慮したうえで、授業の出席および予習や復習についてより具体的に要求し、学習の意欲を一段と高くさせることです。

そして、漢詩を中心としながら範囲を拡大し、中国文化の全体像を示すことができる真に「文化」という科目名にふさわしい授業を学生に提供できるように、取り組んでいくことです。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アジア文献講読A
授業コード 35C19-001
教員名 宮原 佳昭
教員コード 102232
登録人数 19
回答数 18
回答率 94.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は次の3点である。①卒業論文で分析対象とするレベルの中国語資料を読解できるようになる。②中国語資料の文章を、一字一句の意味をおろそかにせずに全て日本語訳できるようになる。③中国語資料にあらわれるキーワードとその意味を、辞書やインターネットを駆使して把握できるようになる。

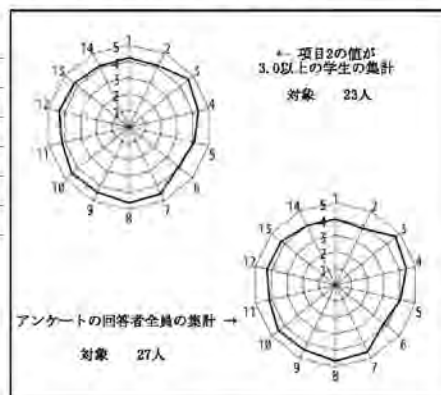
この目標を達成するため、毎回の授業前に中国語資料の日本語訳を作成・提出させる課題を全員に課した。また、授業中は全員を1回以上指名して日本語訳を読み上げさせ、各学生の日本語訳の精度を確認することにつとめた。そして、「日本語訳する際は、中国語の熟語を漢字そのままにするのではなく、訓読みの大和言葉で言い換えること」「意味が分からない言葉は中国の検索サイトを活用して調べること」などを指導した。

以上により、授業期間中に2回実施した復習テストでは、全員が日本語訳の能力を向上させていることを確認することができた。学生の授業評価を見ても、学生自身がそれを実感できていることがうかがえた。

学生からの指摘としては、「中国語の文献講読であるからには、単語などは中国語の発音で紹介して欲しかった。音読みではなにを指して言っているのかわからないことがある。」というコメントがあった。これはその通りであるため、今後は単語を中国語音で示すようにしたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 華人文化研究
授業コード 35C21-001
教員名 張 玉玲
教員コード 101049
登録人数 77
回答数 27
回答率 35.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

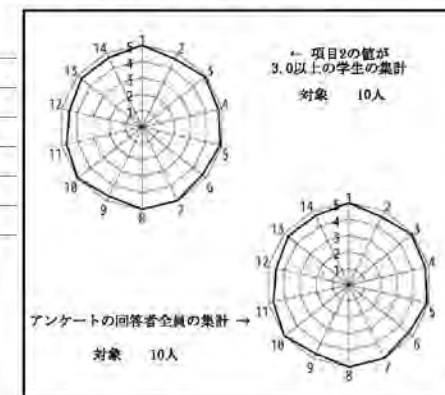


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 「華人文化研究」では①「華人文化」について中国大陆や香港、台湾などの「中華文化」と異なるカテゴリーから理解すること、②華人文化は中国的でありながら、居住地の文化要素を持っていることを理解すること、③華人文化の継承と華人アイデンティティとの関連性について自分の見解を述べること、の三つを到達目標として設定しており、15回の授業（授業後のリアクションペーパー）と最終レポートを見る限り、おおむね到達できたようなと思われます。
2. 数値データおよび自由記述を踏まえての自己点検・評価：データは受講者の3分の1から基づいたものであるが、授業は、外国語学部をはじめとする、異文化や多文化共生に関心のある本学の学生に、中国系移民の文化という切口から日本や東南アジアおよび欧米諸国における民族間の相互作用・融合の諸相、文化の在り方について複眼的に見つめなおすきっかけ（方法論）を与えることができたのではないかと毎回のリアクションペーパーと期末レポートからもうかがえる。ゲストスピーカーを招いたことと授業の進捗についてそれぞれ一名からのコメントがあった。すべての学生が満足する授業デザインを今後の課題の一つとする。
3. 今後、より教員⇄学生、学生⇄学生のインターアクションができる授業ができる工夫をしていきたいと考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級インドネシア語会話B
授業コード 35D06-001
教員名 MANGGA, Stephanus
教員コード 103578
登録人数 14
回答数 10
回答率 71.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

評価してくれた学生の皆さんに感謝します。この授業は講義および実習形式で行われます。学生は様々な文脈に基づいてインドネシア語を話す訓練を受けることになります。話すことのほか、授業では読む、書く、聞くことについてもあつかります。さらに、インドネシア文化も紹介します。上級のクラスですので、9割以上インドネシア語で行われました。評価のデータと学生のコメントを読みますと、この授業の目標が達成されたのではないかと思います。それは学生からの「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」に対する回答に描かれていると思います。例えば、「ネイティブの先生とインドネシア語を使って会話ができる」、「作文などでは、細かくアドバイスや訂正をしてくれる。先生が明るくて楽しい」、「Bisa belajar banyak kosakata dan ungkapan di kelas ini」ということです。そして、「この授業の改善すべき点」に関して、特に映像などの利用の頻度をあげるという意見に関して、これは良い提案だと思ひまして、次回にそれを果たしていこうと思っております。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済の諸相2

授業コード 13C06-002

教員名 林 順子

教員コード 101007

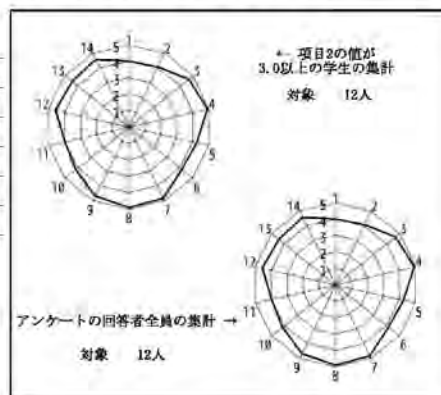
登録人数 19

回答数 12

回答率 63.2%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

100人規模の大人数講義を想定をしていたが、蓋をあけると20名弱という少人数講義となった。例年通りのシラバス記載の内容で講義を展開したが、ディスカッションの場を設ける配慮をしても良かったように思う。

基盤科目のカテゴリーの中では平均より良い評価を得られたが、30人未満のクラスでみると、平均より低い評価となった。設問13の新しい知識を得たかについて、やや平均より低く出たのは、社会科学系の学部生と人文・理工系の学部生が混在していたことが影響した可能性がある。とはいえ、設問14満足度に関しては、平均以上の評価を得ることができた。

毎回webclassを通じて、理解度確かめるチェックテストと質問受け付けをおこない、次の回で解説を実施し、試験問題もこのチェックテストと同レベルのものを出题した。自由記述をみるとこの方式を評価する声で占められ、何らかの改善を促す記述は1つもなかった。

シラバスにおいて設定した到達目標は「経済学の基礎的な知識を理解したうえで新聞記事の内容が把握できるようになる」であった。講義中のチェックテストでは達成できていると感じた。ただ、試験結果はそれほどとは言えず、知識を定着させるまでにはいかなかった。来年度の受講生数はわからないが、主体的に講義に参加してもらう方を模索したい。

なお、最後2回分の講義で授業評価の回答を促し、ある程度時間もとったが、いずれもほぼ全員出席だったのにも関わらず、回答者が3分の2に止まったのは残念である。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 データ処理入門6

授業コード 40B03-006

教員名 吉根 勝美

教員コード 018358

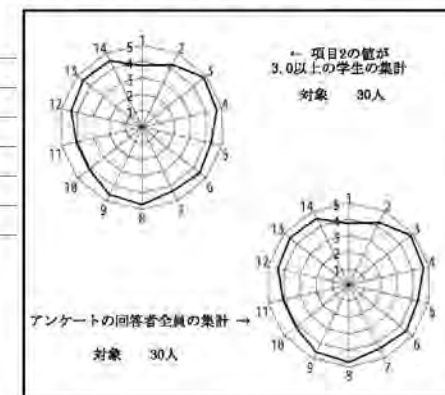
登録人数 33

回答数 30

回答率 90.9%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

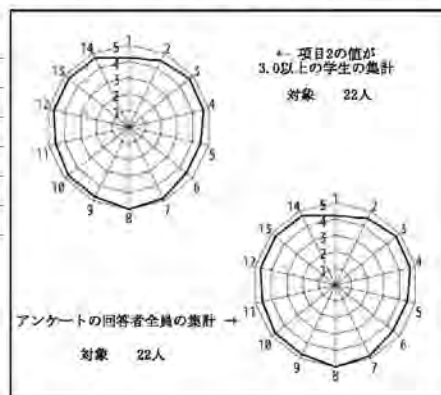
本授業では、「日本語ワープロと表計算ソフトの基礎を習得し、データを分析することにより、何かを発見する力とそれをプレゼンテーションする力をつける」ことを到達目標としていた。ドラッグストア商品別販売額等の月次データ（2014年1月以降）を分析する課題に対して提出されたレポートから判断すると、PCの操作自体はまずまずできるが、分析力とプレゼン力にばらつきが見られた。

設問1～14で、2または1と回答した人数の合計を設問毎に見ると、最大でも30名中3名（設問10：私語などへの対処）であり、自由記述では「丁寧で分かりやすい」「実践的な技術が身につく」「資料で予習復習できた」旨の回答があり、おおむね問題なく授業を実施できたと思われる。

経済学部では、2018年度新入生からノートPC必修とし、1年次必修科目である本授業を一般教室で実施してきた。当初は、PCを忘れてくる、ソフトウェアのインストールをしていない、WiFiに接続できない等のトラブルが多かったが、本クォーターでは、こうしたトラブルはほぼ見られなかった。なお、「席の位置によっては画面が見にくい（視力的に）」という回答もあったので、学生の着席位置に配慮する必要がある。また、クォーター制導入以前に作成したシラバスをそのまま使用しているため、小レポート出題のタイミング等、週2回の授業に合わない部分もあるので、今後数年かけて改善すべき点とする。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済英語1
授業コード 40C01-001
教員名 小林 佳世子
教員コード 100487
登録人数 29
回答数 22
回答率 75.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

すべての項目で学部の平均点を上回り、高い評価となったことに、素直に嬉しく思っています。

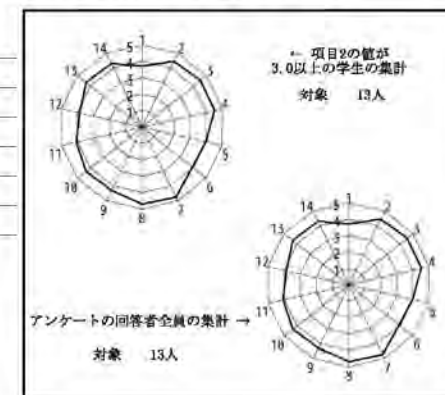
この講義では、アメリカなどでごく当たり前に使われているミクロ経済学のテキストを原書で読むというかなりレベルの高い内容と、英語で書かれた易しい本をたくさん読むという多読の両方を取り入れています。

前半のテキストを読むパートでは、レベルは高いとはいえ、英語自体も素直な文章で読みやすいうえ、演習問題とその解答の部分なので文章が短いこともあり、実際にネイティブが使っているテキストを自分たちでも読めるのだという自信がついたと思います。それを予習として読んだうえで、教室でその解答をグラフを使いながら発表形式で説明をすることで、経済学への理解も随分と深まったように思います。

後半の多読のパートでは、イギリスの小学校の教科書を基本のシリーズとして、易しい本をたくさん読む多読を行いました。1万語以上を目標としたところ、教室内での多読の時間は長くはないのにもかかわらず、すべての学生がその目標を達成し、平均は2~3万語程度読んでいました。「英語の本を読むことが面白かったし、勉強になった!」「英語に対する抵抗感が減りました!」「実際にとても楽しかった!」など、英語を読むことを楽しんでいた様子うかがえ、嬉しく思っています。本の種類をもっと増やし、学生の興味とレベルにあった本がもっと増やせるといいと思っています。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外書購読(経済分析の方法)B
授業コード 40C03-001
教員名 稲垣 一之
教員コード 104110
登録人数 22
回答数 13
回答率 59.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

学生の理解度に配慮しながら進めた結果、講義の進行速度がだいぶ遅くなってしまいました。予習を前提としていましたが、指定したレポートの文章を翻訳するだけで中身を全く理解していないというケースが非常に多く、結局教員が全て解説するという事態になりました。この点については、輪読とは別の形式をとるなど、次回以降に改善させたいと思います。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

データの的には問題ないように見えますが、上記1の通り、改善すべき点は多々あります。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

1で述べた事態への対処のため、外書購読ではありますが、輪読とは別の形式で講義をすることを考えています。具体的な方法は思いついていませんが、本学及び他大学における外書購読の講義の進め方をチェックして、良い例があれば積極的に取り入れたいと思います。

また、期末試験を取り入れて、学生の勉学意欲を高められるようにしたいと思います。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外書講読(国際)A1
授業コード 40C06-001
教員名 實多 康弘
教員コード 100751
登録人数 10
回答数 4
回答率 40.0%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

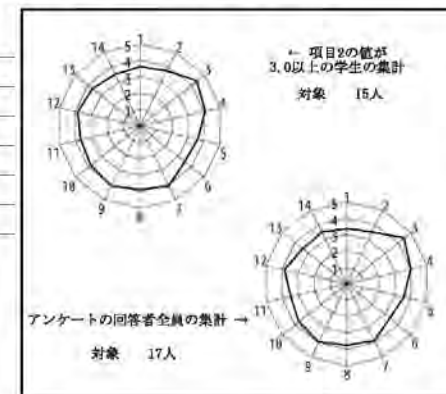
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、経済学部の選択科目で外国語科目に相当する授業で、今回はじめて授業評価を受けた。世界的に有名な国際貿易の最新の英文テキストを用いて、学生に担当箇所を割り当て、各自で日本語ではなく、すべて英語でレジュメを作成してもらい、前で発表してもらう形式である。目標はほぼ達成できた。事実、学生の評価は非常に高く、自由記述でも高評価を受けた。テキストの内容は高度なものも含まれて学生には難しく感じるかもしれないが、表現は丁寧で多くのコラムや新聞記事で、専門研究論文の概要や事例を多く紹介している。そのため、学生は難しいが興味深い内容で、実際読んでみると分かりやすいと好評であった。もちろん、理解が難しいところは私が詳細に説明をして補足した。発表者以外は、質問やコメントを確実にするように加点方式として、多くの質問やコメントが出て、議論が盛り上がった。少人数だからこそできたのかもしれない。今後も熱意を持って教育に取り組む所存である。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済思想入門
授業コード 40D04-001
教員名 大谷津 晴夫
教員コード 015222
登録人数 112
回答数 17
回答率 15.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目について、設問3～14の平均値が3.75であったことは、総合的に見て及第点の評価をもらったと受け止めている。その中で設問3, 4, 9の値が4.47, 4.00, 3.94であったことは、授業の形式面の条件を充足していたという評価と受け止める。また、設問7の3.88の評価に示されているように、授業への真摯な取り組みについての評価もまずまずの水準にある一方、全体的な満足度を問う設問14の値が3.47と低いこと、設問5, 6の到達目標にかかる評価も3.59, 3.35と低いことに課題を残している。授業履修前の興味度が3.35で、設問2の参加度も3.47と低かったのに比例して、設問13の新知識を得られたとする割合も3.41と低くなっている。学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加を促すもう一段の工夫が必要であると痛感している。

自由記述欄の回答では、ネット上のマップなどが多用されていた点が評価されていた。講義では毎回A3用紙1枚にまとめた講義概要をプリント配布し、また講義中もgoogleマップやネット上の映像資料を多用した点が評価されたのだと思う。それは設問9の評価が3.94と相対的に高かった点に表れている。問題点は回答者の数が17人と極端に少なかったことである。数度にわたって授業評価実施をアナウンスしたのだがどういう理由で不参加なのか不明である。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済統計入門4

授業コード 40D05-004

教員名 大鐘 雄太

教員コード 103641

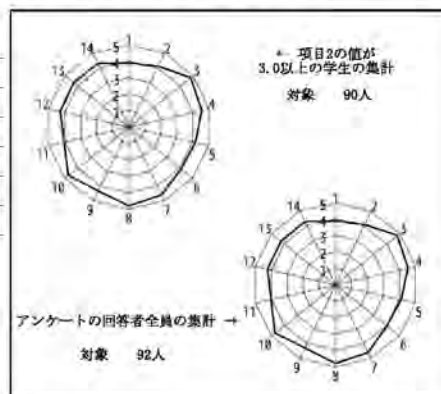
登録人数 151

回答数 92

回答率 60.9%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業では、統計学の基礎知識の習得を目標とした。授業の到達目標を理解できているかどうかに関する設問（設問5）は4.12、授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかどうかに関する設問（設問6）は4.03にとどまっているが、定期試験を受けた履修生の89.1%が単位の修得に至っているため、上記の目標は到達できたと考えている。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

昨年度と比べて改善された点として、(1)設問3から設問14までの12項目すべてが4点台になったこと、(2)上記の12項目のうち、設問3と設問12以外の10項目が上昇したこと、(3)低下した設問3と設問12に関しても、それぞれ4.88から4.84（設問3）、4.30から4.27（設問12）というわずかな低下にとどまったこと、の3点が挙げられる。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

上記の12項目のうち、履修生の到達目標に関する設問（設問5、6）、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための指導や情報提供に関する設問（設問11）は、他の設問よりも相対的に数値が低めであったため、来年度の経済統計入門では、これらの点を改善することにより、全体的な満足度をさらに高めていきたいと考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ゲーム理論B

授業コード 40D08-001

教員名 赤星 立

教員コード 103866

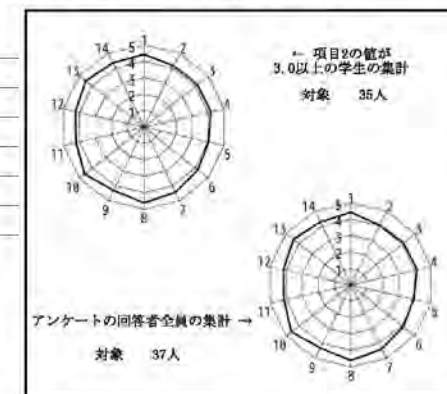
登録人数 77

回答数 37

回答率 48.1%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① シラバスでは次の4つの到達目標を掲げていた。「交渉問題、権利問題、マッチング問題とは何か説明できる。」「各問題において紹介される解やルールの望ましさの基準がそれぞれ何を言わんとしているのかが理解できる。」「各問題において紹介される複数の解やルールがどのような性質を満たすのかを説明できる。」「さらに、各問題において、具体的な数値例が与えられたときに、紹介した解やルールのもとで達成される配分を求めることができる。」講義準備を進める中で、交渉問題を扱う時間はなさそうだと判明したため、扱わないことにし、開講時にその旨を説明をした。その点を除いては、上記4つの目標達成に向かった流れで講義を展開できた。学生からの評価も悪くないので、意図は理解してもらえたと考える。

② 何度か講義を数分間延長せざるを得ないことがあった。それに対する不満が1名から挙げられている。それ以外には問題点はなかったと考える。板書の文字サイズについての不満も1名から挙げられていたが、これについては何度も学生に説明しているし、教室前方の席は十分に空いていたので、特に検討すべき点だとは考えていない。

③ 昨年度から全面的に講義内容を改訂したため、①に述べたように、シラバス計画とはズレが生じた。来年度以降は、取り扱う資源配分問題の数を減らし、シラバスでの計画と実際の講義内容が合致するようにする。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 理論経済学B

授業コード 40D16-001

教員名 井上 知子

教員コード 019166

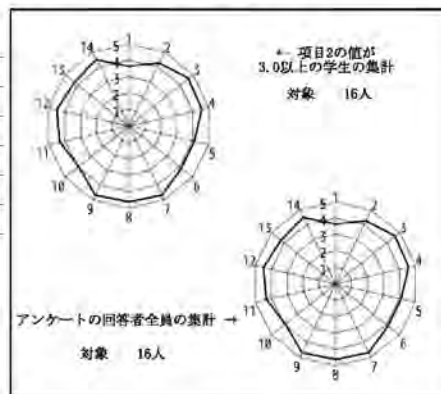
登録人数 47

回答数 16

回答率 34.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

登録者が47名で少人数のクラスであったので、毎回テストをおこない、次の回の授業で結果を本人に知らせるとともに、テストの解説をおこなうことができた。このため、受講生の理解度を把握しながら授業を進めることができたと思う。これについては、項目9が4.69であったことから、学生も私と同じように思っていたことが確認できた。

設問項目で最も低い値だったのは、授業内容に対する事前の興味を問う項目1の3.63である。しかし、事後の満足度を問う項目14は4.50になっていたのも、授業を通して、受講生の満足度を上げることができたのではと思う。

私語等への対処を問う項目10が3.94と2番目に低く、自由記述欄にも「後ろの方が騒がしい」とコメントがあったため、私語に対する注意が足りなかったのだとこの点について、反省した。後ろ5列は着席しないルールであったが、遅刻をする学生などが、そのルールを守らず、後ろに固まって座っていたので、次の授業では、遅刻者が後ろに座らないような工夫をしたい。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 労働経済学B

授業コード 40D31-001

教員名 岸 智子

教員コード 100346

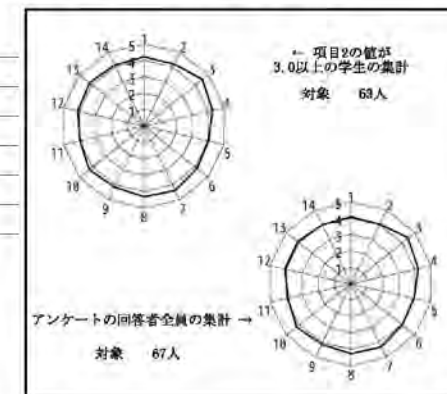
登録人数 368

回答数 67

回答率 18.2%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

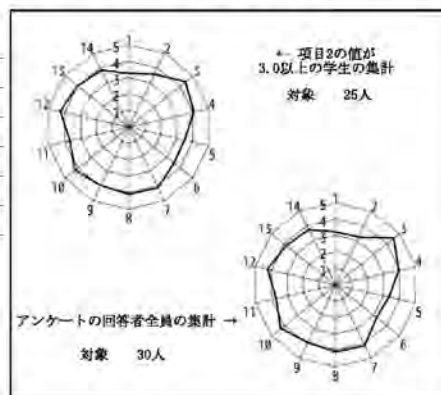


授業評価結果を踏まえた点検・評価

評点は、本学の平均値の高さを考えると、あまり良いとはいえない。大教室（B22室）での講義にはいろいろな困難があるが、それは言い訳にはならないだろう。教材やその提示の仕方にもう少し改善を加えたい。遅刻や途中退出、スマホの使用など、注意を喚起してはいたが、少し甘かったと思う。学生がおのずと引き込まれるような授業内容にしなければ、そういった行為はなくなっていくと思う。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 公共経済学B
授業コード 40D33-001
教員名 焼田 党
教員コード 102065
登録人数 69
回答数 30
回答率 43.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

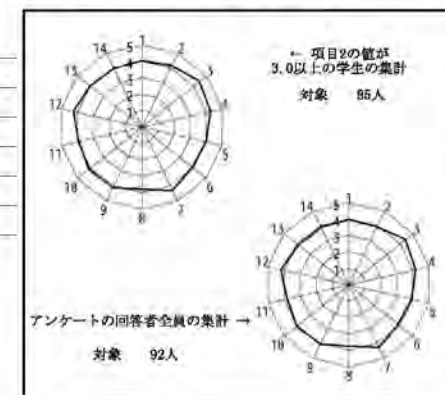


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①授業目標には完全には到達していない。応用的な科目なので、ミクロ経済学の基礎的な知識を前提として議論をしているが、前提が満たされず、追加的な説明を入れながら進めていたので、全体的に進行速度が速くなったが、それでも目標とした内容までは進めなかった。②板書が読みづらいことはしばしば指摘があり、講義初めに、そのような場合には指摘するように言っているが、かろうじて複数回声が上がる程度だった。自由記述欄にあるように、学生の受け止めはさまざまであり、今後でもできる限り多くの学生の注意が引きつけられるように進めていきたい。試験成績から判断すると、こちらが期待したような理解はしてくれていないが、内容はかなりつかんでいるように判断できる。出席を重要視はしていないので、出席率の良い学生は、メモ程度のレジメからはりかいはできていないが、毎回出席して熱心に聞いてくれている学生は、かなりの程度内容を理解して、しっかりした答案を書いている。したがって、できるだけ多くの学生が興味を持ってくれればと、期待して日常生活の話題を取り入れていくことになるかと考えている。③すでに記述したが、学生が興味を持って聞いてくれるように、データを多く取り入れることも試みてみたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 租税論B
授業コード 40D35-001
教員名 岸野 悦朗
教員コード 103035
登録人数 341
回答数 92
回答率 27.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

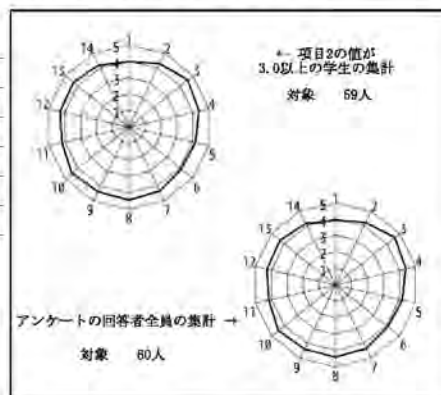
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
この授業は、我国の法人税並びに消費税といった法人に係る税の現状と各税法に基づく制度の考え方及び基本的な仕組み等について今後社会人として各種職務活動を行う上において必要な知識を身につけるとともに、税に対する考え方を深め、思考能力をも育成することを目的としている。
この科目の特性として専門的要素が強い等の要因からか難易度が高いとの意見があり、冒頭特に消費税率の引上げや軽減税の導入等、税に関する時事的な新聞記事を複数回紹介する等により学生に税に関する関心を引き起こすように努めた。また、昨年度と同様、学生にも理解できるように配慮する観点からパワーポイント資料の見直し授業の進め方等改善に努めた。受講者数が多い中、よく勉強している学生は、的確に理解しており、目標に十分達しているが、基本的事項を理解していない学生が多も多く、全体としてはまだまだ十分ではないと考える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
昨年度に比べて、人数が多く、聞き取りにくい等の意見がある一方で、パワーポイントの構成について評価するものがあった。来年度も引き続きWEBクラスを用いての勉強に向けて学生の学習意欲が向上するように努めたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
次年度以降、充実した内容となるよう取り組んでまいりたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域経済学A
授業コード 40D40-001
教員名 相浦 洋志
教員コード 103642
登録人数 136
回答数 60
回答率 44.1%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

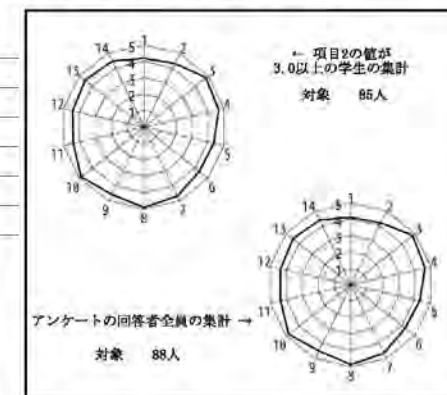
この授業の目標は、地域経済の発展および空間構造の理論の理解とその理論が現実に沿ったものであるのかをグループワークを通じて検証することであった。授業評価アンケートでは、「到達目標を理解」「到達目標に向けて力がついてきている」「新しい知識を得たり、理解が深まった」の3項目について、それぞれ学部平均より0.11, 0.04, 0.09ポイント高くなっていること、また期末試験において平均点が私の想定よりも上回っていたことから、この授業の目標はおおむね達成できたのではないかとと思われる。

また、アンケート項目の「履修する前の授業内容について興味」は学部平均よりも0.04低かったものの、学部平均よりも下回っていたアンケート項目は「授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さ」(-0.07ポイント)および「全体としての授業満足」(-0.01ポイント)のみであり、おおむね好評価を得たのではないかと考える。特に、「主体的に授業に参加」「積極的な授業参加や自主的な学習を促した」がそれぞれ、0.17ポイント、0.13ポイントと学部平均よりも0.1ポイント以上高く、グループワークの効果が出たのではないかとと思われる。

一方で、自由記載にグループワークに取り組まない学生への対処に関わるものが2件あった。生徒の自主性を尊重したかったので、グループワークの進め方については口出しをしなかったが、そのために円滑にグループワークに取り組めなかったグループも存在したと感じたものの、今回の授業ではグループワークにまじめに取り組まない学生に対する対処が上手くできなかった。今後は、グループワークの進め方についても指導を行い、グループ毎に記録を付けさせることで、グループワークへの取り組み具合に関しても評価を行いたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経済学B
授業コード 40D45-001
教員名 太田代 幸雄
教員コード 100347
登録人数 232
回答数 88
回答率 37.9%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【開講当初に設定していた目標と到達の程度について】

この科目は、経済学科2年次生以上向けの選択科目であり、経済学の応用分野の1つである国際経済学について、その基礎理論を習得することを目的としている。今回の講義は、昨年度も担当した科目であったため、具体的に目標・到達度を確認しやすい状況にある。数値データで見ても、全項目で学部平均を上回る結果となり、客観的にまずまず目標を達成できているのではないかと考えている。

【数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価】

データとしては、回収率が全受講生中約38%と、これまで担当者が実施したアンケート中でも相対的に低い数字であったことが挙げられる。また、アンケート結果としては、上述の通り全項目で学部平均を上回り1番平均値が低かった設問（設問1）でも4.13であったことを考えると、もともとこの分野に興味のある学生が潜在的に多くいて、ある程度それら受講生が満足してくれる内容・水準の講義が出来たのではないかと多少安堵しているところである。

【次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など】

自由記述欄を見ると、多くは好意的な意見であるように思われる。ただし、計算に関する解説等に関して、判り辛い点があったと感じている学生も存在しているので、今後修正を試みたいと考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経済政策論B

授業コード 40D51-001

教員名 蔡 大鵬

教員コード 103260

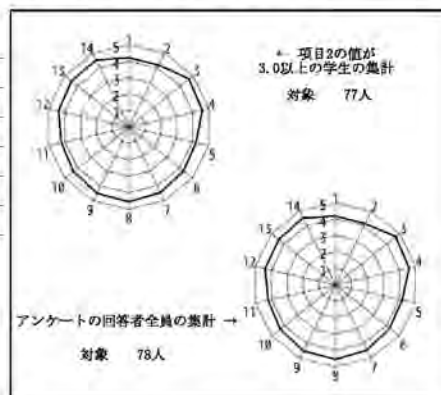
登録人数 309

回答数 78

回答率 25.2%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

〔1〕授業目標および達成度

本講義は、(1)国境を越えたカネに関する様々な問題を経済学の見地から理解できるようになること、また(2)為替レートの決定、通貨危機や通貨統合など国際経済に関わる様々な問題に対する関心が深まることを目標としている。講義では、上記の目標をほぼ達成できたと考えられます。

〔2〕点検・評価

授業評価の結果としては、設問3から14の平均値は、「4.43」であり、また、「設問10」を除き、他の設問はすべて学部平均を上回り、ある程度満足してもらっていると理解している。

〔3〕次学期以後に向けての改善点等

まず、板書の字が小さく、分かりづらい箇所があるとの指摘に対して、対策を講じていきたい。今後、大教室の後ろに座る学生さんを特に意識して、フォントを大きくして、また色分けするなど板書の内容を工夫すると共に、写す時間を設けることで、内容を写し終える前に、消してしまったり、上下のボードを重ねて見えなくなったりということがなくすよう改善していきたいと考える。

また、私語に対して、その都度注意してきたが、さらに厳しく対応してほしいとの要望があった。今後、より厳しく対応すると共に、内容を工夫することで、より集中しやすい雰囲気醸成したいと考える。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アジア経済論B

授業コード 40D55-001

教員名 林 尚志

教員コード 017897

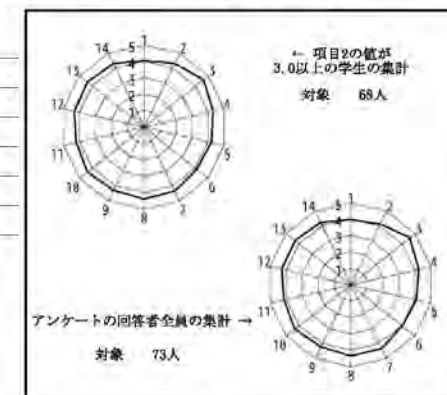
登録人数 226

回答数 73

回答率 32.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、「近年IT分野を中心に急速な技術変化が進む中、“日本企業の従来の強み”はどう変化しつつあるのか」、「その中で、台湾や中国等の各国は、どのように“中所得国の罠”からの脱出に取り組んでいるのか」等の疑問に注目しながら、日本とアジア各国との間の“新たな分業関係”のあり方への理解や関心を深めることを目標とした。また、授業中に提起される一連の疑問を列挙した“教材プリント”を事前に配布し、これらの疑問に対する解答を探るという形で授業を進めた。

この目標の到達度については、「説明がていねいでわかりやすかった」、「中国留学から帰ったばかりで、毎回なるほどとなって理解しやすかった」等のコメントがあり、一定の成果があったと考えられる。

その一方、今後の課題としては、設問(9)と関連し、「板書をするので、頭に入りやすかった」等のコメントがある一方、「板書の字が見づかった」、「板書量が多く、授業の進行が速かった」等のコメントも見られたため、「内容を深めつつ前者の学生の割合を高める」ことができるよう、板書内容を精選し、説明にあたってのメリハリを心がけていきたい。また、設問(11)に関し、学期の前半で2～3回、「学生への問いかけ」や「議論の時間」をもうけたが、今後、授業進度に支障のない範囲で、これらの取り組みをさらに充実できたらと考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 特別テーマ講義(歴史と思想)A

授業コード 40D70-001

教員名 川本 真哉

教員コード 103865

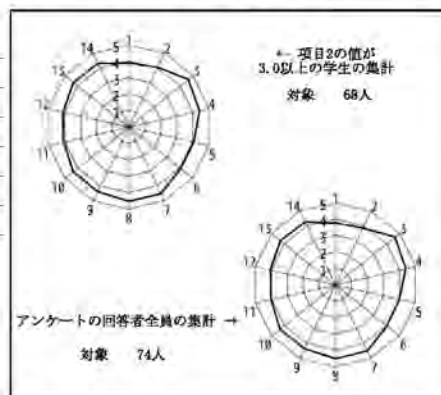
登録人数 192

回答数 74

回答率 38.5%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について

この授業の目標として、日本型企業システムの基本的特徴とその形成過程について理解することを掲げていた。講義では、戦前の日本企業の特徴から始まって、戦後から高度成長期における企業システムの形成、そしてバブル崩壊以降の変容の過程について扱うことができた。当初予定していたトピックについて解説をすることができたため、対象テーマの範囲としては初期の目標を達成できたと考えている。

②総合的な自己点検・評価

質問項目14（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）は4.24ポイントとなっており、概ね肯定的な評価をもらったものと理解している。特に、授業のペース、配布資料について適度との声があった。また、項目3、項目7、項目8が4.5を超えており、時間管理、声の通りやすさ、授業に臨む姿勢が重要であることがわかった。その反面、項目1と2は4ポイントを切っており、この点については改善の必要があることがアンケートから読み取れた。

③今後の抱負、方針

上記のことから、今後の課題として、授業参加を促すような事前情報（シラバス）の提供、授業の理解をより一層深めるような仕組み作りが必要に感じられた。前者については、授業で扱うテーマの有用性の強調、後者については、定期的な理解度テストの実施などを実施することにより、改善を心がけたいと考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数学B

授業コード 12E02-001

教員名 宮元 忠敏

教員コード 017293

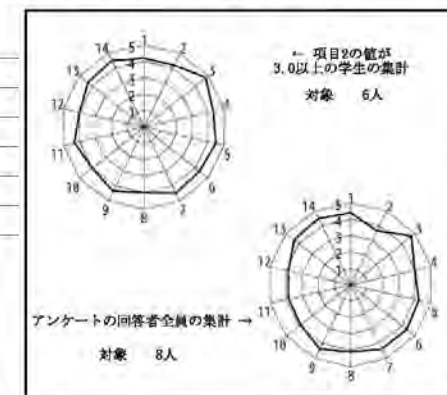
登録人数 39

回答数 8

回答率 20.5%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



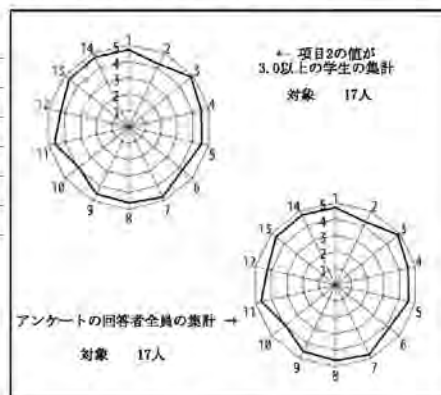
授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標と到達度：フェルマーの小定理を中心にすえ、2方向へ一般化をはかり、この分野の初等的な事柄を学ぶ。実際、法を持つ整数、合同式、オイラーの定理、オイラー関数、中国剰余定理、拡張ユークリッドアルゴリズム、カーマイケル数、コルセルトの定理、ディリクレの素数分布に関する定理の紹介と事例、素数判定電卓などをトピックとした。前半の回の方法論の説明に時間を割きすぎたためか、素数判定電卓のトピックについては、時間が足りなかった。総合的な自己点検・評価：話題の選択に工夫の余地がある。事例、文字による表現、手計算、電卓計算、アルゴリズムの紹介・計算機による結果と、多面的に当該のトピックを扱った。しかし、本質的なのは、やはり、意外なつながりや発見であり、この点、視野がまだ狭い。一方、数学的証明を補った回では、授業を2回から3回ほど使って完結した場合もあり、非日常的なものを垣間見ることができたのではない。

改善点、抱負、方針：有機的なつながりを持たせるべく、この分野およびその周辺をよく学ばなければならない。履修生には、自然なトピックの導入、展開、発展を体験していただけたらと考える。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済の諸相1
授業コード 13C06-001
教員名 川北 眞紀子
教員コード 102879
登録人数 97
回答数 17
回答率 17.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

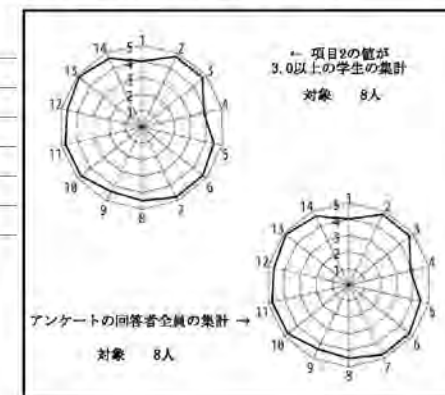


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①当初目標である芸術鑑賞に行きそれについて話ることができるようになることであった。今回、鑑賞レポートを2つ提出する必要があるため、学生たちは鑑賞機会を得た。実際に様々な展覧会や芸術祭、コンサートに足を運び、そのマネジメントについてのレポートや、芸術について語る言葉を披露してくれた。
- ②多くの項目が4.5以上という評価を得たのはよかったが、1つだけ「私語、携帯電話、遅刻などへの適切な対処」の項目が3.94を4を切っていた。また、「新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まった」の項目が4.65、全体満足が4.71である。よいのではないだろうか。自由記述では、対話型鑑賞への参加、ゲスト講師のお話について、よかったというコメントがあった。
- ③携帯電話でゲームをしている学生がいるのはわかっていたが、大教室であり、声をあげるわけではないため、特に注意はしていない。今後は遅刻などとともに少し注意をしていくべきかなと感じている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報機器の操作3
授業コード 14D02-003
教員名 長谷川 高則
教員コード 000162
登録人数 16
回答数 8
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

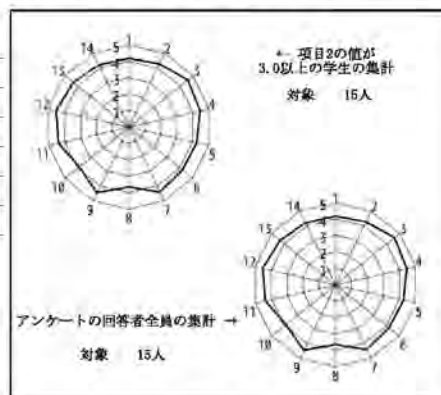


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標
この授業ではMS-Officeのソフトウェアを学習し、学びの場におけるICTを有効に活用できるスキルの習得を目標にしている。授業に取り組む姿勢は概ね良好であったが、演習課題の進行状況は少し遅れ気味であった。
2. 目標達成度
出席状況は大変良好であったが、講義に時間を掛け過ぎ演習時間に影響を及ぼしてしまい、開講当初に設定した授業計画は90%ぐらいいか達成することができなかった。レポートの内容は高評価のものが多く、演習課題も頑張った内容のものが多かった。
3. 授業評価
前回のアンケートと比較すると、全設問の平均値は4.44から4.56に僅かながら向上した。設問別の評価平均値を見ると、評価が高いのは設問13（新しい技術や能力を得た）4.88、設問6（授業の到達目標に向けて力がついた）等4.75であり、評価が低いのは、設問4（授業の構成や進行速度）3.88、設問1（履修する前の授業内容への興味）4.00であった。設問1の評価を改善するのは履修前の事なので難題ではあるが、設問4に関してはデジタル教材を作成し改善中である。
4. 今後の抱負
eラーニングを活用して授業の予習・復習のボリュームを調整しながら、次世代の学びのあり方・地域の創生に対応する内容も取り入れ、エドテックを使ってもっと興味がわき理解しやすい効率的な授業になるように、今後も検討を続けていきたいと思う。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 職業指導論
授業コード 40E09-001
教員名 高田 一樹
教員コード 102887
登録人数 64
回答数 15
回答率 23.4%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

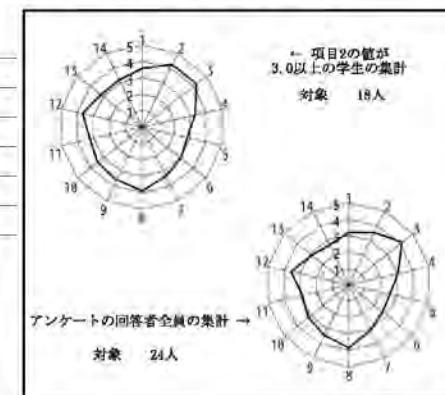


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① この科目は、高等学校教職課程（商業科）の必修科目であり、教員志望の受講を念頭に開講している。具体的には、キャリアに関する発達心理学の議論を紹介し、複数ある学説や見解の理解に努めて、キャリアに関する視野を広げるように促した。また高校3年を受講対象とする授業計画と教材開発に関する意見交換の機会を設けた。期末レポート課題として授業計画書の作成を指示した。当初の計画通り授業を実施できたと考える。
- ② 授業評価はおおむね良好であった。私語に関する注意（設問10）の評価3.87は、受講者の意識と態度を表すものと理解している。講義の中断や警告の発声は根本的な問題解決にならないため、受講者各位の自律心に期待したい。他方、講義担当者の発声（設問8）の評価3.67に反省すべき点がある。過年度に比べ受講者数が増加し、大人数教室が配置された。従来通り、マイクを使わず地声で講義したため、一部学生に不便をかけたことを今回、はじめて知った。
- ③ 次期以降も、所期の講義目標を達えるべく講義の準備に取り組みたい。引き続き、回答率の伸び悩みは課題である。13回目講義で予告し、14、15回目の冒頭10分を回答時間に充てている。回答時間に多くの学生がスマホを操作していたものの、実際には他の作業をしていたようだ。同規模の受講者数がある場合には、マイクを利用し、引き続きアンケートの回収率向上への工夫を検討したい。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 統計学II
授業コード 42B02-001
教員名 松井 宗也
教員コード 102275
登録人数 86
回答数 24
回答率 27.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

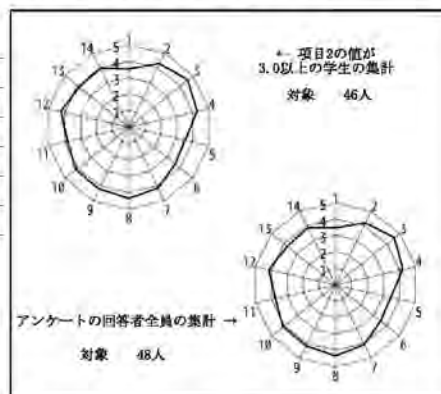


授業評価結果を踏まえた点検・評価

前年度と同様に「経営学を学ぶ上で将来必要となる統計的な考え方を身に付ける」ことを授業目標とした。授業内容は標準的な教科書に沿ったもので、数学的に高度な内容をやや噛み砕いた初等的なものである。他大学（南山大学と同程度かやや上の難易度）と比較しても遜色の無く、また生涯にわたり使える内容である。定期試験の結果から判断すると、学生は完全に授業内容を消化しているとはいえないが、授業目標の6割から7割程度は達成できたと感じている。未消化の内容は、経営学を学びつつその都度必要に応じて補ってあげれば良い。以下では授業評価集計を踏まえ反省点を述べる。設問3～14の平均値と設問1～14の平均値は3点前半であり、評価基準をクリアしQ1をやや上回った。Q1では伝わりにくかった経営学へ応用が見えるようになった影響かも知れない。今後は学生の反応を観察しつつ更に良い評価が得られるよう努めたい。他に平均値が低いのは設問5と6、と設問11と13、14である。いずれもQ1より改善はしているものの、本年度は2点台後半にとどまり3点台に到達することはできなかった。設問14に至っては基準をクリアすることができなかった。この点は反省したい。前者のグループの平均値が低い原因としては、シラバスの到達目標を実感し難いことが挙げられる。多くの学生は経営学を学び始めたばかりで、経営に統計がどう役立つのかを理解できていない。単に選択必修だからという理由で学んだ学生がほとんどある。今後は具体例を多用し、統計学が経営にどのように役立つかを示しながら授業を進めたい。そうすれば、到達目標へ向けた新しい知識の習得や理解が進んだと学生に実感してもらえると考える。設問11においても同様の原因と改善策が考えられる。この改善策を実施し、学生に「使える技術的な知識」を身に付けたという満足感を与えられれば、設問14の「満足度」は自ずと上がると考えられる。その他、本年度は授業が難しすぎるという批判が多かった。年々学生の数理的な能力が下がっていることも鑑み、レポートを簡単にするなど次年度は適切なレベルを考慮したい。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 統計学II2
授業コード 42B02-002
教員名 奥田 隆明
教員コード 102600
登録人数 156
回答数 48
回答率 30.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

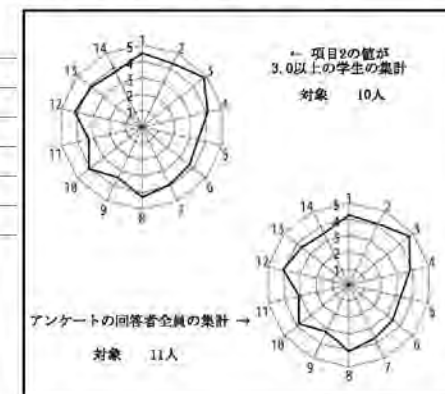


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1)データの収集方法、2)データの統計的分析方法(点推定、区間推定、仮説検定、回帰分析)を理解し、3)得られた結果を解釈する力をつけることを到達目標とした。2)統計的分析方法、3)結果の解釈については、知識を得るだけでなく、これを活用する力をつけるためにExcelを用いた演習問題を毎回実施した。他方で、データの収集方法については、統計学Iとの関係をさらに強化する必要があると考えている。受講生の評価については、授業の時間、授業の構成・速度、教員の声で平均値が高いレベルにあるが、到達目標の理解、到達目標に向けた力で平均値がやや低いレベルにある。到達目標を意識した授業内容にしていくことが次年度に向けた課題であると考えている。他方で、受講生の数学の習得レベルにもバラツキがあるため、高校数学の内容に立ち戻って授業内容を再構成する必要がある。また、今年度に引き続き、Excelを活用して統計学が具体的に理解できるように努力していきたいと考えている。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ファイナンスB
授業コード 42C08-001
教員名 赤壁 弘康
教員コード 100788
登録人数 45
回答数 11
回答率 24.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達については、ほぼ実現できた。ただし、ファイナンスA未履修の受講生が多数を占めていたため、ファイナンスAの授業内容(特にCAPM)の復習にも多くの時間を割いたため、本来講義の中心にすべきファイナンスBの内容を、ゆっくり詳しく説明するための時間を十分に確保できたかについてはやや疑問が残る。

②授業では單元ごとに、授業内容と社会で求められている専門知識を対応付ける練習問題(公認会計士試験や証券アナリスト試験の過去問を改題)を数多く解説した。これら資格試験は講義内容が理解できれば十分対応できるものであるが、(経済学部など他学部の履修生を含め)多くの受講生はこれら資格試験等に関心がなく、難しいという印象だったように感じられた。単純出欠ではなく、練習問題の解答過程を記述させるショートペーパーを多用(全10回以上)した。ショートペーパーの提出が少ない学生は、早い段階で単位修得をあきらめたように思われる。

③今年度は、解答期間は10日以上与えると同時にcheatingを避けるために、第13回講義時に、定期試験として実施することも可能な課題レポート問題を作成・印刷し、ひとり一人に配布した。cheatingを避ける有効な手立てがみつければ、もっと早い時期に課題レポート問題を公開した方が、講義の到達目標を明確にするにはよいかもしれない。次年度以降に検討したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マーケティング論B1

授業コード 42C10-001

教員名 南川 和充

教員コード 100478

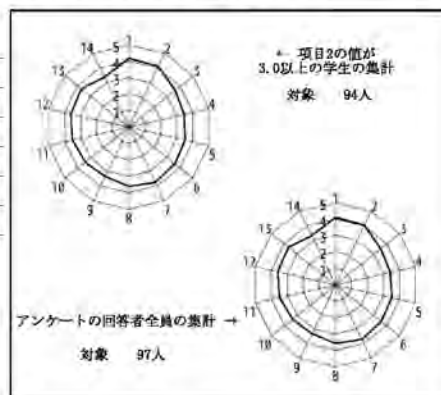
登録人数 221

回答数 97

回答率 43.9%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

毎回のごとく全項目が経営学科科目での平均点を下回っており、授業評価結果の低迷を反省している。回収率43.9%は前回と同程度であった。(1)マーケティングの基礎的な理論や考え方が修得できる、(2)事例とマーケティング理論の関連が理解できる、(3)経済現象を観察し、それを説明し理解するためのモデルを構築して、推論できるようになる、(4)ミクロ経済理論を応用するかたちで、ビジネスにおけるマーケティング現象を分析できる、を到達目標とした。この目標を達成するために今回も中間筆答試験および多くの演習を課した。(2)や(3)についての肯定的な評価が自由記述欄に数件あった(数式を使いながらマーケティングが学べる良い機会でした。身の回りにあるような事例を交えて説明があったので分かりやすかった。)。 (1)については期末試験直前に試験予想問題のかたちで要点を整理したプリントを配布して理解の定着を図った。これを真面目に勉強したか否かによって、実際に出題した期末試験(成績評価全体の30%)の出来不出来が受講生で分かれたようであった。課題の個数が多かった点について自由記述欄では「中間テスト、課題があったのでしっかり知識をつけられた」といった肯定的評価があった。その一方で、「課題が多いと、やる気がそがれてしまうので、少ない課題で十分なフィードバックをする方が良い」との意見があったので、次回以降は課題の数と内容を精選するように改善したい。また、これまでどおりの目標を達成するため課題やレポートや中間試験は実施するが、次回はそれらを評価には含めないこととし(これまで40%)、期末定期試験100%で評価することを検討している。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 財務会計論B

授業コード 42C12-001

教員名 安田 忍

教員コード 101561

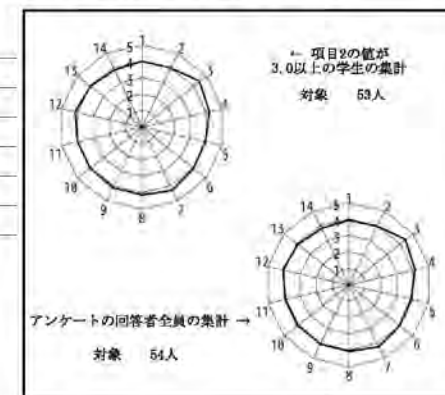
登録人数 117

回答数 54

回答率 46.2%

休講回数 1 回

補講回数 1 回

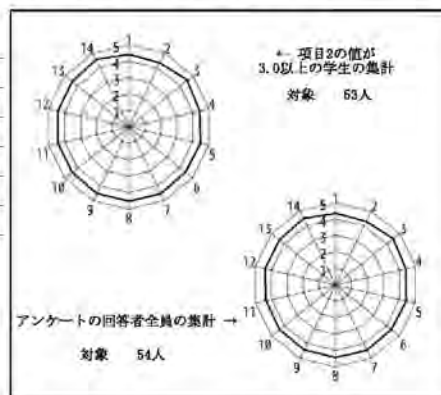


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の目標は、財務報告制度に関する知識の習得、会計基準の内容と考え方、会計処理との関係の理解、財務諸表の表示内容と財務情報の意味の理解である。本講義では特に貸借対象に関連して上記の目標達成を目指した。授業内容、範囲は昨年度とほぼ同様であるが、本年度は少し丁寧な説明となったため、時間の都合上、一部内容を変更した。目標到達の程度は例年並みであると思われる。しかし、今回の結果は、項目3から14の平均が4.04であり、設問6、10、14は4点台に至らなかったところを見ると、例年に比べると理解できたとする学生の実感が低いのかかもしれない。ただし、自由記述では、2名から「丁寧に説明」の記述があり、また、「プリントもあり分かりやすくて良かった」、「会計の知識がより深まった」という意見もあり、こちらの意図を受け止め、しっかり受講してくれた学生もいることがわかる。改善点の記述では、ホワイトボードマーカの字が見にくいというものが複数あった。大教室になるとホワイトボードマーカの消耗による文字のかすれ、予備品の不足による使い勝手の悪さは担当者自身も実際に感じるところであるが、工夫して対応してゆきたい。またマイクの音が小さいとの記述もあった。評価の数値では4.09であったが、もともと声が大きいので少しボリュームを絞っていたために、後方では聞き取りにくかったのかかもしれないので気を付けたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営組織論B
授業コード 42C14-001
教員名 安藤 史江
教員コード 019554
登録人数 270
回答数 54
回答率 20.0%
休講回数 1 回
補講回数 0 回



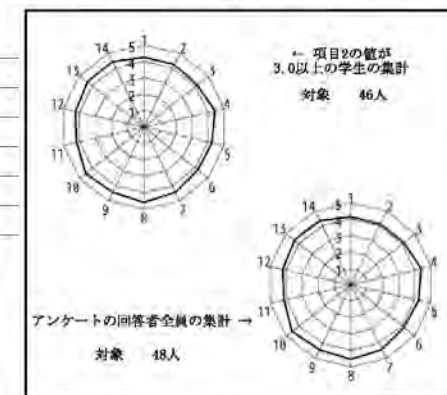
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、マクロ組織論の中の組織変革というテーマについての基礎知識を得て、社会・企業の動きをダイナミックに理解できるようにすることを目指している。試験結果および授業評価の結果を総合すると、その目的は一定程度、達成することができたのではないかと考えられる。総合的な満足度（設問14）は4.5に近い得点となっているうえ、授業を通じて力がついたと思うかを問う設問6で、4.37という得点になった。また、こうした評価となった理由として最も考えられるのは、自由記述にもあったが、アンケートの設問では11の「情報提供」が評価されたためでもあらうと思われる。今回は、特に教科書を指定しなかった分、参考文献を各回最低3～4冊は示すと同時に、その概要とどのようなときに使用するとよいかについての解説も授業中に行った。そのため、後で興味をもった学生は自学で知識を深めることができ、その結果として力がついたという実感につながったのではないかと考える。

次の学期では、テキストや内容を大幅に変更する予定であるが、今回評価された点に関しては踏襲して、学生の満足度を維持できるような授業を設計していきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営史B
授業コード 42C16-001
教員名 中島 裕喜
教員コード 103065
登録人数 89
回答数 48
回答率 53.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

質問項目「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がされていましたか。」について4.57と高い評価だったことは授業をある程度コントロールできていたものと思われる。履修者は毎回50名強であったが、かなり真面目な学生が多く、講義を進める上で助かったと思っている。また「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」についても、講義をしながら例年悩む項目であるが、4.40ということで、それなりに適正な速度で講義を進められたと思う。次年度も同様のスタイルで講義をしたい。自由記述について、「それは違うなみたいなことを結構言うので、発言がしづらかったです。」という指摘を受けた。学生の受け止め方は様々であると思うが、私としては明確な答えが存在する一問一答については間違っている時には「違う」と反応し、自由な意見を求めている場合はそのことを事前に伝えた上で、決して否定的な態度はとってないつもりである。この他、「事例と経営につながりがあることを実感できた」「なるほどと思えることがあった」など好意的な評価もあるので、大変うれしく思う。方向性としては大きくは間違っていないことを確認できたので、もう少し学生に対して個別、適切に対応できるようにしたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ブランド・マネジメント

授業コード 42C35-001

教員名 石垣 智徳

教員コード 101889

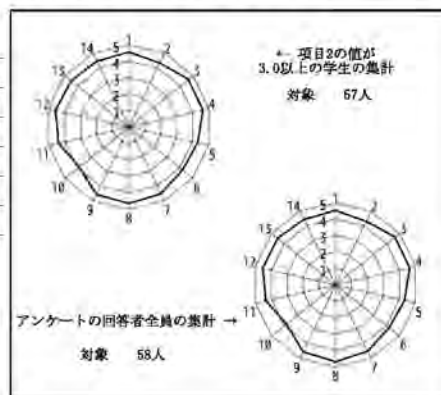
登録人数 220

回答数 58

回答率 26.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設定していた目標は1) ブランド戦略を構築するための理論的枠組みを理解することができる 2) ブランド・マネジメントの意思決定課題を発見し、戦略を立てることができるの2点である。理論的な枠組みについては、前回の内容を冒頭でまとめて触れる、リアクションペーパーで確認することを行い。ある程度は理解されていることを確認している。課題発見と戦略立案については期末レポートで確認することになるが現時点では最終的な結論までは至っていない。

アンケートの14項目中13項目が4点以上であることから、一定の評価をもらったと考えている。1点授業中の私語、携帯いじりに関する注意に対して4点を切るスコアであったため、以後、授業内容とは関係がないことをする学生についても授業に集中するように注意を心がけたい。

次期以降に向けての改善点としては、私語防止、授業に集中するように大人数の講義であるが学生を指名し、コメントや意見を求めるなどの工夫を考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報処理A

授業コード 42D02-001

教員名 姜 秉国

教員コード 019547

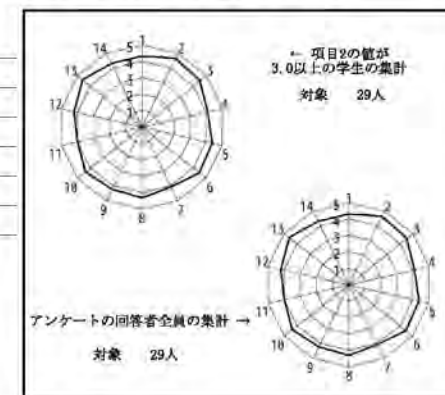
登録人数 33

回答数 29

回答率 87.9%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、「ビジネス情報の基本的な加工・分析ができるようにする」ことであった。学生の出席、またレポートと発表内容から、授業の目標は十分達成されたものと判断している。しかし、表計算ソフトの使い方に関する生徒の習熟度にばらつきが大きい問題は以前と変わらない。中にはほぼ初めて表計算ソフトに触れるような生徒もいる。そのため、できるだけ講義内容に対する学生の理解度に合わせて進めていくことに努めている。教員一人で習熟度の違う生徒の理解度の合わせた個別指導には限界があるが、後半に入るとついて来れるよう心掛けている。自由記述式設問（この授業の良かった点、評価できることは何ですか）の回答には、以下のようなコメントがあった。

ーとても勉強になって、選択して良かった。

ー実用的なスキルを磨くことができた。

ー教員用に設置されているPCからだとスクリーンに表示される画面が小さいため、持ち込みPCを使い画面をよく見えるように配慮してくれた点は評価できる

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数量ファイナンス
授業コード 42D07-001
教員名 池田 亮一
教員コード 101880
登録人数 12
回答数 4
回答率 33.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

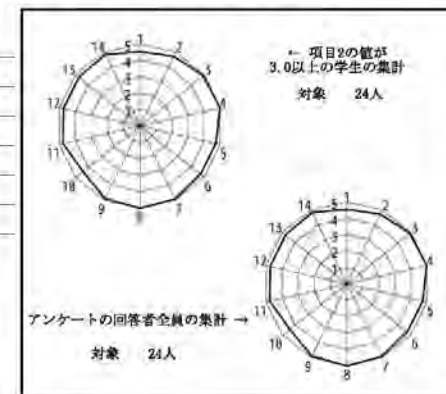
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

統計学の基礎ともいえる検定について、計算方法ではなくその大元の「哲学」をしっかりと理解してもらうことにこの講義は目標を置き、それについてはほぼ達成されたように思われる。ただし、回帰分析の検定に関しては、最終回だったために時間が足りなかったためか、テストの出来もいまいちであった。しばらくはこの数量ファイナンスの講義の担当を外れることになるが、いずれ担当する際には時間をうまく調整して臨むべきことを覚えておきたいと思う。今回喜ばしいことは、検定の大事な部分を理解してもらえたようだったことの他に、受講生が10倍以上に増えたことである。単純に昨年度はゼミ生が3年生のみであったこともあるかもしれないが、昨年度はゼミ生すら履修してもらえなかったもので、これは何らかの「利益」が得られる授業であるという噂が広まったと解釈すべきである(裏の授業も変更はなかった)。どのような利益かは定かではないが、結果的に受講生が多くなって授業に活気がでたことはよいが、「噂」が受講者数を増やしたとすれば、それは学生同士の情報網がかなりの強さであることを示唆していることになる。気を抜かないように今後も良い授業を行うように努力すべきことを改めて感じた。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営戦略論B
授業コード 42E14-001
教員名 上野 正樹
教員コード 101365
登録人数 30
回答数 24
回答率 80.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

経営戦略論Bは、製造企業に関するビジネスケースをもとに、ディスカッションによって授業を進めた。登録人数30人、月曜4限と木曜4限、毎回の授業準備に1時間前後の予習を要求した。アンケートの回答者は24人、回答率80.0%である。設問1～14の平均値は4.79、設問3～14の平均値は4.82であった。設問2「予習・復習、主体的な授業参加」の平均値は4.71、設問6「到達目標に向けて力がついてきている」は4.71、設問13「新しい知識の獲得、理解の深化」は4.75であった。以上をもとにすると、論理的思考力の獲得という目標について、8割以上の学生は到達している。自由回答は12人から寄せられ、次の記述があった。楽しい・面白い(6人)、発言・ディスカッションができて良い(5人)、グループワークが良かった(4人)、論理的思考の力がつく(2人)、自主的に学習する力を身につけた(1人)、企業の戦略を深く知ることができた(1人)、眠くならなくて良かった(1人)である。シラバスに論理的なディスカッションの意義を記述し、受講生を増やすようにする。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 TOEIC Preparation3
授業コード 42G14-003
教員名 HEATHER, James
教員コード 103649
登録人数 11
回答数 0
回答率 0.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

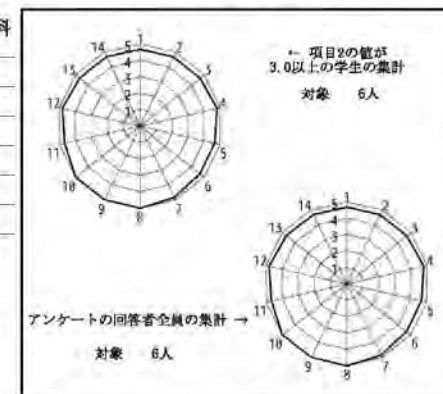
The goals set at the start of the course were achieved. As this was the third time in the calendar year that I have taught the course it is now running rather like clockwork. Having the textbook helps in planning the goals for the course as it gives us a foundation to work from and allows the students to know what is coming next and, if they so desire, to get ahead of the curve and prepare before the next class.

The students in this course are either looking to improve their TOEIC score or they are looking to get a credit. Many of the students are in their graduating year or in their job hunting year. Hence this is likely the reason the number of respondents was so few. There were not enough responses to provide a proper assessment.

The course is always being fine tuned. I am always looking at ways to make the course more interesting and fun because at the end of the day preparing for the TOEIC test is not so exciting. Having said this, I am happy with the course the way it is now but will continue to try and improve on it.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 International Management B<国際科
目群>
授業コード 42G18-901
教員名 KHONDAKER, Rahman M.
教員コード 100361
登録人数 7
回答数 6
回答率 85.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

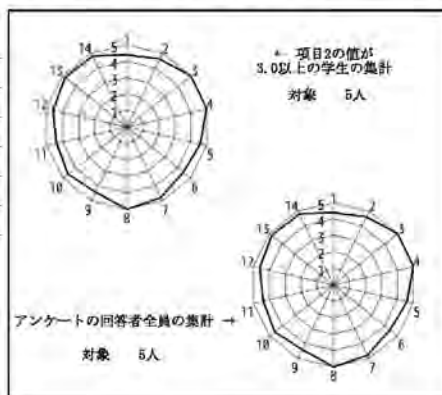


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objective of this course, among others, was to help students understand a range of complex factors that underlie different functional areas of International Management. As planned, I took fifteen classes without any make-up. I finished the syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. I would like to address the following aspects in the course evaluation materials. Regarding "participation in the class" (Q1 to Q2), compared with the scores of 4.17 and 4.16 for all courses in the band of 42001-001~42H04-999, the scores of this course were 4.67 and 4.67. Regarding "evaluation of the course in general" (Q3 to Q7), compared with scores of 4.36, 4.20, 4.01, 4.01, and 4.22 for all courses, the scores for this course were 4.67, 4.83, 4.67, 4.67, and 4.83. Regarding "evaluation of the class management" (Q8 to Q12), compared with scores of 4.33, 4.16, 4.07, 4.03, and 4.20 for all courses, the scores of this course were 5.00, 5.00, 5.00, 4.67, and 4.83. Regarding "overall evaluation" (Q13 to Q14), compared with scores 4.13 and 4.06 for all courses, the scores of this course were 4.67 and 4.67. All these scores are higher than the averages. It is seen that compared with the other courses in this band, the evaluation of this course is very high. As to "overall impression of the course" (Q15 to Q17), the students gave some very good comments, which I find profoundly encouraging. At this moment, I think that the course contents, study materials, and class delivering styles are very sound. Finally, I am looking forward to delivering more effective lessons in the coming year.

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語で学ぶ経営学(労務)
授業コード 42G20-001
教員名 澤井 実
教員コード 103270
登録人数 14
回答数 5
回答率 35.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

必ずしも英語論文に慣れていない学生が、1クオーターに100頁前後の英語論文を読み、その内容に関して興味を持つことを目標とした。内容は日本時計産業の産業史分析であり、著者がスイス人であるため、日本時計産業の躍進、クォーツ革命、1980年代以降の日本時計産業の後退の過程がスイス時計産業との対比の中で興味深く考察されている。

本クラスは少人数クラスであり、もともと英語論文を読みたいという英語に対するアレルギーの少ない学生が集まっている。しかし、その学力差はきわめて大きい。従ってどのレベルの学生に向けて解説していったらよいのが難しい。興味のある学生には関連文献を指示したり、学習意欲の喚起に努めたが、英語を十分に読みこなせない学生には物足りなかったかもしれない。

英語読解のためには1ページに数語程度の意味を辞書で引くくらいの単語力がないと興味を持続させることは難しい。1ページに10数語の辞書を引くようでは100頁の英語論文を読むことは困難である。従って単語力をいかにしてつけさせるのが大きな課題である。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語で学ぶ経営学(ビジネスとジェンダー)
授業コード 42G26-001
教員名 BIERI, Thomas
教員コード 102517
登録人数 25
回答数 2
回答率 8.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

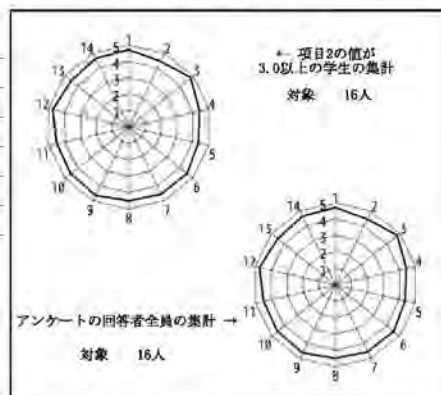
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- Students were expected to:
 - Gain a deeper understanding of gender issues in international business.
 - Be able to understand English lectures, presentations, and readings about these topics.
 - Be able to actively participate in discussions about these topics.
 - Have improved English fluency.

I believe that the first three goals (A, B, and C) were achieved to at least some extent by all students who completed the course. The level of understanding lectures and being active participants in discussions could be improved beyond what was achieved this year. I am not confident that many students achieved goal D.
- The students who answered the questionnaire marked almost all with 5. There was a 4 for two items only. From student comments in class, it seems they found the material difficult. However, sometimes this was because they did not make use of the outside study resources I provided.
- I plan to further refine my readings and lectures for next year to make them somewhat more understandable to students who enter with lower than ideal English proficiency, and to more strongly encourage use of the self-study resources.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 商業簿記中級II
授業コード 42H02-001
教員名 白木 俊彦
教員コード 101090
登録人数 26
回答数 16
回答率 61.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

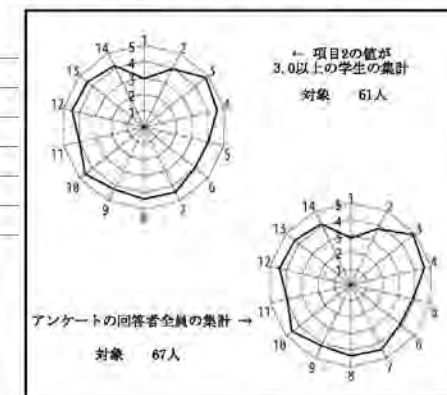
本講義の到達目標は、日本商工会議所主催の商業簿記検定試験2級程度の内容とした。具体的には、株式会社社会の基本、本店合併財務諸表などの作成を理解することとしている。商業簿記中級Iを基礎として、株式会社の会計処理、個別およびグループの財務諸表を理解できるよう、会計技術と理論に関する講義および演習形式で進めた。リース会計、外貨建会計、連結会計、税効果会計などの内容も含まれ学習すべき内容も多く複雑になっている。各論ごとに十分な演習時間を確保することが難しく、試験結果をみると到達目標を達成できなかった学生も若干見られた。

授業評価では、全体的に高い評価をいただいた。学生の理解を重視している点は伝わっており、質問、相談の機会が十分で、指導について高い評価であった。検定・資格試験に向けて挑戦しようとする学生が講義受講者の中から増えているようで、成果が期待される。実力が付いたと感じている学生も増えているようなのでよかったが、他方で、講義の途中で挫折してしまった学生もみられ、この点も対応を考えたい。説明はわかりやすかったという自由記述も見られたので、質問時間を配慮したい。ワークブックの演習も、レポートの課題としたことはよかった。

全般的に、授業評価はよい結果であったが、より多くの実践的な知識・技術の必要性を伝え、継続して取り組む学生を多くしたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[S]1
授業コード 10A01-015
教員名 ALVA, Reginald Joaquim
教員コード 102369
登録人数 77
回答数 67
回答率 87.0%
休講回数 3 回
補講回数 3 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回も過去の学生たちの意見等を大事にして宗教論の授業を構成しました。学生たちは授業の進行等を適切であったと書いています。また、授業の内容について多くの学生は次のように書いています。「要点をまとめてある資料であったため見やすかった。」「毎時間の授業で違う宗教を深くまで解説していてよく分かった。」「集中して講義を受けることができた。」「自分の知らないことを知ることができた。」「各宗教の特徴的なことをあげていて宗教の教えや考え方が違うと理解できたこと。」「全く知らない宗教もありましたが、すべて名前の意味やその宗教の成り立ちなど分かりやすく、非常に面白い授業でした。」「色々な宗教があることを知り、神を信じる宗教や信じない宗教も存在する事が分かったことです。」「宗教間の関わりがわかる点。」「丁寧に説明していた。」「時々映像を使ったりしていた部分があるので興味がわきやすかった。」「歌を紹介するときに実際に流していた。」「説明がわかりやすく、宗教に興味を持てるようになった。」「復習する時間があって良かった。」「授業中に喋る人が居なかった。」「これからも学生達の声大切にしながら授業の構成を改善していきたいと思っています。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 性と生命における人間の尊厳8

授業コード 10D06-008

教員名 森山 花鈴

教員コード 103223

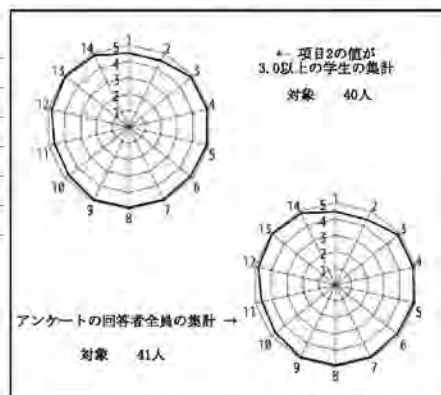
登録人数 188

回答数 41

回答率 21.8%

休講回数 2 回

補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標については到達していると考え。性と生命における人間の尊厳、特に女性の社会進出について、学生自身が深く学んでいることがリアクションペーパーやレポート課題から確認することができた。
- ②すべての設問において、大学全体の平均値、尊厳科目での平均値、科目登録者数別集計の平均値を超えることができた。自由記述欄では、「教え方が分かりやすかった」「黒板の字が大きく、後ろの方に座っていても見やすいと思いました」と板書や説明の丁寧さについて評価があった。また、これまでの授業でも多くあがっていたが、映像教材を併用した点に対する評価もあがっていた。さらに、受講人数は多かったものの、ウェブクラスを通じ、できる限り毎回学生からの質問には答えていたので、「ウェブクラスで質問できるスペースがあったので授業外でも質問しやすい環境だった」との評価があった。
- ③学生からのリアクションペーパーを通じて質問に答える形式については毎回評価が高いため、次クォーター以降も形式を検討しながら引き続き実施していきたい。また、授業評価に対する回答数が少なかったため、回答についてももう少しアナウンスしていきたい。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本国憲法4

授業コード 12C03-004

教員名 沢登 文治

教員コード 017863

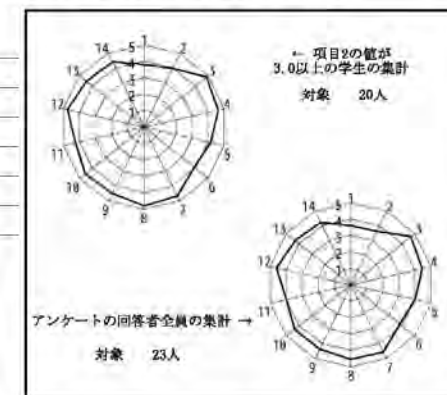
登録人数 61

回答数 23

回答率 37.7%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

履修生の多くは1年生であったため、授業中に予習・復習が大切で、レジュメに示している毎回の課題に取り組むよう何回か話したが、(2)「予習や復習、主体的に授業に参加」は3.61と低いことに少々驚いた。予習・復習の度合いによって授業の進み具合も理解度もまったく変わるので、一層働きかけをしたい。(5)「授業の到達目標を理解すること」(6)「到達目標に向けて力がついてきている」が4.04、3.83と低いので、到達目標を何回か確認しながら授業を進めなければならないと感じた。また(11)「学習意欲を引き出し積極的な授業参加を促す工夫」は、4.00であるから、さらに工夫したい。レジュメは、WebClassを用いて、最近の新聞記事や省庁のWebsiteを紹介し、そこからすぐに飛べるように工夫しているのだが、それほど関心を持ってチェックしてくれなかったのかもしれない。さらに効果的な利用方法を検討したい。(12)「質問や相談の機会」については、毎回時間を取っていたため4.61で、最も高い数値の部類であったから、継続してコミュニケーションを取りたい。(14)「全体の満足」は4.22であり、まだまだ改善の余地がある。向上に向けて取り組みたい。自由記述欄では、Webclassによって可能となるが、映像・視覚資料を利用した点が、「理解を深めた」「どのような問題があるのか理解する助けとなった」など、現代学生らしいコメントが複数あったので、継続していきたい。また、「教授の考え方と自分の考え方がマッチしなかった」とのコメントが1つあった。社会科学分野ではあってしかるべきことで、直接ディスカッションする機会があると本当は良かっただろう。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人権をめぐって6

授業コード 13C05-006

教員名 三上 佳佑

教員コード 103637

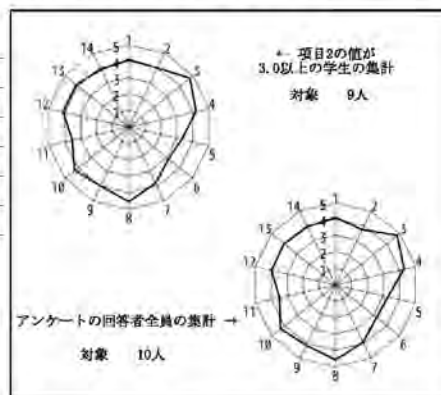
登録人数 28

回答数 10

回答率 35.7%

休講回数 2 回

補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①複数回休講してしまった点については遺憾ではあるが、全て補講を行い、シラバス所定のカリキュラムは全て消化することができた。また、試験の結果を見る限り、7割方の学生において授業内容の根幹に関わる部分の理解は成立しており、開講当初に設定した目標の到達程度は概ね満足できるものである。
- ②学生による授業評価の数値データおよび自由記述欄の記述状況を見る限り、学生の授業満足度を十分と評価することはできない。僅かではあるが、平均値が4を割っており、教授内容または教授方法のいずれかに問題があるものと考えなければならない。
- ③学生の授業満足度を高めるための方策として、教授方法のこれ以上の改善は困難である。リアクションペーパーの内容、および試験の記述内容を見る限り、学生の理解度向上を助長こそすれ、低減させるものと全くなっていないからである。説明時の速度、一文の長さは適切であり、事例の援用法も適切であると自己評価する。回りくどい説明は可能な限り省いており、極めて直截な説明がなされていることは学生からも評価されている。してみれば、教授内容のレベルを落とすことが検討されなければならない。自由記述欄の記入の極度の低調さ、初回授業での履修登録変更によって履修者の3割以上が登録取り消しをした事実を見ても、学生の自主性や学びの意欲は低下しており、南山大学として当然ある「べき」レベルに固執しているだけでは教育の効果を挙げ得ないという事実を直視して教育する必要がある。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 憲法A

授業コード 44A05-001

教員名 菅原 真

教員コード 102064

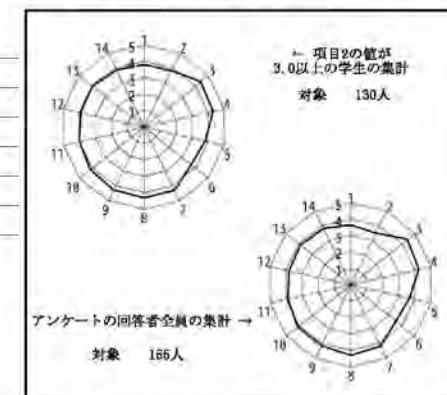
登録人数 254

回答数 155

回答率 61.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

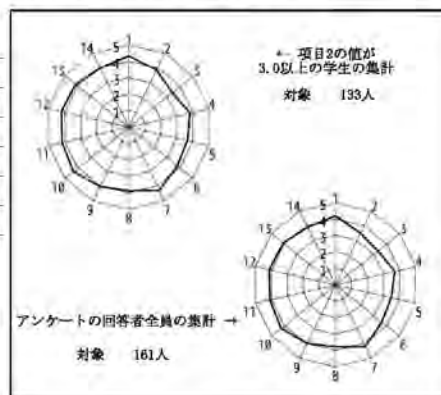


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標については、ほぼシラバスに沿った授業展開ができ、概ね達成できたと考えられる。但し、250名余の受講者のうちアンケート回収は155名で、Q 3の学園祭シーズンと重なったとはいえ、授業参加とアンケートの重要性を今後も繰り返し学生に説得していく必要がある。
- ②項目3～14の平均は4.00、項目1～14の平均は3.94となり、Q 1の「日本国憲法」と比してもかなり低い結果となった。特に、問題は設問2「予習や復習をし主体的に授業に参加」について3.47という看過できない数字になったことである。本授業は法学部1年生の事実上の必修科目であり、学生としての学習態度を身につけさせることが求められおり、法学部の授業の受け方は初回授業でじっくり話をしていたのであるが、この結果を受け、Q 4「憲法B」では再度、予習・復習では具体的に行なうべきことについて詳しく説明した。なお、本年度のカリキュラム改編に伴い、憲法科目の時数が全体として増加したことを受け、進度を昨年度よりもゆっくり進めることができ、学生の理解に資するために厳選した視聴覚教材なども部分的に使用した。自由記述欄では、授業進度や視聴覚教材の使用、毎回の詳細なレジュメや、授業中に学生にマイクを向けて意見を出してもらったりすることについて、高評価の書き込みが多かった。
- ③特に授業評価で4未満だった点について、改善を行なっていく。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 刑法総論A
授業コード 44A10-001
教員名 水留 正流
教員コード 101566
登録人数 249
回答数 161
回答率 64.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. クォーター制導入以降、本来はひとつの単元である「刑法総論」をどのように二分割するかという課題には、講師の中でもなお決着がついていない。今年度は、「刑法総論A」の段階で、定期試験において解答者が犯罪の成否を十分に論じられるよう、未遂犯の基本問題や罪数を「刑法総論A」に取り込み、他方で過失や不作為の問題を「刑法総論B」に後回しにして、違法性阻却事由までを扱ったが、やはり体系的には不整合であったことが否めない。次年度への課題としたい。

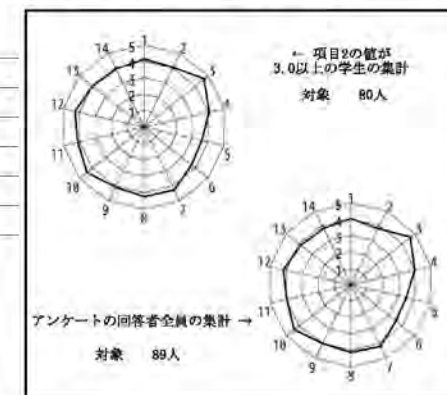
2. 昨年度も同一科目の授業評価を実施したが、全体平均値3.88と、大きく数値を下げてしまった。とりわけ設問3（授業の開始・終了時間）と設問4（毎回の授業構成・進捗）については、法学部平均値及び241名以上授業の平均値を0.5ポイント以上下回る結果となった。

ひとつ思い当たる事情として、今クォーターの授業は2コマ連続で行われ、コマとコマの間の休み時間の設定をかなり恣意的に行っていたという事情がある。そのような授業運用には耐えがたいという学生が一定数いたということであるのかもしれない。今後、留意したい。

3. 今回の回答率は71%であり、昨年度（52%）から飛躍的に上昇し、私の経験上で過去最高値を記録した。回答してくれた学生は、少なくともこの授業に興味を持ってくれている学生だと思われる。その意味で、回答率は私が授業評価で最も重視しているところである。この点については、大きく満足している。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 行政法総論A
授業コード 44B04-001
教員名 榊原 秀訓
教員コード 100548
登録人数 334
回答数 89
回答率 26.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



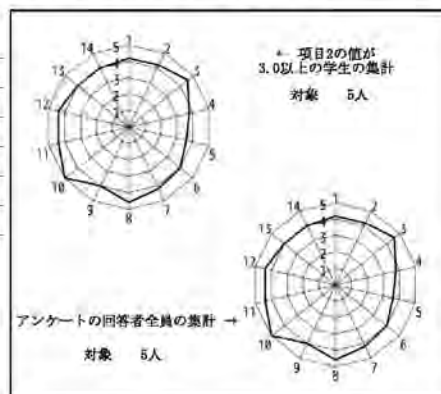
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価報告書—行政法総論A

今回は、2017年度から1年明けてこの科目を担当した。2017年度からの相違は以下の点である。まず、法学部だけではなく、総合政策学部との乗り入れ科目となった。それに関連し、2017年度は、AとBの内容を体系の前半、後半という「範囲」で分けたが、今回は基礎、応答と「重要度」によって分けた。Aでは基礎的部分を網羅するということから判例のボリュームも大きかった。もう一つの相違は、2017年度はレジュメを印刷して配布したが、今回は前半部分は印刷して配布したが、履修登録の変更などもあり、実際には印刷物が不足するなどの状況があり、印刷分や印刷して配布後の回のレジュメはすべてWebClassを通して提供した。結果の相違は以下のようなものである。前回数値が低かったものをみると、「到達目標を理解することができましたか。」3.54が3.49、「到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」3.61が3.55、「適切な指導や情報提供はありましたか。」3.67が3.97、「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか」3.67が4.19となっており、後者の二つは若干数値が上がったが、前者二つには大きな変化はない。他方、全体の満足度は3.78とやや低いものにとどまっている。レジュメ印刷については、「授業環境等」の箇所に意見を述べたが、基本的には、基礎、応用に分けて授業を行い、基礎の理解を深めるように工夫していきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際法総論B
授業コード 44B14-001
教員名 洪 恵子
教員コード 103537
登録人数 53
回答数 5
回答率 9.4%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

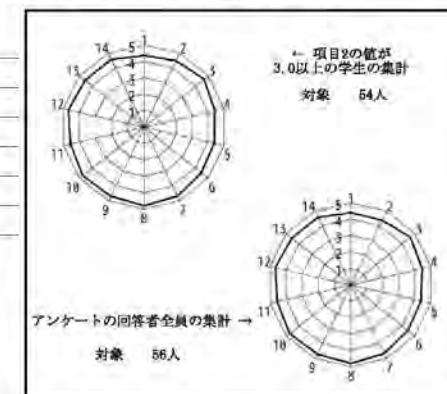


授業評価結果を踏まえた点検・評価

自由記述欄に誹謗中傷を書かないように受講生に伝えたため、今回はそのような記述がないことが良かった。
回答数が5名ということを利用して、ほぼ授業の目標等は達成できたと思う。
なお、現在の授業評価アンケートの方法には深刻な問題があり、アンケートを取ることに目的も含め、改善に関する議論が必要だと思われる。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 契約法B<2018年度以前入学者>
授業コード 44B18-002
教員名 平林 美紀
教員コード 100773
登録人数 358
回答数 56
回答率 15.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



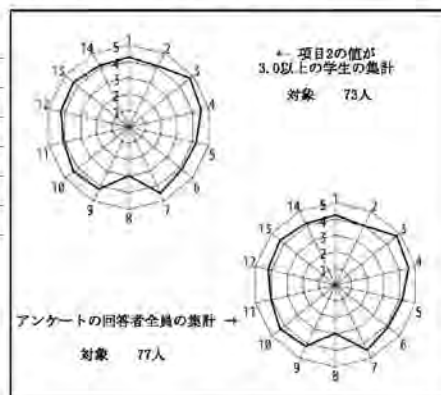
授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度と同じ科目につき評価を受けたが、教員に対する評価（項目3から14）が上がった（4.22→4.61）。また、受講生をほぼ同じくするQ2「契約法A」の数値（4.03）と比べても相当に上昇した。しかし、この数字を単純に喜ぶわけにはいかない。なぜなら、Q2の回答者数が186人であったのに対し、今期は56人にとどまるからである。アンケートに積極的に取り込んでくれた受講生からは、比較的评价されたという意味であろう。実際、今期は授業の進行の遅れから、授業時間中に十分なアンケート回答時間を確保できなかった。アンケートに答えないことをもって授業に対するネガティブな評価を示そうと考えた受講生もいるだろうことは肝に銘じたい。

また、仮にQ2よりも良い評価をしてくれた回答者がいるとしても、回答者自身の変化によるところが大きいのではないと思う。Q2「契約法A」の講義を通じて民法学習の方法やや私の授業スタイルに慣れ、また、Q2の定期試験をクリアしたことで自信がつき、安心して受講できたことが、結果として好評価につながったのではなかろうか。実際、受講生が六法を引く様子やノートを取る様子などから、授業に慣れてきたと感じていたことも、このように考える理由である。先にQ2や前年度の数値を比べることには意味がないと述べたが、質問項目6（到達目標に向けて力がついてきていると思うか）の数値が、Q2「契約法A」では3.45、前年度「契約法B」（Q2に開講）では4.09でしかなかったのに、今季は4.46であったことは、無視できないように思う。
以上、回答数が少ないことから数値に基づく分析がしにくかったので、今後は余裕のある回答時間を確保できるよう、授業の構成と進行スピードに注意したい。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 家族法A
授業コード 44B20-001
教員名 伊藤 司
教員コード 100474
登録人数 316
回答数 77
回答率 24.4%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

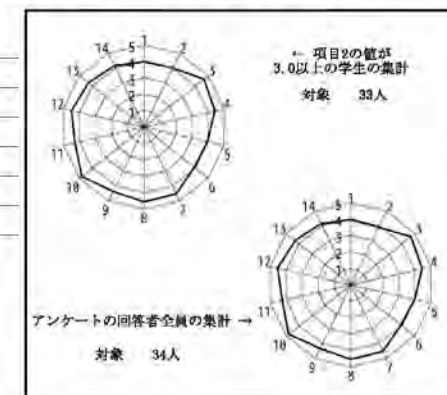
この講義は民法の「親族」を概説するもので、この分野の法的な問題を自力で解決できる用法の知識といかに解決するかの実例を数多く学ぶことを目標にしている。この目標は一応達成できているように思われる。

また、講義それ自体も全体として、それなりの評価が得られているように思われる。ただし、今回についても以前と同様にアンケートに協力してくれた学生数が少ない。試験を受けた人数からすると4分の1ぐらいしか回答されていない。講義をしている限りにおいてはそれほど人数の減少を感じなかったのであるが、アンケートの回収率をみるとそれほどでもない状況である。おそらくこれは講義には出席していたが、アンケートには協力しなかった学生が少なからずいることを反映しているように思われる。これは以前も指摘した点が、もしも授業評価アンケートに協力をする気のない学生が多いということであれば、アンケートのあり方自体を再検討する時期にきているように思われる。講義時間をこれだけ費消して行うべきアンケートであるのかどうか、あるいは毎回全教員を対象にすべきかどうかなど、検討すべき点は多いように思われる。

自由記述においては否定的な評価がみられなかった。このこと自体は喜ばしい結果であるが、数値からいって授業の話し方等においてはいい評価が得られていないのは明白であり、以前同様今後もこの点を改善するように努めなければならない。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際私法A
授業コード 44B29-001
教員名 青木 清
教員コード 017855
登録人数 189
回答数 34
回答率 18.0%
休講回数 0 回
補講回数 1 回

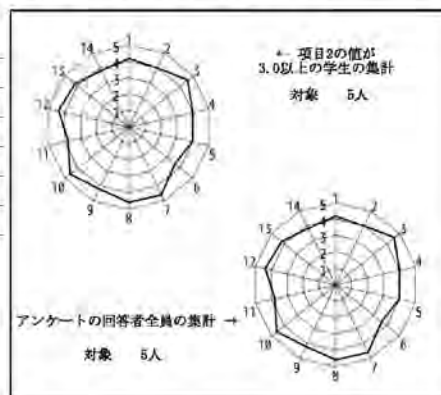


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目3～項目14の平均値を2015年秋学期から並べると、4.18、4.47、4.33、4.22、4.39、4.40、4.44となる。そして、今回が、4.38である。ほぼ平年並みの値である。これらの質問項目の中では、項目5および6の回答値が比較的低い（4.00前後）。今回も、その点は変わらない。項目5および6は、到達目標に関する質問である。本授業では、涉外事件を解決するための基本構造を理解することを到達目標に設定している。回答結果は、受講生にとってはそれがなかなか容易ではないことを示している。確かに、法律学の中では、国際私法の法体系は独特なものがある。これに慣れるには、毎回、授業に出て講義を聴くことにつける。これに選る方法はない。受講生には、今後も、この点をさらに訴えかけていきたい。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法哲学B
授業コード 44B32-001
教員名 服部 寛
教員コード 103600
登録人数 50
回答数 5
回答率 10.0%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



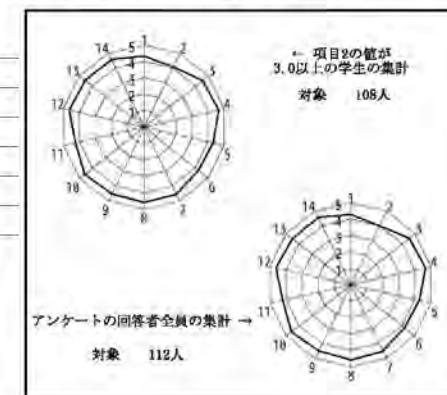
授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講者数およびアンケートの回答者数が少ないことを勘案する必要があるが、（なおも）抽象度の高い（高くならざるを得ない）講義内容に照らして見て、思ったよりも評価が高いことに、講義に傾注した熱量の大きさもあり、率直に嬉しく思うが、これに慢心せず、以下、各点について改善をはかりたいと考えている。

①開講当初に設定していた目標・到達の程度については、分野の特質上、背景的情報（歴史的背景、扱う人物についての説明など）を与えなければならず、そのために、予定していた計画から遅れざるを得なくなっている。このことから、到達目標について、（若干の）不足を自認せざるを得ない。この点は、講義内容の簡素化・希薄化といわばトレードオフの関係にあるため、慎重に、次年度以降の授業計画に照らして考えたい。②数値データ・自由記述等を鑑みるに、こちらから注ぐ講義へのエネルギーと、学生の態度との間に、温度差があることは否めず、とりわけ私のほうが空回りしていることも、折に触れて実感していた。履修者のレベル（とりわけ受講する学生の年次）とニーズについては尚も慎重に見定めているところであるが、それに適うように、講義内容につきアジャストしたい。③上述したとおり、開講当初の授業計画と、実際の授業内容との間の差を、自らが理想とする講義の理想像に照らしながら、なんとか埋めることができるように努めていきたいと考えている。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 刑法各論B
授業コード 44B91-001
教員名 末道 康之
教員コード 100587
登録人数 368
回答数 112
回答率 30.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

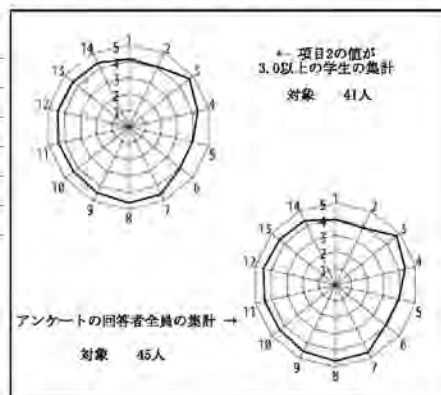


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講時に設定した目標については全て達成している。項目1～14の平均値4.44、項目3～14の平均値4.49、全体の授業満足度は4.55の評価であり、全ての項目について高い評価を得たといつてよいであろう。開講時に学生には詳細な刑法各論B講義案を配付し、講義案に従って授業を進めており、自由記述においても講義案の配付によって授業の理解度が高まったという評価を得ている。教科書は指定しているが、限られた講義の時間で学生が教科書を熟読して授業に臨むことも難しいので、講義案には概念の説明の他、適宜事例問題なども加えて、講義で説明する内容について具体的な事例を用いて説明しており、刑法各論の論点の理解に役立っていると考えている。講義案については、新たな判例・学説・刑事立法の状況を踏まえて、毎年改定を加えている。学生は講義案の内容を予め予習することができるし、授業で説明した内容について復習することもできるので、学生にとっては講義内容を理解する重要な資料であると考えている。来年度に向けて、学生が刑法各論の理解を深めるために、授業内容の更なる改善に心がけたい。なお、学生からはクォーター制の廃止を求める意見も出ており、セメスター制に戻すことを大学としてもご検討いただきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民事訴訟法C
授業コード 44C13-001
教員名 渡邊 泰子
教員コード 101553
登録人数 158
回答数 45
回答率 28.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



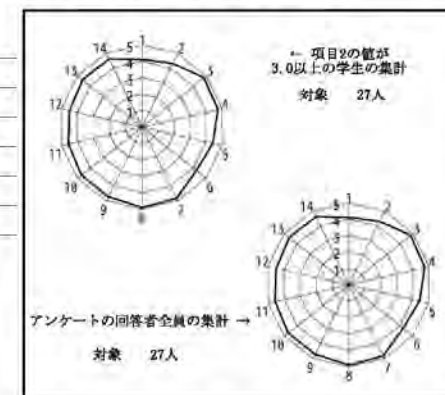
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この「民事訴訟法C」は、第一審の民事訴訟手続の基本的な構造をすでに理解した学生に向けておこなう授業であり、複数請求訴訟、多数当事者訴訟についての体系的な知識を積み上げるとともに、上訴・再審制度などの手続の概要を学ぶことで、手続全体に通じる民事訴訟法の理念を最終的に理解することを目標としていた。今回の授業評価において、到達目標に関する設問5は3.96、設問6は3.93であることから、到達目標の設定が高すぎたのか、あるいは、より具体的な目標設定が必要であるかもしれないと考えている。授業評価項目全体の平均値は4.33（設問3～14は4.40）、授業満足度に関する設問14が4.33であることから、受講生にはこの授業内容について、概ね受け入れられているようである。

授業の手法としては、民事訴訟法の比較的薄い教科書を事前に通読して授業を受けること、授業では教科書よりも詳しい内容を文章と図で示しながら要点を掴むこと、その要点を踏まえてレジュメ末尾に掲載した練習問題を自分で解くことで、授業内容を理解できているかどうか自分で判断できるようにすること、という順で受講生が取り組めるように工夫した。自由記述でレジュメや練習問題、説明の仕方などに好意的な評価がある一方、授業のスピードについて早いという指摘もされている。なかなか全員に対応する形で授業を行うことは難しいが、今後も受講生の反応を見ながら、適宜意見を取り入れてより多くの学生に民事訴訟法の面白さを知ってもらえる授業をしていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済法A
授業コード 44C19-001
教員名 齊藤 高広
教員コード 103599
登録人数 71
回答数 27
回答率 38.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、市場経済における基本ルールである独占禁止法のうち、主として共同行為の規制と独占・集中規制を扱った。学生の目標として、経済活動に対する法的規律を理解すること、市場における競争秩序の意義と規整方法を法的に説明することができること、競争政策の歴史と競争制限行為の規制手法を理解することを挙げていた。予定していた項目について、おおむね予定どおり、講義を行うことができた。また、当初の予定どおり、可能な範囲で、双方向型の講義を行うことができた。当然のことながら、学生の理解や反応によって、多少、講義内容の説明が前後することもあり、予定どおりに進まないこともあった。毎回必ず授業に出席している学生ばかりとは限らず、あるいは、レジュメやパワーポイントを確認する上で混乱が生じることも懸念していた。このような混乱について、自由記載欄で指摘をする者も1名いたが、逆に言えば、他の多くの学生については、かような混乱が生じなかった、ということであろう。このような授業方式に好意的に回答するアンケートも複数見られることから、引き続き、同様の授業を展開できるよう、工夫していきたい。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 応用会社法
授業コード 44C30-001
教員名 佐藤 勤
教員コード 101599
登録人数 11
回答数 2
回答率 18.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度からレジュメをWebClassにアップロードするとともに、教科書を指定し、またレジュメにも教科書の参照すべき頁を記載した。授業は、予定通りの進捗であったが、定期試験の結果は、予想を下回るものであった。

履修登録者は少数であり、そのうち8割程度が出席をしていたと思われる。ただし、定期試験の答案を見る限り、復習を行っていると思われる学生は、少ないように思われる。定期試験の問題は2問で、そのうち1問は、会社法の規制の目的を問うもので、レジュメを理解すれば、解答できるものであった。当該設問の解答状況は良好であった。残りの1問は、授業内容を理解し、それを実践できるか否かを問うものであった。難易度は平易であったが、授業内容を基礎に、自ら考え解答を導き出すもので、平易ではあるが応用力を問うものであった。この設問の解答状況は予想以上に悪かった。

以上の定期試験の成績を鑑みると、授業内容の理解が浅く、それを実践するまでに至っていないように、思われる。講義形式の授業で、限界はあるが、より理解を深める講義となるよう、工夫が必要であると思われる。来年度以降の授業までにどのような対応ができるか検討し、実践したい。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策外国文献講義II(英語)1
授業コード 70171-001
教員名 野口 博史
教員コード 100473
登録人数 16
回答数 3
回答率 18.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目的はグループによる英語文献の講読および議論、またレポート・論文における英語文献の引用である。本講義受講者16人のうち、14人が報告をおこない、レポートを提出し、この10人が良好な成績を修めた。このことから、本講義の目標はおおむね達成されたと考えられる。

本講義受講者の多くが卒業論文提出をひかえた4年次生以上であったため、レポートの主題は極力卒業論文の一部とするようながしたため、その完成度は高いものが多かった。

受講者のうち、授業評価に入力したものが3人であったため、数値データの集計はなされてないが、全体として本年第1クォーターにおこなった『文献購読英語I』と類似した結果になっていると考えられる。

自由記述欄において、改善すべき点の指摘はなく、今回の授業評価から今後の改善点・方針などを見出すことはやや困難である。だが、受講生の英語理解度にかかなりの相違が生じていることから、可能なかぎり各受講生の理解度に合わせた講義をおこなってゆきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会システムと環境2

授業コード 13D06-002

教員名 鶴見 哲也

教員コード 102265

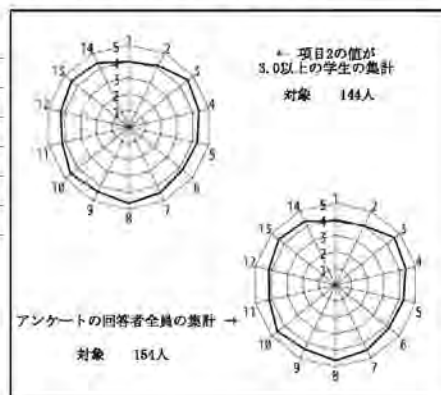
登録人数 302

回答数 154

回答率 51.0%

休講回数 2 回

補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問3から14の同人数帯の科目平均が4.27であるのに対して今回の講義では4.37を得たため、平均以上の評価を得ることができ、おおむね良い評価が得られたと考えている。特に、事例を多く説明することで世の中の問題を具体的に理解させていきたいという目標について、学生からの肯定的な意見が多く、今後も最新の事例を追加しながら分かりやすい説明にしていける努力を続けたいと考えている。映像が古いというコメントがあったが、社会の状況をより分かりやすく説明した映像がこれ以外に存在しないということや、今でも通用する概念について説明するための映像であり、指摘は当たらないと考えている。講義でもその旨何度も説明したはずなのでその説明を把握していない学生と考えられる。大変出席率が高く、また今回のアンケートも回答率も非常に高いことは、学生が熱心に講義を聞いていた証拠であると考えられる。なお、一部の学生の評価が低くなっている点については、厳しく受講態度を指摘した学生が今回多くいたことも影響していると考えられる。受講態度の指摘については全体の授業効果が最大となるようなバランスをとったつもりであり、今後も真剣な学生が不利益を得ないような授業環境を守っていきたいと考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文明論概論1

授業コード 46A01-001

教員名 山田 望

教員コード 000211

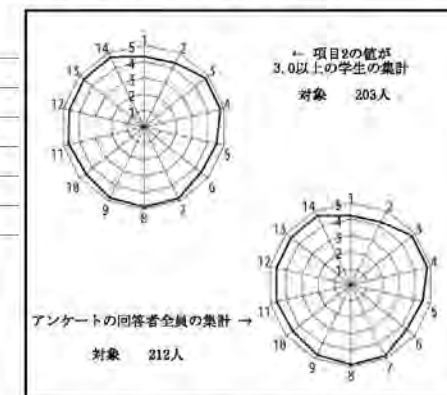
登録人数 267

回答数 212

回答率 79.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

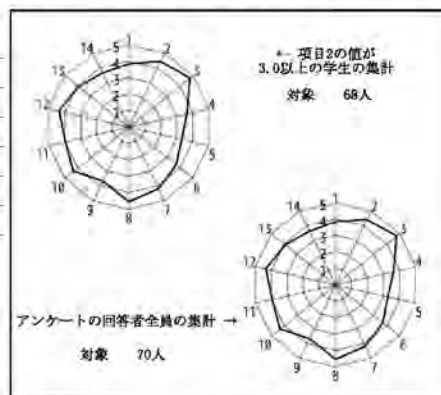


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初設定していた目標と到達の程度については、設問5の「授業の到達目標を理解できたか」、という問いに対して、開講主体（学科科目）別集計平均値を30ポイント上回っており、設問6授業の「到達目標に向かって力がついてきていると思うか」、という問いに対して、平均値を22ポイント上回り、さらに、設問13「この授業を通して新しい知識を得たり、理解が深まったと感じているか」、という問いについて、平均値を20ポイント、最後の設問14、「全体としてこの授業に満足したか」、という問いについて、平均値を34ポイントも上回っていたことから、ほぼ、目標には到達できたとみることができる。平均値を上回る率が最も小さかったのは、設問10の、「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対して、適切な対処がなされていたか」、という問いに対して、1ポイント上回っているのみであった。1年生の必修科目であるという性格上、約300人が受講するため、私語や携帯スマホに対する注意がなかなか行き届かなかったところはあったと認めざるを得ない。このような大人数の授業でも、私語やスマホに関する注意喚起をより頻度を上げ、かつ厳しく指導する必要があると反省している。自由記述欄での、映像やパワーポイントを使用した授業の進め方に対する高い評価が得られたことは喜ばしい一方、WEBクラスでアップした資料を印刷する際に、プリンタの環境が整っていない、学内のプリンタが塞がっていて利用できなかったなどの不満が寄せられたことは、改善課題であると思われる。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ミクロ経済学
授業コード 46D03-001
教員名 佐藤 創
教員コード 103882
登録人数 176
回答数 70
回答率 39.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

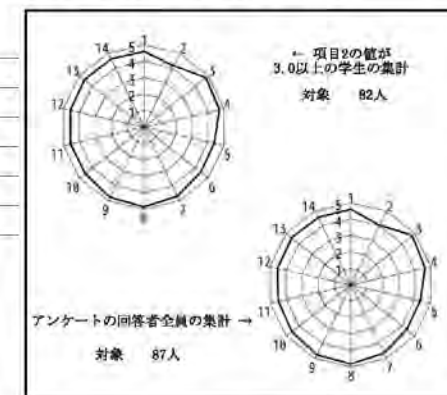


授業評価結果を踏まえた点検・評価

登録者数は175名あまり、アンケート回答者数は70であった。やや回答数が少ない印象があるが、これは授業をすべて終えた後に聞くべき質問項目が多いと考え、カバーすべき授業内容をすべて講義し終えた後で、アンケートのアナウンスをしたためかと考えられる。開講当初に設定していた目標と到達については、アンケートの結果をみると、項目3から14の平均は4.00であり、121~240名登録数授業の平均よりも、0.2ポイントほど低いものの、テストの結果をみても、おおむね達成できたと思われる。ミクロ経済学という分野の性質上、手でグラフの素描や計算を繰り返さないと身につかないため、今回は板書を中心に進めたが、その分、授業スピードが落ちるという問題があり、公務員試験などの範囲を基本的にはカバーする計画とのバランスが難しかった。マスプロ授業では、「当該授業の理解度」と「自発的な学びの促進」のバランスの取れた方法の解はなかなか見つからず、まだ模索せねばならないと考えている。今後のマスプロ授業では、また別なアプローチを試みる予定である。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 産業心理学
授業コード 46D04-001
教員名 久村 恵子
教員コード 100026
登録人数 214
回答数 87
回答率 40.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、産業社会における心理学の応用を、生産者（労働者）および消費者として社会に関わる人間の行動や態度、心理を通じて理解することを目的としている。具体的には、現在社会における若年者の就労問題や悪徳商法の異などを題材にしつつ、キャリア発達における心理学、マーケティングにおける心理学という2つの側面から展開してきた。

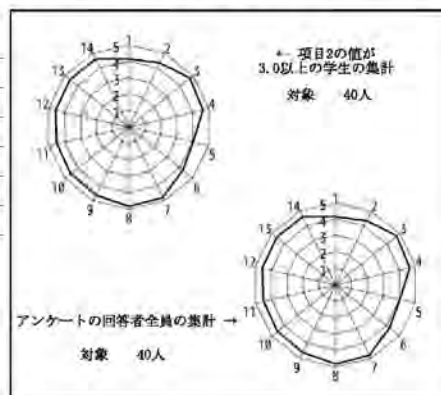
今回の授業評価の結果を見る限り、設問3～設問14の平均値は4.60（同科目前回値4.65）であり、総合政策学科科目の平均値（4.45）と比較しても、全体として肯定的で高い評価が得られた。自由記述においても「映像や画像資料を用いて説明が分かりやすい」、「身近な例を用いつつためになる題材で面白かった」、「レジュメやパワーポイントが分かりやすかった」、「今、必要な知識が学べた」など授業内容および運営に対して肯定的意見が寄せられた。

その一方で、自主的な学習に関する項目（設問2）の値は4.03であり、前回値（4.09）と比較すれば若干低下しており、他の設問結果と比較しても低い値となった。また、自由記述においても「私語」に関して「注意があり良かった」とする意見がある一方、「もっと注意して欲しい」や「注意することで授業が中断することが不満」といった意見も寄せられた。

今後はよりWebClassでの資料活用方法の事前説明など自主的学習を促す試みについて検討しつつ、学生の自主的学習を促す工夫を取り入れると共に、私語への対応についても再検討し、次年度に向けて授業改善を図っていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 哲学総論
授業コード 46D11-001
教員名 中島 靖次
教員コード 000246
登録人数 108
回答数 40
回答率 37.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



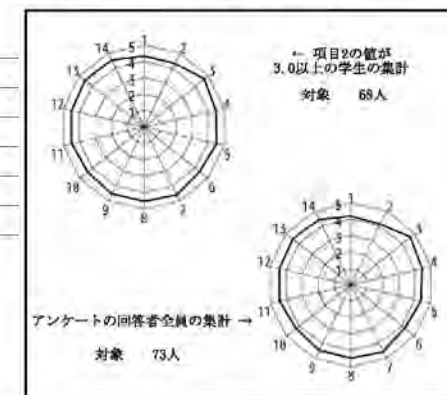
授業評価結果を踏まえた点検・評価

総合政策学部の学科科目として設定された「哲学総論」という科目に対して、比較的多くの学生が受講し、かつ他学科からの受講生もほぼ半分ほどだったという事実は、哲学という授業が求められていることの表れかもしれないと思いつつ授業をしてきた。この授業は、教職に必要な科目という位置づけになっていることもあり、基礎的学説を網羅的に教授することをそもそも目標とせざるを得ない授業である。従って授業としては、そうした学説の紹介をしつつ、かつ、現代社会において複雑化した問題に対して、いかに哲学史を形成してきた諸学説が関わっているかを理解してもらうことを目標としてきた。その意味では、自由記述において「話はまとまっていて非常に分かりやすい説明で難しい課題にもちゃんと理解を伴わせることが出来た」という回答からは、その目標はある程度達成することができたのではないと思われるし、「授業をとる前は興味がなかった哲学にも興味をもてるようになった」という記述からは、この授業をきっかけにして、より深い思考をしていってくれるのではないかと期待できるように思えた。

概ね、自由記述は肯定的なことが書かれていたが、反省としては、前半と後半のバランスを欠くことになったことがあげられる。学生諸君の受講態度から、勢い前半でより丁寧な説明を重ねてしまい時間を取ってしまった。来年度はこの点を是正して、さらに充実した授業にしていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代国家論
授業コード 46D12-001
教員名 井上 洋
教員コード 100177
登録人数 222
回答数 73
回答率 32.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



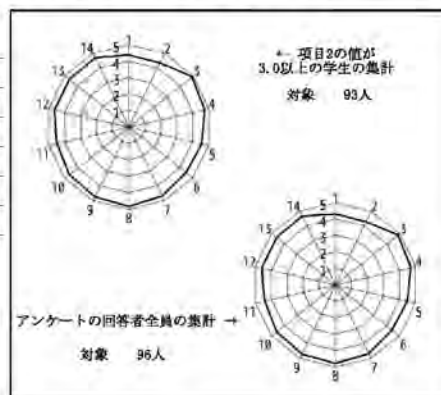
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では、2011年3月11日発生の原発震災と、講義中に同時進行的に起こったいくつかの災害（2019年台風第15号による災害、同じく台風第19号による災害）などを取り上げ、国家というべきか政府というべきかともあれそれがある本質がもっともよく観察できる災害対応の局面に注目して現代日本の国家（政府）の問題状況について話をした。この問題の存在にまず気づいてもらうということが目標であったが、質問項目11から14の平均値が4.4以上であったことは予想以上の関心が得られたもののように思われる。質問項目14に対する数字が4.42であったところには少し驚いている。もう少し低いだろうと思っていた。

今年は伊勢湾台風災害から60年目ということがあり、ちょうど講義中に災害発生日が訪れたので、この話題に一時間を使った。適宜こうした臨機応変の対応をするように心がけていきたい。災害は自然力の強度の問題というよりも、われわれの社会の弱さの問題であるということを工夫しておしえていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営学概論
授業コード 46D13-001
教員名 金網 基志
教員コード 102923
登録人数 221
回答数 96
回答率 43.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

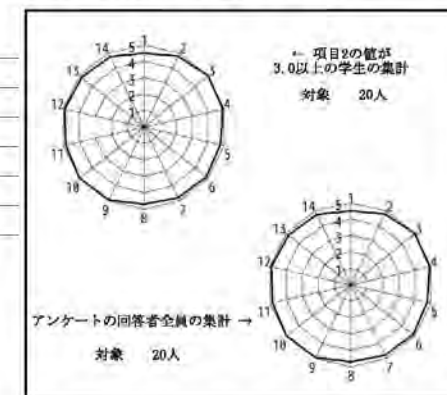


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目3から14の平均が4.64、全体の満足度を示す項目14の平均が4.65であり、高い評価を受けている。各項目別でも、項目5を除いてすべて総合政策学科の平均値を上回っている。自由記述欄では、パワーポイントやレジュメの作り方、授業のスピード、内容、エクササイズなどがよかったとの回答があった。エクササイズは、こちらで質問を投げかけ、それについて学生に考えさせる時間を設け、その後にマイクを向けて発表させるというものであるが、受け身にならずに考えることができよかったとの回答であった。こうしたエクササイズは、今後も続けていきたい。内容についても、極力最新のものを取り入れるようにしているが、時間的な制約が大きく十分にできていない点は反省点である。できるだけ、最新の理論やデータに基づいた講義を心掛けるようにしていきたい。私語はほとんどないが、授業中にスマホを見ている学生がおり、そうした学生への対応も今後の課題である。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語II3
授業コード 46F02-003
教員名 CROKER, Robert
教員コード 100082
登録人数 37
回答数 20
回答率 54.1%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was an introduction to comparative sociology class. The goals of the class were to learn about one country in depth and the basic concepts of sociology through exploring basic topics such as family, education, health, and gender. The students chose which country they wanted to focus upon, and each week researched about that country. In the first week, students read a book about the country; in the second, they compared their country to another country. From the third class, each week a different sociological theme was explored: education, food and health, changing family structures, life course, and gender. In the final class, each student gave a 5~7 minute presentation to a small group about the country that they had researched about. The results of the student feedback were quite positive. The students seemed to enjoy the class very much, and found it useful. In students' written comments, one student wrote that it was good to improve their knowledge of sociology and develop their language skills; another that it was easy to ask questions; a third that the feedback was useful. Students also enjoyed being able to learn about one country that they had chosen, found the topics interesting, and enjoyed working with different partners each week.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策中国語II1

授業コード 46F05-001

教員名 梁 暁虹

教員コード 045229

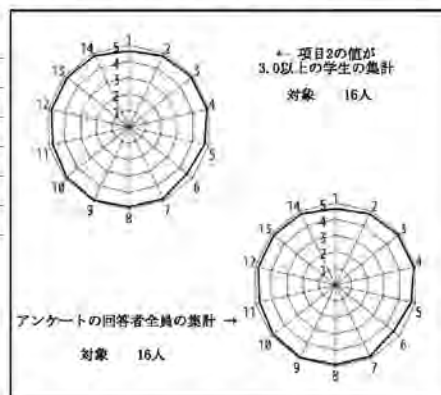
登録人数 16

回答数 16

回答率 100.0%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「学生による授業評価」から判断して、この科目に設定した目標は、概ね達せられたと思う。「授業評価集計」を見ると、設問1～14の平均値は4.80、設問3～14の平均値は4.82、設問3、4、7、8、10は4.88、設問9は、4.94、とかなり高い点であり、学習者及び授業担当者双方の満足感が窺えよう。学生の自由記述項目15では、「楽しく中国語を学ぶことができました」「映像を使ってより理解しやすくしていた点」、「少人数の授業のため、質問等がしやすかったです！」等のよい評価があった一方、教師として改善の余地がないわけではない。設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」は4.56であり、一番低い点であった。そのため、今後どのようにしたら、学生がこの授業を学習する目的を理解、彼らの学習欲を引き出し、さらに積極的な授業参加を促すような工夫をする必要があると考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策中国語II2

授業コード 46F05-002

教員名 原田 直枝

教員コード 018754

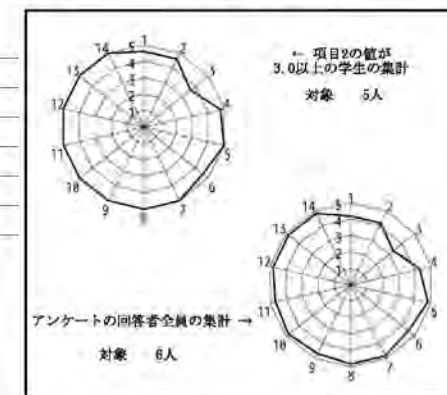
登録人数 18

回答数 6

回答率 33.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

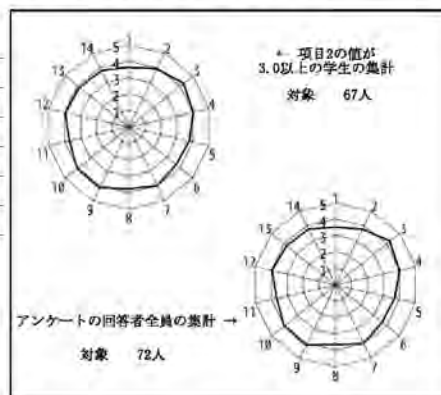


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、総合政策中国語Ⅰ（Q1開講）と同Ⅲ（Q4開講）と連続して、総合政策学的アプローチの視野を広め、政策実践、プロジェクト研究の成果を深めるための中国語運用力の養成をめざすものである。初級中国語から中級中国語へのレベルアップの過程を満たすことを予定している。数値データのうち、項目3「授業の開始・終了時刻」に関する数値が際立って低く3.33となっていることに驚いている。8回の授業とも休み時間から教室に入り機器の準備等も行なったので、開始時刻は定刻であった。最終回とあと一回ほど、授業終了ベルの後もう少し延長して授業を続けたことを踏まえるものだろうか。ただし、その際も「授業進度調整のため協力してほしい」旨を説明していたが、一部の学生においては不本意であったのかもしれない。最終日に質問等を受け付ける時間を持てなかったことも反省点である。今後、時間内終了に努めたい。自由記述欄で授業のペースについて意見が寄せられている。趣旨はわかるが、これは担当者として留意し考えた結果のペース配分であった。8回という短期間の授業で、初めて担当する学生たちとの語学授業を円滑にかつ充実したものにするために、導入期をやや丁寧に、呼吸がわかった段階からはややスピードをもって進めるという方法をとった。授業内容に関する項目5以降、学生自らの努力も含めて比較的高い数値を示しているのは、その成果にもよるだろう。今後も、より効果的で学生を不安にさせない授業構成を検討していきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 財政学
授業コード 46K02-001
教員名 森 徹
教員コード 101861
登録人数 247
回答数 72
回答率 29.1%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

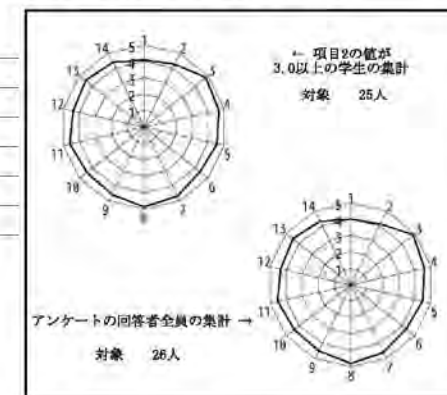


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①講義内容のカバレッジや定期試験の成績等から見て、当初到達目標として掲げた5点のうち、財政の機能と日本の財政状況、公共財の効率的供給メカニズム、社会保障制度の現状と課題、経済安定化政策の役割と公共投資の動向に関する理解の促進と考察力の育成については、ほぼ到達目標を達成できたと思うが、税制の現状と課題については、十分講義時間を取ることができなかったこともあり、目標通りの理解・考察力の育成ができなかったのではないかと危惧している。
- ②アンケートと結果の数値データを見ると、教員の教授方法・姿勢に係る質問3～14の評価平均値は3.88と、非常に高いとは言えないが、まずまずの水準に達していると考えている。とくに事業に対する教員の姿勢の真実さや、学生の理解の程度への配慮、教室のコントロールに関連する項目で、4.0前後の比較的高い評価を受けたことは、教員としてやりがいを感じる結果であった。反面、授業の到達目標の理解やその達成の自覚に関する項目では、評価がやや低く、教員の声が聞き取りにくいという評価も散見された。
- ③こうした評価結果を踏まえ、今後においては、より一層要点を絞ったわかりやすい水授業の展開につとめ、明瞭な言葉でこれを伝えていくとともに、マイクの使い方を改善して、学生に伝わりやすい授業の振興に努めていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 エコシステム論
授業コード 46M01-001
教員名 藤本 潔
教員コード 100100
登録人数 120
回答数 26
回答率 21.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

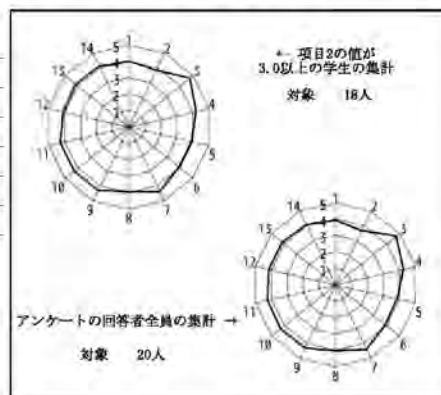


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の授業評価は、これまで2001、2004～2006、2008、2009、2011～2017年度に行われており、学生の自己評価項目を除く平均値は4.38～4.78といずれも高評価を得てきた。今回も4.52と、これまで同様の高評価が得られた。自由記載の「この授業の良かった点」も、これまで同様複数の学生が海上の森での学外授業を挙げており、講義を踏まえた上での学外授業の有効性が改めて確認された。主体的学習の有無を問う設問は、2004～2006年は2.33、2.36、2.38とかなり低かったが、2008年度以降、2.92、2.81、3.33、3.17、3.42、3.43、3.58、3.57、4.06と改善傾向にあり、今年度は4.12とさらに向上した。これは、2008年以降は簡単な調査を伴うレポート課題を課していることと、2017年からは授業資料をWebClassに事前掲載し、ダウンロードして予習するように指導しているためと考えられる。学外授業は120名の受講者を2班に分けて実施しているが、今年は2回目の予定日に台風が襲来したため予備日に実施せざるを得ず、その日の参加者は約半数にとどまった。来年度以降は予備日を2日設定しておくなど、何らかの対策を講じたい。また、今回の授業評価回答率は22%とかなり低かった。これは授業時間内に回答時間を確保できなかったため、この点も対策を講じたい。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政策と市民参加
授業コード 46N12-001
教員名 前田 洋枝
教員コード 102264
登録人数 49
回答数 20
回答率 40.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

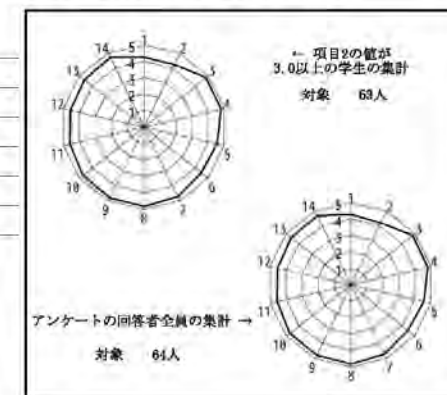
設問4「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」に対する平均値は4.25とまずまずの評価であったが、設問5「この授業の到達目標を理解することができましたか。」は3.85と設問4よりやや低い評価であった。設問5に関しても4.0を超えるように工夫していきたい。

設問7から14については全て4.0を超える評価であり、今後も同様かそれ以上となるようにしていきたいと考える。自由記述では、良かった点としてゲーム演習で他の学生と打ち解けられたことや声が聞こえやすく授業の内容が頭に入ってきたことが挙げられていた。ゲーム演習は授業内容の理解を促すことが第一の目的ではあるが、ともに受講する学生同士が意見を出す場を用意することは、学生同士の緩やかなつながりを作ることを促し、今後様々な場面で助け合えることにもあるかもしれない。教員の声の聞き取りやすさについては、もともとの声の通りの良さはあるが、話し方についても留意していきたい。

一方で、9月中旬に喉の風邪をひいており、授業中も咳が多かったことに対する意見と思われるが、「先生の体調が悪い時は休講になってほしい。先生の説明も聞き取れにくかったし授業に集中もできなかった。」との自由記述もあった。2か月のクォーター制において複数回休講にすると補講が学生・教員双方に負担になる可能性も考慮して、今回は結局休講にせず、マスクをして授業を実施したが、今後、体調不良の場合で明らかに授業に差し障る場合には休講を適切に判断したい。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 市民生活と法
授業コード 46N17-001
教員名 三輪 まどか
教員コード 102263
登録人数 182
回答数 64
回答率 35.2%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

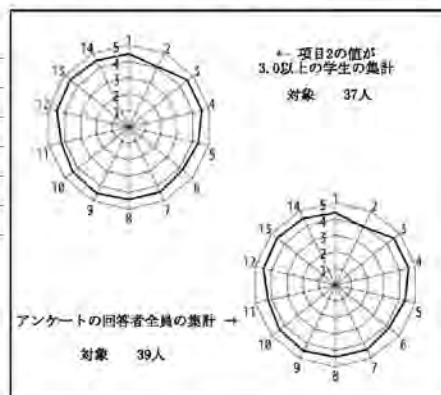
開講当初予定していた目標は、定期試験の記述や自由記述から、十分に達成できたと思われる。特に、法に興味を持たなかった学部学生がたくさん受講してくださったり、また、法学部の学生と思われる学生からも、法学部で扱わないテーマである点言及して下さったことが、何よりの証拠である。

具体的数値をみると、全体としての満足度が4.70と高評価である点、また、毎回課題となる設問2についても、なんとか4点台を確保することができ、事前に資料を配付したり、その資料に基づいて、実際に次の授業で講義の要約を行い、学生に当てて回答してもらうという取り組みも反映されたと思われる。

自由記述の内容について見てみると、概ね好意的な回答が多く、将来役に立つ知識が得られた、動画などを使っていたので、現状を視覚的によく理解できた、板書などが見やすい、講義の要約というのわかりやすい、などといったコメントが寄せられた。私自身も講義において試行錯誤を重ねているが、熱意を持って取り組むことができたのも、受講した学生の皆さんの真摯・真剣な姿勢によるところが大きく、拙い授業ではあるが、真剣に取り組んでくださった学生の皆さんに感謝申し上げたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 安全保障論
授業コード 46N19-001
教員名 山田 哲也
教員コード 100839
登録人数 106
回答数 39
回答率 36.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

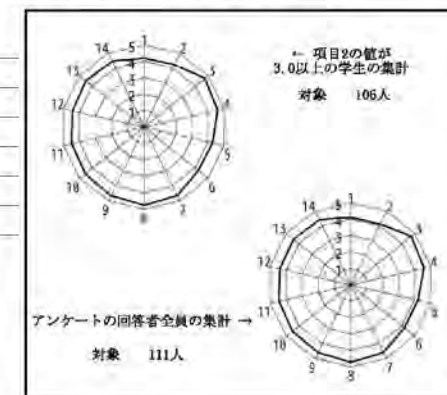


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標については、ほぼ到達できたと考えられる。ただし、授業の後半3分の1については、レジュメを基にしつつも、板書で相当程度補足したので、今後はレジュメの改訂も検討する必要があると考えている。
- ②数値は、ほぼ学科科目の平均と同じ程度であるので、特段の改善点があるとは考えていない。他方、①に記したとおり、そろそろレジュメが古くなりつつあるので、学説のフォローアップや事例のアップデートを含めて、改善してもよいかもしれない。総合政策学科は、留学生も多く、彼らの日本語力を考えると、丁寧な板書は欠かせない。そのため、通常の日本人学生にとっては、板書と同じことを口頭でも説明することになり、リダンダントな感じがするかもしれないが、今回は特にそのようなコメントがなかった。なお、アンケート回答人数が当日の出席者数から考えても、やや少ない気がする。各教員について各クォーター毎に必ず授業評価をしなければならないのかどうか、再考の余地がある。また、今回は自由記述欄に回答した学生が少なかったことも気になる。
- ③担当科目によって、達成すべき目標とそれのための授業運営方法が異なるため、この科目でのアンケート結果から、全体的な改善点を述べることは困難である。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 都市環境論
授業コード 46N21-001
教員名 石川 良文
教員コード 100650
登録人数 257
回答数 111
回答率 43.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

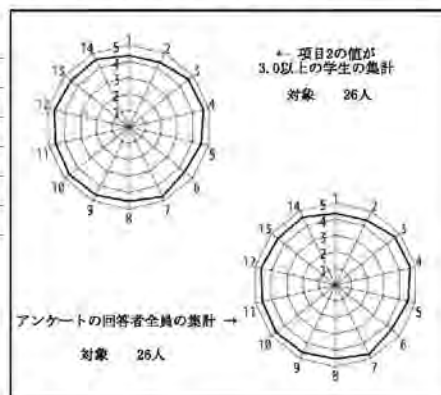


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度
開講当初は、これまで評価が相対的に低かった設問2（予習復習など主体的授業参加）について、大学の授業全体平均を上回ることを目標としていたが、今回の評価では、4.11と大学全体の評価を上回る結果であった。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
総合的な評価としては、設問14が参考になると思われるが、この設問（全体としての満足度）は、4.40と大学全体4.28を大きく上回る結果であった。個別の項目では、設問4（授業の構成や速度）、8（聞き取りやすさ）、9（理解度への配慮）11（積極的参加を促す指導）は特に評価が高く、授業の方法については良好な評価結果と言える。特に、今回の授業ではWebclassを用いた理解度を高めるためのアンケートなど多人数講義でありながら新しい取り組みをしたことが功を奏したと思われる。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
全項目で大学平均を上回っていたが、設問12質問や相談の機会の評価が大学全体を若干上回る程度であったので、今後は質問を受ける時間を多く取りたいと思う。
最後に、自由回答では、評価できることとして多くの意見をもらった。特に授業内容の面白さ、Webclassを使って学生の理解度をチェックしながら進めている点での評価が多かったため、今後もこのような方法で努力して授業を進めたいと思う。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済援助論
授業コード 46N23-001
教員名 POTTER, David M.
教員コード 100098
登録人数 74
回答数 26
回答率 35.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



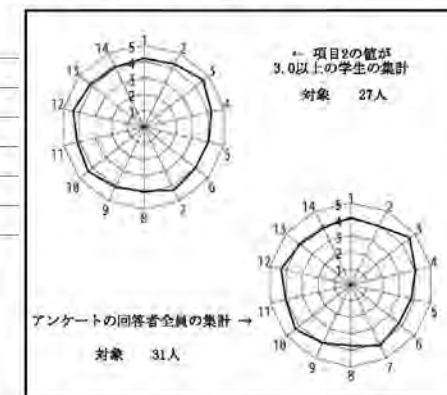
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course is an advanced policy course covering official development assistance (ODA). The course covers the development of ODA policy as an international regime, examines ODA from selected social sciences perspectives, and finally surveys the development of an Asian style of development cooperation.

The student responses this time are in line with past years. The students are satisfied with the course as currently taught. Written responses this time were minimal, so I cannot comment on those. I will continue to teach this course as currently constructed while continuing to pay attention to students' in-class responses to lectures and materials.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生活環境学
授業コード 46N25-001
教員名 大八木 英夫
教員コード 104123
登録人数 135
回答数 31
回答率 23.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目では、大気（空気）、熱、水、廃棄物、生態系といった環境要素に分けて、人が自然と共存し持続可能な発展について学修させる科目である。特に、大気（空気）、熱、水について重点的に時間が割かれた。

設定していた目標、地球環境と人の密接な結び付きや人が自然と共存について認識し、地球環境や自然環境が適切に保全され、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代の要求を満たすような開発が行われている社会について考察することに向けて、地球環境問題における様々な事例を示すことができたと考える。特に、開始時間の徹底や、質問や相談の機会を設けた点において高評価であった。しかしながら、毎回の授業の構成や進行速度や学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供あったと評価されたにもかかわらず、目標に向けた実感については、やや低く、声量や文字による説明書きについて、適切な文字のサイズ、色については、さらに改善していく必要があると考える。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策外国文献講読II(フランス語)
授業コード 70173-001
教員名 BOSAKAIBO, B. Georges
教員コード 104045
登録人数 2
回答数
回答率
休講回数 1 回
補講回数 1 回

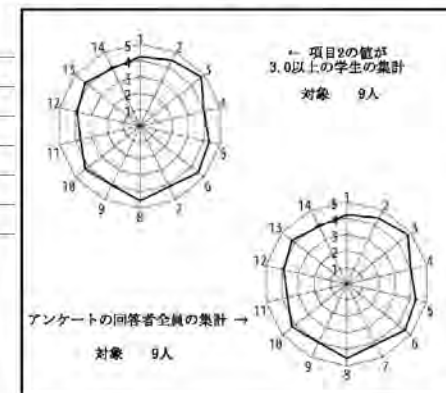
レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. In general, the course was suggested to make students understand the detailed survey of the French grammar system in order to analyze the elements and their functions in the sentences. The methods were given through explanation in order to analyze and make correct sentences as well as to provide students with tools to understand the writing expression. The course aims to make students fluent in French in developing oral and written expressions. Its Specific purpose at the end of the course was to make students to be able to understand the functions of words in the sentences. I think that the purpose was achieved but not fully because of the lower level of the students to read and understand French with poor background. The reading and understanding were good with the simple texts that were given to them to read. However, half of the lessons focused on the reading materials. It was difficult for them to read and understand the text about political and economic materials. I think that to improve this situation, I could check their ability to read economic and political materials in order to understand their ability level.
2. The students' attendance was high despite some few days of absence. This was encouraging because they were willing to learn, and this was proved through their active participation.
3. For students to be able to read and discuss about French materials they need to have a good background about grammar, to acquire more vocabulary and keep practicing them in order to help them to understand the French language.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 線形代数学I および演習[SS]1
授業コード 50A06-001
教員名 三浦 英俊
教員コード 102259
登録人数 34
回答数 9
回答率 26.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
この授業の到達目標は
1. 行列の定義、演算法則、行基本変形を理解している。
2. 行列の定義、演算法則、行基本変形に関する基本的な計算ができる。
である。演習課題の学生の出来を見ると、おおそできていたようだが、例年の基礎学力到達度レベルと比較するとやや劣るという印象である。この授業は導入として基礎的な内容を取り扱うが、Q4以降の発展的な内容についていけるかどうか、少し心配である。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
おおむね例年どおりであった。座席指定していたことに関連して自由記述に「友達と一緒に解きたいので自由席にしてほしい」というものがあった。このような希望は初めてのことであり、自分で理解して問題を解く、という演習の目的が正しく理解されていなかったとすれば残念である。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
学生の基礎学力の到達度を早い段階で見極めて、講義の内容を調整することに取り組む。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 線形代数学I および演習[SS]2

授業コード 50A06-004

教員名 福嶋 雅夫

教員コード 042820

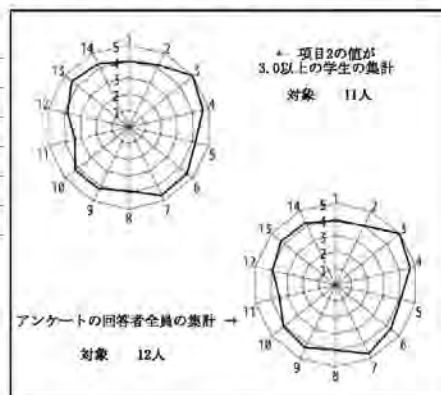
登録人数 35

回答数 12

回答率 34.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は1年生を対象に、将来専門科目を学ぶ際に必要となる線形代数学、特にベクトルや行列に関する基本的な性質や計算方法について説明している。奇数回目の授業では、ところどころに空欄を配置した講義資料を配布し、空欄に適切な数式や言葉を埋める作業を行わせながら、説明を行っている。これは学生が自分の手を動かすことにより理解を深めるとともに、授業に対する集中力を保たせることを意図したものであり、学生の回答結果からも概ね目的を達成していると考えられる。次に、配布資料に基づいてひととおり説明を終えたあと、資料の最後に付けた演習問題を、別に配布した用紙に回答させ、TAが採点したものを次回の講義で学生に返している。偶数回目の授業は演習であり、奇数回目の授業で学習した内容に関連する問題をその時間内に実際に解いてみることは、内容の理解を深める意味で効果は大きいと考えている。特に奇数回目の授業では、多人数クラスであることや数学に対する学生の関心と習熟度にかなりばらつきがあるという事情はあるが、丁寧な説明を心がけることにより、学生の学習意欲を引き出すよう努めている。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 OR概論

授業コード 51A01-001

教員名 鈴木 敦夫

教員コード 016469

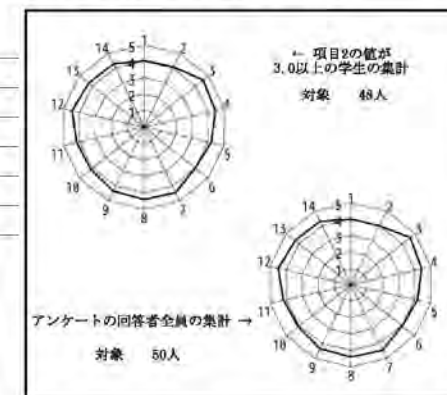
登録人数 249

回答数 50

回答率 20.1%

休講回数 3 回

補講回数 3 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①レポートの成績及び試験の成績（一部のみ採点）から、開講当初に設定していた目標は到達できた。レポートの成績は、50点中平均が45点程度であり、良い成績であった。

②学生の評価はほとんどすべての項目で4以上であった。その中で、設問2、受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。が若干4を下回っていた。10回の復習テストで復習を促したつもりだったが、さらに工夫の必要がある。自由記述はおおむね肯定的な評価である。

③おおむねこのまま継続して講義を行っていくが、さらに、細かな工夫をしていくように努力したい。特に、資料の詳しさを学生は求めているようなので、資料を読めば、講義の概要と重要点が理解できるようにしたい。

その他、学生にとって、より良い講義とはどのようなものであるか、講義中に学生にアンケートをとっているが、さらに学生とのコミュニケーションを進めて、学生の考えていることを把握したい。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 統計的方法

授業コード 51A02-001

教員名 松田 眞一

教員コード 017566

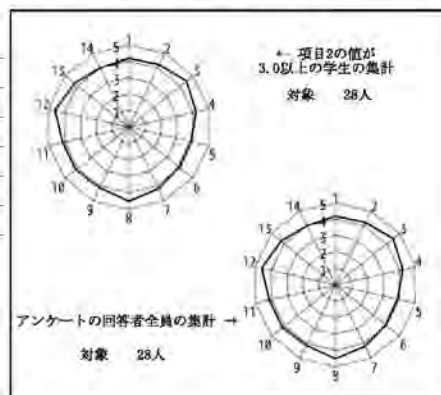
登録人数 160

回答数 28

回答率 17.5%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・授業目標と目標達成度

本授業の目標は統計的方法の基礎である記述統計と推定・検定を学習することである。本年度より授業資料をすべて一週間前にWebclassで公開し、アクティブラーニングの形式で行った。授業時間内では不明な点を聞き取りながら解説したり、数多く準備した練習問題に取り組ませた。また、評価の対象となる7回の課題も課した。

試験は多くの練習問題も対象となるため、少し難しくなったので昨年との単純比較はできないが、Fは2倍程度増えた。

・授業評価

昨年より回答率は上がったが、それでも約1割7分であった。

設問3から14において全学平均を上回った項目は設問12だけであった。一方、システム数理平均を下回ったのは設問3だけであった。

設問12は演習や質問の時間が十分にあったかというものであるが、そこに力点を置いて行ったため、高くなったと思われる。

設問3は時間を守っていたかというものであるが、これは授業時間の後半は演習の時間となり、終わったものは帰ってよかったためバラバラだったと感じたものと思われる。

全体として評価は大幅に改善したが、この授業に向いた人が答えているだけであることに注意しないといけない。

・次年度に向けた改善点

資料をすべて準備したため授業に出なくてもよいと判断した学生も多く、回答率は低かったが、出席者の中での提出状況は悪くなかったと思われる。したがって、この状態でも出席させる工夫が必要となる。この形式が合う学生には評判がよかったが、そうでない学生に対する対応を考えないといけない。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 代数系入門

授業コード 51B09-001

教員名 小藤 俊幸

教員コード 101907

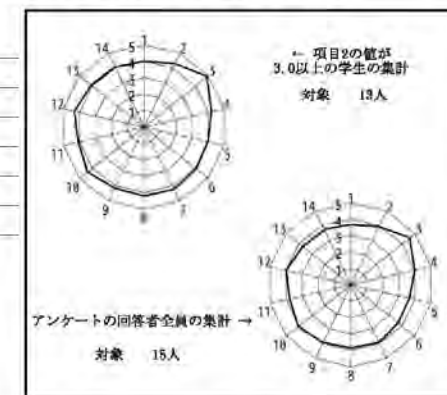
登録人数 72

回答数 15

回答率 20.8%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

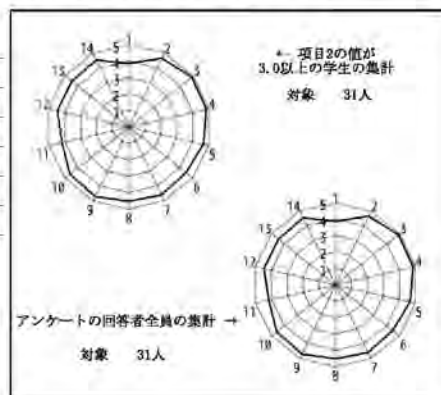
本科目は、もともとは、群、環、体などの抽象代数学への入門を意図した授業であったと思われる。しかし、現在の大学2年生までの教育内容を考えると、そうした現代数学をきちんと教えることは難しい。そのため、抽象代数の内容は最小限に留め、現行指導要領では、高校数学「数学A」の内容となっている初等整数論を中心として授業を組み立てている。本科目が教職の必修科目であることにも配慮したためである。

主な内容は、以下の通りである。ペアノの公理による自然数の定義から始め、除法の原理を証明する。ユークリッドの互除法や拡張ユークリッドの互除法を述べ、その応用として、不定方程式や合同式の解法を述べる。さらに、実際的な応用例として、RSA暗号を紹介する。最後に、環や体などの代数系を紹介する。

授業内容を初等的なものに限ったこともあって、きちんとした論証ができることを目標とした。定期試験問題も、全5題中3題を何らかの論証が必要な問題とした。今の学生はそうした論証が苦手なことから、90分の授業のうち、おおむね60分を説明、30分を学生自身が演習問題に解く時間にあてた。学生の解いた演習問題は、採点し、次の授業で返却した。そうしたことが、ある程度は、効果があったように思われる。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[HJ・P]3
授業コード 10C01-007
教員名 大月 英明
教員コード 047340
登録人数 45
回答数 31
回答率 68.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

点数の平均が4.5以上の項目が半数以上であり、授業運営に関してはうまくいったのではないと思われる。自由記述欄にも特に問題の指摘はなかったようである。

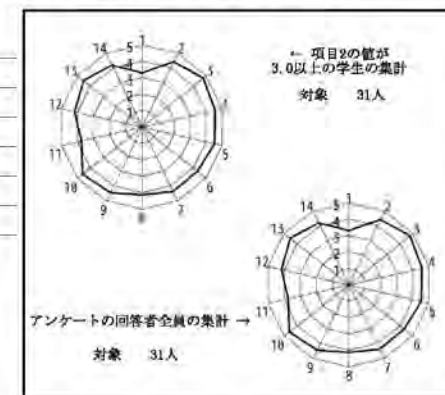
この授業の特徴として、こちらからの指示と、学生のグループディスカッションの時間配分に関して、いつも悩むところである。今回の評価を見る限り、現行の配分が最適解であるように思われるが、もう少し指示や情報提供を増やしても良いかもしれない。

クォーターによっては受講者数が30人程度のこともあるが、Q3では50人程度であった。グループごとで発表を行うが、各グループの発表と質疑応答に取ることができる時間は10分未満であった。そのため、発表テーマに関してあまり深く掘り下げることができなかった印象がある。

授業評価の回答数に関して、授業中に回答時間を取ってはいるが、必ずしも全員に回答してもらえない。今後は回答の割合を100%に近づけるように、何か工夫をしたいと思う。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[HA・HP]6
授業コード 10C01-014
教員名 金山 知俊
教員コード 019455
登録人数 35
回答数 31
回答率 88.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 本科目はe-learningとグループ・ディスカッションや発表によって学習を進めるアクティブラーニング形式の科目であり、情報ネットワークに関する4つのテーマについて順次学習を進めることでシラバスに示された3つの到達目標は達成できたと考える。第2クォータに引き続いての担当であり、学生の授業参加促進、TAサポートの充実など改善を積み重ねることで順調に授業を進めることができた。

2. 授業評価の結果は項目1~14の平均が4.30、項目3~14の平均が4.38であり、情報科目全体の集計結果よりわずかに低い値であった。個別の項目の評価では履修前の授業に対する興味を示す項目1が3.82、学生の学習意欲向上や授業参加促進に関する設問11が3.77と、他の項目に比べ低い値であった。自由記述欄にはグループ学習での話し合いや相互評価の実施、情報の扱いに対する知識を得られた点を評価する声があった。一方で、教員の声が聞き取りにくい、グループを固定されることに対する不満などもあり、これらが評価項目に影響したと思われる。また、他のグループと同じ内容の発表になることに不満を延べた意見もあった。対面授業ではディスカッションや発表の材料としていくつか事例紹介を行ったが、それらが発表の内容に影響した可能性もある。

3. 昨年度や第2クォータに引き続き担当する科目であり、授業の実施については問題なく行うことができた。一方で、授業に対する慣れや本クラスに欠席やレポート未提出が目立つ学生もいなかったことで学生の希望や不満に気づきにくくなっていたことも考えられる。次クォータ以降は出席や課題の提出状況だけでなく、対面授業での学生の様子にもより目を配り、学生の授業参加をさらに促進するように努めたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 プログラミング基礎[SE]2

授業コード 50A08-004

教員名 江坂 篤侍

教員コード 151191

登録人数 33

回答数

回答率

休講回数 0 回

補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

前年度に引き続き、次の3つを目標としてきた。

- ・全ての学生についてシラバスにある到達目標を達成する
- ・質問をしやすい環境を整える
- ・他の学生と比較して理解度が低い学生については、プログラミングに苦手意識を持たせないようにする

課題の採点結果から、本科目のシラバスに示された5つの到達目標はおおむね達成できたと思う。質問しやすい環境を整えるために、各時限の開始終了時に質問をする時間を設けた。頻繁に進捗確認をおこない、遅れている学生に対してはTAとの協力のもと個別に対応し、苦手意識を持たせないように努めた。

② 学生の受講状況、受講態度等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

質問しやすい環境を整えるだけでなく、進捗確認を頻繁に行ない、質問がなくとも個別対応を積極に行なった。前年度の経験から進捗確認をしても、素直に状況を示すことが出来ない学生がいることが分かっていたので、TAと協力して定期的に学生に声がけを行なった。他の学生と比較して授業内課題の進捗に遅れのある学生に対して、個別に対応することができた。

③ 次クォーター以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

理解度が低い学生に対する対応は引き続き行なう。より全体の理解度を向上させるためには、講義の資料の内容をふまえて要点を事前に解説することが重要と考えるが、この解説方法について今後改善していきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 計算機アーキテクチャとOS[S]

授業コード 52A02-001

教員名 宮澤 元

教員コード 019422

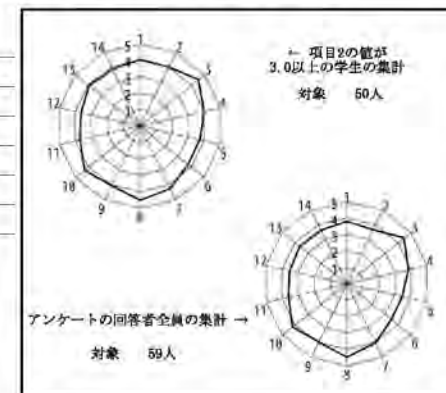
登録人数 171

回答数 59

回答率 34.5%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【事前に設定した目標とその達成状況】

計算機やOSの仕組みについて、単に知識を伝えるだけではなく、理由を考えさせ理解させることを目標とした。しかし、全体の評価は3.61と低めで、また設問20以降の評価が2点台と、目標が十分達成できたとは言えない。

【担当科目に関する総合的な自己点検・評価】

上述以外の設問の評価はほぼ3点台中盤から4点台であり、大きな失敗はなかったのだと思う。自由記述でも、講義資料を公開している点や、丁寧に説明をした点については評価が高かった。一方、どこが重要なのか分からないという意見が複数あった。また、講義予定をこなせず次回に持ち越しになったことについての指摘もあった。いずれも授業内容が多くメリハリがついていないことなどの問題を反映していると思う。レポート課題については、内容の理解が深まるという肯定的な意見があった。一方、レポート課題の説明が不足であるとか、大変であるといった意見もあり、出題意図を明確に説明すべきだと感じた。

【今後の改善】

授業内容や講義資料を精査し、重要な点を確実に伝えることを念頭に伝え方の工夫をはかりたい。特に、今回、重要な図を毎回板書したことの成果は出ていると感じているので、スライドの説明と板書を併用する方法を更に検討したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ソフトウェア工学基礎[S]

授業コード 52A03-002

教員名 青山 幹雄

教員コード 046243

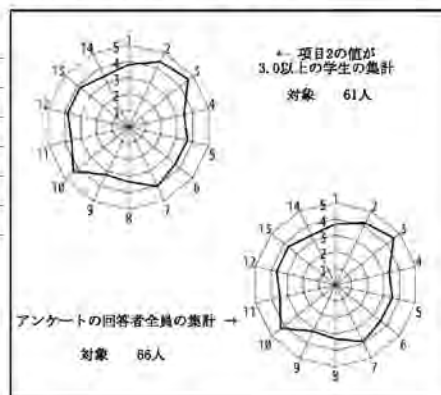
登録人数 179

回答数 66

回答率 36.9%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本科目はこれまで3年生の学部共通科目として開講していたが、昨年度から2年生対象科目となった。また、履修者が増え、200名近くとなった。目標はソフトウェア工学の基礎を理解させることである。2年生であることに加えて、ソフトウェア工学科以外の学生が1/3程度を占めるため、前提とする知識のレベルが低くなり、かつ知識のバラツキも大きいことから、関心と学習意欲を引き出す必要がある。講義の中で、実社会における開発事例や経験を適宜紹介し、関心を高め、学習意欲を高める工夫を行ってきた。概ね良い評価を得て目標は達成されているが、一部の事項で評価が低い点が見られた。また、今年度から、S23教室で開講しているが、履修者が増えたため、後方の席では黒板がみえづらい状況にある。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

教室の後方の席では黒板がみえづらいため前方の席に座るように促しているが、履修者が増えたため教室の後方にも座らざるをえないという構造的に問題がある。

一方、ここ数年一部の学生の学力低下が顕著でありその数も増えている。そのため、成績の上位の学生と下位の学生の差が顕著となっている。学力に応じた講義内容のレベル設定などを一層考慮する必要がある。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

引き続き板書の見やすさを改善するようにする。教室の変更も検討する。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数理論理学[S]

授業コード 52B07-001

教員名 佐々木 克巳

教員コード 018051

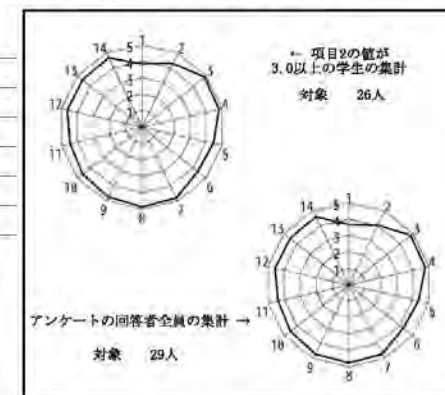
登録人数 94

回答数 29

回答率 30.9%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

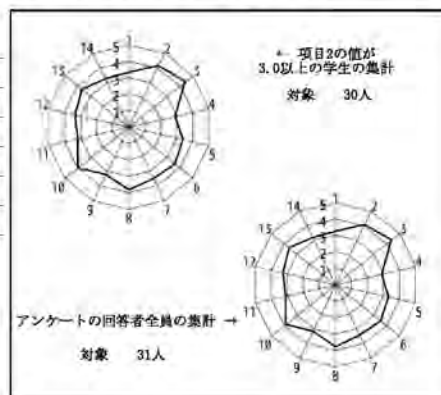
この授業の目標は、数学で用いられる文・推論・証明を形式的に扱うことによるよさを理解することである。具体的には、文を形式化する手法、文を形式化してできる論理式の代数的構造、証明を形式化したLKP証明図のよさを理解することである。実際の授業では、それらのよさの例を、具体例を通して示し、演習により、その理解を深められるようにした。

数値では、設問3～14の平均が4.59(昨年は4.33、一昨年は4.43)で概ねよい結果となった。自由記述(設問15、設問16)では、設問15(良かった点、評価できること)に6件、設問16(改善点など)には1件の記述があった。4件は、配布資料・説明・板書のわかりやすさ、演習問題の設定と解説の適切性などで、昨年の傾向と変わっていない。これら点は継続したい。設問16の1件は、演習問題の量に関するものであったが、設問15で適切であるという意見もある、締切に合わせた量を検討したい。

理工学部独自の設問(20と21)の結果からは、(設問20で「わからない」を選択した3名を除き)回答してもらったすべての学生は、「ノート等をみれば自力で調べられる」段階に達しており、そのうち半数以上は、授業目標に対して、「他の人にも説明できる」段階に達していることがわかった。この部分も昨年の傾向と変わっておらず、授業運営は概ねうまくいっていると考えられる。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[HA・HP]4
授業コード 10C01-012
教員名 杉原 桂太
教員コード 101116
登録人数 35
回答数 31
回答率 88.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



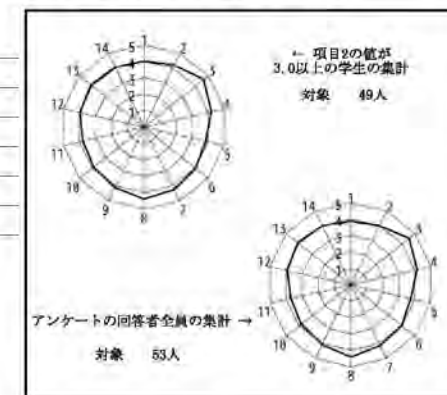
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、「アクティブラーニング」を採用し、「反転授業」を行うという共通方法が複数教員で行われた科目であった。そのため、そのような授業が問題なく展開し、受講者が情報倫理をより理解できるようになることが目標となった。項目(1-14)では4点台の評価も得られたが、多くは3点台以下であった。設問1(3.23)から、受講者はインターネット利用のルールや法について興味を持つ傾向がそれほど高くなかったことが分かる。項目4(2.90)より、下記項目16を踏まえる必要があることが分かる。項目6(3.55)から、目標を明示しその達成に近づいていることを実感してもらう必要があるといえる。項目10(3.87)から、受講者のコントロールを求める意見が見られることが分かった。項目11(3.13)より、学生が授業の内容についての情報提供を求めていることが分かる。項目14(3.19)から、受講者の満足度を高める方を検討する必要があることが分かった。自由記述からは、設問15について、「グループで活動することでみんな積極的になっていた。」、などの評価がある一方で、項目16では、「レポート相互評価の時間をもう少しとってほしいと思う時がたまにあります。」、という記述があった。項目16については、授業実施時にその場では声を上げることができない受講者が存在したことが分かった。

以上を踏まえ、諸所の改善点が必要であることが分かる。さらに、この科目では、「アクティブラーニング」、「反転授業」等を実施しているため、対面授業では、「アクティブラーニング」等について受講者の主体的・協力的姿勢をより引き出していく必要がある。次のクォーター以降のこの科目においても、「反転授業」等のこの科目の狙いがより効果的に実施できる授業を目指したい。学生による授業評価を含め、受講者からの指摘は、担当教員間でも共有したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マルチメディア情報通信[S]
授業コード 52B08-001
教員名 奥村 康行
教員コード 101219
登録人数 191
回答数 53
回答率 27.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定した授業目標： 通信システムの開発・運用に携わるときに必要なとなる知識であるデータ圧縮技術を理解し自分の言葉で説明できるようになってもらうこと。
2. 目標達成度： 期末試験結果より、約60%の受講者が目標を達成した。10%が試験欠席、30%が目標不達だった。定常的な出席率が70%程度であるから、目標達成者の比率がやや下回ったことになる。
3. 担当科目についての授業評価： この科目の評定値は学科科目の平均値と同じだった。自由記述のうち改善を希望された項目は、板書が見にくい(2)、講義中にスマホで板書を撮影する学生が耳障り(1)、板書の間違いを時間がたってから気付いて修正した(1)、演習問題の解説がわかりにくい(1)、進行が早い(1)、配布されるプリントが後ろの席では足りなくなり教卓まで取りに行く必要がある(1)であった(カッコ内は指摘した人数)。好意的な意見として、演習が有益(6)、講義のわかりやすさ(10)、進行速度が適切(1)、授業の開始と終了時刻が守られていた(1)などがあり、これらは今後も継続する。
4. 次年度の方針： 板書が見やすいよう注意は払っているが、後部の席では見にくかったかもしれない。500人サイズの教室に出席者150名のほぼ全てが後ろ1/3に着席する状況だったので、前列に着席すればプリント配布も含めて問題は解決するだろう。スマホの使用については注意を促す。演習問題の解説では、その場で計算して板書した後、手元のメモを参照して間違いを直したことが数回あった。このやり方のほうが、たとえ誤りが含まれていたとしても、受講生には理解しやすいのではないだろうか。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 制御システム実習1

授業コード 53A02-001

教員名 中島 明

教員コード 103140

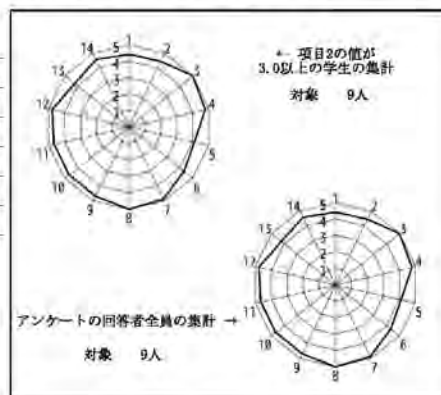
登録人数 42

回答数 9

回答率 21.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず、授業中に時間を設けてまで回答を促したにも関わらず回答人数が9人であることに呆れるばかりである。彼らは回答時間中に一体何をしていただろうか？考えることさえもはや疎ましい。わずかではあるがまじめに回答頂いた学生諸君の貴重な意見をもとに授業の評価を試みてみよう。

幸いというべきか、ほとんどの項目で高い点数を頂いている。しかしながら、項目19、20においては低い点数であり、これらの傾向は例年通りである。

今年のこのクラスはなんとも評価に困る学生が多かった。説明を聞く態度、実習に望む姿勢はまじめで好ましいが、いざ課題レポートとなると、まるで話を聞いていないような出来であった。結果としてレポートのフィードバックを例年よりしっかりと行うことになったため、学習結果の向上につながることを期待している。

本講義は機材と学生人数の関係によりどうしてもグループ単位での指導となる。今年は、学生の質が偏らないようGPAによる班分けを行ったが、残念ながらそれが少し悪い方に働いたようであり、グループの一部の学生に負担が集中するような班が例年より多かったように見受けられる。かといって名簿順にそのままグループを設定してGPAが低い学生を多いグループができてしまった場合、その班だけ実習がまったく進まず全体の進行にすら支障をきたす恐れもある。

この点は来年にあたり注意深く再考すべきである。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 電子通信工学実習1

授業コード 53A03-001

教員名 野田 聡人

教員コード 103679

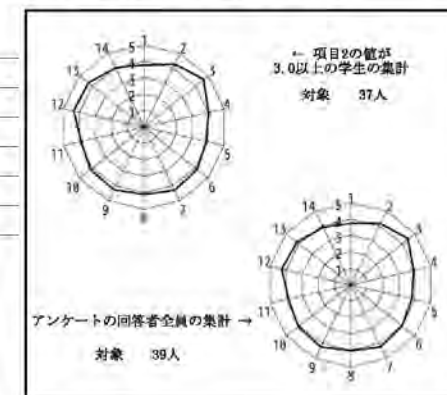
登録人数 45

回答数 39

回答率 86.7%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
当初計画通りの実習内容をすべて実施した。レポート提出状況およびレポートを採点した結果の成績を見ると、最終レポートを提出しなかった者以外はほとんどの受講生が合格点に到達する見込みである。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※

授業への満足度や理解度についての問いへの回答の平均点が、昨年度同科目（3以下であった）から大きく改善している。

理由は三つ考えられる。

1. 使用機器をよりユーザフレンドリーなインターフェースのものにリプレースし、また受講生のレベルに合わないと思われる内容は一部削減した。
2. 受講生のレベルが昨年度より向上した。毎回の実習の配布資料の内容は昨年度と大きく変えていないが、昨年度よりも「話せばわかる」受講生が多かった印象を受けた。
3. アンケート回答者数が増えた。授業時間内にアンケート回答の時間をとったことで、「アンケートで低い評価をつけることで腹いせをする」というモチベーションの数人の回答者に支配されていた回答が、受講生の87%もの回答が得られたことで、受講生全員による真の評価の平均値に近いものになった結果と考えられる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
自由記述回答にもTAが足りないとの指摘があったが、質問をしたい学生が何人も手を上げていて待たせることが多かったのは反省点である。置きやすいポイントを丁寧に解説することで改善可能と考える。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 システム理論[S]

授業コード 53B01-001

教員名 大石 泰章

教員コード 101405

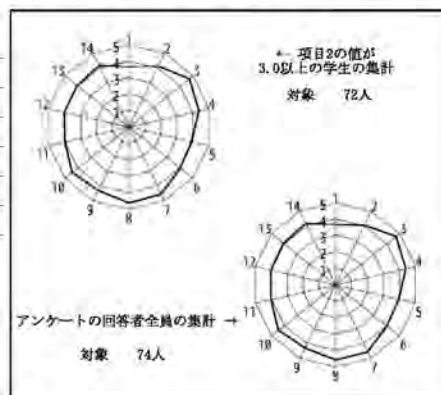
登録人数 258

回答数 74

回答率 28.7%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

○当初の目標と到達の程度

当初計画していた内容はすべて講義できた。前提科目の復習から始めて、関連科目にスムーズに接続する内容を講義できたと思う。

○数値データおよび自由記述をふまえた自己点検・評価

数値評価は、全項目で4点前後もしくはそれ以上であるので、数理的な内容の授業としては悪くないと考える。

評価できる点(設問15)には、「板書が整っていて見やすい(9件)」「説明がわかりやすい(6件)」「練習問題を解く時間があるのがよい(4件)」などあり、学生のニーズに合った授業ができていると考える。

改善すべき点(設問16)には、「練習問題を解く時間が不足(2件)」とあった。授業も進めなくてはいけないのでバランスが難しい。来年はもう少し要領よく授業して、問題練習の時間を増やせるかもしれない。「練習問題のヒントが多すぎる」との意見があった。手が動いていない学生を見て我慢できなくなったためだが、もう少し我慢した方が教育的かもしれない。「スマホやPCでわからないことを調べるのを許してほしい」との意見があったが、今後も授業中のスマホやPCの使用を認めるつもりはない。わからないことがあれば、教員に聞いてほしい。そうした質疑応答は他の学生にも有益だと思う。

○今後の改善点、抱負、方針など

来年は授業の内容を整理して、さらに進んだ内容を増やせないか検討したい。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 制御理論II

授業コード 53B05-001

教員名 坂本 登

教員コード 102293

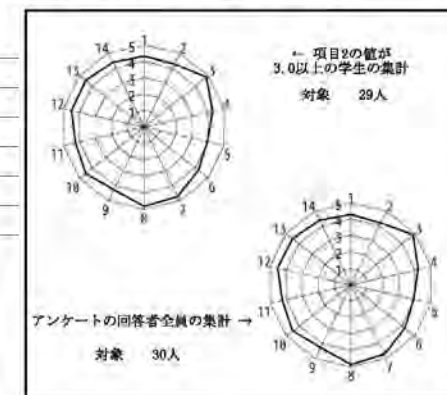
登録人数 49

回答数 30

回答率 61.2%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

線形代数と微分方程式論を活用して制御システムの解析と設計を行う内容であり、基礎数学の習熟も目標とした。これに関しては、第1回～3回の講義で解説と演習を行った。プロジェクターと白板を組み合わせることで、学生のノート取りの時間を極力減らし、説明を聞くことに集中できるよう配慮した。また、演習の解答はYoutubeを利用した配信を行い、何度も自分のペースで復習できるようにした。これらは好評であったと言える。

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

1. 実際のシステムをモデリングする方法を知っている。
→おおむね達成されているといえるが、不合格者の中には未達の者もいた。
2. 状態空間表現されたシステムに対する制御系の設計手法を知っている。
→おおむね達成されている。
3. レギュレータとオブザーバの設計手法を知っている。
→おおむね達成されているが、考え方の基礎を身に着けるには、線形代数の活用を中心により多くの練習が望まれる。
4. 設計CADを用いて制御系の設計が行える。
→より多くの練習が望まれる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

→制御系設計法が使えることを目標としていたが、学部3年生としては、おおよそ達成されたといえる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

→より多くの演習課題を与えたい。また、Matlabを用いた課題にはもう少し多くの解説を与えたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 通信プロトコル[S]

授業コード 53B07-001

教員名 石原 靖哲

教員コード 103810

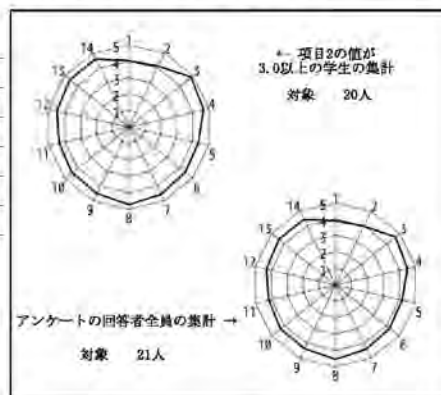
登録人数 110

回答数 21

回答率 19.1%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①通信プロトコルの階層化の意義に関する理解度や、フロー制御などの個々の技術の習得度に関しては、個人差はあったものの、おおむね目標に到達できたと考えている。

②おおむね高い評価を得られてほっとしている。自分の専門分野からは少し外れた授業であるが、その分、学生により近い目線で説明できた（専門外の人間にとって理解しづらい箇所を丁寧に説明できた）のではないかなと思う。設問2-1では「コネクション型サービス」の理解度を問うたところ、あまり高い数値にはならなかったが、明確な定義が存在する概念ではないので、仕方がない面がある。しかし、来年度は少しでもこの値を上げていきたいと考えている。

③昨年度は、今年度の改善点として、授業期間中に出了た4つの小課題について授業期間中にフィードバックを行うことを挙げていた。残念ながらQ3はもっとも授業が集中していることもあり、今年度も実現できなかった。来年度こそはフィードバックのための時間を確保できるようにしたい。また、アンケートを見る限り気にしている学生はいないようであるが、授業の実際の進度がシラバスの予定とずいぶん食い違っているため、来年度はシラバスのほうを修正して食い違いがなるべく少なくなるようにしたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[HC・HJ・P]2

授業コード 10C01-002

教員名 後藤 邦夫

教員コード 016428

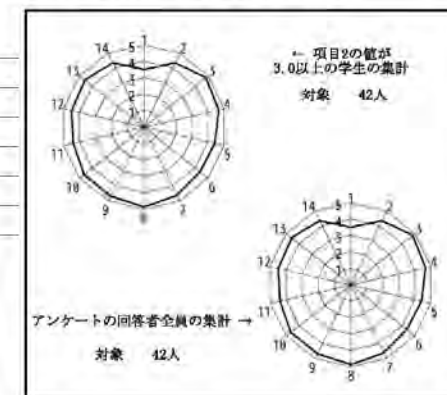
登録人数 48

回答数 42

回答率 87.5%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

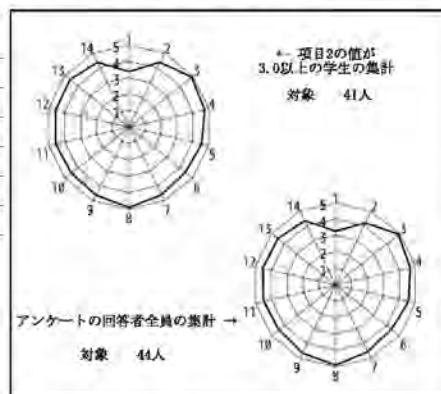
当初の目標はまじめに学習した全受講者が良い評価を得ることである。結果として1名以外の全員がA以上の評価であった。入学直後のQ1のクラスと比較して、Q3の授業は運営が楽であり、提出されるレポートの文章もよくなっている。受講生の所属学部が異なるので、確かな比較ではないが、学生が入学以後、色々な面において成長した証かもしれない。

設問1の授業前の興味の3.5以外、すべての設問の平均値が4.3以上であり、すべての項目で十分良い評価を得た。自由記述では、9件の肯定的な感想等があり、授業に興味を持てたことを示している。否定的なコメントは1件で「グループで作成する発表資料のグループ内負担が不公平になりがち。時間的に難しいでしょうが、個人作成にしたほうがよい」というグループ学習でおくる問題点の指摘であった。

上記の問題については、この授業の担当者打ち合わせで次年度の改善事項として提案する。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[HJ・P]2
授業コード 10C01-006
教員名 吉田 敦
教員コード 101920
登録人数 50
回答数 44
回答率 88.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

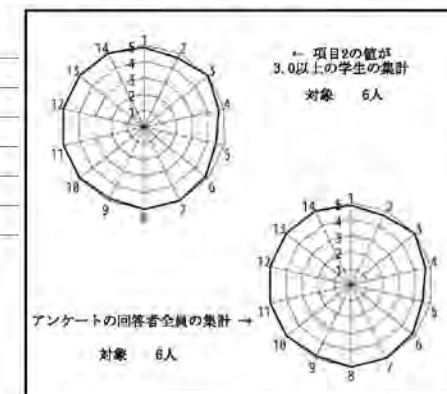


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q3で担当する情報倫理のクラスは、毎年、グループ数が多いので、グループ発表を時間内に終わらせるよう調整することが最大の懸念となる。幸い、事前に役割を調整して臨むグループが多く、予定時間を超過するグループがいたものの、問題なく時間内に終わることができた。教員の技量というより、学生の発表や質疑に対しての積極性の有無の影響が大きく、今回の学生達に助けられた部分が多い。特に初回の発表のときは、質問するグループを指定していもなかなか質問が出ないことが多いが、今回のクラスはスムーズに適切な質問をしてくれた。また、個々の発表に対してのフィードバックを返す時間が少なく、グループの交代の合間にうまくコメントを入れるなどの工夫が必要であった。学生の評価としては、これまでの情報倫理の授業と同じく最初は興味なく履修をしたものの、全体としては楽しくやれたことが読み取れる。また、教員の声の聞き取りの評価が高かった。滑舌が悪いことがあるので、常に気にしていたが、引き続き聞き取りやすく話せるよう心掛けたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 インドネシア語I<G>
授業コード 11H01-005
教員名 森山 幹弘
教員コード 100090
登録人数 10
回答数 6
回答率 60.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

国際教養学部の二期生の第二外国語として開講されたこの授業は、一期生に対して初めて行った昨年度の授業の運営を見直した上で、今期の目標と到達の程度を設定して行った。学生の学習意欲は高かったものの、単語の暗記にてこづいたようで後半の授業の理解度が予想よりも低かった。一方、教科書の中で昨年度の授業の経験から不要と判断した記述については削除し、より大切な部分を強調して授業を進めたことにより、昨年よりも目標の到達度は上がった。受講者が昨年度よりも三分の一減少したことも、より丁寧な授業運営ができ、到達度が上がったと考えられる。授業評価の協力を2回の授業で促したが、評価を行った学生数が十分ではなかった。評価自体は概ね良好ではあったが、評価に参加した学生数が多くなかったことから十分な授業評価にはなっていないと思われるため、次回は全員の参加を促すような工夫を行いたい。今回の自由記述で書かれていたように、文法以外のインドネシアについての話をすることが学生の興味と学習意欲を高めていることは昨年の評価にも記載されていたので、今期の授業でもそのことを心がけて授業運営を行ったことは、良い評価を受けることになった。今後の改善点としては、いかに単語や文法事項を記憶させるかについての検討が必要である。現在行っている授業の冒頭の小テストだけでなく、より時間をかけた復習、復習の要素を含めた宿題を増やすことなどを実行したい。また授業のスピードが早いと感じている学生もいるようで、より丁寧な授業運営を心がけたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教と文明

授業コード 46B05-001

教員名 VOLPE, Angeline

教員コード 000167

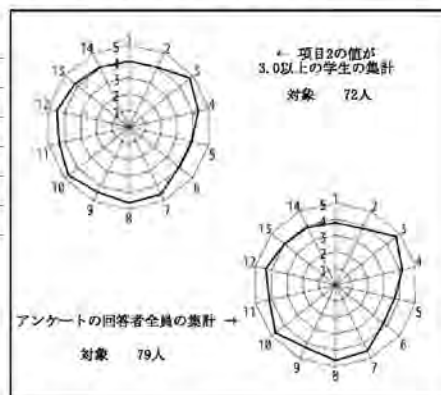
登録人数 187

回答数 79

回答率 42.2%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

最初の到達目標（時代や文化、また宗教観が異なったとしても、宗教が常に人間の社会的行為の中に存在し続けている理由を理解する）について、学生は興味深い事実を発見したと思われる（学生自身が最終レポートに書いた課題）。宗教感覚は社会的発展の結果ではなく、M. エリアーデが説明するように人間固有のものである。特に古代人類が残した洞窟壁画は学生に印象を残した。2つ目の目標（偏見なしに知識を取得することにより文明と宗教の密接な関係を理解する）に関しては、人類の長い歴史において神観のない民族は存在せず、そのビジョンは文明に必ず影響を与えたことを理解した。しかしながら高等学校のカリキュラムは宗教に対する評価が低いため、偏見を払拭することは簡単ではないことも同時に言える。3つ目（現代社会における宗教の役割について理解している）に関して、多くの学生がアッシジのフランチェスコ（12-13世紀）の生き方に心打たれたと言う。福音書に基づいて生きる彼は、困難な問題や戦争によって苦しかったヨーロッパの民族に平和と兄弟愛をもたらしたからだ。注意されながらも私語・居眠り・スマートフォンの使用などが多々あったが、良いクラスであった。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English III2

授業コード 48A07-002

教員名 松永 隆

教員コード 015081

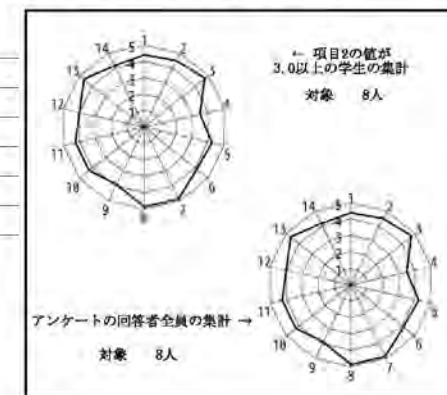
登録人数 18

回答数 8

回答率 44.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Course outline:

この授業は講義および演習の形式で行なわれる。GLS Englishは、英語の4技能の能力を駆使して大学の日常の活動を行い、国際教養学部のコンテンツ科目を英語で学ぶ力を養う。また、海外留学においても十分に機能できる能力を養う。「GLS English II」の学習に引き続きIIIではさらなる実践能力を養い、英語で行われるEMI学科科目、および、海外留学に対応できるアカデミック学習スキルを学ぶ。また、TOEFL、IELTSなどの語学試験の対策も行う。

高く評価できる点

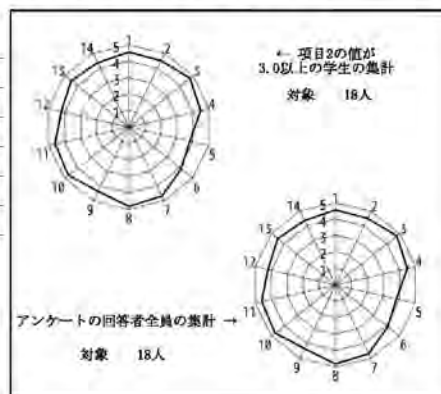
授業全体、授業運営、全体的評価に関してはすべて4ポイント台の前半に平均値があり、まずまず満足のいく結果になったと思われる。設問1～14の平均値は4.31、設問3～14の平均値は4.29であった。また「プレゼンテーションをする機会が多く良かった」、「授業では自分が伝えようとする表現に合わせたフォローがあり勉強になった」今後もこのような手法は継続し、さらに新たな試みも導入していきたい。

改善点

Active learningの活動をもっと多様なものにしていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English III3
授業コード 48A07-003
教員名 DEACON, Bradley
教員コード 046920
登録人数 18
回答数 18
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals for this GLS English class are set for each quarter on PORTA. Students were encouraged to review these goals at the beginning of the course and were reminded of the rationale for the activities that were done during classes and how they aimed to match the course goals. In addition students were given the chance at the beginning of the course to offer suggestions for how they would like to continue to learn based on their experiences in quarters one and two in GLS English. Finally, students were encouraged to set their own goals in the course to work on their autonomous learning skills.

The numerical results from the data showed that the students were satisfied overall with their learning experience in GLS English in quarter three. The majority of comments also demonstrate that the students found the course to be meaningful and to contribute to their learning experience. Early in the course, there was a lack of active participation in this class. I addressed the students' learning attitudes by making an extra copy during one of their lessons, which I then distributed and invited them to hand in a written reflection to demonstrate their thoughts and feelings afterwards. We then discussed ways to develop a more active learning community (which is necessary in this class given the focus on discussions, presentations, and other mediums of learning in the syllabus). I was pleased to see that the atmosphere improved and the class become more active. Some students complained about the volume of homework, however it was no heavier than in previous courses that I have given.

Looking forward, I will continue to elicit ideas from the students.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English III4
授業コード 48A07-004
教員名 YARDLEY, Gabriel
教員コード 016998
登録人数 18
回答数 2
回答率 11.1%
休講回数 1 回
補講回数 0 回

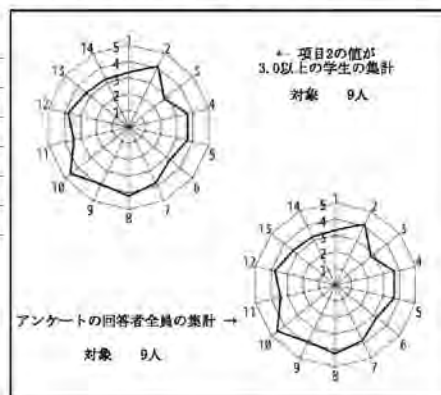
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

As only a few students filled in the online course evaluation—despite being reminded to do so on several occasions during the final week of class—there were too few responses to warrant a full overview of this course. Nevertheless, the taking of a parallel, 'anonymised' survey was required by all students as part of a final assignment and their responses to these may be perused if required. From students answers to this survey it would appear that there was general approval of the course in terms of adherence to the syllabus, knowledge acquired and the materials and the methodology employed. The objectives for GLS English as presented in the course outline were met in full, and students completed all assignments promptly and appropriately. Feedback on performance in class activity and assignments was given to all students in note form and individual interviews. As on previous occasions, the instructor will take note of anonymous comments and suggestions obtained from the additional survey to try to improve on students' learning experience in the coming academic year, and also to ensure that the online survey is completed in the final class.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IIII5
授業コード 48A07-005
教員名 森泉 哲
教員コード 100542
登録人数 19
回答数 9
回答率 47.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

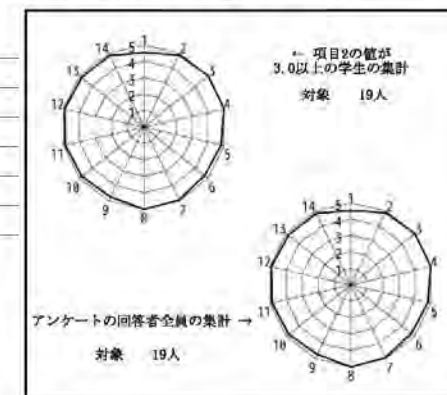
本科目は、英語スキル伸長だけでなく、社会問題を扱う題材を通して、国際教養に必要な思考力、分析力、問題解決能力を養成する科目である。特に第3クォーターでは、メディアの役割について、ディスカッションを通して深めていく授業展開であった。

学生の授業評価から判断すると、授業に対して好意的に捉えている学生と否定的である学生のばらつきが大きい結果となった。英語によるディスカッションを中心に進めていく授業に対しては、ある程度の理解が得られているようであるが、グループやペアの意見をクラス全体でシェアする際に、授業担当者がまとめようとしたのだが、そのまとめが一定数の学生に対して、大変冗長で、わかりづらい英語になってしまっていたようであり、教師だけが一方的に英語を話していると捉えられてしまったようであった。グループから出される様々な意見をうまく引き出し、わかりやすく、かつ簡潔に英語で説明できるようさらに努力しなければならない。

また、今回の授業評価で最も否定的なコメントは、授業の開始・終了時間であった。これは、終了時間に終わらないことが2回程度あったこと、また各学生の最終プレゼンテーションが授業時間内に終わるよう予定をしていたが、実際終了しなかったことが響いた結果だと思われる。授業配分をより精査し、発表は2週によって行うなどの学生からの提案もなされたので、学生と対話しながら、さらに効果的な授業運営を目指し、学生が本授業から多くのことを学び、そして満足する授業運営をさらに心がけていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IIII8
授業コード 48A07-008
教員名 MILES, Richard
教員コード 101363
登録人数 19
回答数 19
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

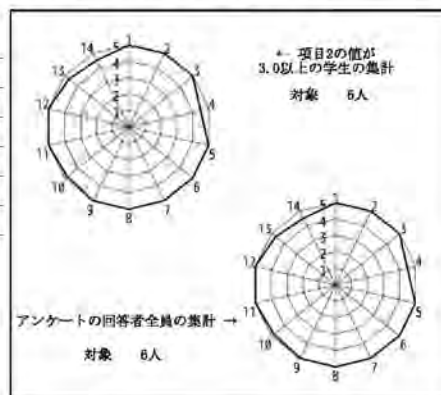


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- Overall, I am very satisfied with the evaluations and with how the course went. Students were very positive in terms of their comments and the scores they gave the course. The course was designed specifically to help students learn about different the media, in English, through active learning. Students answered very positively to questions #13 and #14, indicating they felt they had achieved a lot, had improved their skills and gained a better understanding of the course materials. Students also responded positively to question 9, even though the class was somewhat difficult, indicating they thought the level of the class was appropriate.
- The written comments from the students were positive and reflected particular happiness with the atmosphere in the classroom and the interaction between the teacher and students, as well as the interaction between students. In particular, students enjoyed and seemed to benefit from the group discussions.
- For the fourth quarter, I intend to continue to build on the skills learned in the third quarter. I also intend to provide more positive feedback to students, as their responses to question #6 indicated they were still a little unsure of the overall progress towards the class goals.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLSアカデミック・ジャパニーズI
授業コード 48A12-001
教員名 北村 雅則
教員コード 100212
登録人数 6
回答数 6
回答率 100.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

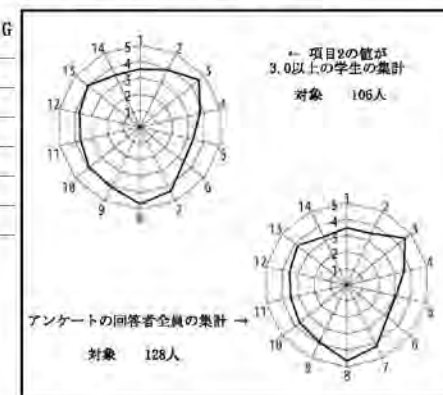


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、日本語を母語としない留学生や海外在住経験の長い学生向けの授業である。そのため、日本で大学生として学ぶための4技能を中心に習得する際、1. 場面に適した日本語を適切に使用できる、2. 適切な体裁・文章構成に則った、日本語の文章を作成できる、3. 協同学習の場に主体的に参加できるという到達目標を設定して行ってきた。受講生諸君の努力や積極的な授業参加によって、非常に高いレベルで到達目標を達成できていると考える。それはアンケート結果（設問6）にも表れている。この授業をより良くするためには、比較的アンケート結果が良くなかった、授業の進行方法や新しい知識を得られたかどうかという点を改善したい。受講生の日本語力が一様ではないため、高い日本語力を有する学生には物足りなさがあったかもしれないが、その点については個別対応などを増やしていく。新しい知識については、日本語を学習するということは言語の学習だけではなく、日本の社会や文化についての見聞も深めることにつながる。授業の内容にその点を加味して、日本語だけではなく知識の習得ができるよう改善する。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際教養学概論 / Introduction to Global Liberal Studies
授業コード 48B02-001
教員名 斎藤 衛
教員コード 018333
登録人数 139
回答数 128
回答率 92.1%
休講回数 0 回
補講回数 1 回



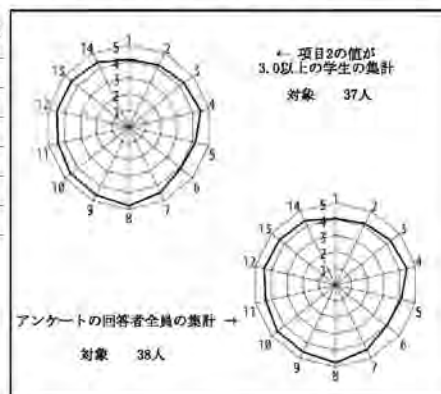
授業評価結果を踏まえた点検・評価

国際教養学部1年次生の必修科目であるが、例年評価が分かれる。満足度（設問14）では、4が約30%である以外は、1、2、3、5がいずれも15~20%であった。多様なトピックを取り上げたつもりであるが、もっと自分の興味に合わせて欲しいといった趣旨の要望が多い。「興味関心のあることについて話が聞けた」という類のコメントがある一方で、「学部生の学びたいことすら把握できていない」、「生徒の興味にあった授業をすべき」という批判もあった。新たな知識／理解の深まり（設問13）で、4と5が合わせて約65%、3、4と5を合わせると約85%であったことから、比較的多くの受講者が学びはあったと感じているようではある。

国際教養学部教員の研究を深いところで結びつけ、政治・社会を対象にするにせよ、人間・文化を対象にするにせよ、本質を追求する視点を涵養することを目的とした科目である。この目的を丁寧に説明しつつ、授業をしたと思っているが、成功したとは言えない。「国際教養学部の到達目標がわかりました」というコメントもあったが、改善すべき点として、「目的がよくわからなかった」、「授業で得られるものがわからないまま、授業を受けた」という趣旨のことが多く記されている。科目の目的が理解されるように講義内容を見直し、また、科目の目的に興味を持ってもらえるようにできる限り工夫をしていく必要がある。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 グローバル化とメディア / Globalization and Media
授業コード 48D03-001
教員名 中村 督
教員コード 102579
登録人数 123
回答数 38
回答率 30.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

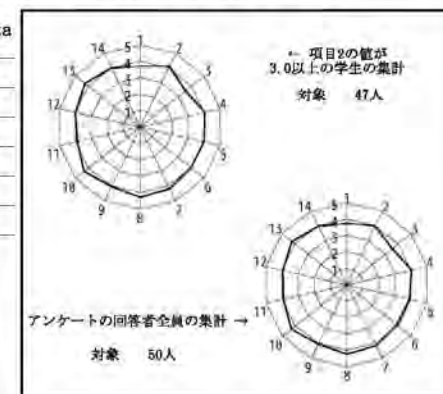


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は3年次生を対象とした国際教養学部の必須科目である。主たる目的は、グローバル化のなかでメディアがいかなる状況にあるのかを理解することにある。そのために、具体的には、メディアの変容を社会との関係性のなかで把握し、次いで各々の国や地域で情報が交流し、それぞれの文化が形成されていく様相を考察することを課題とした。到達目標は「メディアの問題を通じて、政治・社会問題を分析することができる」、「メディアの構造や問題を政治史・社会史・文化史的な観点から考察することができる」、「資料・文献を収集し、ディスカッションを通じて理解を深めることができる」であったが、コメントシートの内容やレポートの内容から知るかぎりでは、いずれもある程度は達成されたと考えている。また、ディスカッションも活発で、各個人・グループの発表も的確な内容のものが多かった。こうした担当者の心証はアンケートにも反映されているように思われる。しかしながら、項目2（予習と復習）については、全体のなかで相対的に低い数字なので改善の余地がある。講義のなかで、予習を促したが、授業外課題や授業内レポートの提示など工夫を重ねていきたい。今回は大人数の授業であったが、少人数の授業においても同様に、受講者が着実に知識を獲得し、知的水準を上げられるように努めたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 グローバル化と開発経済 / Globalization and Development Economics
授業コード 48E04-001
教員名 安原 毅
教員コード 017905
登録人数 93
回答数 50
回答率 53.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

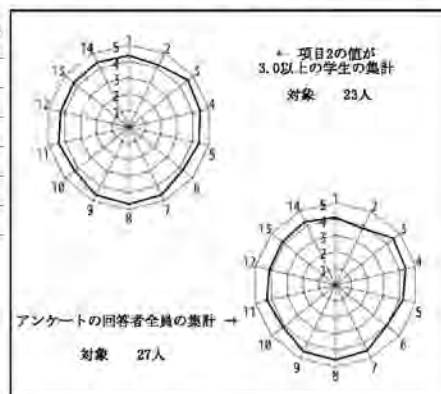
平均値4.0、設問3-14の平均値4.2という結果はほぼ満足できるもので、その意味では当初の授業目標は何とか達成できたと思う。まず回答数を引き上げることがポイントだったが、受講者85人中解答50という結果で、まずまずの数の回答が得られた。これは学科の先生の助言に従って、授業中に時間を割いてスマホから回答させたのがよかったと考える。次に授業内容については、以前の反省も踏まえて、授業中にディスカッションや意見発表の時間をできる限りとった。この点は「自由記述」を見ても肯定的な評価が多かった。

一方で、この教室はマイクが用意されておらず、またホワイトボードの高さが中途半端で後部座席からはほとんど板書が見えなかったようだ。「授業の音が聞きやすかったか」の問いには解答は4.0だが、自由記述ではやはりマイクがあったほうがよいという意見が多かった。

授業内容については、難しかったが説明はわかりやすかったという回答が多かった。この点が特に満足できると考えている。経済学を講義する都合上、ディスカッションの前に理論的フレームワークを理解しておいてもらわなければならない。時間配分に苦労したが、授業の進め方はよかったと考える。ただ「板書を消すのが早い」という意見があったのには、今後注意したい。またおそらく次年度もたがくぶの科目と乗り入れにする予定だが、実は他学部の4年次生3名がいつも前列に着席していた割に、GLSの学生とのディスカッションには参加していなかった。こうした学生同士の連帯形成が今後とも課題と考える。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 サステナビリティと生態系 / Sustainability and Ecosystem
授業コード 48G02-001
教員名 神崎 宣次
教員コード 103280
登録人数 170
回答数 27
回答率 15.9%
休講回数 2 回
補講回数 1 回

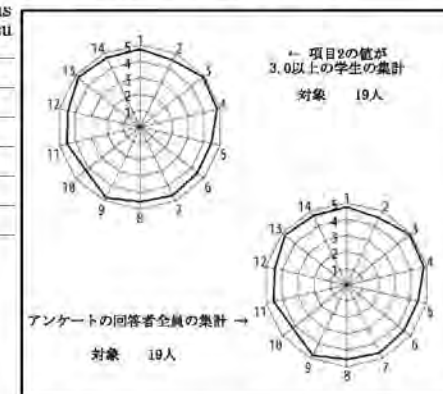


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度については、おおよそ達成したものとする。ただし、3) で述べるような理由のために、授業スタイルの微調整は行った。
- 2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価に関しても、受講生の回答を見るかぎり、大きな問題は存在しないと言ってよいと考える。
- 3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などについては、まず今学期は当初の予想受講者数（70名程度）の2倍を越える数となったために、授業の進め方に多少の変更が必要になった点があげられる。初回の授業中にとったアンケートによって、この授業を理解するに必要な基本的知識を得ることができる授業をとった経験のない受講生がかなり含まれていることもわかっている。そこで、来年度のシラバスで受講のための前提知識などを少し厳しく設定することによって、受講者の数をもう少し減らして、当初の授業デザインに近い人数になるように調整したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 サステナビリティと国際問題 / Sustainability and International Issues
授業コード 48G04-001
教員名 大竹 弘二
教員コード 101968
登録人数 61
回答数 19
回答率 31.1%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 本科目は国際教養学部および外国語学部の3年次生以上を対象とした、今年度初開講の科目であった。はじめて担当する科目だったのでいろいろと試行錯誤があったが、私が専門としている欧米の政治に限らず、アジア・アフリカなどの問題についても広く扱い、なるべく多くの学生のニーズに応えられるようにした。また、国際政治学や国際法についての基礎知識がない学生も理解できるよう、映像資料等を用いながら分かりやすく解説するよう努力した。とはいえ、国際教養学科の科目という都合上レジュメを英語にしたことで、なかなかついてくるのに苦労した学生も多かったようである。
- 当初シラバスで予定していた内容を全部教えるには至らなかったという点は問題であるが、これは学生の理解度を見ながら授業進度を調整した結果であり、やむを得ないことだと考えている。また、思想史に馴染みのない学生にとっては、国際法思想についての部分は分かりにくかったようであり、そのあたりについてはもう少し工夫して解説すべきであった。アクティブラーニングについても、授業への取り入れ方が不十分であったことは否めない。はじめての科目だったこともあり、全体的に授業構成がこなれない感じがかったので、来年度以降もう少し授業の内容や進め方を精査していきたいと思う。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 サステナビリティと国際経済 / Sustainability and International Economics
授業コード 48G06-001
教員名 平岩 恵里子
教員コード 100953
登録人数 11
回答数 4
回答率 36.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

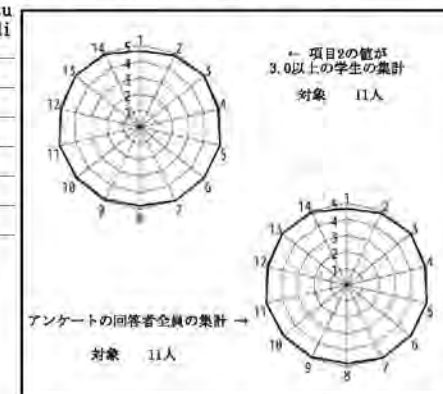
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 本講義の目標は、「国際労働力移動の要因は何か、送出し国と受入れ国にどのような影響がもたらされるか、ヒトの移動を要素移動として国際経済からどのように捉えることができるのか」であり、基本のテキストを輪読することによって、おおむね、達成できたと考えている。
- ② 講義では、テキスト輪読とディスカッション、自主的な研究の発表、という構成にしたが、受講生は積極的に発言し、学ぼうという意思を感じることができた。また、自主的な研究は期待以上に質の高いものが提示された。国境を越えて働く人々を分析する授業は他にはなく、受講生に新しい視点を学んでもらうことができたと感じている。
- ③ 今後の抱負は、国際労働力移動に関する文献は、経済学だけでなく、社会学にも幅広く及んでいるため、なるべく学生の興味関心を引くようにリーディングリストを充実させたい。また、映像を取り入れる工夫をすれば、より活発な意見交換ができると思う。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics: Sustainability Studies C (Religious and Social Studies) <国際科目群>
授業コード 48G09-901
教員名 鹿野 緑
教員コード 101092
登録人数 23
回答数 11
回答率 47.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 英文で書かれたThe Language of Global Success (楽天の英語公用語化)を一冊読み切り、あぶり出された社会言語学的問題について考察し、COIL相手であるNorth Georgia大学の学生とのビデオ会議をとおして意見を構築すること等が、ねらいであった。学生のお大半は目標を達成できていたが、大量の英文を読むことができず、また課題の締め切りに対応しきれない学生が少しいた。授業の構成を工夫し、わかりやすさを心がけた。
- ② 授業アンケートは、全員が答えてはいないが、項目1～14が4.92、項目3～14が4.95と、概ね充実していたようすが伺える。自由記述に、課題が多かったという指摘がみられたが、これは大学授業としては普通の量であったと思われる。COILの相手とのビデオ会議に間に合わせたり、毎週オンラインの報告があったため、忙しさを感じさせていたかもしれない。
- ③ 授業としては大変充実した、本来のアクティブラーニングが実現していた現場であった。教員はほぼ交通整理をするのみで、学生が自律的に学んでいたことが印象に残る。しかし、COILのCanvas活用のコントロールの仕方、ビデオ会議の通信の安定など、次年度の授業を行うときに気をつけるべき課題がわかった。(COILに関して、国際センターの多大なサポートなしでは実現しなかったことを付記する。)

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化の理解5

授業コード 13C01-005

教員名 中田 晶子

教員コード 055624

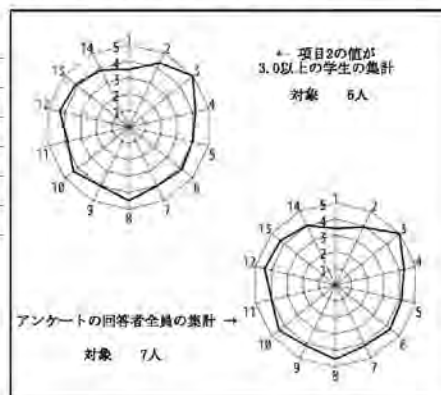
登録人数 32

回答数 7

回答率 21.9%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた4つの目標は、ほぼ到達できたと考える。

②数値データを見ると、1から14の平均が4.21、3から14の平均が4.31で、大きな問題はない数値である。設問1（授業への興味）が3.43と、登録時には授業内容にさほどの興味がなかった学生が多かったようであるが、設問6（到達目標の達成）と設問13（知識・理解の深まり）が共に4.29となった。設問11（意欲を引き出す工夫・自主的な学習の指導）と設問14（全体の満足度）が共に4.0でこの科目の数値評価では最低となったことは反省材料である。

③授業では文献理解を助けるために、写真、絵画、ビデオ等ヴィジュアル資料を数多く提供し、リアクション・ペーパーでは好評であった。レポート作成と自主的な学習のために参考文献リストを示したが、それだけでは不足であったかもしれない。この科目は今回が初めての担当であり、さらに全学向け共通教育科目の講義科目の担当も初めてであったため、手探りの授業運営となったが、学生の理解度や志向性の大半が把握できたので、次回担当時には説明の方法や資料作成を工夫する予定である。

学生による授業評価は、授業の最後に評価のための時間を15分程度取り、リアクション・ペーパーの提出時に各学生に「評価してくれた？」と声をかけている。全員が「やりました」と答えたのだが、実際には出席者21名中7名のみが回答していた。小テストの論述やリアクション・ペーパーの記述においては意欲を感じさせる記載が多かっただけに意外であった。3、4年生が多いクラスであったので「評価疲れ」もあるのだろう。これまで専門科目と必修の英語科目のみの担当であったため、全学向けの講義クラスの難しさを授業評価においても初めて感じる事となった。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ことばとは6

授業コード 13E02-006

教員名 丹羽 牧代

教員コード 055715

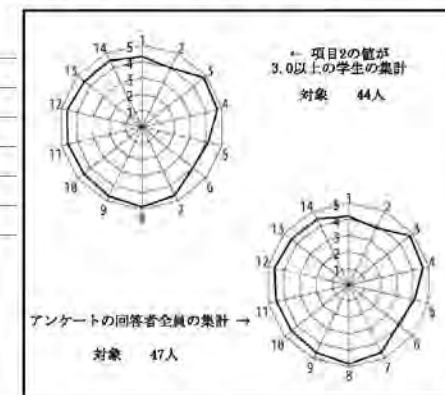
登録人数 69

回答数 47

回答率 68.1%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義の目的は最初の講義に明示した通り「ことばの姿カタチと使われ方を探る」というテーマの入門編である。このことについて学生の理解がどれだけ及んだかについては、実のところもう少し実施サイクルを重ねて検証の余地があるかもしれない。質問項目のうちにこの点についての理解度がほかの項目に比べると低くなっている。点数的な面だけではなく、学生からのWebクラスを通した応答などから、最大の主眼としていることについて今ひとつ理解に達していない部分を感じ取ったからでもある。この原因のひとつに、個々の項目についての学生の理解度は上々であるが、例えば4・5回を通して連続で追ったテーマを俯瞰的に見て考えるという作業が苦手な学生が多いようだということが考えられる。だとすれば、そこも合わせて訓練するような授業構成が必要となってくるであろう。各回の授業に関しては、初年度であった昨年から反省を踏まえて、本日のポイントはどこかということを示すような授業構成としており、その次の回では前回のreviewを必ず行うところから戻ってスタートという形をとっていたが、それに合わせて、「学びたい事柄の、作業工程のうち今どこをやっているのか」をより明確に示すような工夫が必要になるということであろう。ただし、学び考えるという本来自発的な行動について、どこまで誘導的にするのがよいかは考慮する余地があると考えている。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 典礼学(総論)
授業コード 21C46-001
教員名 市瀬 英昭
教員コード 055525
登録人数 10
回答数 4
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

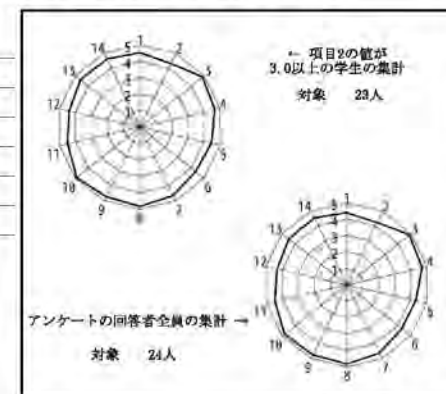
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

レーダーチャートは入手できないが、課題に応える形で提出されたレポートを見る限り、開講当初に設定していた到達目標、カトリック典礼の中心と構造の理解、カトリック典礼の歴史概観、カトリック典礼の人間性回復に資する側面についての理解についてほぼ達成できたと言える。初回の講義において、本コースはキリスト教学科の「専門科目」であり、「総論」というタイトルであっても決して一般的な概論ではない、と断った上で講義を開始した。毎回、資料A4用紙3～5枚を配布しながら解説を行った。最初11名であった受講生中、1名履修取り消し、2名欠席過多となり、キリスト教学専攻の大学院生1名、日本語別科を修了して間もない神学生2名、日本人神学生1名、そしてその他キリスト教学科生という状況となった。大学としての専門性を失うことなく講義を続けるための工夫をしたが、キリスト教に関する初歩的な基礎、あるいは、日本語の基礎が十分でない受講生も混在している中での講義は容易ではなかった。しかし、自由記述欄のおそらく留学生の記述に「良く準備をして授業をとりました(講義をしてくれた、の意と思われる)。たくさん本を紹介してくれました」とあり、少しは報われた感もある。ちなみに、ポイント5は30ヶ、ポイント4は16ヶそしてポイント3が2ヶという集計となっている。今後も専門性を落とさず、受講生の状況を考慮に入れつつ、講義を行うこととする。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 行政法各論
授業コード 44C04-001
教員名 豊島 明子
教員コード 101192
登録人数 58
回答数 24
回答率 41.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

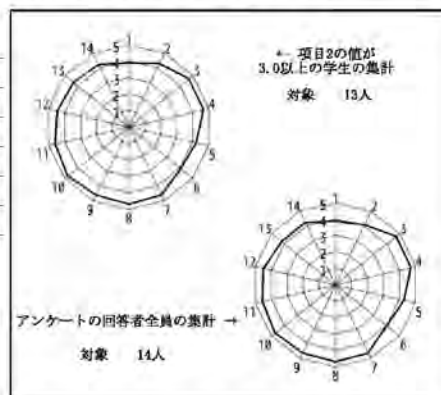
行政法各論では、例年、公務員志望の学生が多数いることを考慮し、地方自治法分野を中心に扱う授業をしている。したがって今年度も同分野についてかなり詳細に授業を展開した。ただし、授業計画では、これ以外にも警察や社会保障といった行政の各分野の法律問題も扱う予定にしていたので、地方自治法の講義に時間の大半を費やし、他の領域法に手が回らない結果となった点は、反省点である。

しかし、学生の評価は、全体として非常に良かった。自由記述でも、「興味深い講義だった」、「実際の社会で起こっている状況も取り上げることで、実務上の内容を教えてもらえたところが良かった」、「地方公務員志望であるならば知っておくことが当然であるような問題をしっかり取り上げられており、将来に役立てたい」、「春から地方公務員として働きますが、自分の理解が不足している実務について深く知ることができて、とても有意義な授業でした」など、学生からの好意的なコメントが複数あった。

以上を踏まえると、行政法各論は、思い切って地方自治法に特化した授業にリニューアルしても良いのではないかと感じている。3・4年次配当の科目でもあるので、公務員という具体的目標を持った学生が多く履修する可能性が今後もあり、この点に鑑みても、その方針が良いのかもかもしれない。この点も含め、さらに有意義な授業になるよう引き続き検討したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民事執行法
授業コード 44C21-001
教員名 石田 秀博
教員コード 101939
登録人数 44
回答数 14
回答率 31.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

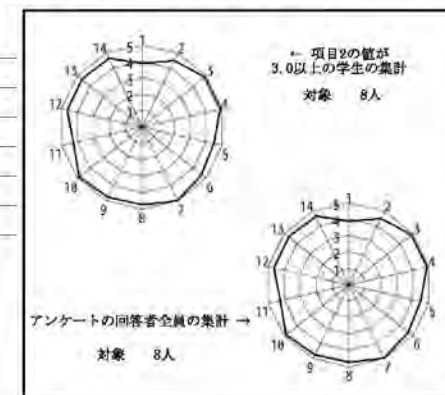
開講当初の設定目標は、「民事執行・保全手続につき、その全体像を把握することができる。権利の実現場面における基本的問題点につき理解することができる。」の2点であったが、項目3～14の平均が4.49、項目6に対する評価が4.00ということで、ほぼ到達できたと考えている。

項目平均値、個々の評価とも、基準はクリアしており、また自由記述欄の「良かった点」として、「丁寧な解説」「印象が良かった」との評価からも総合的に本年度の講義については肯定的に評価できていると考えている。ただ、「改善すべき点」として、以下の点が挙げられていた。まず、「やや設問の解説のスピードが速く、理解度が不十分な時だと、追いつかないのもう少しだけゆっくりやってほしい」との意見がみられた。講義内容から制約があるものの、今後、十分に留意したい。次に、「内容が理解しづらく難しかった。」との意見もあった。より平易で分かりやすい講義に努めたいが、本科目の性質上、民法・民事訴訟法の習得が前提となっており、講義開始時にも、シラバスにも記載している通りであるので、履修の際にはその点にも十分留意して頂きたい。

今回の評価では、これまで課題であった項目11（学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。）が4.57と比較的高い評価であったが、今後も学生の学習意欲をより引き出すように努めていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 学校教育心理学2
授業コード 15A05-002
教員名 大塚 弥生
教員コード 000065
登録人数 42
回答数 8
回答率 19.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問13（新しい知識の獲得・理解度の深まり）の平均値が4.63、設問14（授業満足度）の平均値が4.63であり、設問1を除くすべての項目において4ポイント以上であったことから、本授業の目標は達成できたものと考えている。特に、授業の開始と終了、授業の校正や進行速度、担当教員の姿勢については高得点を得ており、引き続き維持していきたい。

自由記述においては、この授業の評価できる点として「映像が利用されていてわかりやすかった」ことが挙げられていた。本授業では教科書を使用しているが、言葉だけでは伝えきれないことも多く、映像を通して実際を知ることが役に立つと思われる。次回の授業においても引き続き使用していきたいと考える。

一方、授業において改善すべき点として「質問されてもすぐに出てこない」ということが挙げられており、受講者から質問を引き出す工夫をしていくことが今後の課題として考えられる。また本授業では、5回にわたってレポート課題を出しているが、その情報がきちんと伝わっていないことが見受けられた。授業内で伝えていることであるが、聞き漏らす学生もいたと思われる。成績評価の対象となることであり、学生にとっては重要な情報であることから、複数回にわたって情報提供をするように心がけたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 比較教育学

授業コード 23C14-001

教員名 五島 敦子

教員コード 101282

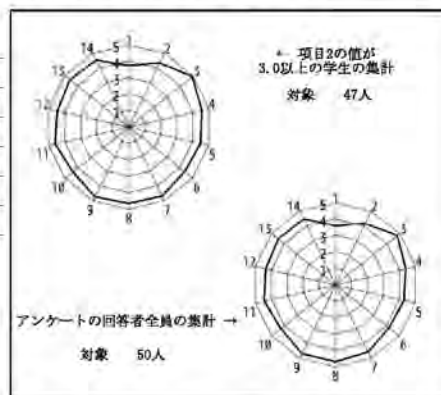
登録人数 77

回答数 50

回答率 64.9%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、比較教育学の概論科目である。履修者約80人で例年よりやや多かったが、当初の予定どおり、プレゼンテーション、ディスカッション、ウェブクラスでの意見交換などによるアクティブラーニングを心がけて展開した。問1)開講前期期待値は3.60と低く、授業内容には関心が薄かったと推察されるが、問14)総合満足度は4.44であったことから、当初の授業目標は達成できたと考えられる。また、問9)学生の理解度・教材等の効果4.68、問7)講師の熱心さ4.58、問3)時間の開始・修了4.84等の数値により、講義の計画・実行が適切であり、学生と十分なコミュニケーションが取れていたと考えられる。自由記述でも、「教授の熱意を感じた。資料なども興味を持ちやすいものが多く分かりやすかった」「聞くだけではなく、自分で行うプレゼンや、グループワークによりコミュニケーションをとることができ、授業に参加している感覚がある」「主体的な授業で力がついたと思う」「音声聞き取りやすい」と高く評価された。しかし、「話し合いが後半になるにつれてざわざわする」「マイクの音が大きすぎる」など、大教室での運営面では改善が必要である。本年度は遅刻を重ねる学生や授業中に後ろの扉から出入りする学生がみられたように、学生の質の変化にも留意が必要であるため、次学期は、ディスカッションや受講のマナーなど、基本的な指導も工夫したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際産官学連携PBL C

授業コード 14F03-001

教員名 藤掛 千絵

教員コード 104116

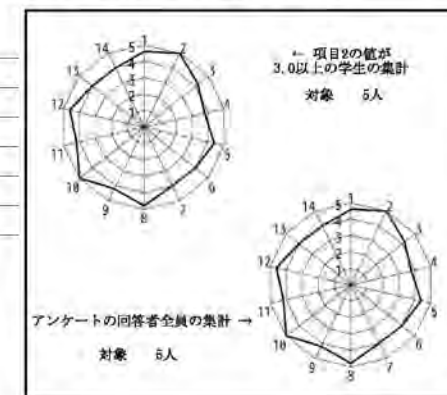
登録人数 7

回答数 5

回答率 71.4%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【到達目標】

1. 問題や課題を理解し、客観的にとらえることができる
→初回授業で連携企業の社員の方々が、本授業におけるプロジェクトに関する背景やプロジェクトのおおまかな進め方などを講義してくださったため、背景知識などを身につけた上で取り組むことができた。
2. グループ内で、問題や課題に対する解決策をいくつか提案し、建設的な議論ができる
→グループで話し合いを行いながら最善のアイデアを模索し、企業から提供されたプロジェクトの趣旨から外れないように建設的な提案ができた。
3. 異なる文化背景をもつ学生がいる中、グループ内で意見をまとめ、最適な解決策を提案することができる
→グループによっては、意見がまとまりずらかったケースも見られたが、総じて有意義な議論ができた。

学生の欠席はほぼ無く、非常に積極的・主体的な態度で終始プロジェクトに臨んでいた。授業時間外でのグループワークも必要に応じて実施していたと聞いている。また、最終レポートには各自が感じたことや学んだことを報告したが、指定した最低字数をはるかに超えた振り返りレポートを提出した学生がほとんどだった。

企業とアメリカの大学との連携授業であったため教育的に得たものは大きかったが、プロジェクトのマネジメントという観点では課題も多く残った。今後は連携体制の改善を課題として、よりスムーズにプロジェクトが進むようにしていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報リテラシー

授業コード 14D01-001

教員名 栗原 寛明

教員コード 103522

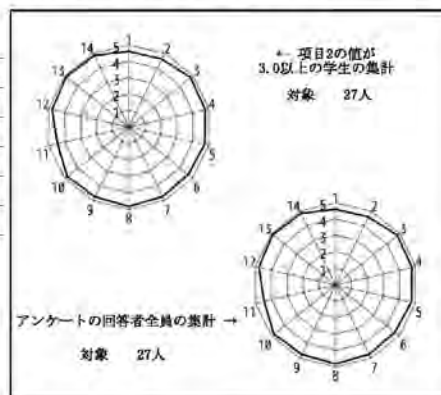
登録人数 30

回答数 27

回答率 90.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は、電子メールを送受信できる、Wordを用いて文書を作成できる、Excelを用いて表とグラフの作成や簡単なデータ分析ができる、PowerPointを用いてプレゼンテーション資料を作成できる、の4点であった。最終レポートを含むすべての課題を提出し、積極的に授業に取り組んだ受講生については、到達目標をおおよそ達成しているとみなしてよい。特に、文書の作成とプレゼンテーション資料の作成に対して理解を深められたと思われる。

授業では、各受講生の当初の理解度やスキルが異なることが予想されたため、全体に対する説明は最小限として受講生が自分のペースで課題に取り組む時間を可能な限り確保し、疑問点については個別に解説するように努めた。大半の受講生は授業に真剣に取り組んでおり、理解を深め各自の能力を伸ばすことができたのではないと思われる。今回はすべての課題を必須として課した。多くの受講生にとって適切な分量であったと考えているが、理解度やスキルの違いから一部の受講生には物足りなかった可能性がある。オプションとして発展的な内容の課題を用意しておくことは一考の余地がある。授業では、レポートの作成とプレゼンテーションの準備に関して一般的な説明を行い、対応する内容の課題も課したが、より効果的なものとするために課題の内容やフィードバックの方法についての継続的な検討が必要である。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIオーラルコミュニケーション[P]9

授業コード 11A03-028

教員名 FILER, Benjamin

教員コード 103850

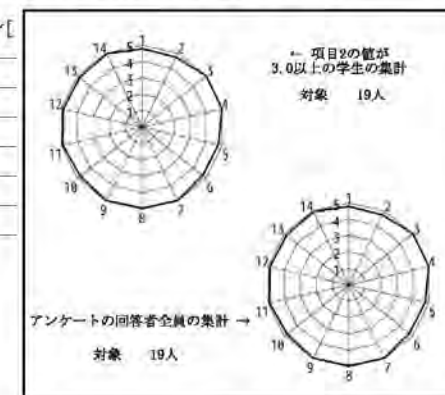
登録人数 20

回答数 19

回答率 95.0%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

There are a variety of course goals set at the start of the academic year for this course. Therefore, by looking at one quarter it is not possible that all of the goals can be achieved. However, it seems apparent that this particular class are well on course to be able to achieve the goals by the end of quarter 4.

I am extremely pleased to see the results of the students' feedback. They have given positive ratings and comments which is very satisfying and makes me feel that my hard work is appreciated.

In terms of looking forward to the future for this particular class, I think I will need to rethink the materials that are used. We are currently using a published textbook, with supplementary materials provided by myself. However, I think I will endeavour to write a course book for this class in the spring vacation ready for the academic year in 2020. This would mean that the classes can be more tailored to suit the specific needs of this level of university students in Nanzan. Furthermore, it will force me to update, edit and improve the lesson materials, which is beneficial to both the students and myself.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[FB]1

授業コード 11A07-001

教員名 LOTT, Danielle

教員コード 103593

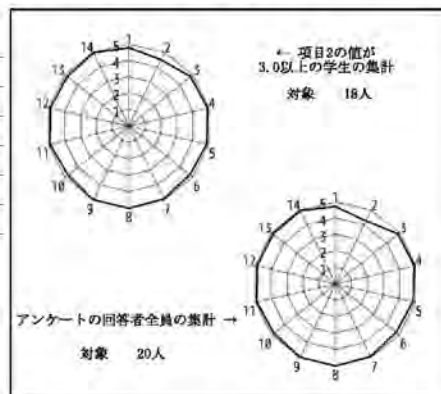
登録人数 22

回答数 20

回答率 90.9%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) My goal was to develop students' literacy with extensive and intensive reading and writing. I countered accuracy issues with instruction of common errors and personalized feedback on their writing assignments. Different to previous years, I taught creative writing. To that end I also introduced the features of short stories and poetry, including the writings of native speakers. The biggest success has been in teaching creative writing, since students at this level are already proficient in formal writing and less experienced in self-expression. Features of fiction writing such as descriptive language have consistently appeared in their writing projects. Another change was the implementation of writing portfolios in their final assessment each quarter, which was successful because students could reflect and write final drafts. 2) Based on the numerical data and comments, the course was a success. 3) While the skills and content in my current textbook were useful, the vocabulary and readings were not challenging enough. Next year, I'll make the vocabulary learning app. that we've been using optional, and I'll try the next difficulty level within the same textbook series.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[FB]6

授業コード 11A07-006

教員名 OTTOSON, Kevin

教員コード 103121

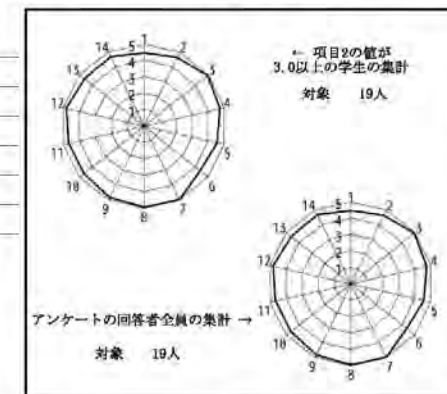
登録人数 21

回答数 19

回答率 90.5%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) We are progressing toward the goals for the end of the year. Most students are able to say that they are getting close to achieving the goals for this class. We still need to work on adding more length to our essays through more examples, explanations, and data. Furthermore, we need to work on gathering information and citing our sources. 2) 4.37 was the lowest score that I received. This was in regards to whether they feel they are reaching the goals for this class. Perhaps, this could have been higher had I asked the students to fill this out after the completed their last quiz and last essay. After seeing their feedback and self-assessing their progress, they might have been able to answer this statement with more confidence. 5.00 was the highest score in regards to sincerity and seriousness of the teacher. I guess this might be due to offering more time to meet with each student one on one and writing more feedback on their papers. I am also very concerned with them as this is their first year in university and adapting to university life can be quite difficult. 3. I will do more to provide explicit feedback through a variety of methods to help the students improve.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[FB]7

授業コード 11A07-007

教員名 HOWREY, John

教員コード 100371

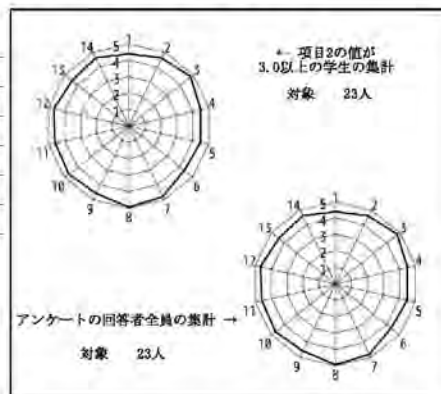
登録人数 25

回答数 23

回答率 92.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course is designed to help students communicate effectively and clearly in writing in English. Students focus on analyzing audience, summarizing, quoting and referencing sources, using more academic language, combining sentences for greater variety and grammar proficiency, and writing professional email and business letters as well as short (500-750 word) essays.

I was pleased with the results of the questionnaire and with student progress. More students are getting As and A+s in Q3 than in Q1 or Q2.

I think the positive results of the questionnaire are a reflection of student improvement and greater confidence in their writing. The most common comment was that students felt they could improve and that they received a lot of advice on their writing. Students felt I could explain key concept and grammar rules easily and gave them enough individual support. They also liked the fact that they had multiple times to re-write their work and improve their papers. I have no plans to change the course except that I will no longer use the assigned textbook and will use my own materials.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[B]4

授業コード 11A07-011

教員名 BROADBY, Deborah

教員コード 103594

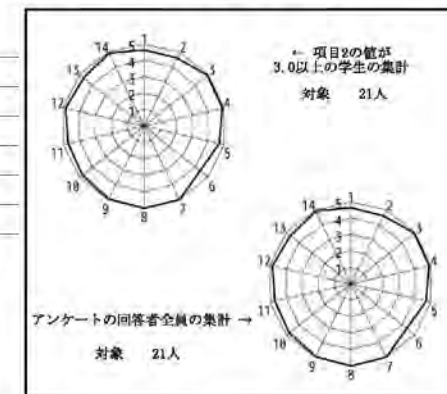
登録人数 22

回答数 21

回答率 95.5%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe that the goals set at the beginning of this course were met to a high degree. While the numerical data and comments were positive, I believe that as a teacher I can always try my hardest to improve my teaching and learn from my mistakes. From the results, I was pleased to notice that 21 out of 22 students in the filled out the questionnaire. I hope to continue to listen, adapt and modify my lessons to suit the needs, level and interests of my students. I will also continue to ask my peers and senior advisors for advice on ways to help me be a better teacher. I would like to continue to create a positive and enjoyable learning environment for my future students.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[P]4

授業コード 11A07-023

教員名 都築 千絵

教員コード 103924

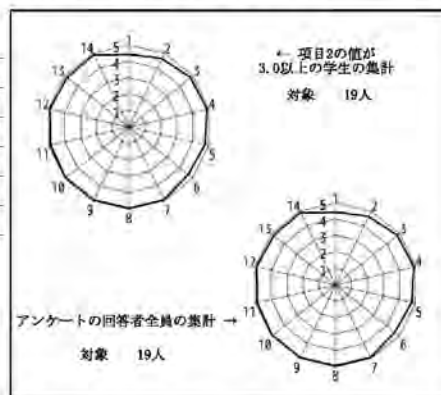
登録人数 20

回答数 19

回答率 95.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、1年生の必修英語科目で、1年間を通して英語を読む力と書く力を伸ばすために、それぞれ細分化された目標がシラバス上で設定されている。学生は第1、第2クォータで学んだことを基礎に第3クォータでは、英語を読む量・書く量ともに増え、年間目標をすでにおおむね達成している。このクラスは1人学期途中で出席しなくなった学生を除き、出席率が良く、学生の集中力も高く、リラックスしながら高い学びが得られたと思っている。

アンケート結果は、項目3から14の平均が4.88と高く、バランスのとれた結果であったことを嬉しく思う。一番低い値(4.63)であった設問6は授業の到達目標に関する設問であった。自由記述にあった「英語の文章を書くレベルが上がった」という感覚を持てる学生を増やしたい。その他の自由記述では、良い点として「先生が優しい」と3人の学生が書き、「レポートの添削が丁寧で課題に取り組んだ甲斐があると感じられる点」「とてもわかりやすい解説で、理解できた」など嬉しいコメントがあり、「楽しかった」という大事な意見も聞けて良かった。

今回の授業評価の結果を踏まえ、到達目標の理解の確認と目に見える形で到達目標に向かって力がついてきていることを示す工夫をしていきたいと思う。また、学生の課題へのフィードバックを質量ともに維持しながら、楽しい雰囲気を保ちながら指導していきたいと思う。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[G]6

授業コード 11A07-037

教員名 TAYLOR, Jamie

教員コード 104100

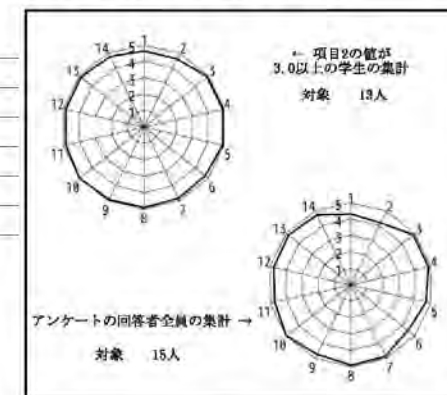
登録人数 18

回答数 15

回答率 83.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

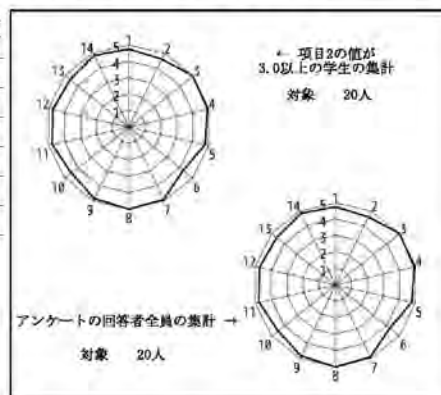


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals for quarter 3 were to improve writing fluency, to continue building skills with essay writing, to improve our vocabulary, and to improve our reading skills. Overall, we made progress in writing fluency and essay writing, but I hope to make more progress with vocabulary and reading skills in quarter 4.
2. It seems quarter 3 went fairly well based on the evaluation and comments. I will be sure to continue speed writing in class as many students commented that this was helpful. I also saw an improvement in the number of sentences the students were able to write throughout the quarter. I will also use vocabulary games more often to review the vocabulary.
3. In quarter 4, we will do more practice with reading, although the goals of the last quarter are somewhat different from those in quarter 3. We will have to spend a lot of time writing in this quarter again. We will do more in-class intensive reading practice, and we will do more TOEFL essay practice. We will spend less time using the textbook exercises as these seemed confusing for the students. I hope to find ways to use vocabulary more creatively in class.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[
FA, FF, FS, FG]5
授業コード 11A11-019
教員名 KUMAI William N.
教員コード 000204
登録人数 20
回答数 20
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

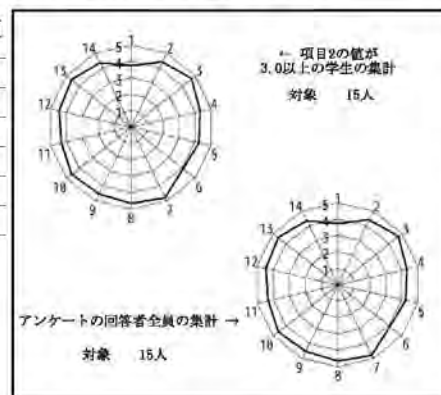


授業評価結果を踏まえた点検・評価

A required course in English conversation and reading for non-majors is ever the challenge to maintain not only the use of English during activities but also the motivation towards participating in them. This class attempted to achieve the balance between active participation and fluency versus the pedagogical goals set out in the syllabus. Most of these goals were reached but they were not set out as in a grammatical or functional syllabus in a textbook but came naturally in appropriate use order. Thus students may not have noticed which of the pedagogical points were being engaged. Nevertheless, student comments indicate high interest and motivation, which for language learners, will last beyond the end of the class. Students in the class have grown tremendously and are able to carry on long conversations among themselves in English. For the next quarter more project based learning activities will be implemented.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[
S]1
授業コード 11A11-049
教員名 BAILDON, MARTIN
教員コード 102326
登録人数 16
回答数 15
回答率 93.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

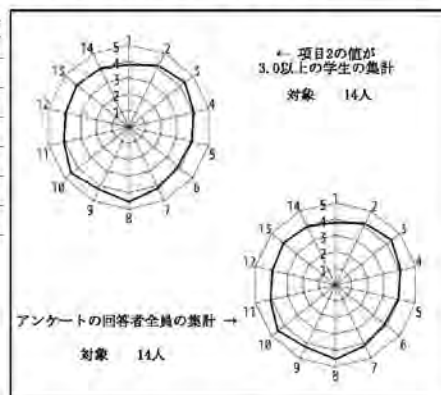


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am satisfied that the vast majority of students recognise my sincerity (Q7) and that I focus students on appropriate tasks without allowing distractions (Q10). I feel that most students are trying their best to improve and are reaching a higher level of English as reflected in the written comments. Students also commented that I provide enough feedback and individual care fairly. However, feedback from the questionnaire shows that most, but not all the students are clear about the goals of the class (Q5). Also, several students still feel they can offer more in each class (Q6). Several comments referred to presentations in things that I can improve. I agree with comments which refer to students needing more time to prepare in class and I will implement this in future lessons by providing topics earlier in the course. I will also offer more activities like those of job interview situations as referred to in the comments. Two students commented on amount of homework and I will explain how students can use time allocated for homework effectively. A response of "1" was recorded by a single student for several questions I will try to make all lesson tasks fully inclusive.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIコミュニケーションスキルズ[S]1
授業コード 11A15-001
教員名 KLUGE David E.
教員コード 100398
登録人数 17
回答数 14
回答率 82.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



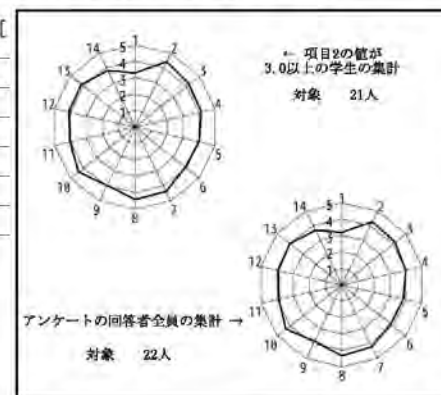
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of the class were to improve reading and speaking skills. Reading was assigned each class and the second class of the week was dedicated to reading. Students practiced conversational speaking in each class, information transaction, and discussion every week, and one speech for each of three units, practicing and evaluating each one several times. The two main goals of the class were achieved but could be emphasized even more in the future.

The overall average of student evaluations was 4.11 (Q1-14) and 4.14 (Q3-14) which is good. The lowest score of 3.79 was for Q1: Were you already interested in the content of the course before you enrolled? Expectations were low at first. For the course in general, the highest score (4.36) was for adhering to start and end times and teacher sincerity/effort (4.14), both of which I worked on this quarter. The lowest scores were in student understanding of the goals (3.93) and goal attainment (3.86). In addition to the course description, students had to fill out self-evaluations after each class for each of the goals. In terms of class management, highest scores were for vocal volume (4.57) and discipline (4.50) which was good. The lowest score in this section was for adequate time for questions (3.93). I thought I created a good atmosphere and adequate time for asking questions and talk with each student as they leave. I will have to ask if there are any questions more often. Overall, I am satisfied with the evaluation.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIコミュニケーションスキルズ[S]4
授業コード 11A15-006
教員名 TIDMARSH, Andrew
教員コード 104101
登録人数 22
回答数 22
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

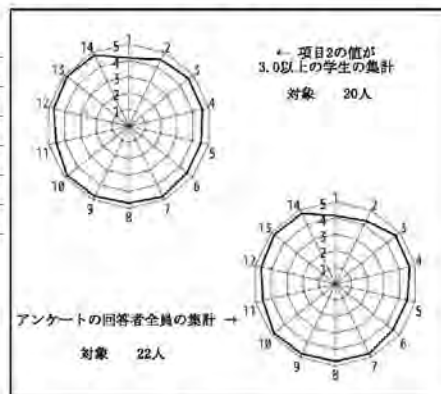


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The main goal of this class was to integrate reading and speaking targets by using the same source material. Student accountability was increased by adding a groupwork element. The two final products were group-produced presentations and individual reports on the reading materials. This approach achieved the main goal. The secondary goal was to increase student attainment in both areas by increasing the challenge and the level of accountability. Students who took this class seriously improved a great deal compared to their progress in Q1 and Q2.
2. Based on the level of motivation and attitudes towards learning English of these students, I think it would be difficult to achieve a significantly higher score for each criterion due to preconceived ideas and the different goals of the participants regarding university education.
3. I will tweak the approach to reading in Q4 so that materials can be more personalised. This is because there is a disparity in levels within the group that can best be addressed using personalised materials. Furthermore, student's interests differ greatly and this can be addressed very well, again using personalised materials.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語ライティング<HA, HP, HJ>3
授業コード 11A17-013
教員名 GOTOH, Mie
教員コード 100186
登録人数 24
回答数 22
回答率 91.7%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



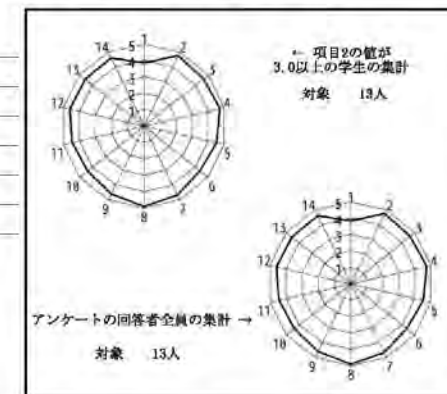
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では、英語でのParagraph Writingのルールを覚え、様々なトピックについて書けるようになることを目標にしました。Timed Writingも行い、決められたトピック、時間でできるだけ多くの文を英語で書く練習もしました。そして、ブラインドタッチでパソコン入力ができることも目標にしました。生徒のコメントには、「英語のライティング能力だけでなく、タイピングの能力も同時に上げることができた」と、タイピング指導を評価したものもありました。他には「丁寧に指導してくれるところが良かった」「たくさん英文を書く練習ができてよかった」などの内容が多かったです。

正しい書き方を覚えることにより、生徒の1クォーター間でのWriting力は伸びたように感じました。今後の課題としては、毎回の授業での到達目標を明確にし、生徒にも着実に力がついていることを実感してもらえるように工夫したいと思います。これからも、一人でも多くの生徒に英語の楽しさ・おもしろさを伝えられるような授業作りに努めたいと思います。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語ライティング<S>3
授業コード 11A17-025
教員名 ELLIOTT, Darren
教員コード 101579
登録人数 16
回答数 13
回答率 81.3%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Generally speaking, I was pleased with the outcomes of this class. The students are not proficient users of English, and along with that can come issues of demotivation, anxiety and poor learner behaviours. For those that attended consistently, and submitted the assignments, I felt that learning took place. The students were certainly able to produce five paragraph essays on a variety of topics, in various genres, to the required standard. There was also little evidence of plagiarism or machine translation. Students commented that they appreciated the teacher's kindness, and constructive feedback. Unfortunately, although this class was initially oversubscribed, there were a number of students who dropped out or stopped attending, along with others who missed classes and assignments. To some extent, that is something they have to take responsibility for themselves (especially as this class is for senior students). However, it does affect the atmosphere of the class and is reflected in the lower scores I received for items ten and eleven on the questionnaire. I wonder how I will square this better when the new cohort joins in quarter four - especially as it looks like being a much smaller class.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語III<E・B>1
授業コード 11B03-006
教員名 OLIVERO, Regis
教員コード 104119
登録人数 13
回答数 1
回答率 7.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Since very few students (of an already reduced group) filled in the evaluation report of the quarter 3 and given that the evaluation datas are not available, it is complicated to comment and draw conclusions about it.

However, from my point of view, a few statements can be made and compared to the previous quarter, some evolutions in the learning process are noticeable.

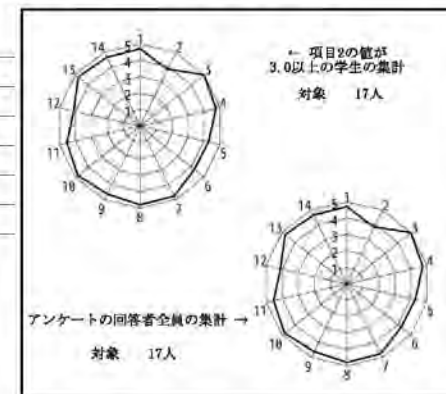
First of all, all students, one excepted, passed the quarter final test and a few of them did remarkably well.

I have noted real improvements when it comes to written expressions, reading and comprehension. The students know now what is expected from them and what it takes to succeed. They are all familiar with the learning routine, even those who are struggling, and nobody is "lagging behind". Instructions are well understood and when it is not the case, students tend to collaborate and help each other better. Therefore, a better learning environment in the classroom leads to a better communication.

On a more negative standpoint, I would like the group to be a bit more proactive in their oral expressions and interactions. But things are evolving in that area too, even though at a slow pace.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語VI[FG]1
授業コード 11C06-003
教員名 梶浦 直子
教員コード 102557
登録人数 19
回答数 17
回答率 89.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の到達目標は、ドイツ語の基礎知識を覚えることでだけでなく、ドイツ語の運用能力を習得することにある。授業では多くのグループワークを取り入れ、学生は積極的にグループワークに参加することが求められた。

調査対象のクラスは、学生同士の仲が良く、活発に意見交換しながら、協力的に課題に取り組んでいた。自由記述からは、学習者が積極的に参加している様子がうかがえ、授業の進め方に関して評価されていると判断できよう。

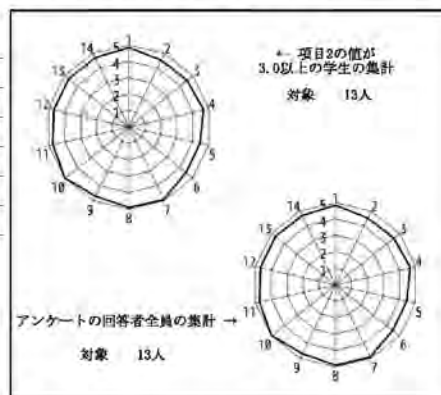
設問2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」の評価が(3.82)と低いことは、この授業において予習を求めていることに起因していると考えられる。とはいえ、復習にもあまり取り組んでいないことも予想される。

また、設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」(4.24)の評価が低いことから、学習者は自身の学習成果を十分に評価していないことがうかがえた。

今後はこれらの点に留意し、授業においてこれまで以上に授業の目標を明確に伝えるようにし、授業内においても気軽に質問できるような環境づくりを心掛けたいと考えている。加えて問題や不安がある場合は設けている学習相談の機会を気軽に利用してもらえるように努めたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語V[FS]2
授業コード 11D05-002
教員名 LANDEROS NERI, Sergio Gustavo
教員コード 103688
登録人数 13
回答数 13
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

We were working on developing a communicative competence that allows students to:

- be able to talk about food and their content.
- be able to talk about use proper measurements for uncountable nouns.
- be able to talk about professions and studies.
- be able to talk about previous experience.
- be able to talk about its own capabilities.
- talk about appointments, schedules, etc.

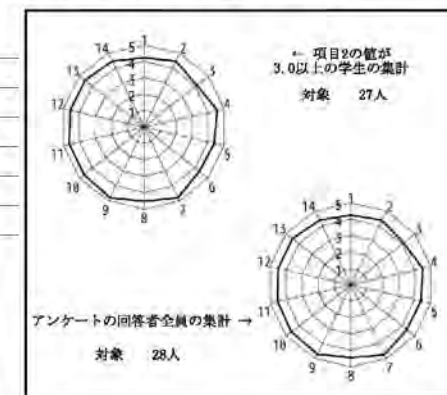
In order to achieve that students learned to:

- describe and evaluate food.
- ask for the content or ingredients of food and answer such questions.
- use the right counters for countable and uncountable nouns related with food.
- use the impersonal form "se" to express the passivity of subjects.
- talk about their own abilities and the ones from other people.
- evaluate the abilities needed for a job or profession.
- talk about previous studies, work and experience in those fields.
- talk about dates, hours, days and their parts.

As for the results of the survey, as it can be interpreted in the graph, the answers of the students were positive compared to the media. Still there is more work to do in the next quarter.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語III<H>2
授業コード 11F03-002
教員名 虞 萍
教員コード 101432
登録人数 30
回答数 28
回答率 93.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

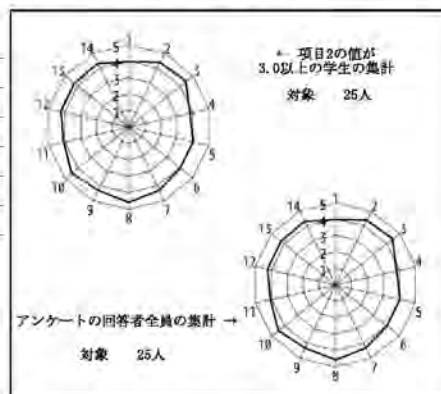
今期も学生から高い評価を得ています。設問15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」という設問に対して、学生から「質問をしたとき、丁寧に答えてもらった」「先生が本当に良かった。中国語に対する意識が変わった」「小テストを行うことで定期的に復習できた」「練習の時間を多くとっていた」などのコメントをいただきました。普段から真剣に授業に取り組む姿勢の誠実さは学生に感じていただきました。

また、学生が中国語の勉強に興味を湧くように、授業では時間が許す限り、中国語の勉強以外、中国の文化や中国人の習慣、日中文化の差異などのことについても紹介しました。多くの学生は興味津々に耳を傾けてくれました。

今後も学生の学習意欲を最大限に引き出せるような指導方法を模索したいと考えています。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 韓国朝鮮語III<J・P>1
授業コード 11G03-005
教員名 陸 心芬
教員コード 101225
登録人数 30
回答数 25
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q3の授業目標にしていた、初級レベルの基礎文法の習得や基礎会話ができることについて、おおむね達成したと言える。学生による授業の評価の設問項目の平均値が4を超えており、評価にそれが現れていると思われる。

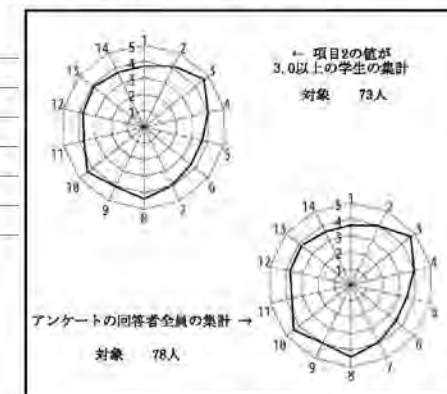
今回の基礎文法の重点は、用言の活用が自由自在に対応することだった。用言の語尾が文法的な要素と組み合わせることで様々なパターンに変わるので慣れるまでには多少時間を割り当てる必要があった。学習プリント及び宿題のチェック、小テストの段階を通して学生の間違いやすい所を繰り返しながら確認と指導を行った。特に個別チェック及び細かい説明と練習を重ね、学生の理解が深まるようにした。

学生の自由記述欄の良かった点としては、「丁寧に教えてくれること」「レジュメ」「ハイテンションなユク先生の授業なのでとても楽しく学べている」「解説が分かりやすい」「歩き回るって、間違いを指摘してくれること」があった。

改善すべき点としては、「毎回同じようなやり方だと時間が長く感じた」があった。この点については昨年度では良かった点として「授業の進み方のパターンが決まっているので取り組みやすかった」と挙げた部分であったので、今年も昨年度と同じパターンで行っていた。今回の反対の意見を参考に多様性のある授業になるよう工夫していきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ことばとは5
授業コード 13E02-005
教員名 石崎 保明
教員コード 102444
登録人数 117
回答数 78
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の対象科目は昨年度同クォーターでも担当しており、昨年度と同様、可能な限り日常的な事例を題材とすることによって、言語学を学んだことのない学生にも言語の仕組みや奥深さを学んでもらうことを念頭に授業を行いました。同科目はシラパスの変更が難しいことから、基本的には昨年度と同じ題材を用いて、昨年度の授業で内容がやや難しかったという反省から、できるだけ細かく説明をすることを試みました。今回の評価結果を昨年度の同科目に対する評価と比べると、項目10を除くすべての項目で昨年度を下回る結果となりました。特に今回の結果では、昨年度はほとんど無かった2や1の回答が目立ちました。項目14に1を付けた学生の半数以上は項目1にも1と回答しており、当初より言語に関心を持っていなかった受講生に対して、結果として関心を向けさせることができなかったことについては、反省点として今後に生かしていきたいと思います。自由記述については、講義の仕方に対して好意的な意見が数多くあった一方、それとは相反する意見もあり、大教室で講義することの難しさを感じました。来年度の修正点としては、シラパスの変更は難しいのですが、昨年度以上に情報量が過多であったことを反省し、例えば数回の講義では理解が難しい理論言語学に関わる部分を一部削減して時間配分に余裕を持たせるなど、過度に専門的になりすぎないような題材を選びたいと考えています。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語教育文法(初級)2

授業コード 24C61-002

教員名 町田 奈々子

教員コード 017483

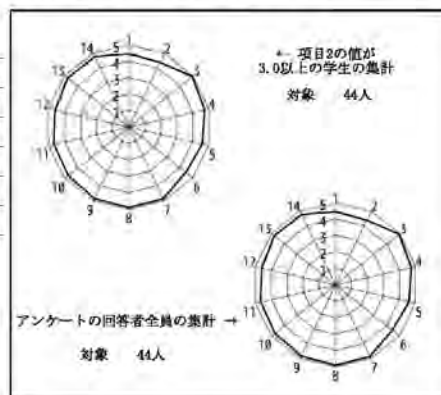
登録人数 57

回答数 44

回答率 77.2%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度のQ3も全学平均、学科平均より高い評価を受けることができ、大変良い結果であった。学生も全般的に見ると真面目に授業に取り組む姿が顕著であり、この授業の到達目標はほぼ達成できたと思われる。まず、設問ごとに見ると、満遍なく高い評価であったが、運営面(3)(8)だけでなく、授業に対する誠実な姿勢(7)や「学生の理解度への配慮(9)」が4.8以上と高い評価を得られたのは喜ばしい。さらに知識の深まり(13)全体的な満足度(14)も高い評価を得ることができたので、今学期も授業としては成果を上げることができたと言える。

自由記述にも「説明がわかりやすく丁寧で面白かった」「説明がわかりやすく身になる授業だった」「実際に授業してくれるのでわかりやすかった」「熱意を持って指導してくれた」という教員の説明に対するプラスの評価や、「聞くだけでなく、例文を考えたり実戦形式なところが良かった」「学生に積極的に授業参加することを求めている点よかった」「ペアで話し合うことができた」など、今年度もこちらが意図していた学生の積極的な参加を促す授業運営、そして内容に関する「資料がしっかりしている」「日本語教育入門としてとても親しみやすかった」などプラスの評価が多くあったことは喜ばしい。今後と同様の評価を得られるように努力したい。

改善すべき点として自由記述に「言葉の語尾が低くなったり、小さくなることが多いため、たまに聞きづらいことがあった」というコメントがあったので注意したい。「ペアがうまく作れなかった」というコメントもあったので、今後配慮するようにしたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ科学論2

授業コード 12D08-002

教員名 飯田 祥明

教員コード 103610

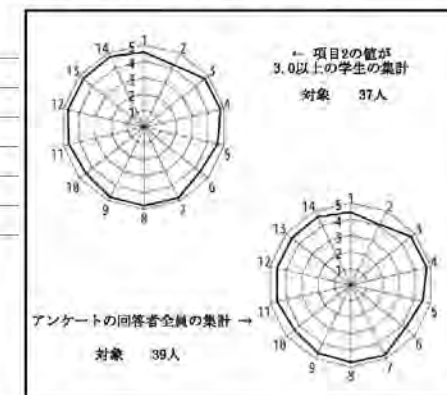
登録人数 59

回答数 39

回答率 66.1%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

「運動の仕組みについて理解・説明できる」「トレーニングによる適応について理解・説明できる」の2項目については、各テーマの中でも時間をかけ解説したためリアクションペーパーでも理解度が高まったという回答が多かった。また、最終レポートでも題材として選択する学生が多かったことも学術的関心を引き出した結果だと考えられる。「食事・休養などの生活習慣について理解・説明できる」については扱った時間は多くはなかったものの、生活に密接に関わった内容であるため、リアクションペーパーでは、理解度が高かったという回答が多かった。「学んだスポーツ科学知識の実践」については、最終レポートで同テーマを選んだ受講生は達成できていたが、その他の受講生については把握が難しい。このテーマについても理解度を把握できるような授業内容を考えたい。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

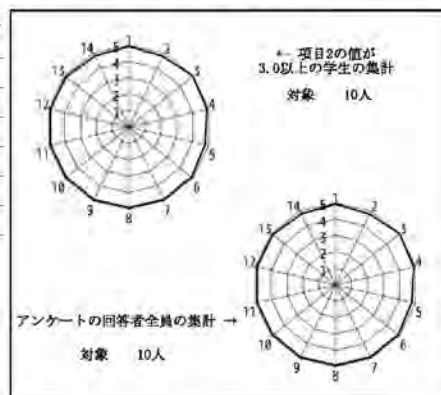
数値データについてはQ2の「主体的な予習・復習などの努力ができた」が他項目に比べ低値であったため、自学を促すような取り組みについても考えたい。またスライドの進捗についての指摘が2件あったため、受講生のペースを確認しながら進めることを意識したい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

科学情報を多く取り扱うため、より新しく興味深い情報をどんどんアップデートしながら関心を引き出せる授業を継続したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(個人スポーツ)バドミントン
授業コード 14E01-002
教員名 加藤 孝基
教員コード 104117
登録人数 36
回答数 10
回答率 27.8%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

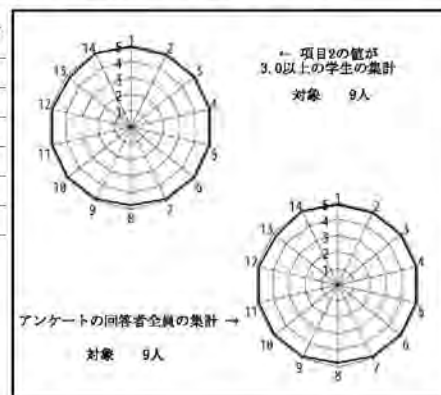
①全ての学生が、バドミントンの基本的なルールやマナーを正しく理解し、実践できる技能を修得できたと考える。スポーツを行ううえで、その種目のルールやマナーを習得するのは必須である。授業の前半に、これらの学習を徹底し、さらに中盤および後半では、それらを理解したうえで技能を向上させる取り組みを行った。また、障害・事故の知識の習得については、まだ全ての学生に浸透するには至っていないと考える。部活動を経験してきた学生にとっては身近な問題であるが、それ以外の学生にとっては、肩および足部等の怪我については、理解するのが難しかったのではと考えられる。幸い授業内での怪我等は発生しなかったが、いつ発生しても個々人が冷静に対処できるよう、それらの知識をより学習できるような取り組みを次回以降考えたい。また、コミュニケーション能力の育成については、全ての学生が実践できたと考える。学生同士がコミュニケーションを取りやすいよう、教員もその輪に入り雰囲気を作る等の工夫を行った。

②客観的な数値データからは、全ての項目において4.8-5.0点ということであったが、回答した全ての学生が5点を付けるに至らなかった点を全ての項目に対して考えたい。特に、到達目標等について理解していない学生もいたと思われるので、単なる「スポーツ」としてではなく、教育の一環としての体育として位置付けるべく、それらの意識を持つことが出来る工夫を行いたい。

③男女間での授業に対するモチベーション等に差が生じていたため、来年度以降の同授業においては全ての学生がより積極的に取り組めるよう、雰囲気作り、学習意欲の向上等を改善していきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(集団スポーツ)バスケットボール
授業コード 14E02-002
教員名 中路 恭平
教員コード 015255
登録人数 16
回答数 9
回答率 56.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

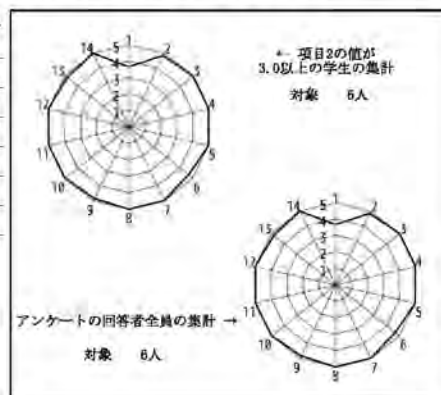
当科目は選択の体育実技科目であり、欠席回数が4回で失格となる。そのため、例年、欠席が重なってしまう学生が途中で履修放棄してしまうことが多い。今回も16名の履修登録者に対し、4名がドロップアウトしてしまった。ただ、残った学生たちはとても熱心な受講態度であった。バスケットボールの経験者は約3分の1であり初心者の方が多かったため、基礎的な内容を重視して授業を進めた。人数的に、ちょうど5対5のゲームが実施できるぎりぎりの受講生であったため、個別の指導も行いやすかった。そのため、多くの学生にとって授業内容の理解が深められたと考える。ただし、人数が少なかったため、ゲームの審判を経験してもらう機会は少なく、審判法の修得という点ではやや不足感が残る。

学生からの評価も全体的に高かったが、意欲的な受講生が多かったことによる相乗効果であると感じる。自由記述にも技能の向上ができたという表記が見られたが、実際に受講生の技能向上は目覚ましく、終盤にはかなり質の高いゲームができるようになった。

今回は、人数が少なめで男子のみの受講生であったが、男女混在でその人数もアンバランスであったら、もっと難しい課題があったと思われる。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(健康スポーツ)フライングディスク
授業コード 14E04-001
教員名 佐川 慶
教員コード 103190
登録人数 13
回答数 6
回答率 46.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

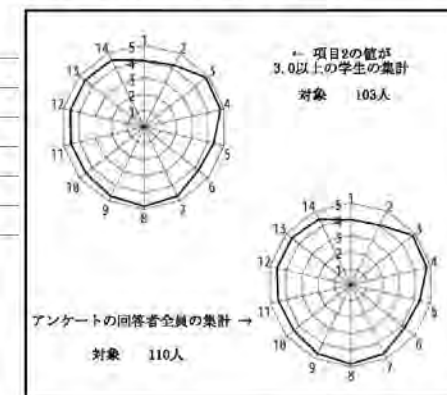


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①.
3つの到達目標については、おおむね達成できたと思われる。しかし、二つ目の到達目標について15回という授業回数では、より高度な技術の習得するには時間が短く、十分な習得までに至らなかった。この点において、スキルレベルの高い学生は物足りなさを感じたかもしれない。これにより、設問6がほかの設問に比べて低かったのではないかと考えられる。
- ②.
設問3～14までの平均点が4.94と高かった。したがって、学生と教員両者における授業に対する満足度は高かったと考えられる。しかし、設問6について他の設問と比べると若干得点が低かった。
- ③.
本アンケートの結果をふまえ、今回は以下の点に注意して改善していく。
1. 基礎練習の時間をより長くしつつ、応用技術の練習時間を確保できるよう無駄を削除する。
2. 学生へのフィードバックをより細やかにする。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化の比較4
授業コード 13A01-004
教員名 斎藤 喬
教員コード 103192
登録人数 133
回答数 110
回答率 82.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

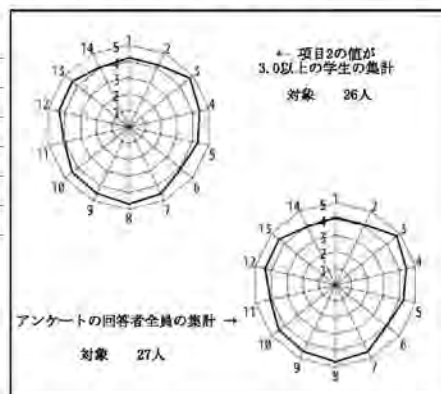


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①ミニテストの記述や最終レポートの内容を見る限り、大多数の生徒において「自死」や「排除」のテーマと関連する社会問題を自分自身の問題として、比較文化の視点から捉え直し考える態度が身についていたため、受講者の7割は到達目標をある程度まで達成していたと考えられる。
- ②本科目は毎週行うミニテストの記述に重点を置く授業形式でありかつ受講者数が130人を超えるやや大所帯のクラスであったため、個々人のやる気にはかなりばらつきが見られた。ただ結果として、項目1から14の平均が4.49、項目3から14の平均が4.57となり、それぞれの全体平均である4.33及び4.37、登録者数121~240人のクラスの平均である4.23及び4.27に対し、前者において0.16~0.26ポイント、後者において0.2~0.3ポイント上回ることができた。これは、とっつきやすいトピックを取り上げたり、ミニテストの記述を次の回にフィードバックするやり方が功を奏したものを思われる。
- ③受講者数が増えると一人一人の記述や態度に目が届きにくくなるため、結果として積極的に学ぼうとしている受講者を妨げるような行為を完全に払拭することがより難しくなる。今後はその点に留意して、授業内において学びの場であることをしっかりと自覚してもらうように注意を喚起していきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本史概論
授業コード 22C03-001
教員名 関口 哲矢
教員コード 103639
登録人数 37
回答数 27
回答率 73.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

貴重なご意見を多数寄せていただき、感謝します。

この講義の目標は、イ) 知識理解力、ロ) 伝える力、ハ) 深く考える力、の習得です。そのため積極的に発言を求め、板書を促し、予習・復習などの課題や報告会を実施しました。

アンケートで多かったのは欠席者の対応です。講義は1限から実施しており、開始と同時に出席カードを配ります。それが厳しいとの意見でした。ただ少しでも緩めると、講義に臨む緊張感まで緩んでしまう可能性があります。どうしても開始時間に着席できない場合は、公欠の有無や電車の遅延など、理由を申し出るようにもしています。

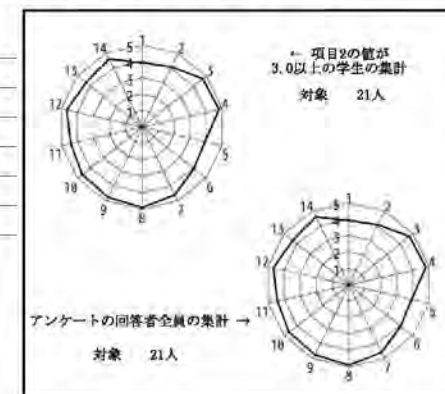
もう1つは、課題の提出が多いという感想です。セメスター制とは異なり、開講期間が短いため、課題が連続するという印象を持たれたのかもしれませんが。教員としては課題提出を通じて、最初から最後までイ)～ハ)を習得するという意識を持ち続けてもらいたいという願いがあります。適量かは今後検討していく予定です。

今回は、報告会への感想はあまり得られませんでした。前回の反省をふまえ、計画的に報告準備を進めていけたと思っています。4回確保している報告準備を、前回は固めて実施していましたが、今回は1週間隔で行うことで準備にまとまった時間が取れました。

来期もこうした要素を取り入れていきます。学生の皆さんには、積極的に学ぶ姿勢をもち、講義にむきあっていただければありがたいです。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 知能と社会
授業コード 22C21-001
教員名 竹下 至
教員コード 103135
登録人数 32
回答数 21
回答率 65.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①について

開講当初に設定していた目標は「科学にまつわる哲学的問題を理解する」というものだった。その目標の到達度は、小テストおよび定期試験（筆記試験）の結果から判断すると、受講者間にばらつきがあるように見受けられる。すなわち、十分な理解度に達している学生もいる一方で、満足のゆくレベルには達していない学生も少なからずいた。

②について

項目全体の中で、項目番号1、2、5、6の値が低い。5、6については上記の点と関係していると思われる。1については授業が行われる前の段階の事ではあるが、シラバスの記述と多少は関係するのかもしれない。2からは、学生が主体的に授業に参加するようにする動機づけが不十分だったという反省点が認められる。

③について

学生間の理解度の差を小さくすることを次回の目標としたい。今回は学習のペースメーカーとして小テストを実施したが、理解度の低い学生に対しては、（以前行っていた）毎授業のリアクション・ペーパーの提出の方がむしろ効果的だったのかもしれない。どちらの（あるいはまた別の）方式をとるにしても、そうした学生をケアするように気をつけたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と進化

授業コード 22C32-001

教員名 亀井 伸孝

教員コード 102690

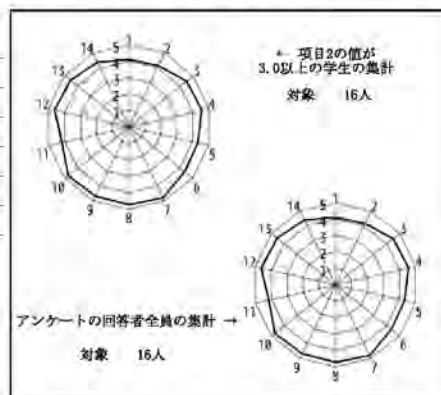
登録人数 72

回答数 16

回答率 22.2%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

授業中のワークの取り入れ、朝の授業であることに関連する遅刻への対処、生態人類学の基本と応用の平易な解説などを目標とし、学生の理解を促すことを目指した。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

おおむね4ポイント以上の高い評価を得た。とくに、遅刻への対処、声の明瞭さ、真剣さ、理解度への配慮、質問の機会、授業進度などの各点で4.5ポイント以上の評価を受け、適切に授業運営できたものと受け止めている。自由記述でも、「うまい誘導だったところ」「様々な視点で授業をしていた」「生態人類学とその応用を一度に学べる」と、そのねらいが功を奏していたことがうかがえた。

一方、「遅刻の人数が多すぎて、その確認に時間を費やしたため授業時間が削られたと感じる」「学生の遅刻に厳しすぎると思った」と、遅刻への厳しめの対応に対する不満や、「早口になってまったく伝わらなかった部分がある」「ワークをやる時間をもう少し長くしてほしい」など、時間管理に関する要望があった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

遅刻に対して厳しく対処することは必要であるが、それが授業の妨げにならないような工夫が必要である。また、時間管理については、学生の理解度や作業進捗を踏まえて、適切な時間配分を工夫して臨みたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 東アジア考古学C

授業コード 22C40-001

教員名 奥野 絵美

教員コード 150648

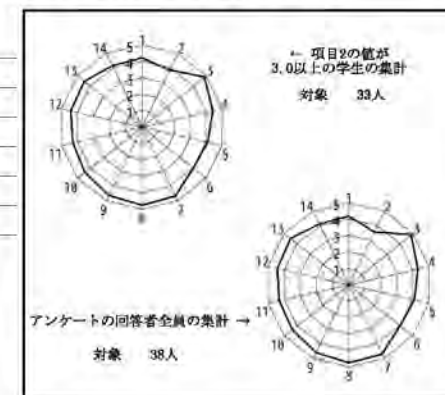
登録人数 77

回答数 38

回答率 49.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①予定の目標・到達程度について

到達目標として「1.考古学の遺跡調査の意義と基本的手法を知っている。2.環境考古学の基礎的な研究手法を理解している。3.自然環境と人間活動のかかわりを考えることの意義について、独自の観点から意見を述べる事ができる。」をあげていたが、概ね達成することができた。ただしシラバスでは、発展的内容を多く取り扱う予定であったが、予定した内容を一部変更して、昆虫考古学に関する専門的内容を増やした。結果的には内容が散漫としなかったのが良かったように思う。

②自己点検・評価について

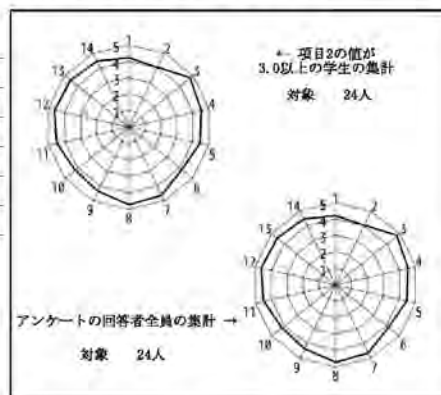
前年度からの課題であるが、学生からの評価にも現れているように、やはり予習復習が難しい。「宿題」形式で、課題を出すことも検討したいと思う。

③改善点・今後の抱負等について

学生それぞれの理解度を測るためや疑問に思ったことをよりすくい上げる為に、本年度は出席シートを講義毎に提出してもらったが、生徒の疑問点が知れて効果があったので継続したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 福祉論
授業コード 20A11-001
教員名 児玉 克己
教員コード 102510
登録人数 85
回答数 24
回答率 28.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

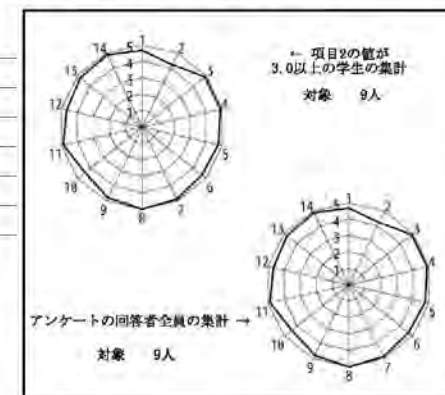
地域包括支援の重要性が高まっている現在、「福祉」という言葉の意味が、自分たちの生活全般において深い関わりがあることを知り、受動的に、ときには能動的に関わっていることを理解し、その関わりの中で、何を感じ、何ができるのかを学ぶ機会になってほしいとの講義内容であり、おおむね授業目標は達成できたのではないかと考えている。

日々の生活の中で「福祉」に自らが関わっていることの再認識してもらうために、家族や友人、知人等との会話において、「しあわせ」とは、「いきる」とは、「ささえる」とは何か等を、日常的に語れる学生の意識を高めることを目指した講義内容を今後の目標にする。

学ぶことが一方的な講義（児童・しょうがい・高齢等の現状や資料説明）に終止することなく、自らが考え、発言する機会や意見交換ができる学生参加型の講義形式にしていくことを考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理的アセスメント1
授業コード 23C62-001
教員名 清瀬 裕子
教員コード 102713
登録人数 50
回答数 9
回答率 18.0%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この科目を担当させていただくのは初めてでしたので、受講生の修得知識やモチベーションについて手探りで授業を進めていきました。受講生の中には、あまり臨床心理学の知識がなく、また卒業のための単位修得という動機で受講している学生もいる一方、公認心理師になるために大学院に進学したいという気持ちを持って受講していた学生もいる印象でした。そのため、私の方でも、基礎的な用語の説明にも時間を設けながら、一方で現場での用いられ方や具体例なども取り上げ、できるだけ受講生のみなさんの理解が深まるよう努めたつもりです。今回のアンケートでは、9名からの回答とのことで、偏りがある可能性は否定できませんが、項目5の平均4.89、項目6については平均4.67でしたので、及第点といえるかもしれません。

②平均値を見ると、項目2が低いように思います。①でも述べたように、卒業単位修得のためというモチベーションで受講している学生が多くを占めていたようでしたので、授業内でも次回までに調べておくといふ課題や参考図書等を示したのですが、あまり活用されなかったのかもしれません。また、項目10も低いようです。出欠遅刻早退確認は毎回していましたが、遅刻者や授業態度が気になる学生に積極的な声掛けは不足していたかもしれません。今後の参考にさせていただきます。

③今期のみを担当でしたので、次年度担当する予定はありませんが、今回の経験を活かし、もし担当する機会がありましたら、知識や関心が高くない学生にも興味を持ってもらいつつ、知識や関心が高い学生にも有益な内容となる授業を工夫していきたいと思っています。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域開発と人間関係I
授業コード 23C64-001
教員名 神田 浩史
教員コード 103071
登録人数 29
回答数 1
回答率 3.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

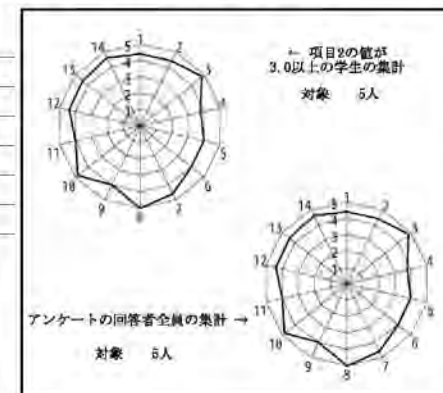
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

回答数があまりに少ない(1件)のが最大の反省点。最終講義で入力するように呼び掛けたが、ネット入力のために確認できずに終わっている。そのため、ここで回答する3点について省察するのが困難である。現在のQ4ではそうならないように努めたいが、こちらはそもそも受講生が2名のために、必定、回答件数は少なくなってしまう。来年度は、今年度以上に受講生の学習意欲が高まり、行動に結びつくような授業構成を考えていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学統計法
授業コード 23C75-001
教員名 脇田 貴文
教員コード 101105
登録人数 36
回答数 5
回答率 13.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

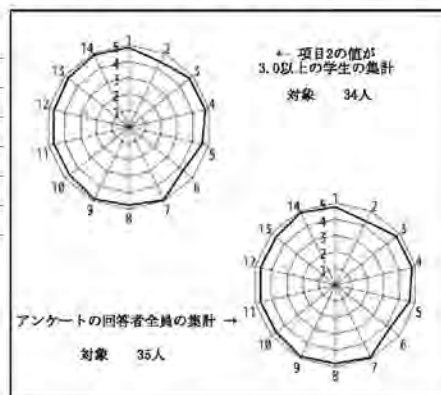


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
本科目では、心理学における調査研究等を行う際に必要となる統計的手法の基本的な技法および考え方について解説した。記述統計として、平均、分散、標準偏差、相関係数、重回帰分析を扱う。また、検定、推定などの推測統計学に関しても詳しく解説を行い、EXCELを使用して理解を深めることを行った。「各種統計的手法の考え方を理解している。」「統計的手法による結果を解釈する際の統計量の意味や留意点を理解している。」の2点が目標であったが試験結果をみる限り概ね達成できていると考えられる。ただし、統計学という科目性質上、個人差が大きい点は致し方ない点もあるが、学生間の理解の程度に差があったように見受けられる。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
履修者数のうち回答者が5名と少なかったが、いずれの項目平均4.0以上であったことから講義の方法・目的に関してはある程度達成できていると考えられる。自由記述において、1日の講義内容が多くなることにより学生に負担があるという意見があった。この点に関してはその通りである一方、日数を多くすることで逆に内容がバラバラになり、定着しにくくなること、授業進度が遅くなる可能性もある。昨年度までより統計関係の科目数が減となり、心理学統計法の1科目により心理学統計法で扱うべき内容を網羅するためにはこの形が適していると考えている。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
基本的に本年度の内容を踏襲する予定である。改善すべき点に関しては上述の意見もあったことから、内容の定着に留意して進めるようにする。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文章表現法Ⅰ
授業コード 24C08-001
教員名 吉川 望
教員コード 101123
登録人数 44
回答数 35
回答率 79.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



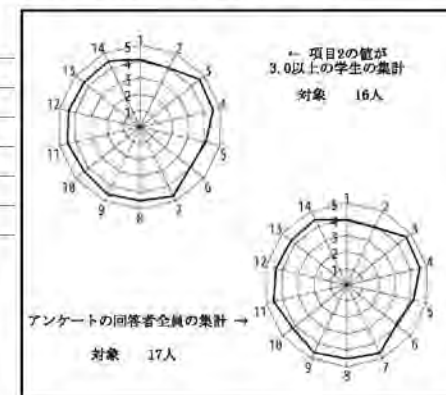
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、文章技法の解説と文章作成演習を行い、添削して翌週返却するという形式で進めている。集計結果をみると、全項目において平均以上、「全体的な評価（設問13・14）」も肯定的評価が9割を超えていたので安堵した。また「自由記述欄」の「良かった点」には、文章技法が段階的に身につけられる、添削・講評が効果的だったなどの記載があった。実際、毎回の提出物には真剣な取り組みとその成果が見て取れるものが多かった。したがって概ね当初の授業目標は達成できたと思う。

今後改善すべきと思われるのは、時間内に書き上げられない学生、習熟度が十分に上っていないと感じている学生への対応である。2コマ連続の授業になったことで、書くための時間は十分確保できている。課題の難易度にも注意を払っている。より深く考えようとするために時間が不足するのだと思うが、限られた時間内でまとめることもトレーニングのうちなので、その点を意識して取り組んでもらえるよう促したい。上達していないと感じている学生には、個別の指導で対応していきたい。また、解説内容や時間配分等についても今後さらに工夫を重ねていくつもりである。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本芸能史
授業コード 24C16-001
教員名 猪瀬 千尋
教員コード 103661
登録人数 86
回答数 17
回答率 19.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
基本的にシラバス通りに進むことができた。一方で、時間がかかる部分と早く終わってしまう部分があった。それぞれの場合に応じた対応（要点をしぼって話すこと、トピックの周縁についても話すこと）を入念に準備する必要がある。到達目標としてシラバスでは（１）芸能が時代や社会とどのように関わっているのかを理解している。（２）芸能の特色について理解している、の二つを掲げたが、概ね達成されたと思う。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

①と関連して、早めにその日のテーマが終了してしまう場合があり、授業時間配分を工夫する必要がある。受講生の知識・情報を考えず（人文学部以外の受講生も多く含まれていた）、難解な内容に踏み込んでしまったこともあり、トピックを話す上で前提となる知識を共有していくことが必要であると考えた。板書について、ミスを指摘されたことが一度あり、より入念な授業準備をしていく必要がある。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上記①②でも述べたが、やはり授業トピックの前提となる知識を、まずしっかりと伝えなければならないことを痛感した。特に仏教関連などの専門用語の多い部分は、おり丁寧に説明するように努力する。本年度はとくにやる気のある学生と、態度のよくない学生（途中退出を頻繁にになってしまう、など）の差が顕著に見られた。両者に興味をもってもらえるように授業を展開するのは難しいが、質問を投げかけるなど、学生に考えてもらう時間をより多く設けることで、主体的な学びの場となるよう心がけたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語史I

授業コード 24C47-001

教員名 丸山 徹

教員コード 015917

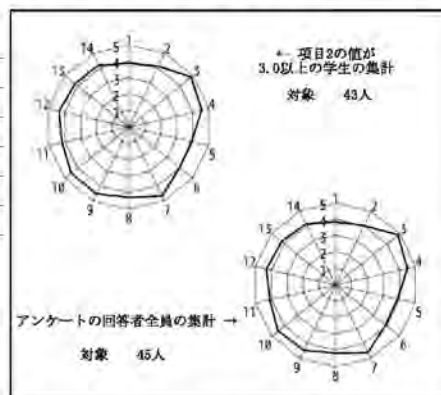
登録人数 68

回答数 45

回答率 66.2%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では日本語の歴史を、主として次のような諸項目について概観し、その流れを解釈しようと試みたー(1)上代特殊仮名遣い (2)「あめつち」「たみに」「五十音図」「いろはうた」 (3)キリシタン文献ローマ字表記 (4)現代諸方言間の音対応と古代日本語。当初の到達目標ー1.「日本語史」というときの「日本語」とは何なのかを理解している。2.「日本語史」というときの「史」(歴史)とは何なのかを理解している。3.日本語史における主要な諸テーマについて理解している、これらに関しほぼ満足いく講義ができたと思う。例年 F を付さざるを得ない学生が必ず何名かいるが、本年度は F の学生がゼロで C が数名いるのみであった。全体として皆よく付いてきてくれたと思う。「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」がいつも他の項目に比べ低く気になっていたが、今回はじめて4点台に達しほっとしている。学生からの声でよかった点は「毎回他の人のコメントペーパーをみることができる点、刺激を受けるし、学べるが多かった、前回のリアベの回答を紹介する形で前回の授業をおさらいしてくれる、わかりにくい点は繰り返し説明してくれたため時間をかけて理解することができた」など。よくなかった点は「マイクの声がよく聞こえなかった」など。(すでに定年退職し非常勤としての講義も今年度が最後なので次年度へ向けての改善点や抱負などを述べることはできないが)深く反省している。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語教育教材研究

授業コード 24C62-001

教員名 伊藤 恵美子

教員コード 102909

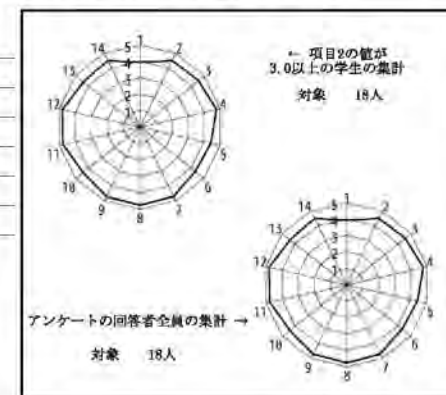
登録人数 25

回答数 18

回答率 72.0%

休講回数 2 回

補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は、日本語教育教材のレベル別特徴を知っている、日本語教育教材のスキル別特徴を知っている、日本語学習者のニーズに合う教材が作成できるようになる、の3つであった。今年度もコース開始後の履修中止がなく、すべての学生が教材作成に取り組み、全員が合格であったので、目標は達成された。項目1から14の平均は4.55、項目3から14の平均は4.61で、全体の平均(前者4.33、後者4.37)、および日本文化学科の平均(前者4.49、後者4.54)を上回った。履修前の興味が低かったにもかかわらず(3.94)、到達目標の理解度は高く(4.44)、到達目標の力がついた(4.33)という結果になった。授業構成は4.78、教員の適切な指導は4.78、課題の事前・事後指導は4.83であった。自由記述回答で良かった点として「自分たちで話し合う場面が多かったことです」「コミュニケーションを取りながら授業ができたので、飽きずに受けることができた」「毎回座学だけではなく、分析して考えて、発表があり、メリハリを感じました。自分たちで教材を考えた為、理解度が深まったと思います」とある。対象が2年次以上で選択科目なので履修生の知識に差があり、一人ひとりの学修レベルに合わせるのは制度的に難しいところがあるが、毎年安定した推移(受講生の増加等)が認められるので、今後もこのような評価が得られるようにしたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Contemporary Japan C
授業コード 31C23-001
教員名 ESSERTIER, Joseph
教員コード 103540
登録人数 17
回答数 2
回答率 11.8%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) The goals of my "Contemporary Japan" course included teaching students through English about contemporary issues in Japanese society and culture today, particularly how those issues relate to people outside Japan or not from Japan and making the students better able to build relationships with foreign people. Of course, developing their reading, speaking, listening, and writing skills in their second language English was also important to me.

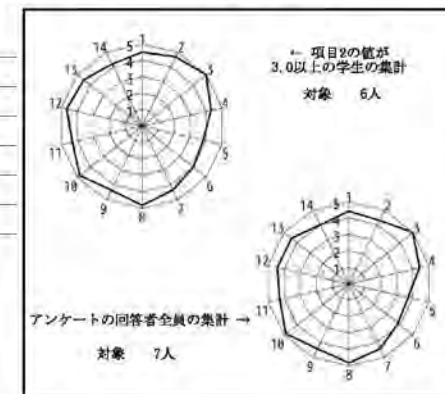
As expected, most students were not well-informed about Japanese history and literature, or how Japanese are seen outside Japan. I aimed to inform them and increase their curiosity about this. For example, Japanese contributions to fiction, how Americans hurt Japanese during the Pacific War, and how Japanese have hurt others through colonialism.

2) Although many of the students were shy this year, compared to last year, some participated actively, and many seemed surprised by what they were learning. Some of the students seemed not well-prepared and had difficulty reading even easy texts, but by patiently explaining the texts, telling them about Japanese translations, encyclopedia articles, or other writings in Japanese they could refer to, I think that almost all were able to understand the gist of the readings. They did better with quizzes as time went by.

3) In the future, I think I should use more visual materials, including artwork and short clips from documentaries to make the course easier.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語通訳法
授業コード 31E22-001
教員名 クマイ 恭子
教員コード 101131
登録人数 11
回答数 7
回答率 63.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



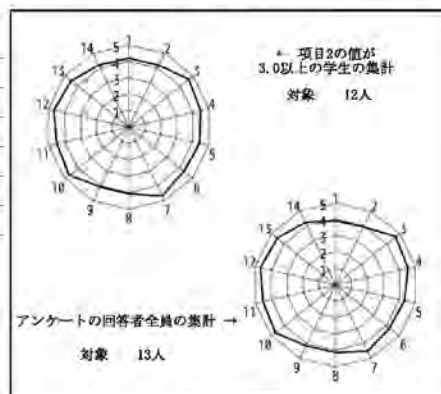
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本クラスでは通訳訓練メソッドを適用することにより、英語日本語力の増強と基礎的な通訳力をつけることを目標とした。毎回の課題は大変だったようだが、リスニングサマリーの教材に関してはおおむね好評であり、今後も続けていきたいと考えている。「通訳」としての訳を出すことはなかなか困難なようで、英文和訳に近い場合も結構見られたが、語順通りに訳す練習の意義は理解してもらえたのではないかと感じている。語順通りに読めるようになることが第一前提で、そのあとで語順通りの理解、そして訳出につながる。これは逐次通訳・同時通訳共に必要な基礎的能力であり、英語力そのものを向上させることにもつながる。英語の基礎的な力はある学生が多く、優秀な訳出をする学生もいたが、やはり洗練された日本語にするのは難しいタスクであるように感じられた。日本語でもなく英語でもない抽象概念のような形で理解できたものは、目標テキストに訳出しやすいようである。これは理論でも言われていることであり、理論が実際に行われるのを目の当たりにしたと言える。

同時通訳の機材がないために、シャドーイングや同時通訳を実際にモニターすることが難しいのが現状であるが、ウィスパリングまでならば普通教室でもなんとかすることがわかった。現在のLL教室では音源を流しながら学生の声を同時にモニターすることが叶わないので、LLの機能を付加していただけると担当者としては助かります。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英米社会特殊研究A
授業コード 31E26-001
教員名 藤本 博
教員コード 100125
登録人数 24
回答数 13
回答率 54.2%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

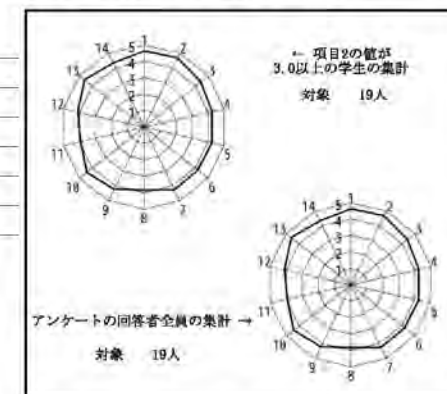
本講義では、ベトナム戦争とアメリカ社会の変容に関する考察を通して、主としてベトナム戦争の同時代にその戦争がアメリカ社会に及ぼした影響について理解することを目標とした。講義内容が歴史的対象であることに鑑み、講義に対する理解を深めるために、映像を多用した他、講義内容に関して質問も含めりアクションペーパーを毎回書いてもらって、講義の感想の内容を紹介するとともに、質問についてはその都度講義のなかで回答するように心がけた。また、講義内容に関連して3～4名のグループによる討論の機会も数回設けた。

数値データをもとに評価すれば、受講生の学習意欲、そして新たな知見の獲得や理解度の深まりに関する項目11～13に関して、それぞれ「4.54」（項目11）、「4.69」（項目12）、「4.54」（項目13）と学科平均をやや上回る平均値を得ることができ、概ね目標を達成できたと言える。自由記述において、良かった点・評価できる点に関して「何回も議論する機会があるのでいろんな人の意見を聞くことができた」、「映像が多数使われていたこと。理解が深まった」との反応があったことは幸いであった。ただ、教員の声がよく聞き取れたかどうかの関する「項目8」で「4.15」、配布資料、映像等の使用方法に関する「項目9」で「4.15」と相対的に低い評価であったことは反省している。

本講義で南山での小生の授業は最後となった。長きにわたって意欲的な学生の皆さんと「学びの空間」を共にし、多くの知的刺激を受けたことに深く感謝したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IIB2
授業コード 32A12-002
教員名 VILLALOBOS Antelma
教員コード 101011
登録人数 24
回答数 19
回答率 79.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course has gotten a good evaluation from the students and their comments were all positive indicating that the general objectives of this course were well fulfilled. The biggest proportion of the students seems to be well satisfied with the kind of techniques used during the course classes and the way the professor behaved during the semester.

As a general evaluation of the course, I should stress that the most important point is the fact that I should continue my teaching with the standard and new methods I have developed and used until now and looking for improvements, according to the students' reactions to the contents and the teaching methods.

In other words, I should respond to the good evaluation of the students by trying to find more ways to let them obtain a better and more effective learning experience every class of the year.

Getting the students enthusiasm for the Spanish language was the clue for the exit of the course.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IIB3

授業コード 32A12-003

教員名 HOPKINS Mariella

教員コード 103653

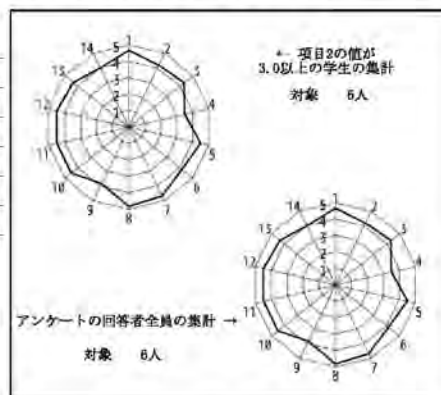
登録人数 22

回答数 6

回答率 27.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) Sobre los objetivos del tercer trimestre, estos se cumplieron de acuerdo al Syllabus y el programa de actividades de tareas pre-establecido y entregado en el comienzo del año lectivo a los alumnos, dando prioridad a que los estudiantes conozcan con claridad las metas establecidas para el trimestre que se esta evaluando, y de esta manera ellos puedan observar si estan avanzando en el aprendizaje del español de acuerdo al programa entregado.
- (2) De acuerdo a las respuestas obtenidas por los alumnos vemos necesario ajustar en mejor medida los tiempos relacionados al horario de clases, con la finalidad de cumplir de manera mas eficiente con la revision de tareas y la programcion de las tareas previstas para que se desarrollen en clase. Asimismo debemos realizar un mayor seguimiento con la finalidad de poder evaluar la compresion de la clase y que los estudiantes esten satisfechos con las lecciones aprendidas.
- (3) En el nuevo trimestre que empezamos intentaremos mantener una serie de actividades con la finalidad de que los alumnos tenga una participacion y control mas activo y de esta manera puedan realizar autoevaluaciones permanentes y vean sus resultados obtenidos. Asi mismo realizaremos una serie de actividades interactivas para aprovechar los conocimientos adquiridos y evaluaremos los resultados conjuntamente.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IIB3

授業コード 32A21-003

教員名 JAIME LAZO, Alan Christian

教員コード 103654

登録人数 20

回答数 4

回答率 20.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

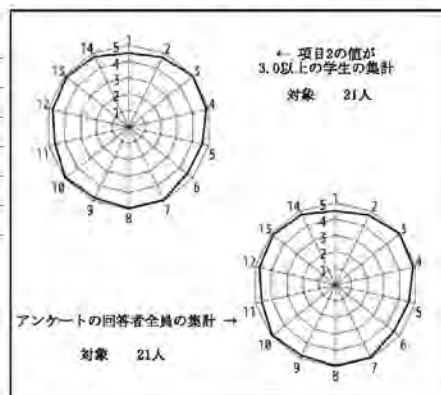
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

During this course we were able to develop skills to express opinions and points of view on different situations in the public environment. On many occasions the elaboration of pertinent arguments has generated the interest of the students and, therefore, during the classes it has been possible to carry out communicative activities of a practical and reflective nature. It has also tried to put emphasis on vocabulary and strategies necessary for its most appropriate application. On some occasions, the topics proposed for comprehension and oral expression led to the revision of the grammar aspects most used. I believe that the practice carried out for the control and expression of opinions has generated significant progress since the learners can now recognize different levels of relativity and objectivity in everyday exchanges. On the other hand, having dealt with many topics that have to do with some social problems or the impact of technology, the issue of the future and its corresponding expectations has been possible to conduct a debate among all classmates. In the second part, we have also focused on discussing some points about the character and personality of individuals in their personal environment. The fact of maintaining relationships that express feelings, moods or valuations on their own points of view has been oriented to analyze the resources that shape the particular subjectivity in Spanish. In that sense, this section has been a complement that presents the diversity of situations related to the closest environment where the character and the interlocutors have been analyzed satisfactorily.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IC1
授業コード 32A22-001
教員名 ROJAS ESPINOZA, Lorena Sue
教員コード 103464
登録人数 26
回答数 21
回答率 80.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

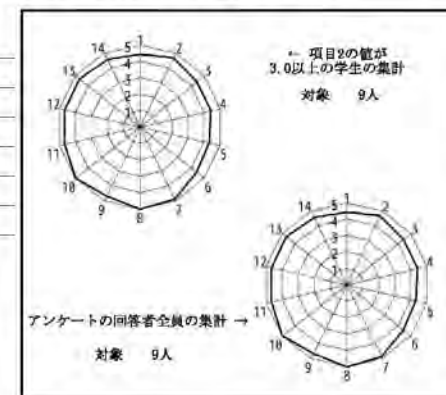
この科目は、作文（論文導入）クラスだったため、個人学習を促す活動を徹底的に行うことを目標としています。学習者のコメント及び授業評価数値から確認した限り、目標に達成することができました。来年も同じクラスを持つことがありましたら、同じく目標を達成していきたいです。

改善できることは、プロジェクターやパソコン（メディア）等を授業内で使いこなせるようにしたいことです。学習者へのアプローチとして、インターネットなどを使用し時代に合ったスタイルでクラスを運営したいと考えています。そのためにも、学習していきたいです。

学習者の姿勢に関してですが、非常に優秀な学生でして、何よりお互いに助け合い課題の解決に向けた姿勢がとても良かったです。おかげで、授業も順調に行うことができました。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IV2
授業コード 32A27-002
教員名 SALA, Lidia
教員コード 101563
登録人数 35
回答数 9
回答率 25.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



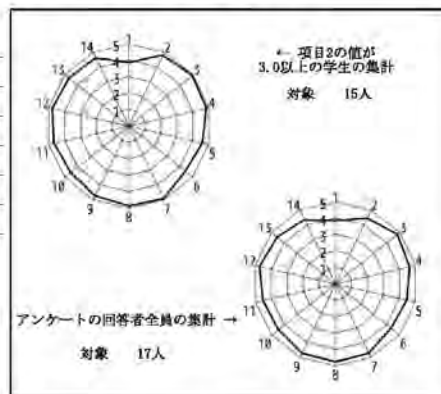
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course objective is to improve students reading skills in Spanish. Based on student's evaluation's results, course objectives were achieved with no percentage below 4%. High percentages in questions 13 (4.67%) and 14 (4.56%) show that students feel that they improved its reading skills, despite the course high demands (4.33% in question 5). It is important to remark student interest towards the course and their effort to cope with the required tasks (questions 1, 4.44% and 4.67%). Also noteworthy is the percentage obtained in question 9 (4.67%), as all the teaching materials were self-made by the teachers in charge. It shows that the methodological approach taken is both appreciated and effective. Among the results I value specially the 4.89% obtained in question 9 (and 10, 5%). Fourth year students tend to be strict with teaching staff, due to the importance held by the course for graduating and due to the experience accumulated in university classes. Having been able to motivate such audience and fulfil its demands is an encouragement for the future.

As for next year, I would like to wider the range of text type, activities and evaluation method involved in the course to be able to better assess and guide students during the course.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語I16
授業コード 46F02-006
教員名 GONZALEZ DIAZ, Alejandra Maria
教員コード 103652
登録人数 33
回答数 17
回答率 51.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

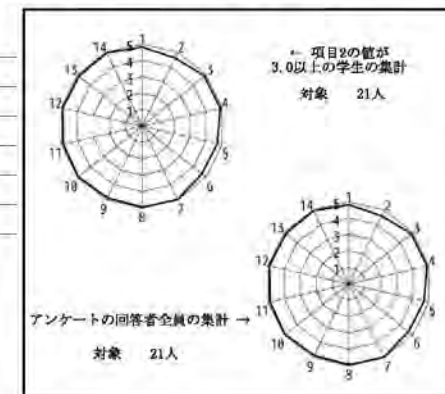


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. In English for Policy Studies and we studied globalization and international trade policies. We successfully achieved the class objective thanks to well-organizing the class and the weekly effort of students with their homework. We completed the topics in the syllabus handed out to them at the beginning of the class. It showed that they understood each of the topics based on their final reports which they had to present in English.
2. The class combines content studies and foreign language (English), so we had to balance the level of difficulty based on the learning reception of students and content level. We did review sheets and group work so that they could support each other. We changed part of the methodology from debate to group presentation based on their English oral communication level. It was successful, they felt relaxed doing presentations in small groups.
3. In the future I will give them in advance material of coming classes so that they can read and look up new vocabulary so that they can better understand the upcoming weekly classes.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIB1
授業コード 33A15-001
教員名 LAUTIER Fabien
教員コード 104047
登録人数 24
回答数 21
回答率 87.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Evaluation Report

After watching the results of the enquiry that has been done in my class, i have been glad to read that the students enjoyed the way i taught them french and they could progress a bit along this quarter. For me, it has been a bit a really nice class cause the student were quite serious and motivated.

The students might have needed more writting productions. That's why i am planning to change a bit the structure of my class so that i will focus a bit more on the writting too. Moreover, i could notice that games were really effective with this students. Therefore, i'll organize more games for the next semester.

In conclusion, i think the students enjoyed the way i taught them french and how i tried to help them. However, even if the students seem to enjoyed the class, there are some points i need to improve like giving more time to the writting productions and trying to insert games.

Lautier Fabien

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIB3
授業コード 33A15-003
教員名 HERGOTT, Florian
教員コード 101725
登録人数 24
回答数 4
回答率 16.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

I have read the comments of the few students who responded to the survey.
Only one student seems to be dissatisfied with the course. I took his comments into account when writing next year's course. However, the comments of the other students are positive, that's why, I think to organize the next courses in a similar way.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 コミュニケーション特論B
授業コード 33C02-001
教員名 清水 ペアトリックス
教員コード 047845
登録人数 9
回答数 1
回答率 11.1%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Preparation for this lecture was done meticulously so as to ensure that students' interest would will stimulated during 3 hours.

The goals for the third quarter were to get students communicating individually and interactively about a different theme each week and also prepare for a variety of oral examinations conducted in French. Chosen themes generally compared and contrasted similar situations in France and Japan, mostly concerning social issues. A lot of work was based on the study of newspaper articles and research was widely conducted on the internet.

By the end of the third quarter students' communication skills had really gained in momentum. They had improved their confidence in speaking in front of their peers, exchanging ideas and debating. The number of attendants was rather small and although students may not have responded to the online survey, they definitely showed interest in the course and satisfaction regarding its organization.

In the future, the lecture will continue to be organized along the same lines, always keeping in mind the students' fields of interests and adjusting goals to their individual skills and goals.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級ドイツ語II3

授業コード 34A18-003

教員名 WITZEL, Antje

教員コード 104068

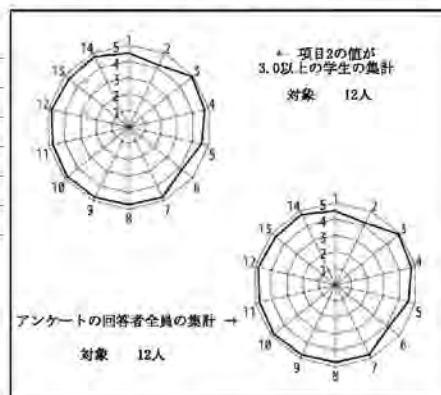
登録人数 15

回答数 12

回答率 80.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course was meant to take students to an advanced level of proficiency in German and teach them to express themselves on a variety of topics both orally as well as in writing in various situations. Considering that the topics and grammar in the textbook is set at a high level and quite demanding, most students coped well with the challenges and participated actively. I think the course was well structured with a good mix of speaking, listening, reading and grammar and combined individual work with teamwork and role play. Students were exposed to videos, recordings and different text genres from various news sources and media. They were encouraged to comment and express views and opinions, using the vocabulary they already learned in previous courses and during their stay in Germany as well as new vocabulary. Overall most students made a lot of progress and as the survey shows were satisfied with the course.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 韓国・朝鮮の言語と文化I

授業コード 35C01-001

教員名 金 美淑

教員コード 102466

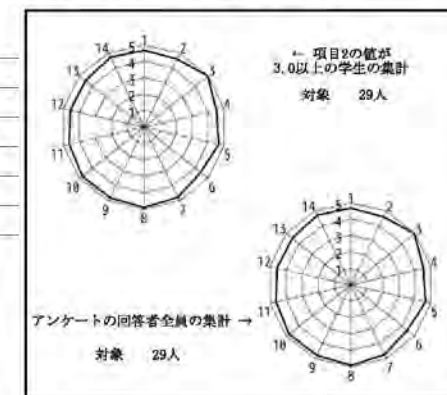
登録人数 36

回答数 29

回答率 80.6%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の到達目標は、言語分野では韓国・朝鮮語の文字を読み・書き・聞き取りができ、学習した単語を用いて簡単な挨拶や自己紹介ができるようになることであり、文化分野では朝鮮戦争以降の韓国について理解を深めることであった。期末テストの結果を見る限り、概ね達成できていると考える。

アンケートの数値データでも概ね高い評価をされていることが確認できた。前回のアンケートにおいて、特にQ2項目の受講に際しての予習や復習などが低い場合があったため、できるだけ復習の機会を増やせるように、毎回適切な量の課題を出したことで、授業時に使用する語彙をカードを使い繰り返し覚えさせることにより、授業に積極的に集中し参加させたことに効果があったようで、今回のアンケート調査では4.62と平均値を上げることができた。自由記述でも、「カードを使って単語を何度も確認していたので、その回のうちに覚えることが出来た」「毎回その日に習ったことについて宿題があるので、反復練習になりとても良かった」などの意見があり、次クォーターでも引き続き実施したいと考えている。

自由記述において「授業中他のことをしている学生に注意してほしい」との内容があった。もちろん目に余る行為は適宜注意したり、評価方法において授業参加度が50%と高いこと等は十分に説明していたが、これに関しては学生に理解してもらえるよう、今後もしっかりと説明していきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 タイの言語と社会

授業コード 35D14-001

教員名 加藤 久美子

教員コード 100483

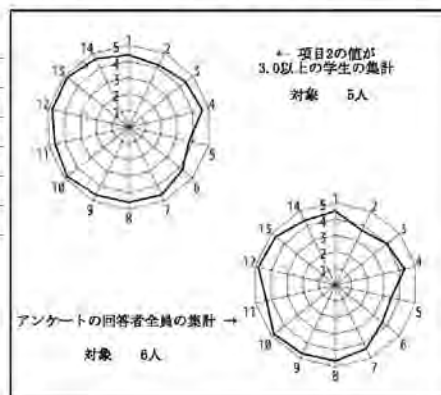
登録人数 21

回答数 6

回答率 28.6%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、タイ語の初歩的な会話表現を身につけることと、タイの社会に関する基礎的知識を得ることであった。授業評価アンケートには六人の受講生が回答してくれた。設問5「あなたはこの授業の到達目標を理解することができましたか。」に対しての、5点が二人、4点が一人、3点が一人、2点が二人という回答の分布状況からは、授業の到達目標をより具体的に丁寧に提示する必要があったことがわかり、反省している。設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」に対しては5点が二人、4点が二人であったことから、力がついてきていると感じていた人が多かったことはわかったが、一方でそのように実感できなかった人がいることも示されており、受講生に対する個別の目配りが必要であったと考えられる。今後は授業内でより細やかな配慮をしていきたい。一方、設問13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」に対しては、5点が四人、4点が二人であり、到達目標との関連は分らないが、ほとんどの人が授業を通して得るものがあつたと感じてくれたことがわかり、うれしく思っている。また、自由記述回答として、良かった点、改善すべき点を記してくれたことには感謝している。それらのコメントを生かし、また反省して、よりよい授業ができるよう努力をしていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アジア文献講読B

授業コード 35D17-001

教員名 小林 寧子

教員コード 100089

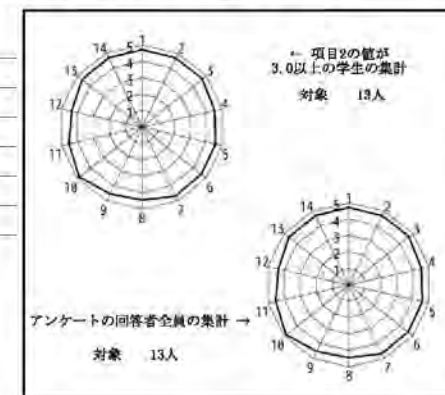
登録人数 19

回答数 13

回答率 68.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



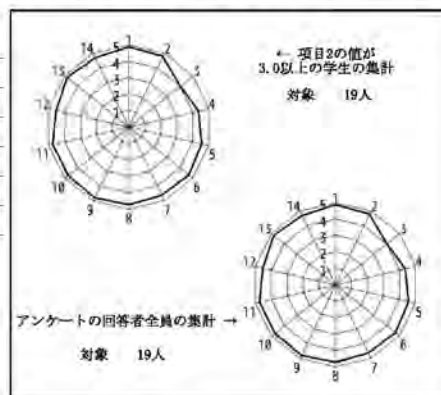
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は2017年度から始まった新カリキュラムの中でも、特に新しい、今までになかった科目であり、3・4年生対象に今年度初めて開講された。アジア学科生にアジアに関する専門知識を駆使して英語文献を読む、あるいはアジアに関する英語文献はその社会の背景となる知識がないと内容が理解できないということを認識させるのを目的とした。そして、英語文献も卒論の資料として使用することを目標とした。インドネシアで発行されている英字新聞の記事を題材にして、英語を読むと同時にインドネシア事情も知るということを狙った。自由記述からすると、当初の目標はほぼ達成されたと言える。ひとつには、4年生の受講生が多く、すでに卒論テーマを持ち、それを意識しながら新聞を読む姿勢があつたことである。昨年度まで教えた学生が多く、学生の様子がそれなりにわかっていたのも幸いした。全体としての満足度が4.69というのは、恐らく卒論作成に役立ったと学生が実感したことによるだろう。

ただ、少々気になるのは、インドネシア語や中国語をちゃんと勉強したうえでの英語学習だったかという点については疑問が残るところである。なお、私は来年度はもうこの科目は担当しない。適切な訳語の選択に何度も迷ったことを反省すると、私よりももう少し英語になじんだ教員が担当するのが良いかもしれない。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS中国語I
授業コード 48A24-001
教員名 趙 晴
教員コード 100960
登録人数 43
回答数 19
回答率 44.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの結果を見る限りでは、本講義の開講当初に設定していた目標をほぼ到達したと思います。

国際教養部の学生たちはみんな学習意欲があつて、真剣に勉強しています。質問もよくしますし、単語も毎回頑張って覚えてきます。真面目だけではなく、素直で、明るくて、楽しい子たちなので、とても授業しやすかったです。私にとってもたいへん楽しい授業です。学生たちの努力と協力にありがとうと言いたいです。

小テストが毎回あるという点は学生たちに評価されましたが、当然のことをしたただけですので、今学期も続けて行っていきます。

今学期は教科書、音声、パソコンなどを使い、文法、会話、発音など総合的な力を更につけて、より多くのことを学んで行きましょう！

学ぶことは、楽しいことですが、楽なことではありません。

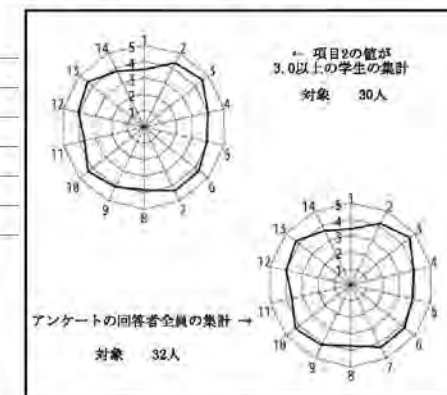
日々勉強！

今後もいろいろな勉強方法を考えて、教え方もより工夫をして、学生たちと一緒に頑張っていきたいと思います。

一起加油！謝謝！

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 データ処理入門4
授業コード 40B03-004
教員名 近藤 仁
教員コード 014431
登録人数 35
回答数 32
回答率 91.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



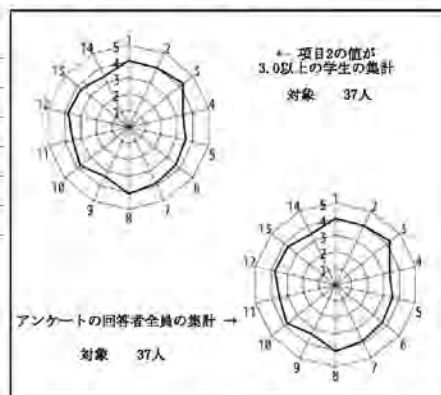
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業計画に沿って、授業目的はほぼ達成できたと考えられる。これは、学生の評価からも確認できる。

授業の理解度を上げるため、不十分なテーマレポートは、何度も再提出を課すことは、第一回目の授業で告知してあるが、再提出に対して満足する学生と不満を持つ学生がいる。不満を持つ学生は、他のクラスと比較して厳しいという点を述べているが、それは、教員の授業に対する考え方の相違であり、成績は公平につけられている。この点も学生には告知してある。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際金融論A
授業コード 40D48-001
教員名 神野 真敏
教員コード 103880
登録人数 168
回答数 37
回答率 22.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、国際金融の中でも特に外国為替に対して様々なアプローチが存在することについて説明し、その上で、現実の金融政策がどのような効果を発揮するのか、この効果を各自で読み解くことを目標としていた。

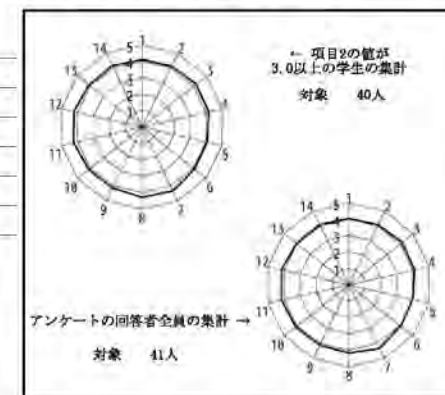
ただ、全体的な学生の評価は低く、とても残念な結果であった（Q14の平均値が3.41）。内容的には、昨年度と同じ内容であり、同じように講義をしたつもりだが、今年度はかなり低下してしまった（昨年度のQ14の平均値は4.28）。

今年度の自由記述に関しては、PPTの字が小さく、説明の開始が早すぎるなどの記述が目についた。昨年度に比べ、履修人数が増え、大教室にて講義を行ったことをもあり、PPTの字が小さすぎたのかもしれない。この点は大いに反省し、今後は、教室にあったPPTを作成していきたい。

また、説明を始めるタイミングに関しては、流れに即した形で空欄をオープンにしていると思っていたのだが、学生にとっては早すぎると感じられてしまっていた。この点も反省して、今後に生かしていきたいと考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済思想史B
授業コード 40D65-001
教員名 安藤 隆穂
教員コード 100507
登録人数 286
回答数 41
回答率 14.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①クォーター制に慣れ、春学期同様、受講者が200人程度に減少したので、受講者とのコミュニケーションの取りやすい講義でした。経済思想史概説の奥に、「勤労の倫理の意義を問う」という一貫した主題を隠して、どこまで受け止めてもらえるかを期待しました。そのため、春の宮沢賢治のように、今回もハプニング的な資料と話題を沢山織り込みました。結果として、講義後の自主的な質問も多く、かつ深く考える態度がうかがわれ、こちらの意図が伝わっていると確信しました。板書その他まだまだ改善を必要とすることが多々ありましたが、全体として、春に比べ前進できたと思います。

②評価結果は、ほぼ平均並みでした。ただし、項目7の評価が一番高かったように、こちらの熱意はしっかり受け止めてもらえたと思います。実際、質問だけでなく、講義中のミニテストを含め、内容のある応答がたくさんありました。

③今回も、知識を幅広く獲得することよりも、経済思想史という方法意識を軸とする基礎的学力を身につけることを狙いとし、文学などの分野に積極的に踏み込みました。経済思想史を学ぶことによって、経済思想史で考える力を身に付けていただきたいと思います。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語B4
授業コード 40E05-004
教員名 秋田 貴美子
教員コード 047613
登録人数 19
回答数 2
回答率 10.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①目標はビジネスの基礎英語語彙習得と基礎英会話力を高める。学生の英語レベルに合った英会話反復練習を頻繁に行い、英会話をするチャンスを増やした。参加型の興味深い授業になるよう努めた。小テスト、英会話発表、英語プレゼンテーションを実施。教科書Unit 6 まで終え、副教材も利用した。学生は積極的に参加し、実践英語を習得し、自信を持って英語を話せるようになったようだ。目標は達成できたと思う。
- ②履修生19名のうち2名がアンケート回答。ほとんどの項目が4か5であった。自由記述は「先生が明るくて楽しかったです。外国ならではの英語表現、言い回しや習慣などもたくさん教えてもらえて、よかったです。忘れないようにします」と書いてあった。英語レベルに相違があったが、参加型の授業ができた。ビジネスに関する教材、教科書のみを利用したが、基本的な英語表現などは一般英語と類似する点もあった。
- ③シラバスにはTOEIC600点以上の学生を対象と示したが、600点以下の学生も履修し英語のレベルが違う学生が混ざっていた。今回は実際に企業トレーニングに利用されている実践的な教科書を利用した。オーディオテープを与え、学生が常にリスニングに慣れるよう指導した。教科書はUnit 6までをカバーできた。また、副教材を活用し、授業中もレベルの違う学生同士がお互い安心してペア練習や演習ができるように工夫した。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 時事英語B1
授業コード 40E07-001
教員名 森川 信子
教員コード 100136
登録人数 9
回答数 4
回答率 44.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目では、The Japan Timesなど日本の新聞社が発行する英字新聞や通信社等の記事を収録したテキストを使用し、社会問題や環境、科学技術、文化など身近なトピックの記事のリーディングを中心に、英文記事に慣れながら読解力と語彙力を養うことを目的として、授業を行いました。今学期も非常に人数の少ないクラスでしたが、そのことにより、1人1人にとって密度の濃い学習ができたのではないかと考えています。どの受講生も熱心に授業に参加していたと思います。毎回順調にテキストの範囲を終えて、その後に付加的に別の記事を読む時間を取ることもでき、学期終了後の自主的な学習や関心の継続へとつながられたのではないかと考えています。以上のことから、当初に設定していた到達目標は概ね達成できたと考えています。今後も、受講者の学習意欲を引きだし、学習効果を高めるにはどのような教材・やり方がよいのか、引き続き考えつつ授業を工夫していききたいと思います。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 時事英語B3

授業コード 40E07-003

教員名 NORTH Cameron

教員コード 100400

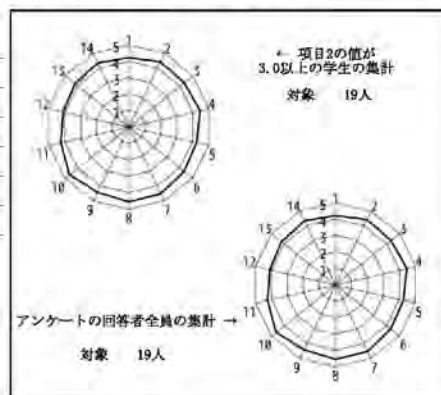
登録人数 25

回答数 19

回答率 76.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The questionnaire shows that the students were relatively happy with the class. As always, I can strive to improve on methods to continue with in the future. It is important to teach at a level that matches every student. Finding that level and teaching students on an individual basis is sometimes difficult. The students showed some disparity with their level of English comprehension; as such, it takes diligence to make sure each student is understanding. It seems that a positive atmosphere is one of the most important attributes required in the classroom in order to create a healthy learning environment. Also, it is important to try to use material that is relevant and helpful for the students. Overall, I believe the goals of the class were attained, and, I hope the students improved their English according to their expectations.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民法A

授業コード 40F04-001

教員名 飯屋 篤子

教員コード 102079

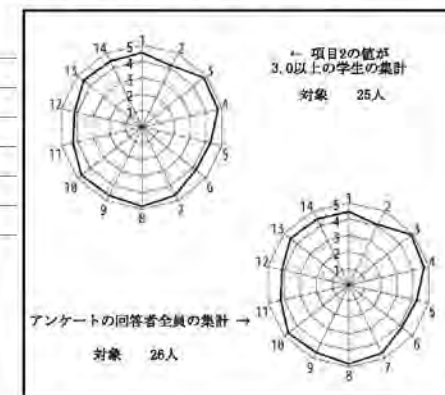
登録人数 45

回答数 26

回答率 57.8%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

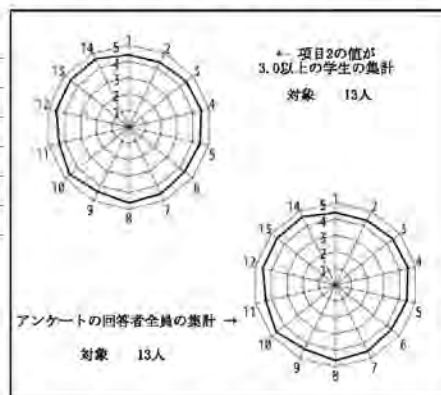


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①今回は特に、予習・復習や自発的な勉強を促すように、心がけた。そのために、使用する教材は授業の前週に配布し、予習しやすい状態にした。しかし、データを見たところでは、あまり事前学習につながらなかったようである。
②授業内容については、おおむね満足を得られているようである。
③次年度は、自発的な学習をより促すように、教材等を工夫したい。レジュメの使いやすさについては、良い評価と悪い評価の両方があるが、次年度はより使いやすい教材となるように、再度見直しを図りたい。授業内容に相違があるため、民法Bとは単純に比較できないものであることについては、学生の理解を求めたいと考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 商法A
授業コード 40F06-001
教員名 村上 康司
教員コード 103658
登録人数 77
回答数 13
回答率 16.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



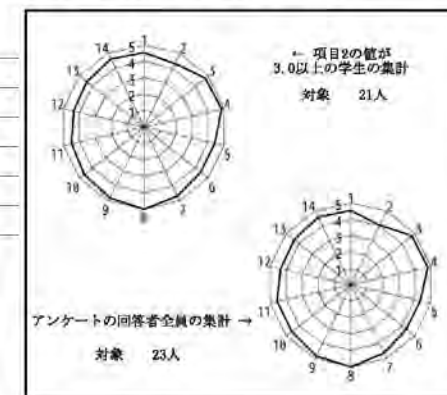
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、日々くり広げられるビジネス活動に関するルールについて多少なりとも理解し、また、様々なトラブルにも対処できるよう、法律知識を身につけておくことをめざし、もって、今後、社会に出た時にすべての学生にとって役立たせられることを目標に設定した。ちょうど、現実の企業活動においても、参照できるような事例がいくつか現れたため、日頃よりビジネスに関するニュースや話題に接するように心がけておれば、一層の理解が得られたものと考えられる。またスコアからも、履修前に比べると履修後の知識・理解の向上が図られたとの結果（4.38：設問1と4.54：設問13の比較）が読み取れ、受講者の多くは満足を感じたと回答している（4.62：設問14）ことから、所定の目標は相当程度達せられたものといえよう。

総合的に、本講義に対しては、アンケート結果によれば、一定以上の肯定的な評価を得たといえる。もっとも、アンケート回答者数が多くなく、それだけに意欲・意識の高い学生が回答してくれたことも推測され、これをもってすべての学生からの評価をとらえることは早急である。引き続き、多くの学生の評価を得られ、それを次につなげられるような機会としたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人事管理論B
授業コード 42C28-001
教員名 余合 淳
教員コード 103585
登録人数 51
回答数 23
回答率 45.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

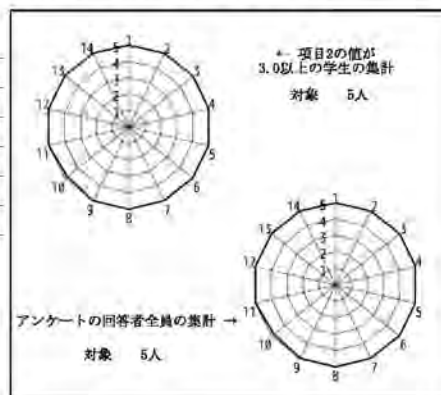


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
人事管理に関する基礎的な知識を踏まえ、企業に代表される組織と人のかかわり方、特に組織側の視点に立ち、組織内の人々をどのようにマネジメントするべきかについて、特に理論と実践の関係性について理解することにあった。講義では、通常消費者、あるいは労働者として接する機会の多い企業のマネジメントを対象に、特に人材マネジメントの観点から、企人事や労働を学習した。レポート及び期末試験の結果からは、概ね目標に対する到達度は良好であると考えられる。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データ全体の平均値は、経営学科平均値より一定程度高く良好である。授業への興味を問う問1では4.5超と関心を持っている学生が多く、実際の満足度を問う問14に関しても、平均値より0.5程度高く、満足している学生が多い。特に項目8については高く、適切な声量で講義を行うことを心がけているのがこれが確認されている。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
最も数値の低いものが予習復習と到達目標の理解であった。講義の中で到達目標を具体的に明示するような形をとっているが、その到達目標を達成しているかを学生がより確認しやすい形をとるような仕組みを検討する。また、予習復習を促すような課題を毎回課すことも検討するが、一方で毎回のレポート実施には講義内容の見直しが必要になるため、可能なレベルで適切に実施するものとする。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営管理論B
授業コード 42E04-001
教員名 藤川 なつこ
教員コード 101618
登録人数 45
回答数 5
回答率 11.1%
休講回数 3 回
補講回数 3 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の学修目標は、①経営管理論の理論的内容を理解した上で、②現実の企業の事例を、経営管理論を用いて分析し、③現実の企業が抱える経営課題に対し、経営管理論の視点から打開策や改善策を提示すること、であった。学生による授業評価の設問13の回答の平均値が5.00、設問14の回答の平均値が5.00であることから、学修目標を概ね達成できたと判断できる。

また、全ての設問項目で学科平均を超える高い評価を学生から得ることができたが、これは次の点に心がけながら講義を進めたことによるものであろう。

①小テストの実施

単に講義を聴くだけでは、受け身の講義になってしまうので、講義の最後には小テストを実施し、その日の講義内容について学生に考える時間を与え、理解を深めるようにした。

②学生からの質問への対応

講義の最後に質問を書いて提出してもらおうということを行った。また、そこで出た質問に対しては、次の講義の最初に全体に対して回答した。このことによって疑問と答えの共有を進めることができた。

以上のように、一方的に講義をするのではなく、学生からの意見や質問にも応えることによって、双方向の関係を築き、学生と共に講義を創り上げていったことが、学生からの、「授業中は必ず私たちが参加できるような形になっているので、理解しやすかったです」、という評価に繋がったと考えられる。

しかしながら、以下の課題も残されている。

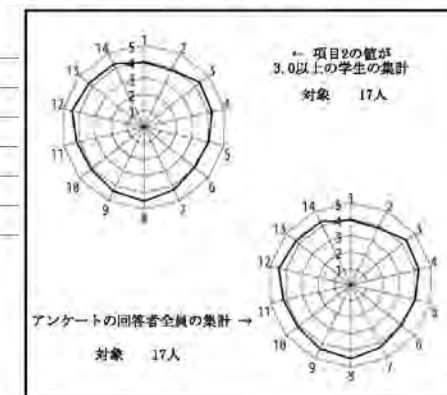
①アウトプットの時間の配分

②授業外の自主的な学習意欲の喚起

以上の点を踏まえて、学生の学習意欲を高められるような、より参加的な講義にできるよう次年度はさらなる努力をしていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(電子・電機産業論)2
授業コード 42F03-002
教員名 塩川 順久
教員コード 103587
登録人数 100
回答数 17
回答率 17.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

若者が日本に閉じこもりの傾向が強まる中、海外への関心を高め、国際的に活躍する楽しさを伝えるのが一つの目的としたが、多くの学生さんから前向きに捉えられたようである。

電子電機産業に対する関心・理解を醸成出来たと思う。又電子電機産業の前提の昨今の政治・経済状況も伝えることが出来た。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

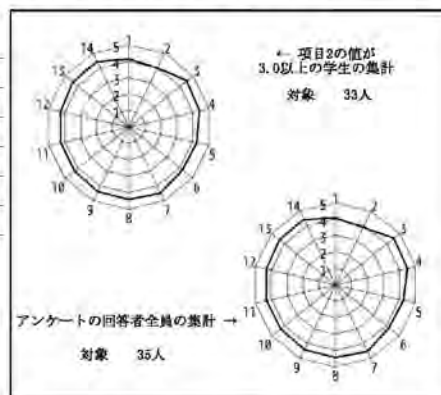
毎回の如く設問1、2.の平均値が低い。事前のシラバスの説明の仕方に工夫していく。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

政治・経済だけでなく電子電機産業も変化が急で激しいので、出来る限りキャッチアップし、分かり易いように講義で紹介して行きたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(自動車産業論)2
授業コード 42F04-002
教員名 村井 清
教員コード 103111
登録人数 99
回答数 35
回答率 35.4%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

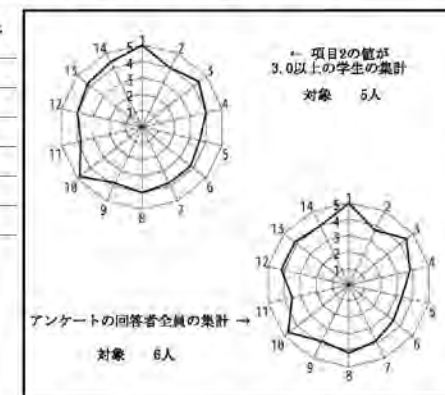


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①授業前の学生の興味4.09に対して、授業評価設問13理解が深まった4.37、設問14満足した4.43からみて当初設定の目標、到達は達成できたものと判断 ②設問10私語、携帯電話に対する注意4.29、設問12質問や相談の機会は設けられていたか4.31と他より平均点が低い項目について反省の余地はあるものの総じて自己点検は満足 ③授業開始・終了時の「起立・気を付け・礼」、毎回の確認テスト、確認テストと同じ用紙に記入させている質問票の次回解説については継続してゆく。一部学生の「配布資料が多い」については工夫をしてゆきたい。また映像を取り入れた授業を心掛けているが、OA機器操作理解不足のことが授業を中断あるいは授業進度を整合しない場面があったが次回は事前に習熟して授業を進めたい。今回は2年生主体の受講生あったことからかまだ就活に対する意識が低いと思われるが2020年度第1クォーターでは就活を目前にした3年生が多く受講することが予想され彼ら、彼女らに対して授業の合間に就活に向けた情報を取り込み充実してゆく。最後に設問2受講に際して予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようと努力しましたかの平均点が3.86と唯一4以下であり他の開講主体別集計、科目登録者数別集計で最も低いことを反省し次回工夫しアンケート点数向上を図りたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IIIオーラル・コミュニケーション3
授業コード 42G05-003
教員名 IVANCHENKO, Andriy
教員コード 102754
登録人数 6
回答数 6
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

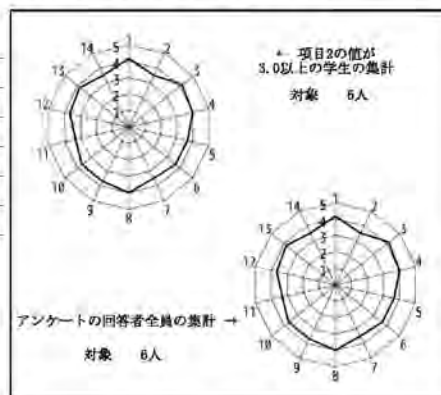
The learning objectives as presented in the course description seem to be satisfactorily achieved. All the students have fulfilled the course requirements with regard to class participation and homework assignments. The students' coursework was of good quality, showing attention to the class contents.

Most students seem satisfied with the course in general, as well as the class management, including effective use of materials. Most students report having improved their skills and knowledge through the course (to varying degrees), the classroom environment being conducive to learning and participation. Most of them also demonstrate improvement of their existing skills through the course, which becomes evident through their classwork and participation.

My goal is to continue working to stimulate everyone's interest in the subject and to help students acquire new knowledge, techniques and abilities. Individual guidance will always have an important position, while the course level is adjusted to fit each group of students. I shall keep up my efforts aiming to increase overall satisfaction with my course in the future.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法学概論
授業コード 44A13-001
教員名 清原 泰司
教員コード 100774
登録人数 12
回答数 6
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

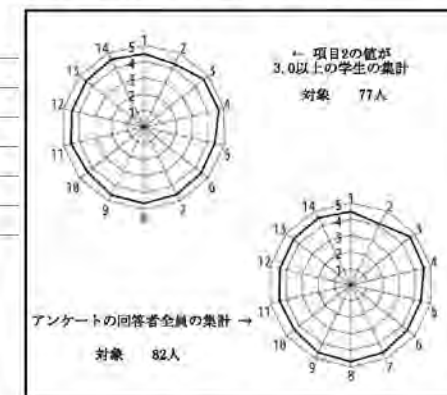


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、教職課程の必修科目で1年次生対象の科目なので、少人数の受講生を想定し成績評価方法は授業参加度30%、定期試験70%とした。実際の受講者数は12名で想定内だったが、11名が3年次生、1名が2年次生で、教職課程在籍者が0名だったのは全く予想外であった。1年次生対象の科目なので、受講の理由を聞くと、「時間が空いているから」とか「基礎から法律を勉強したいから」等、およそ法学部3年次生とは思われない回答であった。そこで、授業出席を促すため、小テストを3回し、授業参加度30%の判定に利用する旨を伝えた。また、民法の債権法や相続法が大改正されたので、授業時には最新の『六法』を必ず持参するように指示した。しかし、残念ながら、最終回の授業まで、誰もこの指示に従わなかった。毎回の授業出席者は7～8名で、総じて学生の積極性を感じることができなかった。それは成績にも反映され、受講者12名中、合格者8名（合格率67%、内、Aは1名のみ）であり、法律学の基礎的体系的理解という目標を達成することはできなかった。これは、授業評価の結果にも反映されており、項目3から14の平均3.72、項目14の授業満足度の平均値も3.50と低い。また、回答者6名の中には、すべての項目に1を付けた学生が1名いた。この回答者を除けば、平均値は4.0になっていたかもしれない。なお、全項目に1を付けた前記学生だけが、改善すべき点として、自由記述欄に「話す速度や板書、文字の汚さ」を指摘していた。しかし、授業では、毎回、レジュメ（A4用紙22枚）や新聞記事・ネット記事等を配布し、その解説や意見を問うことが中心だったので、あまり板書はしていない。この学生は、授業には出席しなかったのであろう。私の反省点は、学生との間のコミュニケーションにもっと努めるべきであったということである。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治思想史B
授業コード 44B45-001
教員名 長谷川 一年
教員コード 103576
登録人数 431
回答数 82
回答率 19.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

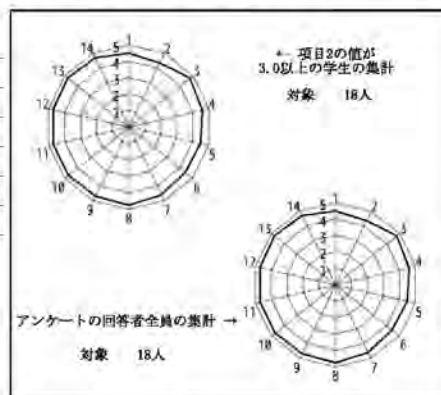


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①「政治思想史B」の目標は、「1. 西洋政治思想の歴史的流れが理解できる。2. 政治における思想の意義および役割が理解できる。3. 現代政治のトピックスを思想的観点から議論できる。」というものであったが、古代ギリシアから現代にいたるまでの政治思想の流れを通観したうえで、現在、全世界的に生じている「民主主義の危機」ともいえる状況について、歴史・思想を踏まえて考えるきっかけを与えることができた。目標はおおむね達成できたと思われる。
- ②数値データ上はおおむね学生の満足度は高いようであり、政治思想史をたんに政治に関する過去の知見として理解するのではなく、できるだけ現代社会のトピックスとも関連づけてきたことが効果的であったように思われる。
- ③次クォータ・学期以降も、基本的にはこれまでと同じように、できるだけわかりやすく、無味乾燥にならないかたちで歴史・思想のアクチュアリティを提示していきたいと考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済原論A
授業コード 44B52-001
教員名 川地 啓介
教員コード 103289
登録人数 95
回答数 18
回答率 18.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

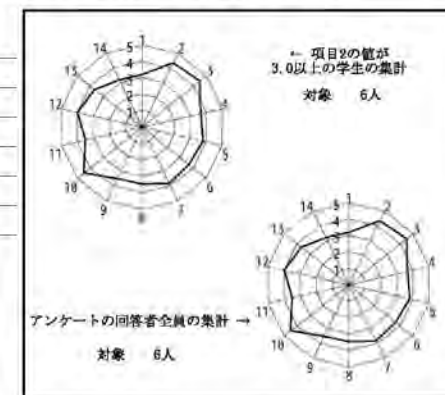


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標として、消費者と生産者の行動原理に加え、資源配分における市場の役割について理解できるようになることを設定し、講義期間内に受講生がその目標に到達できるよう、グラフや数式を用いながら丁寧に説明するよう注力した。授業評価の関連する項目からは、受講生の理解度はおおむね良好だったと判断される。昨年度の授業評価において、配布資料の読みやすさの改善を希望する意見が出されたため、今年度は、受講生が復習しやすいことに重点を置いて配布資料を全面的に改訂したことが理由の一つとして挙げられる。また、他の項目についても全般的に昨年度よりも改善させることができたが、毎回の授業の進行速度のみ、昨年度よりも評価が僅かに下がっている。昨年度よりも授業範囲を広げたために、全体的に授業の進行速度を少し早くせざるを得なかったことが原因として挙げられる。来年度は、法学部における慣れない経済学の授業である上に、法学部の授業ではあまり用いられない微分などの数式を用いることを前提として授業配分を再検討し、数式や複雑なグラフが出る箇所は進行速度を落として受講者の理解を促す時間を設けるなど、メリハリをつけた授業となるよう改善したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経済組織法
授業コード 44C11-001
教員名 水島 朋則
教員コード 103634
登録人数 48
回答数 6
回答率 12.5%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①前年度は目標に達していない学生（不合格）が0人であったが、今年度は残念ながら、受講生が増えたこととおそらく関連して、3人（試験の受験者35人の1割弱）の不合格者がいた。その意味では、到達度は9割程度と言えよう。
- ②回答率が2割に満たないこともあり、数値データの評価については留保したい。自由記述の中に、「英文は言われてもわからない上に和訳がちぐはぐでどこ話してるのかわからない…。英文はどこを話しているのか適宜教えてほしい」というものがあつたが、予めシラバスに次のように書いている。「授業用資料では、原則として（英文があれば）英文のまま載せることとする。授業自体は日本語で行うが、必要であれば、準備学習の段階で各種『条約集』などを参照し、その上で授業に臨むことが期待される。」準備学習をしなくても「授業がわかる」のであれば、その準備学習は必要でないということになるので、準備学習をしなければ「わからない」授業になっているということは、大学の授業として、むしろ積極的に評価できるとも言えよう。
- ③授業の目標の到達度を高めるためには、必要な準備学習をしないで授業に臨む受講生の数を減らすことが必要になるが、必要な準備学習を（そのような受講生は読まないのかもしれない）シラバスに明記したり、最初の授業で授業の進め方などについて説明したりするのでは（そのような受講生は欠席したり、出席していても説明を聞いていなかったりして）不十分であることを前提に、何らかの対策を工夫したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会と文明

授業コード 46B08-001

教員名 松戸 武彦

教員コード 100357

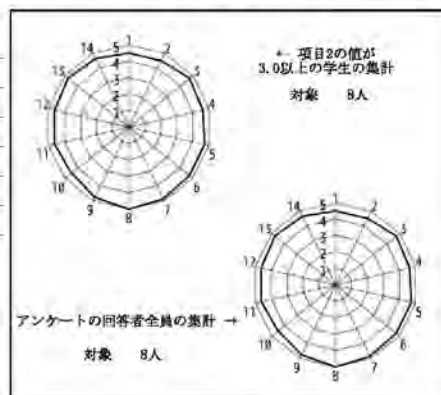
登録人数 19

回答数 8

回答率 42.1%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の目標はおおむね到達できたと考えられる。今年度は受講生数が少なく、この授業に本当に興味のある学生諸君が来てくれたと感じることが、毎時間できた。その意味では非常に珍しいことであったと言えよう。授業評価における高得点はその結果であると考えられる。この点は深く考えさせられる点である。つまり、授業自体は例年と著しく変わったわけではないにもかかわらず、学生諸君の「構え」の点で異なった相が見えてきたことになる。このことは、授業を通して学生たちが良い方向に変わるという以前にそれを可能にする儒教に向かう構え自体に一定の働きかけをしないとなかなかうまくいかないということを示唆しているように思えた。もちろん、授業内容に関しても毎時間反応が良い学生たちに関しても、より突っ込んだ見解や推論を授業中に提示することが比較的できたと感じた。この点で授業を行う私自身も楽しさを感じる時間を共有できたと思う。このような感覚はもちろん、少人数だったということに大きく負うことだけれども、これを相対的に規模の大きい授業の中でどのように展開できるのかは極めて難しい課題を提示されたように思う。こちらが興味深いと感じたことを受講生たちも一緒に感じているという感覚を持てたの私にとってもいい経験であった。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会計学

授業コード 46D08-001

教員名 梅田 守彦

教員コード 103893

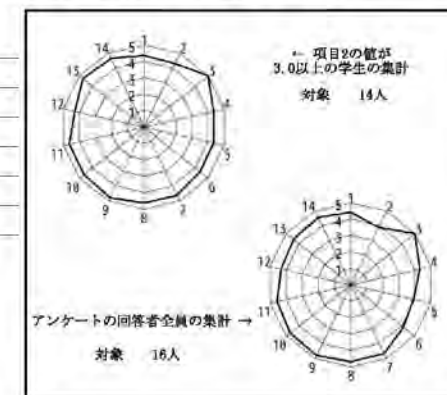
登録人数 21

回答数 16

回答率 76.2%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

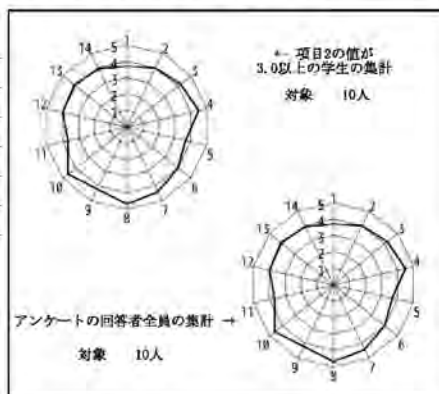
全般的にかなり高い評価をいただくことができました（と、少なくとも教師はそのように受け止めています）。ありがとうございました。

設問の5段階評価以上に、自由記述欄に肯定的な評価を多く書き込んでいただいたことが嬉しく思います。ただしこの評価は、少人数のクラスで授業を進めることができたという条件によって引き上げられた結果であることは確かでしょう。大教室ではどうしても全体に目が行き届きにくくなりますので。

寄せられた回答からは、①教師自身は開講当初に設定していた目標にかなり近づいたものと考えていましたが、アンケート項目(5)ならびに(6)の結果を見れば、授業目標がうまく伝わっていなかったように思われます。そして、②毎度のことながら授業の進捗をどこに合わせるのかの判断の難しさが浮かび上がってきます。「レジュメが多い」「繰り返しの説明が多い」といった指摘もありますが、一方で肯定的な評価とどうすり合わせれば良いのかは難しいところです。しかしいずれにしても、次回以降に少しでも改善することができるよう心がけます。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 近現代史
授業コード 46D10-001
教員名 柳澤 幾美
教員コード 101592
登録人数 20
回答数 10
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

- 授業の内容について問題意識を持たせること
- できるだけ授業に関与させること

その目標達成度

上記目標を達成するために、毎回授業後にリアクション・ペーパー（コメント、質問）を課した。いいコメントについては次の授業の最初で紹介し、重要な質問には答えるようにした。回を追うごとに学生のコメントがよくなり、また反応もよかったことから、ある程度は達成できたのではないかと自負している。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

学生による当該科目の評価について、ほとんどの科目がほぼ平均値であったが、授業の工夫の項目があまり高くなかった。もう少し、授業中に学生が関与できるような工夫が必要であると考え。自由記述では、ビデオを使った授業がわかりやすいというコメントがあった。映像を効果的に使うよう、工夫したい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今後も学生が十分に授業に関与できるよう、また問題意識を持てるように、授業を工夫し、魅力のある授業になるべく取り組みたい。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語II4
授業コード 46F02-004
教員名 Jean Claude AHWENG
教員コード 104148
登録人数 36
回答数 3
回答率 8.3%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were threefold, namely, for the students to: (1) undertake independent research, think and report about assigned policy related topics; (2) transform what they have learned and thought of in their research into an English report; (3) to share with and learn from each other what they have learned and thought about in their research.

The students took the assignments very seriously, did good research, gave much thought about the assigned topics and wrote good reports.

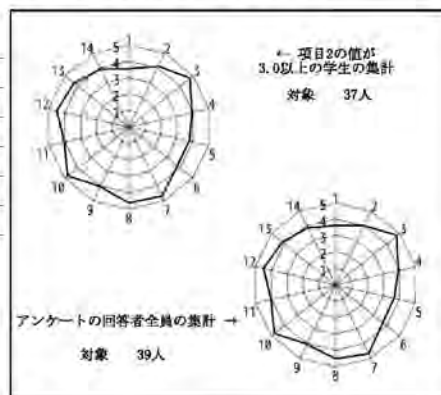
The students liked the approach and benefited a lot from the course, both in terms of the assigned topics and English. I can, therefore, conclude that the course attained its goals.

Good learning needs good teacher-student communication. Right at the outset, I explained the goals and teaching-learning method used in the course. This allowed the students to know exactly what they were expected to do and why, thus allowing the students to be motivated and to focus their energies on the assignments.

The students were highly motivated, had good educational foundation and a lot of potential. As a teacher, I got great satisfaction seeing that the students benefited from the course and that I could contribute, even if in a minor way, to the future of the students.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境と法
授業コード 46M05-001
教員名 岩崎 恭彦
教員コード 102072
登録人数 84
回答数 39
回答率 46.4%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

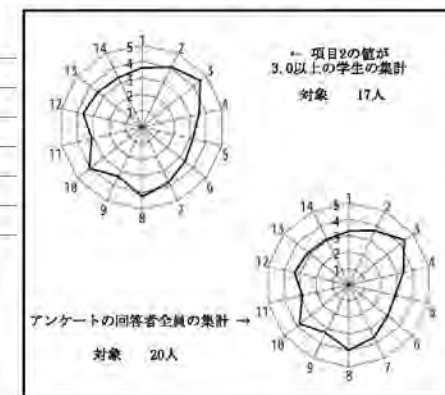
南山大学総合政策学部では、かつて瀬戸キャンパスで「環境法制論」という科目を担当し、一昨年度からは名古屋キャンパスで「環境と法」という科目を担当しています。授業の方針としては、当初より、法学について必ずしも系統的に学ばれているわけではない学生のみなさんを対象に、法学のなかでも先端・展開科目に位置付けられる環境法を講ずるうえで、次の点に注意を払ってきました。

すなわち、毎週一回の間隔で開講される講義の内容についてより一層の定着が図れるように、図表やイラストを用いた資料集を作成・配付して学んでいる内容をビジュアル面からもとらえられるようにすること、各回の講義において“学びのポイント”を指摘して環境法の重要論点がどこにあるかを明確に示すことなどを実施しています。また、法学関係科目の未履修者に配慮し、法学のテクニカル・タームを説明の中で用いる場合にはできる限り丁寧に解説することを心がけています。これらの点に対しては、今回のアンケートでも、自由記述欄を中心に多くのみなさんに評価していただいているのではないかと感じています。

他方、同じく自由記述欄では、板書の見やすさ、口頭説明の速度の適切さ等について、具体的な要望をいただきました。これらの点に関しても、適宜対応を図ることを通じて、数値データの更なる向上をも心がけようと思っています。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 位相幾何学入門
授業コード 51B10-001
教員名 山本 修身
教員コード 101051
登録人数 81
回答数 20
回答率 24.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

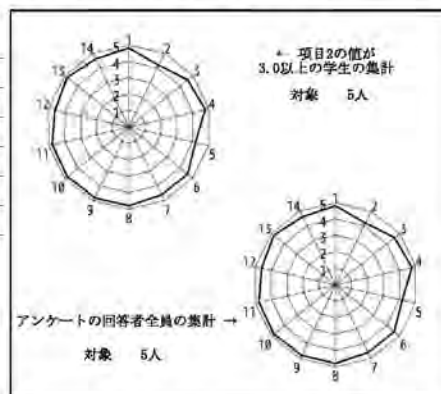
「位相幾何学入門」は「幾何学入門」の内容を変えて昨年度スタートした科目である。以前まで行っていた微分幾何学に関する内容をなくし、代わりに小テストの割合を増やした。この授業の目標は幾何学の基本的な考え方の理解である。特に、直感的にはわかりきったことであっても、それを数学的なことばで筋道を通して説明できることが目標である。「位相同型」、「連続性」や「ホモトピック」など位相幾何学で出てくる言葉の意味が、直感的な感覚（これも非常に重要である）にわかるとともに形式的に理解できることが到達目標である。大学で最初に学ぶ理科系の基本的な数学である微分積分と線形代数に比べると、「問題を解く」という部分よりは「数学的な構造を理解する」という色彩の強い科目である。

今学期は2年目ということで、すべての小テスト（全7回）について翌週に解答例を印刷したものを配布して解説した。この授業の内容については、森北出版から出版されている教科書にすべて書いてあるので、もし仮に授業に一度も出なかったとしても理解できるようになっている。それでも自由記述欄を見ると、授業の内容や講義に不満をもっている学生がいるようである。多くの高等数学に共通するが、この講義の内容も人によって、すぐに馴染める場合も、どうしても理解できない場合も出てくると思う。こちらも色々工夫しているつもりではあるが、難しい部分は感じている。

今後、授業の内容をより絞って、その分基本的な事項を増やすということを検討していこうと考えている。現在のこの講義では基本群を理解するというのが一応の終着点になっているが、今学期の授業や授業評価を通して、その部分も多少変える必要があるのではないかと考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLSスペイン語I
授業コード 48A21-001
教員名 APAZA, Pablo
教員コード 100878
登録人数 34
回答数 5
回答率 14.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

According to the goals that we want it to achieve, we can say that students realize that they were correct and in this first touch with the Spanish language world, most students had a pretty good immersion, so the classes were interesting for almost all the students, and they memorize and learned properly.

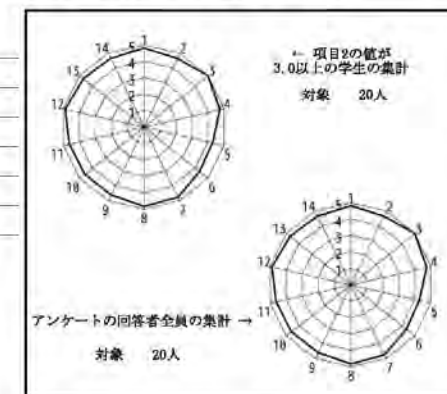
If we see the results of the students who participated on the questioner, we see that the results were pretty high, and the comment shows that the class were prepared for them. At the beginning of the quarter we couldn't have the text from the editorial, but after a couple weeks we could study very comfortable with the material prepared.

During classes and at home with the homework students worked hard, so these things helped to have a dynamic class, and nice environment, beside sharing information was nice to each student, while the had to talk with they're peers.

Because all students started Spanish language for the first time, at the beginning was hard, but step by step, they are starting to understand much better. So, we hope that the students with much better knowledge of the Spanish language and all related topics like culture, and social studies in different countries where the Spanish is spoken as a first language. We hope that the group will continue growing with much knowledge concerning the language.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIA3
授業コード 33A12-003
教員名 NISHINO, Aurelie
教員コード 103640
登録人数 24
回答数 20
回答率 83.3%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals for the lesson were to bring the students to an higher level (writing, understanding and speaking). I think I manage to reach these goals by proposing different activities to develop these capacities. The students were very motivated so it was easy to teach them.
2. This quarter is the easiest one with the second year students because they just came back from abroad and they understand the French culture / language much better. The book and the activities book are just perfect for them at that point.
3. The next quarter, as the level of the book increase, I will try to be more aware of the students struggle to allow them to improve and to be even more available for their questions and difficulties.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語文法II2

授業コード 33A18-002

教員名 遠藤 美加

教員コード 101551

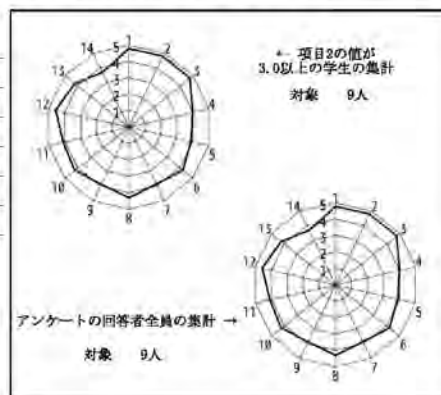
登録人数 32

回答数 9

回答率 28.1%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は進行として、Q1同授業で予習重視型であったのを、復習重視型に変更した。まずテキストの文法説明および自作プリントの練習問題を終え、テキストの問題を宿題にするようにした。宿題もQ1より量を減らしてポイントを絞った。使用テキストの難度が高く、普段原語による文法学習をしている学生が受講しているため、今回の変更はシラバスの目標達成により効果的であった印象が得られている。

アンケートは実際の受講生30人のうち9人が回答した。最終授業でアンケートの時間が不足したため、学生に各自で回答してもらうこととなった。残念なことに、設問5、7、9、14で平均値が4を下回った。文法説明や、課題の解答・解説が不十分な箇所があったというコメントが見られた。逆に、質問等の時間は十分であった、解説が丁寧でプリントが役立ったというコメントもあった。

個人的なアンケートをQ3の中日に行った際、授業についての自由記述から、学生の理解レベルに合わせた説明・プリント作成法へと改善する機会を得たが、それまでの授業への肯定的評価も複数得られた。その後の授業の雰囲気、受講態度も、全体的には悪くなかったように思われる。

文法説明・宿題解説の効率化への要望は、来年度に向けての課題である。また「叱責された」と感じた学生がいたようで、終始和やかに進めたつもりとしては驚きであったが、言動に注意すべきことを痛感した。また次回のアンケートは時間内に必ず全員に回答してもらうよう、時間を取るようにしたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語I<G>

授業コード 11F01-027

教員名 中野 麻里子

教員コード 102125

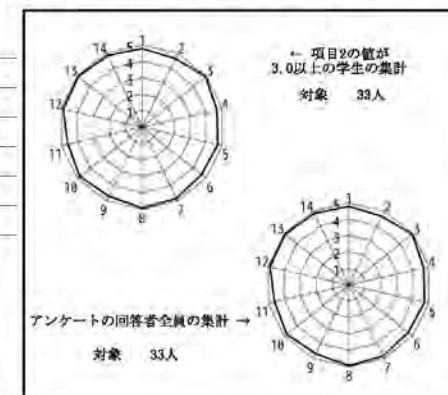
登録人数 43

回答数 33

回答率 76.7%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年よりも受講生が10名以上増え、発音などができているか、できるだけ全員の発音を聞くようにしたため、シラバスに設定した進度より遅れてしまった。この点については学生たち（全員ではないかもしれないが）には今のところ不満はないようなので、学生たちの様子を見つつ、無理に速度を上げることはせず、その都度適当な進め方を選択していくようにしたい。知識の定着度は目標通り達成できている。学生たちもよく勉強してくるので、学習効果がかなり高い授業にできていると思われる。

例年板書が速いという意見がでていたので、今年度も注意している。少しは配慮出来ているようだ。まだ時々速いと思う学生もいるようなので、引き続き注意していきたい。

これからどんどん内容が難しくなってくるので、わかりやすく、しっかりと知識が定着するよう、学生の様子を見つつ、時々意見も聞きつつすすめて行きたい。

もうひとクラスの趙先生との連携はなかなか難しく、いつも、「ここは教えてもらった？」と聞きながらしか進められないのを、もう少し趙先生のクラスの内容を把握しながら進められるといいのではないかなと思う。方法を考えたい。

以上

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語III<全>I

授業コード 11F03-027

教員名 李 香善

教員コード 103871

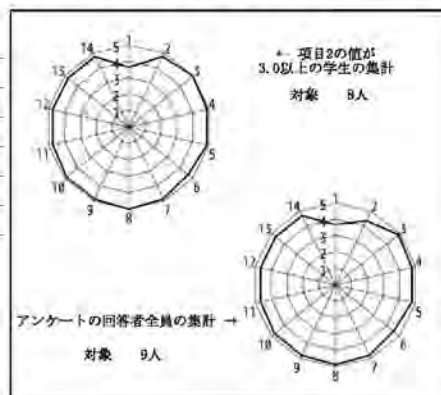
登録人数 36

回答数 9

回答率 25.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

基本的に再履修の学生が殆どであるクラスなので、開講当時の目標としては、学生が中国語に興味を持ち、中国語を覚えたいという学習意欲を持って毎回授業に臨み、熱心に受講出来るようにする事を目標としていました。半分以上の学生が設定目標通りに受講したと評価したいです。

出席が悪い3名の学生には授業終了後に次回必ず出席するよう促したり、毎回その日の授業計画内容に入る前に、少し基本的な基礎知識の復習を行ったりした結果、後半に来てはみんなの出席率もよく、授業態度も良かったので、担当教員としてやりがいを感じながら、講義できました。

今後の改善点は、やはり全員が欠席せず、学生が授業を楽しみながら中国語勉強に意欲を持てるよう、担当教員としてもっと工夫すべきところだと思います。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語II会話2

授業コード 35A12-002

教員名 張 静萱

教員コード 048047

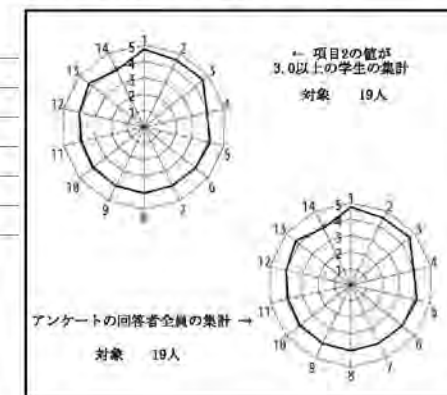
登録人数 28

回答数 19

回答率 67.9%

休講回数 2 回

補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

これは、中国語（Ⅱ）会話という授業で、発音のチェックをはじめ、新しい文法表現や句型などを繰り返して練習したり、短い本文の内容を学生に暗唱し、またそのまねをして会話文を作ったりする学生の積極的授業参加と口語表現の反復練習に力をいれて進めてきました。その結果、学生諸君の発音がきれいになり、会話の力が身についたことは、後半の授業でみなさんの活躍ぶりで分ります。授業評価の集計を見てもやや高めの評価をいただき、授業目標をおおむね達成したと思われます。

今後、学生の評価されたところを引き続き努力し、限られた授業の時間で、学生諸君の学習意欲をいっそう引き出すよう、さらに工夫し続けていくと同時に授業内容もさらに充実にし、学生諸君の興味をもっと湧いてくるように、適切な指導と情報提供をし、更なる授業の改善策を考え、取り込んでいきたいと思っています。受講生全員に満足度の高い授業運営を続けて努力していく所存です。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語作文B

授業コード 35C11-001

教員名 陳 志平

教員コード 049346

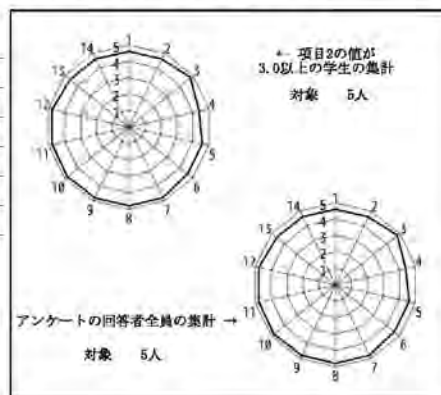
登録人数 7

回答数 5

回答率 71.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「授業評価集計」によれば、設問4（-0.15）を除いて、全ての設問に対する評価の平均値が「アジア学科」を上回ることができた。「授業全体」（4.64）、「授業運営」（4.80）、「全体的な評価」（4.60）、設問3から14の平均4.70、その内設問7「誠実さ・真剣さ」（4.80）、設問9「理解度」（4.80）、設問12「質問・相談／事前・事後指導」（4.80）などの数値データ及びレーダーチャート、自由記述を見た限りでは、開講当初の目標は概ね達成されたと思われる。学生から、「中国語が沢山話す機会があって楽しかった。」「少人数で、一人一人が意見を述べやすい授業だった。」と言ったようなコメントを頂いた。今学期も、課題選びや質問・相談を含めた事後指導などに細心の注意を払うよう心掛けた。やはりたとえ少人数の授業でも、受講生のレベルのばらつきという問題が必ずしも無くなるとは限らないので、来学期以降も、毎回の授業構成や進行速度をより適切なものにする工夫して、授業改善の努力を重ねて参りたいと考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[B・F]3

授業コード 10A51-004

教員名 赤尾 道夫

教員コード 104097

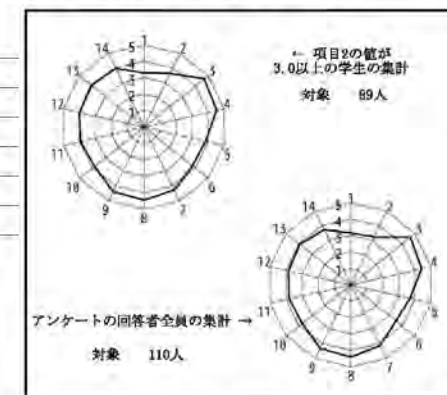
登録人数 150

回答数 110

回答率 73.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①「1. キリスト教や聖書に関する基本的な知識を身につけている。2. キリスト教の基本的な思想を理解している。」という授業の到達目標のために必要な講義を、シラバスの授業計画通りに実施することができた。毎回のテーマについて準備した分を時間内にすべて伝えることができた。試験の例題をwebclassに掲載することで、どのような問題についてどの程度理解しておくべきなのかを学生に示すことができた。②そもそも宗教科目に興味が無い学生が多かったので、できるだけ多岐にわたるテーマを取り上げ、また毎回の講義をまとめたレジュメを配付し、スライドや資料として様々な映像・画像を用いることで、学生の理解向上や関心を高めるのに一定の効果を上げたと思われる。しかし、それでもまだ十分でないようである。また履修学生が150人という大きなクラスで、階段教室で視界上方にいる学生たちを相手に、教卓の上のPCを操作し、講義ノートを確認するためにどうしても下を向きがちにならざるをえず、授業をするのは困難であった。学生の能動的な参加ができるような授業を求める意見もあったが、現実的でないように思う。教室が大きいので、教壇から遠い場所にいる学生の私語に気づけないことがあった。③授業のテーマに沿いながら、できるだけ興味・関心を持てるようなトピックを取り上げる。学生は視覚的な情報を歓迎するようなので、内容に沿った視聴覚教材を更に準備する。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 思想史に学ぶ人間の尊厳1

授業コード 10D03-001

教員名 浦 英雄

教員コード 101166

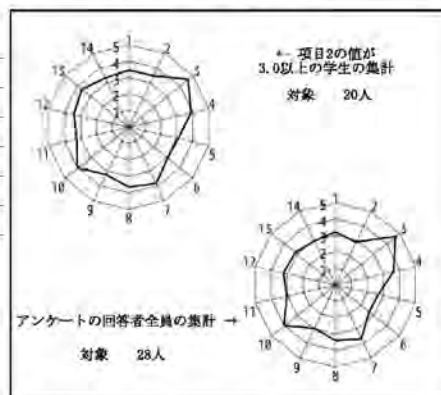
登録人数 83

回答数 28

回答率 33.7%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「疑うことの大切さ」「新しい見方」を感得した学生が居たので、私が掲げた目標は達成出来た。私は、通常は知らずに済まされている「事実」を示すから、「偏った意見」と取られて当然だし、「気分を害する」幼稚な学生も居る。隠されている正しい「事実」を知った上で、それを出発点として論理的に考えを進め、不愉快な「事実」を減らして、より良い世界に変えて行くための未来像を示してみろという、「哲学活動」を実演するのが私の講義だ。私の個人的な「お話」でも、私の「思想」でもなく、古代ギリシアのアリストテレスが、現代の日本で哲学活動をしたら語るであろう哲学を、私が「＜存在の尊厳＞の哲学」として代弁しただけだ。メディアの報道や政府の姿勢を、疑わずに頭から信じ切ってしまう学生たちの考えを変えるのは難しいし、反感も買うが、真理を追求して正義を貫こうとする哲学者として、私の講義スタイルは、変える訳には行かない。質問を受けるべく早めに入室していたのに、「反論」したいなら、幾らでもすれば良いのになぜしなかったのか。受けた質問と言えば、「出席は取りますか」「試験問題は何ですか」だけだ。授業の終わりに資料を配布すると、「次の講義の受講生」が入室して「出入口が混む」から、早く渡せと言うが、なぜ終わってもいないのに、次の授業の学生が入ってくるのだ？こちらは「大人」の話をするので、自分の望む有り方しか認めない「お子様」は、履習しないで欲しい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 性と生命における人間の尊厳5

授業コード 10D06-005

教員名 三谷 竜彦

教員コード 102441

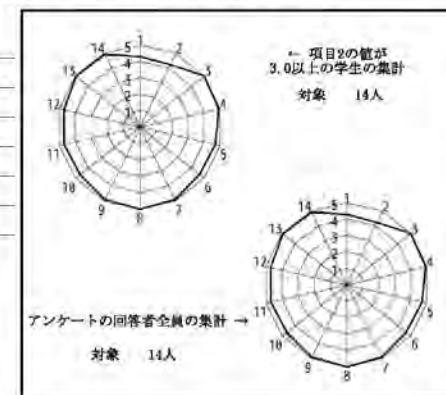
登録人数 36

回答数 14

回答率 38.9%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

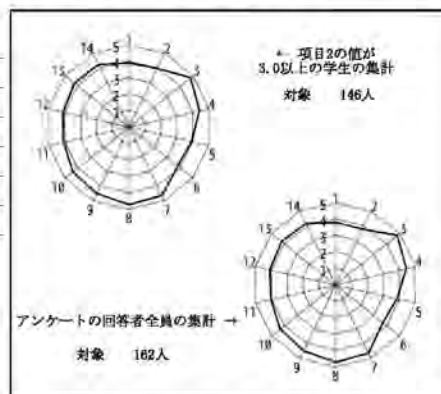


授業評価結果を踏まえた点検・評価

②受講生数は36名、回答者数は14名（回答率39%）でした。毎回のことながら回答率はやや低めでしたが、今学期も全体的に好意的な評価をいただいたようで、ほっとしています。設問3～14の平均値は4.84で、「人間の尊厳」科目全体の平均（4.33）を上回りました。いつも最も重要視している設問13（「…新しい知識…」）および設問14（「全体として…」）の数字は、いずれも4.93で、いずれも「人間の尊厳」科目全体の平均（設問13が4.32、設問14が4.16）を上回りました。またすべての設問において、「人間の尊厳」科目全体の平均を上回りました。これらのことから、①開講当初の目標はおおむね達成されており、したがって③今後も大枠的には（基本的な路線としては）今の授業の内容・方法を継続していった方がいいのだと思っています。もちろん細かい点での改善など（具体的には、配布プリントやプレゼン資料の内容面・形式面のいっそうの充実化、発声のいっそうの明瞭化など）には、今後ともたえず取り組んでいきたいと思っています。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 音楽A2
授業コード 12A07-002
教員名 吉田 文
教員コード 102447
登録人数 242
回答数 162
回答率 66.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

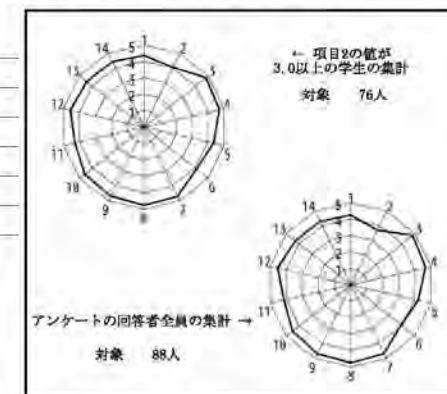


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 音や音楽を「聴く」ことができるようになる。2. 音楽のジャンルを問わず、作曲家が伝えるメッセージを理解できるようになる。3. 精神文化の土壌としての宗教音楽への理解が深まっている。の3点を目標として設定した。
1. 学生の個人差はあるが、常に「聞く」と「聴く」の相違や意味を説明したり考察を促すことにより、意欲的に授業に臨んでいた学生に関しては、リアクションペーパーの記述からも到達できたと考える。
2. ミサ曲をただ紹介するだけでなく、作品の成立背景や他ジャンルの美術等との関連性を説明することにより、それぞれの作品に関する理解度は深まったと考える。
3. 作品としてのミサ曲だけではなく、実際に儀式として行われているミサを紹介しながら講義を進めたり、作曲家について紹介することにより、宗教音楽と精神文化の関連性について理解が深まっているという目標に到達できたと考える。
- ② 前任者から引き継いだシラバスを、いかに自分なりに学生に伝え、学生の興味を促し、主体的な学びへとつなげることができるか工夫をした。
予想以上に多くの学生が肯定的に授業を受け止め、主体的に参加し、興味を持って学んでいたことが読み取れた。授業を進める上で学生に自主的にメモを取るよう促し、必要な用語や投影提示した事項はレジュメに記載したが、さらに細かなレジュメが必要である。
- ③ 学生の評価では「授業到達目標の理解度」及び「授業の到達目標に向けて力がついてきているか」の設問で比較的低い値が出ているが、振り返り用紙や期末テストの答案を参照する限り、当初設定していた到達目標には充分到達している力がついていることが判る。今後到達目標をさらに明確に提示し、学生に自信を持たせる声掛けを心がけたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 音楽B2
授業コード 12A08-002
教員名 小沢 優子
教員コード 101168
登録人数 133
回答数 88
回答率 66.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

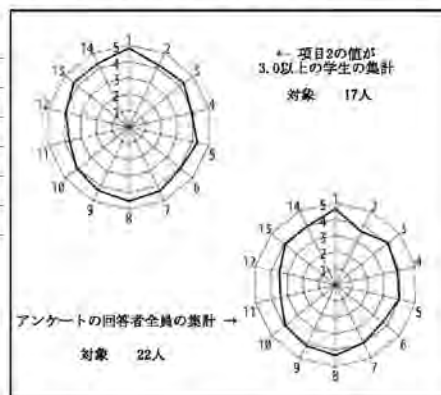


授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義はおおむねシラバスの計画どおりに進められ、設問4、7、8、9、10の数値が示すように、学生は適切なやり方と環境の中で授業内容を学べたのではないと思う。また、設問1～14、設問3～14の平均値（それぞれ4.39、4.46）からも学生にとってある程度満足のいく授業ができたのではないかと受けとめている。一方で、これまでほかの設問よりも低かった到達目標の認識に関する設問5、6の数値が気になるところだが、まだ高くはなく、何を習得するための授業であるのか、また、具体的に何を学んだのかを明確に自覚してもらうようにさらに促したい。自由記述には、「実際に音楽を聴いて授業内容と照らし合わせることができてわかりやすかった」「たくさんの楽曲を聴いたり、歌劇を見たりすることができてとても充実した時間だった」など、視聴覚教材を多く用いたことに対する評価がいくつも見られるので、実際の音楽体験と授業の到達目標—社会と音楽の関係、楽譜、音楽理論についての知識と理解を得る—を密接に結び付けることを今後の重要な課題としたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 世界史1
授業コード 12B12-001
教員名 大橋 真砂子
教員コード 100233
登録人数 75
回答数 22
回答率 29.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

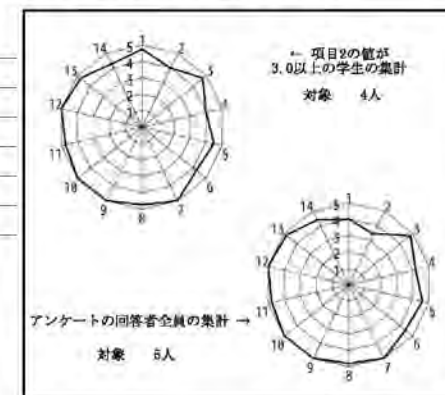


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、昨年度までの担当者からシラバスをそのまま引き継いだものであり、「1500年以降の世界の歴史」をテーマとしている。諸般の事情によりシラバスを全く変えずに行った。開講当初に設定していた目標はおおむね達成できたと考えている。ただし、各回の授業計画に関して、教員自身が様々な点で改良の余地ありと感じたのは確かである。学生の自由記述は、肯定的な意見と批判的な意見とがあり、それらの意見は学生自身の知識や高校までの履修状況によるものと想像される。担当者の立場からすれば、授業の冒頭での聞き取りでは、高校の時に「世界史」を履修しなかった、という学生もあり、そうした学生にも理解できるようなレベルの内容であったと考えている。登録者数に比して出席者数はかなり控えめであったが、単位を実質的に必要としない4年生の登録も多く見られたためであったようである。このクォーターでは、授業のプリントが事前に準備できず、当日配布するという結果となった。登録者数とのギャップで無駄になったプリントが多かったのが残念である。次年度に担当する際には、あらかじめWebClassに提示することで、そうした問題点を解消していきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法学A1
授業コード 12C01-001
教員名 長尾 良子
教員コード 102081
登録人数 10
回答数 5
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



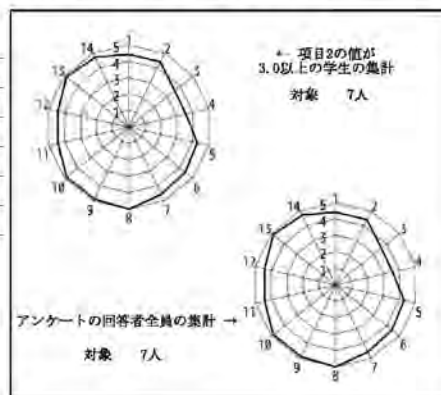
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は共通教育科目の法学で、法の基本構造、裁判の仕組み、民法・刑法の基本を理解するという授業目標はおおむね達成されたと思われる。今期はクォーター制導入3年目で従来と比べて少人数(10人)で、丁寧な授業展開が可能であったため、授業評価の項目1から14の平均は各種集計値を上まわっている。自由記述欄の表記は、例年と異なり僅かであったので、最終講の記名式の自由記述アンケートを紹介しておく(出席者全員提出)。A棟の法廷教室での模擬裁判員裁判がよかった(4人)、少人数でディスカッションが充実し、理解が深まった(4人)、面白い授業だった(3人)、課題の提出方法に関して改善を望む(2人)、わかりやすい授業だった(2人)「様々な資料や動画など教材が豊富で・・・法を身近に感じることができた・・・」、「自分のためになる内容であった」等々である。

今後も、一人ひとりの学生の要望に配慮し、グループ・ワークをはじめ様々な工夫をしながら、授業の満足度・理解度を高める努力を一層重ねていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治学B1
授業コード 12C05-001
教員名 大園 誠
教員コード 102910
登録人数 16
回答数 7
回答率 43.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

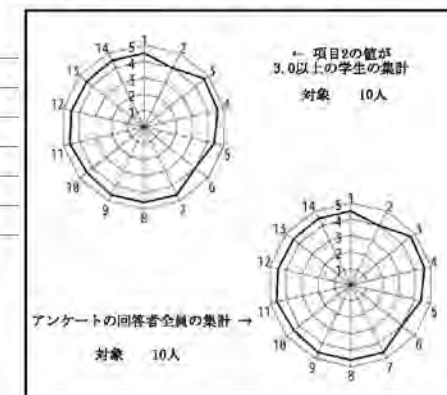


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①：本講義の内容は大きく3つの内容からなる。「戦前日本政治」と「戦後日本政治」および「国際平和機構論」である。一昨年度・昨年度同様に、この3つの内容を全て扱うことは困難であることは十分予想されたが、今年度も内容を大きく変えることなく試みた。「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」では平均値が4を下回っており(3.57)、受講生も疑問を感じているため、早急に手を打つ必要がある。
- ②：評価の高い項目(4.86)は、「学生の理解度への配慮と効果的授業進行」「授業の妨げとなる行為への適切な対処」「授業を通じた新たな知識や理解の深まり」の3つ。自由記述では、「コメント用紙」を通じて受講生の疑問に回答したことや、レジュメの分かりやすさ等が評価される一方で、授業進度について量が多いため後半の授業進行が「駆け足気味」だったことが残念との指摘や、「戦後史のみ扱う方が適切では」との具体的提案もあった。
- ③：この3年間の試行錯誤を踏まえて、来年度に向けての改善点としては、【授業概要】に記述されている内容を尊重しつつも、実質的には授業内容を思い切って絞り込み(「戦後日本政治史」を中心に扱う)、担当講師と受講生双方にとって適度な授業内容の「量と質」を目指して、具体的に対処すべき時期に来ていると思われる。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 物理学B
授業コード 12D02-001
教員名 本村 麗仁
教員コード 102685
登録人数 23
回答数 10
回答率 43.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

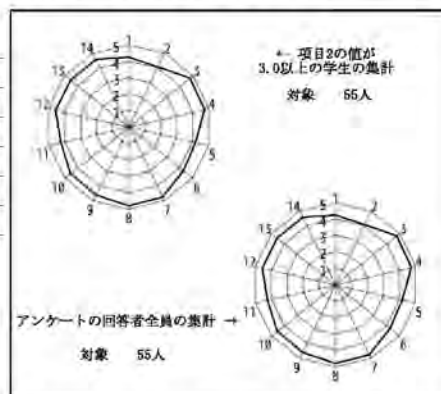


授業評価結果を踏まえた点検・評価

説問14の数値から、全体としては授業目標に近づくことができたものと考えられる。シラバスに「高校で物理を履修している必要はない。初めて履修するものとして授業を行う。」としたことから、授業で取り上げた物理学の知識については初歩から紹介し学習する場面を多くとった。このような展開について、説問4の数値から、おおむね成功であったと考えられる。映像資料については、実感を伴った理解につながるという点から要所で取り入れる展開を今後も継続したい。教室内で簡単な演示実験を行う取り組みは、物理学で実験が果たす重要性を実感できるという点から今後も継続していきたい。また興味があった点についてどのように学習を深められるかをより明確にするという点に関しては、参考文献の紹介など常に工夫を加えていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地球科学B1
授業コード 12D07-001
教員名 藤波 初木
教員コード 102077
登録人数 146
回答数 55
回答率 37.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



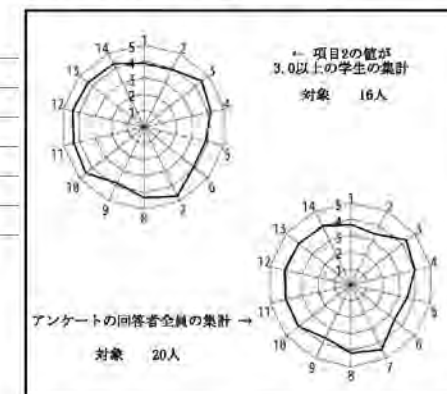
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた授業目標はほぼ達成したと考えている。学生評価では、この授業全般に対し概ね良好な評価を得た。またアンケートの任意解答でも「丁寧な説明で理解がしやすい」との回答を多く得た。授業資料はなるべく難しい数式を使わず、理系の専門用語の使用も最小限に止め、身近な気象現象から地球規模の環境問題の成因をできるだけ論理的に追いかけるように努力した。また、新聞等で報じられるアップデートな環境問題も、授業資料に逐次掲載した。また、授業のある週に観測された天気の変化や異常気象などに関する説明を動画や天気図などを用いて解説し、授業内容がどのように実際に適用できるのかなどを説明した。

今年度より、金曜日の3限・4限から水曜日の1限・2限に授業時間を変更した。そのためか、学生がこれまでより授業を集中して聞いているような気がした。アンケートでは、「授業内容が濃いので、2時間連続での授業としてはしんどい」というコメントをいただいた。確かに、教養の授業で2時間連続をきっちり講義するのは聞いている方が大変だと思う。授業内容を大幅に変更するのはなかなか難しいが、授業中に生徒が疲れないように、クイズ形式の課題をだしたり、実験的な要素も取り入れていければと思っている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地球科学B3
授業コード 12D07-003
教員名 古澤 文江
教員コード 103906
登録人数 53
回答数 20
回答率 37.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

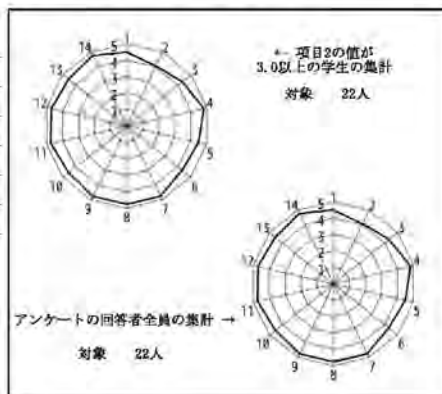


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①1つ目「熱や放射の基礎物理の習得」、2つ目「応用例の理解」の目標は、全員がこなせたかは不明だが、質問に正解する姿が見られた。
3つ目の「身の回りの現象について物理的に考察する能力を養う」という目標については、身の回りの現象や先端科学・技術に対し、自ら疑問を持ち、質問することができたので、達成しつつあると考える。
②難しい先端科学の話と日常の科学の話を取り入れ、画像で説明することは文系の学生にも受け入れられたと思われる。リアクションペーパーを使用し、質問への回答時間を設けた事で理解を深めることが出来たと考えられる。数値データでは、昨年5番の「この授業の到達目標を理解することができましたか。」という所が最も低かったが、最初の授業だけでなく、各回で説明したことにより改善したと考えられる。また、1番の「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」より数値が高い項目が多く、授業内容に興味・関心を持ってもらえるようになった学生がいた事が嬉しい。
③曇天以外電気を付けなかったのが常に電気を付けるようにする。授業中、休憩タイムを入れると良いかもしれないが、1回の授業内容が終わらない時もあるので、難しいと考える。しかし、どの様な休憩がよいか、休憩を入れるためにどんな工夫ができるかを考えたいと思う。授業内容も1回で終わるように工夫する。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学A1
授業コード 12E03-001
教員名 西田 裕紀子
教員コード 101587
登録人数 69
回答数 22
回答率 31.9%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問14項目中、12項目で全体の平均値を上回っていた。特に平均値よりも高い値(4.70以上)を示した設問は、「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか(4.82)」、「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真実さを感じることができましたか(4.77)」、「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか(4.77)」、「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか(4.78)」、「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料などを効果的に使って適切に授業を進めましたか(4.77)」、「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。(4.77)」、「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか(4.73)」、「あなたはこの授業に満足しましたか(4.77)」であった。特に、授業の構成や進行についてのポジティブな評価が示されていることから、今後もそのような授業の展開を志したい。一方、平均値を下回っていた項目は、「予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか(4.05)」、「授業の開始と終了の時間は守られていましたか(4.32)」であり、今後は、自主的な学習を進めると共に、授業の運営を工夫したい。概ねポジティブな評価・コメントであり、心理学の概論的内容を理解するという本科目の目標は達成できたと考える。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化との接触1
授業コード 13A02-001
教員名 チョ スルソップ
教員コード 103282
登録人数 46
回答数 4
回答率 8.7%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

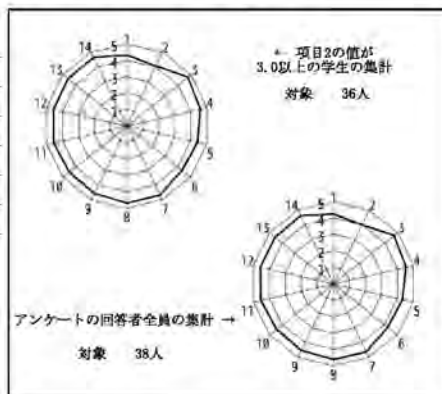
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
1. 韓国・朝鮮社会の衣食住や文字、生活環境などの文化要素の詳細をみていくことで、韓民族独自の社会や伝統文化の本質を理解する。 2. 韓国現代社会の動向、半島を生きる人々の生活相を具体的に考察することで、朝鮮半島の昨今の情勢や今後の発展の可能性を把握する。
以上の2点が当初設定された到達目標。達成のため、核心に触れる最新で且つイメージを持ちやすいビジュアル情報を提供することに努めました。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
授業アンケートに関する案内が行き届かずの状況でしたが、「韓国への知識を深める為に受講したが理解させる為に尽力している姿が見えた。」とある学生の自己記述欄にあったコメントが嬉しかったです。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
授業をする人、受ける人がともに楽しく、嬉しく、有意義になれる授業ができるようにと努めております。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 芸術をめぐって1
授業コード 13A04-001
教員名 梶田 美香
教員コード 103589
登録人数 94
回答数 38
回答率 40.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

概ね、予定通りの目標に到達することができた。受講生の集中度が高く、また、毎週のフィードバックシートによるコメントを通してのやり

取りも充実しており、学生の満足度の高さも伺える15コマであった。また、期間中に推奨した芸術展などに実際に出かけたというコメントも受取

り、学生の意欲を引き出したり、行動に結び付けることができたのではないかと認識している。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

音楽をCDで聴いたり、実際に生で聴いたりする機会を数多く設けたが、予想以上にそういった機会が歓迎されたことがわかった。座学中心の

授業でのモチベーションの維持には苦慮するが、鑑賞がその突破口にもなっていると感じた。観賞は、授業内容を反映させた選曲にしているの

はもちろんのこと、ポイントを提示しての鑑賞としているので、そのことも良い影響があったらそうと考えている。

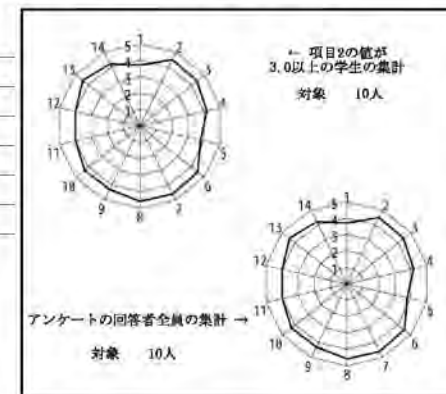
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

ウェブクラスにアップする授業資料が、授業後になることがあったので、その点を注意したい。また教室変更については、何度となく授業中に

通達したが、それでも間違える学生が2名見受けられたので、今後は注意したい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生命と法律問題2
授業コード 13C02-002
教員名 三枝 有
教員コード 100468
登録人数 57
回答数 10
回答率 17.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①について、今回の講義では、特に法の目的と機能について理解してもらい生命との関りを認識していただくことを主眼に置いていたが、この点については、リアクションペーパーならびに自由記述を見る限り、多くの学生に理解していただけたものと判断できる。できるだけ学生諸君が想像しやすい事例を掲示することが効果的であると理解できた。

②については、講義履修前の興味が薄い（1の数値が3.70）にもかかわらず、最終の13の理解数値が4.40であったことから、学生諸君の意欲的取り組みのお蔭と感謝申し上げます。しかしながら、取り上げている項目が、現代的であると同時にかなり難易度の高い生命に関する法律問題であるだけに、最終的な到達目標への到達はなかなか厳しいものがあったといえる（5の数値が3.80）。もっとも、本講義では目標達成以上に、思考プロセスが重要であることを考えると、学生諸君の勉学努力は、十分な成果あるものと考えられます。特に、自由記述を見ても学生諸君が学びえたものは大きいと感じられる。どちらかというと冷たく感じられる法が、いかに暖かく人間味あるものかを理解いただければ、講義担当者としては大いなる喜びであります。

③今回の講義で得た事例開設の重要性は、さらに説明方法など工夫を加えていきます。受講していただき感謝申し上げます。 以上

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境と倫理問題1
授業コード 13D01-001
教員名 高畑 祐人
教員コード 048736
登録人数 8
回答数 2
回答率 25.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

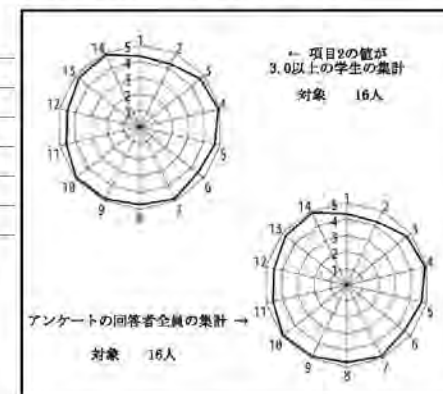
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①到達目標が達成されたかといえ、答えは微妙である。まず母数が少なすぎる。授業に最後まで出ていた学生がアンケートに答えたのだとすれば、自分が予想していたよりは、低い評価だった。
- ②もちろん一般教育の授業として、哲学の初歩的知識さえもたない学生を念頭に置いて、その部分の知識を身につけることも含めて授業を進めたつもりだが、力が及ばなかったということだろう。もちろん、受講する学生が哲学や倫理学の専攻でない(するつもりもない)ことは百も承知で引き受けたのであるから、目標達成のために手をつくすのが当然だといわれるかもしれないが、哲学や倫理学が軽視される風潮の中にあって、哲学倫理学の重要性を伝える仕事を非常勤講師に丸投げするのはどうだろうか。社会に役立つ「実学」に携わっていることを最上の存在理由として、そうした分野の利益を拡大することにますます躍起になっている大学に、学問体系全体の中の哲学倫理学の重要性など本気で理解する意志があるだろうか。それは哲学倫理学の専門家だけの仕事ではない。大学が全体として取り組むべき仕事であるはずなのだ。
- ③いずれにせよ私は今年度で契約が切れるので、次の機会に向けての改善点を書く必要はないと思われる。次の機会はないのだから。

2019年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生活環境と物質1
授業コード 13D03-001
教員名 成田 靖子
教員コード 100250
登録人数 30
回答数 16
回答率 53.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

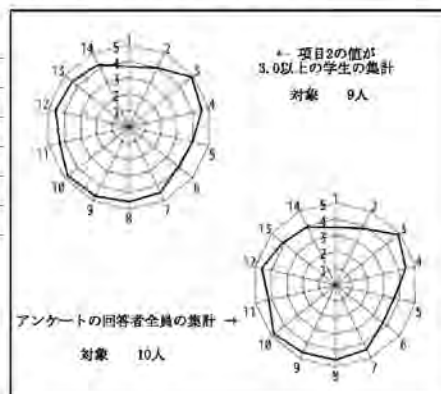


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 項目3から14の平均は4.74であったので、自分に課している基準をクリアーしたと考えている。この科目で扱う授業内容は、DNA・遺伝子、再生医学等である。文系学生が多いこと、高校での「生物」履修は個々様々であることを考慮して授業を進めている。また、大学の授業として高校では扱わない、生命科学・医学・栄養学などの自然科学のほかに人文科学等も含めている。その結果、高校生物よりも詳しい内容を学べたというコメントがあった。また、CGを使って人体しくみを説明するNHKSP.番組を使って視覚的に理解できるように工夫してきたが、約30年ぶりに新しい番組が作製されたことで新旧2つの番組映像を使えることになり応用範囲が広がった。受講生コメントとして動画を使った解説があった事がよかったというに記述があった。
- 授業の出席はとっていないが、配布プリントの残り数から今回の出席率は今までよりは高かった。担当者が授業の初めと終わりの声がけをすると何人かが返答を返すという雰囲気から、心に余裕を持って授業をすることができた。それは学生コメント「授業の雰囲気がよかった」につながっていたと考える。
- 評価の結果の一例は設問9『学生の理解度に配慮し～様々な手段適切に授業を進めたか』は4.88、設問14である「この授業に満足したか」4.88とであり、考慮しながら授業をした事が学生に伝わった結果と考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 知識の探求3
授業コード 13E03-003
教員名 牛島 謙
教員コード 042549
登録人数 50
回答数 10
回答率 20.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について。

インターネットの基底には明確な設計思想（デザイン）がある。その思想を理解することにチャレンジさせるのがこの授業の目標である。その目標を達成するために、自前で構築したデータベースから各回のテーマに最適のデータを抽出して1回分をA3用紙1枚にまとめて配布するという形式を取った。

②総合的な自己点検・評価。

授業のテーマが思想系であるだけに、事前の興味や到達目標の理解度のポイントが低い。自前の教材は学生に評価されており、全体としては学際科目の平均を若干下回る程度の結果に収まっている。しかし、評価の学生数が少ないため、一面しか捉えられていないと思う。

③改善点、今後の抱負、方針など

やや難しめの教材を使いながらその意味を授業中に読解するという形式で、授業を行っていきたい。学生の理解度をフィードバックしながら、解説のレベルを調整する必要がある。また、授業への満足度が低いので上げる努力はするが、思想を学ぶという場を共有することを第一に考えたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間と機械3
授業コード 13E04-003
教員名 大野 波矢登
教員コード 100625
登録人数 27
回答数 4
回答率 14.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

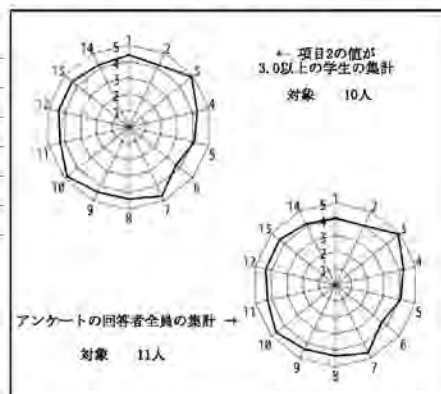
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1)人工知能やロボットに関わる哲学・倫理学的問題を理解し、自らもそれらの問題について考え、討論できるようにすることが、この講義の目標である。目標達成度は、アンケート結果が「回答数4件以下のため集計しない」であったため判断できないが、4人の学生の回答の平均が4.16であったこと、授業時間内に実施した小テストの平均が29.2点（20点満点、2回実施）であることから推測して、8割程度と思われる。
- (2)アンケートの結果については、設問1と5の値が低い学生がいた。授業の内容について興味を持っていない、そして授業の到達目標が理解できなかった学生がいたことが分かる。授業担当者の印象としても、学生の受講姿勢に、授業内容に対する興味や自主的に学習する意欲はあまり感じられなかった。
- (3)今後の改善点として、到達目標やこの授業を受講する意義について丁寧に説明することを心がけたいと思う。また、質問や相談に対する対応、事前・事後学習の指導を適切に行い、授業で用いる資料等を学生があらかじめ読むことができるよう、できる限り事前に配布するようにして、学生が授業内容に興味を持ち自主的に学習できるよう配慮する必要がある。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 博物館学E
授業コード 15M05-001
教員名 可児 光生
教員コード 102475
登録人数 48
回答数 11
回答率 22.9%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

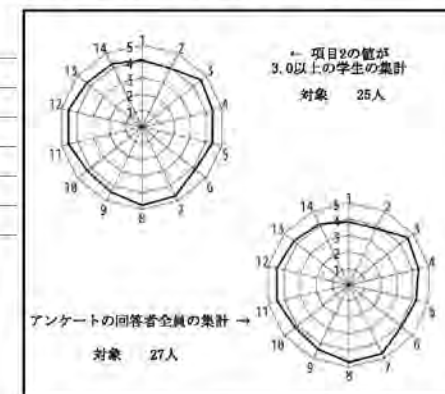


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①
ほかの博物館学芸員資格取得科目をまだ取っていない学生も多く、博物館に対する一般的で基本的理解度がどこまであるのか当初よくわからなかったが、授業終了時でのミニレポートなどを行うことによって徐々に把握できた。到達目標についてもその達成に努力したが、結果的に設問(5)「到達目標の理解」について一定の数値があったため安心した。また、設問(9)「配布資料、視聴覚教材など」についても効果的に受け止めてもらえたようである。
- ②
設問(13)の「新しい知識の習得と理解の深まり」の項目について一定の評価があったことがありがたい。博物館全体に対してのイメージを変え新たな位置づけをすること、現在博物館が社会に必要とされる存在であることを学生たちに考えてもらいたかったので、最終試験などを通してその目的がそれなりに達成できたと確認できた。
- ③
最終的に設問(14)「満足度」の数値がさらに向上するよう、学生の学習意欲を引き出す工夫をし、積極的な授業参加につながるよう努力したい。また、演習の方法についてもさらに効果が上がるようにその手法の研究を進めたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地誌概説
授業コード 22C07-001
教員名 佐藤 久美
教員コード 102924
登録人数 112
回答数 27
回答率 24.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

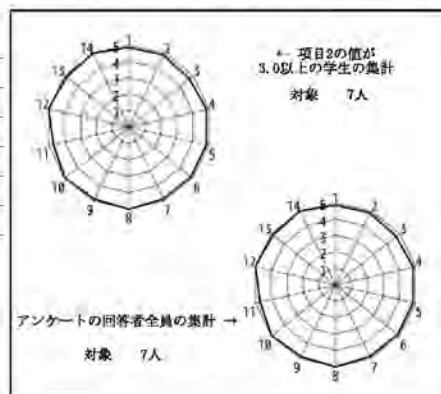


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 目標と到達の程度：ほぼ達成できたと考える。学生たちは、国境を超えて生きる人々のその歴史的背景や移動によって生じる様々な状況について、授業回数を重ねるごとに関心や理解を高めていたことが、リアクションペーパーの記述からも読み取れた。
- ② 「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていたか。」及び、「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」という質問項目への回答数値は、他の質問よりも低い数値となっており、今後は次週の授業内容について周知し、調べてきたことなどを発表してもらうようにすることも検討したい。
- ③ 映像資料を用いた授業であったことが高い評価を得ているようなので、今後も内容に沿ったヴィジュアル資料などを提示し学生が理解しやすいような授業を続けていきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(フィットネス)卓球
授業コード 14E06-002
教員名 福田 和夫
教員コード 043950
登録人数 11
回答数 7
回答率 63.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

高校での卓球経験者は1名であったが、基礎体育で履修経験がある学生が多く、全体的に基本が身につけている学生が多かった。また経験者の学生が他の学生にいろいろアドバイスをしてくれ、雰囲気の良いクラスであった。アンケートの結果、全項目の平均値は4.88と高い評価点であった。5.00の評価点の項目が次の4項目であった。「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。」、「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がされていたか。」、「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。」、「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」であった。自由記述の設問項目、「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」に対して、次のような回答があった。「いろいろなアドバイスや練習法を教えていただき、楽しい授業でした。」、「楽しく、のびのびと卓球ができるよう、先生が色々配慮してくれた。」、「自由にのびのびと楽しめた。」、「主体的にゲームや練習をやらせてくれたところ。」、「先生の教え方が分かりやすかった。」、「毎回内容が違うので飽きない。」であった。以上の結果から、概ね授業の目標は達成できたと思われる。これからより工夫して、より良い授業展開ができるように努めたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会・公民科指導法B2
授業コード 15B51-002
教員名 成田 健之介
教員コード 101555
登録人数 5
回答数 4
回答率 80.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

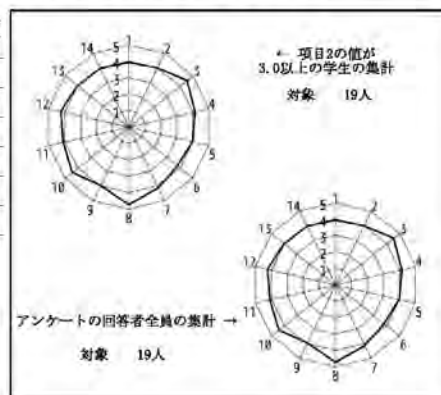
この授業は、講義および演習形式で、社会科・公民科における「主体的・対話的で深い学び」を促すために必要な授業実践力を高め、学校現場での授業実践や学習指導案細案の作成、模擬授業とディスカッション等によって、社会科・公民科における授業力を高めることを目的としている。そのために、学習指導要領改訂の経緯をふまえ、社会科・公民科の資質・能力を育てるための「主体的・対話的で、深い学び」について理解し、学習指導案の作成・模擬授業等を通して実践的で効果的な授業の在り方を考えることができるとともに、教材や情報機器を適切に活用し、社会科・公民科における授業力を高めるための指導に重点をおいてきた。受講者の数的なバランスが悪く、B2では少人数での授業となったため、少人数の良さを生かして一人50分間の模擬授業を実施した。学習指導案の作成や模擬授業後のディスカッションにも十分な時間をかけることができた。

学生の数値データは、1名が1項目を4としたものの、他はすべて5の評価であり、自由記述も次のように肯定的な記述が見られた。「担当教員の成田先生が、親身になって相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれたのでちょっとした疑問も解決できたり、不安も解消されたりして有意義な時間を過ごせました。」「他の先生からは聞けないような話や、実体験を直接聞くことが出来て勉強になりました。」「人数が少なく、50分の模擬授業を体験出来、またそのクリニックを丁寧にしてもらうことが出来ました。」

少人数授業によって、個に応じた指導ができ、50分の模擬授業を体験させたことは、大きなメリットとして挙げられる。一方で、少人数であるが故に、授業者が多数の生徒の前で授業をするという緊張感を持ちにくくなっていた点がマイナス点として挙げられる。次クォーターの少人数授業では、これらの反省を生かして、生徒役の役割分担を明確にしたり、模擬授業後の事後検討を更に充実させるようにしたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIオーラルコミュニケーション[B]12
授業コード 11A03-019
教員名 MEJCHAR Benny
教員コード 100666
登録人数 22
回答数 19
回答率 86.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



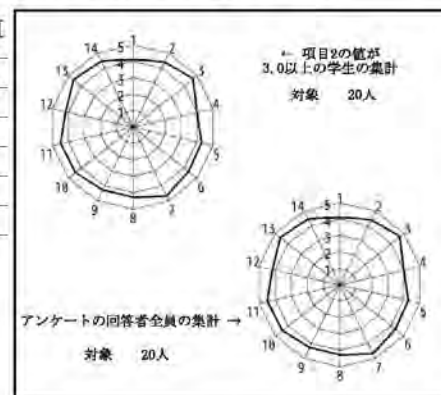
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class assessment was on the whole disappointing. Actually I believe that this was the third straight assessment by this particular class. Has this had any influence on the assessment score or whether the decline in scoring is due to a decline in performance? Nonetheless Q3 results were both disappointing and food for thought. In the prior assessment the appreciation of the sincerity of the teacher's work and effort was scored highly, and in this terms assessment the score was lower. In terms of teaching philosophy establishing a good relationship with the students is my most essential goal. Once a good relationship is established other class goals are more readily attainable. I believe this is particularly the case in language study.

This semester I decided to take a different approach to the assignment of class assessment. In the past I compared my scores to the language majors. This time I compared them to the classes major. In general my score was about average. After experiencing for the first time, four quarters over one year, I have some perspective to make change. I think that in my case, while the class is primarily oral communication based it will be a good idea add variety to the class by using appropriate grammar review materials that can be adjusted to focus on student's common speaking errors. In fact it is possible that this type of exercise will to some extent relieve the students or excess pressure by over-emphasis on OC content, especially over four quarters.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIオーラルコミュニケーション[P]3
授業コード 11A03-022
教員名 HERCHLER, Brian
教員コード 100552
登録人数 21
回答数 20
回答率 95.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



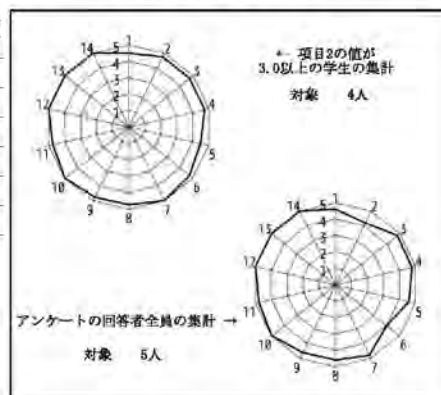
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The survey shows clearly that students are quite satisfied with the class. Topics are interesting and related to the Policy Studies major. Students are expected to either give a individual presentation or have a conversation with another student every week. Students must use vocabulary related to the assigned topic and are given the opportunity to show how well they have researched and thought out their stances.

The objectives set out for this quarter were achieved. Students largely worked to meet the demands of the course and demonstrated improvement in their speaking and listening abilities. Students allocated high marks for the course across the board. More improvement I expect during the fourth quarter.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIオーラルコミュニケーション[P]4
授業コード 11A03-023
教員名 VEGEL, Anton
教員コード 103503
登録人数 20
回答数 5
回答率 25.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

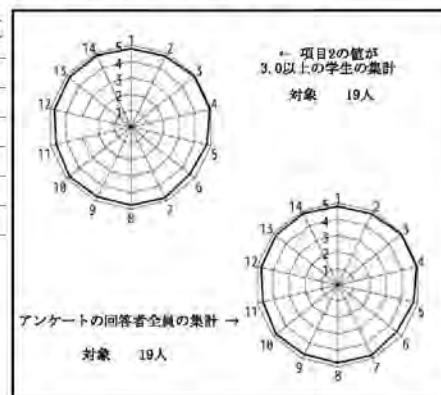


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. At the start of the course (Q3), I wanted to introduce ways for learners to be more reflective about their language output. I had introduced some ways in the past, but they did not seem sufficient. I decided to implement a transcription task four times every quarter. This would require groups to record conversations, listen back, and write down the focus points used (the points practiced in class for that unit specifically), basic small talk skills used (general skills that should be used in any context), and any mistakes with corrections that they find or that I point out to them. I believe this task has so far been very well received and I will continue to use it.
2. Based on the data, as usual, learners' perception of skill development is the lowest score (4.0). I believe this is normal especially for output based skill classes if not for language classes at an intermediary level in general. However, I do hope to see the score rise as learners have more chances to reflect on their performance and notice improvements.
3. Looking forward, I plan to continue the transcription task. I am especially interested to see how the learners' perception of skill development changes with a full year of the task being utilized in class.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIオーラルコミュニケーション[P]8
授業コード 11A03-027
教員名 岩城 奈巳
教員コード 049601
登録人数 20
回答数 19
回答率 95.0%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1冊の教科書を柱に、サプリメントとして発音・リスニング教材を取り入れ講義を実施した。教科書に沿ったテーマを基に、授業内での目標、そして授業後に目標の達成度の確認をおこないながら指導した結果が、アンケートでの学生の満足度として現れたと感じる。授業中は、複数名から構成されるディスカッション及びペアワークを毎回取り入れ、必ず全員が発言しなければいけない参加型講義にした。役立つ英語表現をまなび、それらを必ず講義内で実際に練習して身につけさせることを心がけ、本講義の年間を通しての目標である「実践的な英語でのコミュニケーション能力向上」も概ね達成できたので秋学期も同じ形式で継続しておこなっていききたい。また、検定試験に向けての教材を多く配布し、特に多くの学生の就職活動の際必要になるであろうTOEICは、数回に渡って試験問題を解く練習もおこなったので検定試験関連の教材について、とても役立った、とのコメントも多く見られた。こちらも引き続き、サブ教材として取り入れていきたい。最後のQ4でもしっかりと学生の興味、やる気を引き出しながら授業を実施していきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[B]2

授業コード 11A07-009

教員名 ADRIANOWICZ, Zbigniew

教員コード 103868

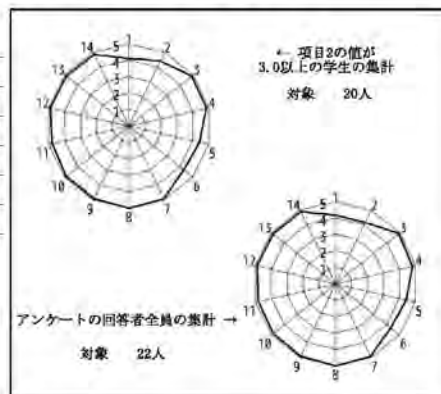
登録人数 22

回答数 22

回答率 100.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I had several main goals for the course, both academic and non-academic.
As for the academic goals, the first one was to give the students necessary abilities to write academic papers. In this quarter, the students had to write one reflective essay and one persuasive essay, with the latter having two major revisions.
The second goal was to both expand the students' vocabulary, but also to give them the ability to continue the expansion by themselves.
As for the non-academic goal, I tried to stress both the necessity of critical thinking and the acceptance of other people's opinions.

Looking back at the quarter, I think I was able to achieve the goals. The students made a very good, both accepting yet stimulating atmosphere, and in most cases, they were able to express their opinions both in small discussions and in assigned papers. The weekly writings show quite an improvement, and the students are able to use wider and wider vocabulary.

In the final course I hope to continue the course of the class and give them the necessary tools to continue their academic and personal progress.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[P]8

授業コード 11A07-027

教員名 BONDOC, Jeffree

教員コード 103469

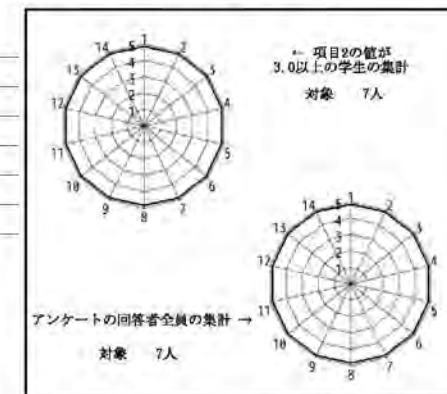
登録人数 20

回答数 7

回答率 35.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

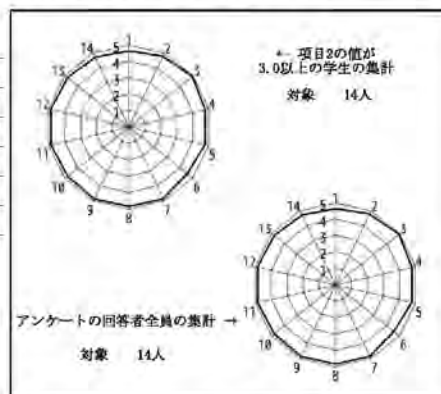


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The term goals were largely met. The students did very well with the reading component. The students read a range of books and learnt dozens of new words. The vocabulary exams were challenging but some students excelled. The writing component was challenging. Students did well throughout the term. More of the components of the composition were realized by the students and most new how to apply what they learnt. Rapport was built up more throughout the term. Students were more receptive to the work and concepts. Again, I think I gave too much work to the students. Some components of the syllabus couldn't be covered in as my detail as I would have liked. This is an issue I will strive to overcome.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[P]11
授業コード 11A07-030
教員名 鈴木 愛
教員コード 103596
登録人数 20
回答数 14
回答率 70.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Regarding the set goals and student's achievement for this quarter, I believe I have mostly achieved their learning goals. Especially with the writing, they were able to write their first multi paragraph essay successfully. Regarding reading, I assume they were able to learn a couple of reading skills that they have never learned before.

As for my self assessment on the class, I am able to give quite high evaluation on my teaching. Especially with the writing, I did writing conference with the students, and they all said it was very helpful. I am content with the fact that students feel they are learning what they are supposed to be learning at an adequate speed.

For last quarter, I would like to keep students motivated to learn English. I will try new things so that they will not get bored which is to include a little bit of planning for English exams for reading. As for writing, I will keep on working with multi-paragraph essay on opinion essay. This will help students succeed for exams as well. I would definitely include conferencing for the essay as all students stated that it was helpful.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[G]1
授業コード 11A07-032
教員名 MORRISH, Jaime
教員コード 103479
登録人数 11
回答数 1
回答率 9.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

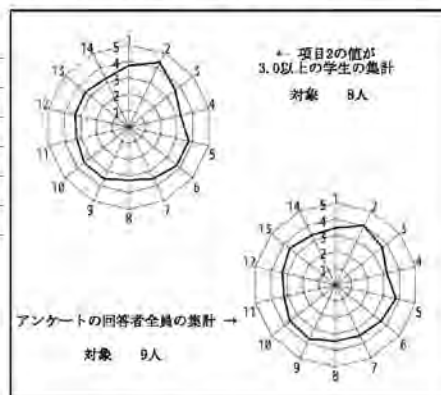
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course objectives were completed by all of the students. The students' attendance was mostly exemplary with only one or two students missing more than 2 classes, and only one student missing 4. The overall motivation and attitude was excellent. I aim to give the students as many opportunities as possible to produce English, whether it be speaking or writing, the students seemed to appreciate it this. The students appear very happy and engaged with the class, especially with the changing of seats every class and my warmup activities so I aim to continue keeping this positive atmosphere while making a few minor changes. Overall, this class is very enjoyable and rewarding to teach. I hope that with the small alterations for quarter 4 I can improve on what is already a good class. I feel that by varying the in-class activities and changing partners and group members regularly contributes to a lively classroom atmosphere. Also, by keeping the students' on a continuous assessment process keeps their motivation and attention throughout the whole quarter.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[P]13
授業コード 11A07-042
教員名 島 禎子
教員コード 045559
登録人数 20
回答数 9
回答率 45.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

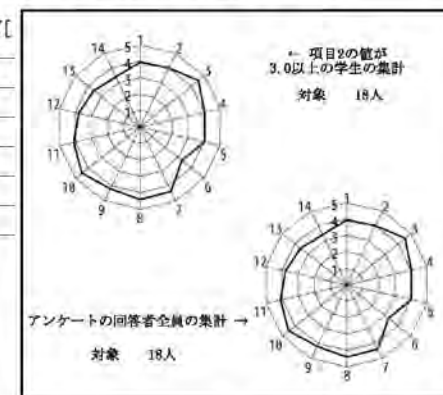


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q3の達成度は50%弱。今年度の学生は全般的に学習意欲が低く、単位だけを望む傾向が例年より高いため、目標を達成させるのが極めて難しい。学習意欲を引き出す工夫といっても、本来持っているものは引き出せるが、全く持っていないか、或いは苦手意識の奥底に埋没している英語に対する学習意欲を引き出すのは至難の業で、不可能に近いというのがQ1から通しての偽らざる実感である。一握りのやる気のある学生が、学習意欲、態度がきちんと身につけていない学生に妨げられることなく、このまま熱意を保ち続けてほしいと切に願う。やる気のあるこのクラスではごく少数派の学生に少しでも学習上役に立てたことがあるなら素直にうれしく、徒労にも思える今年の努力が十分報われる。また今まで担当したことのないタイプの学生を担当したことで、教師としての幅が広がり引き出しが増えたことに感謝する。ただ今後の提言として、学習意欲のきわめて乏しい学生が1つのクラスに集中するようであれば、逆行するようではあるが、lower classの約3つをmixed classにして、学力、意欲の面である程度均一化を図るのはどうだろうか。これは今年に限った現象かも知れないが、bottomという気持ちが、彼らにマイナスの力を増幅させているような気がして仕方がない。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]9
授業コード 11A11-023
教員名 DRYDEN, Laurence
教員コード 101482
登録人数 18
回答数 18
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course in English speaking and reading is for students majoring in Asian Studies, French Studies, Spanish and Latin American Studies, and German Studies.

Students' responses in the Q3 anketo were respectably positive, averaging noticeably higher than in Q2 in both statistical categories. As the Q3 anketo suggests, the students feel they are making progress and are showing increased motivation.

These improvements may be attributed to the instructor's efforts in Q3 to provide more opportunities for students to speak with several different partners during class, made possible through a fifteen-page activity guide which the instructor wrote to supplement the course textbooks.

Such improvements guide instruction for the rest of the year. In Q4, students study vocabulary using forms specially designed by the instructor for reporting on English words, their families and collocations, in relation to the languages in which the students are majoring.

Moreover, in a new vocabulary activity, students collaborate with their fellow language majors in order to teach the rest of the class about relations between selected English words and words in the other languages that they study.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[J]1
授業コード 11A11-037
教員名 LENIHAN John
教員コード 045070
登録人数 11
回答数 4
回答率 36.4%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

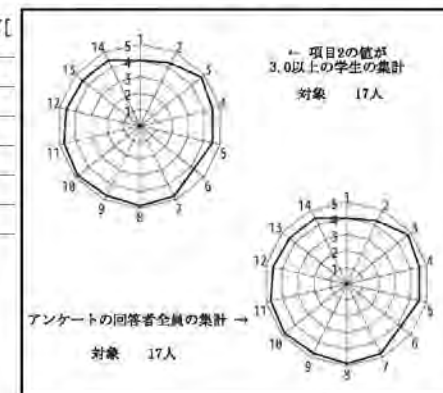
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Again, the goals of this class were the basically the same as those of the first and second quarter: engage in extensive reading, improve reading strategies, develop basic vocabulary, everyday idioms and similes and to improve basic oral communication skills. I believe the students would agree that the objectives were met, according to their motivation and participation levels. Also once again, the extensive reading exercises were supplemented with many other materials and or listening comprehension and group listening practice. Generally the results of the evaluation were positive and encouraging. It is unfortunate that only 40% of the class participated this time. Perhaps they were working on other assignments in class and forgot to do it at home. I will make sure next time that everyone completes the evaluation during class time. And once again, the students who participated the most and appreciated the variety of activities showed the most progress during the first quarter.

During the third quarter we tried different techniques for learning the Latin and Greek prefixes, suffixes and roots. In the place of the quizzes we read laminated sheets on one prefix, suffix or roots. They said these were helpful. They are slowly but surely acquiring the knowledge that we have been seeking. Once again, I thoroughly enjoyed teaching this class and enjoy seeing their improvement.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[J]11
授業コード 11A11-039
教員名 大竹 万里
教員コード 047084
登録人数 18
回答数 17
回答率 94.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



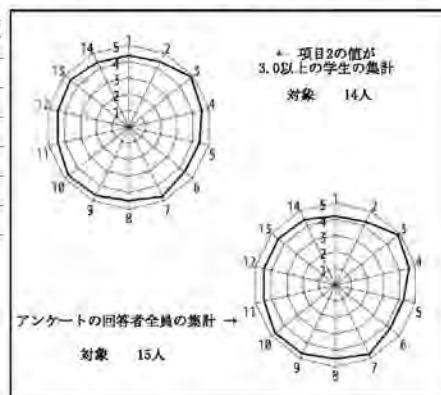
授業評価結果を踏まえた点検・評価

火曜日の授業では、イントネーションの練習、会話、インタビュー、モノローグを聴いて、リスニング力及びスピーキング力を高めることを目標とし、ペア、またはグループで発話練習をした。また、金曜日の授業では、語彙力と読解力を高めることを目標に設定し、テキストに沿って、内容理解とそれに必要なストラテジーの説明とその応用に充てた。学習を記録する小冊子(Class Book)を配布し、図書館のグレーディッドリーダーを利用した多読を目的とする自主学習の記録、グループでディスカッション内容を記録することを課題とした。グループ発表の機会も設けた。到達目標はほぼ達成できたと思う。

授業評価の設問3から14の平均数値データが4.61、学生の授業に対する全体的な満足度については4.47であった。授業の良かった点、評価できる点として、配布した「クラスブック」、「スピーチテストによって英語を話す機会が設けられている点」であった。一方、改善すべき点として「グループワークをもう少しやることを具体的にした方がよい」という指摘は真摯に受け止めたい。この授業の到達目標に向けて力がついてきていると実感できるような授業を目指して、第4クォーターでは、リーディング・スピーキング両授業において、学生の積極的な課題取り組みや発話練習を促す授業を心がけたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[J]4
授業コード 11A11-043
教員名 柴田 直哉
教員コード 102751
登録人数 18
回答数 15
回答率 83.3%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

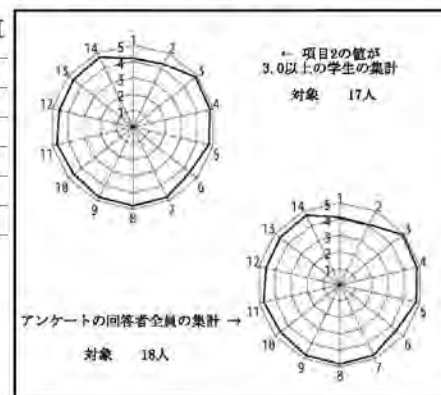


授業評価結果を踏まえた点検・評価

第3クォーターよりエッセイ活動を導入したわけだが、全体的なライティング活動だけではなく、リスニングとリーディング活動が不足したように感じている。そのため、当初目標としていた語数や内容理解度に関しては到達はすることができたが、本当に学生たちの中で理解をし、その学んだことを今後どのように活かそうとしているのかは不明瞭な点が多い。しかしながら、学生の反応を見る限りでは全ての項目において平均値が4以上であることから数値的には比較的満足度は高いように感じられる。今後の問題点としては、講義内容の選定と難易度の調整をより一層注意して行っていくことが求められる。第4クォーターにて行っていく予定であるトピックは人口問題と絶滅危惧動物という日常生活とは少し離れたトピックであるため第3クォーターで行ったものよりも補足資料の提供をする必要性が高くなっていくだろう。いずれにしても、学生の理解度及び学習到達度を基に講義内容及び活動を考察する必要がある。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[J]5
授業コード 11A11-044
教員名 LANGER Daniel
教員コード 101438
登録人数 18
回答数 18
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

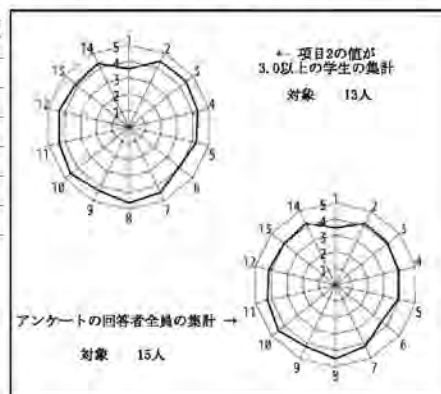
We have maintained the same pace as the previous quarters. The students have been good about meeting the outlined objectives.

The scoring sheet indicates that the students have no problems with the class curriculum. The comments were few, but positive. There was only one negative comment, which related to the issue of student interaction. Although one student said they were happy about the amount of pair work, another student said they would like more group work. I do not know if this is a problem of different expectations, or if the latter student has something specific in mind. I will think about this further before deciding whether to implement changes.

I would still like the students to do more reading outside the classroom, but I have not been pushing them very hard on this. They are assigned two book reports per quarter, and although this is not a burdensome requirement, I have decided, for the moment, to be gentle about reading assignments.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[J]6
授業コード 11A11-045
教員名 NIXON, Richard Mark
教員コード 103559
登録人数 18
回答数 15
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

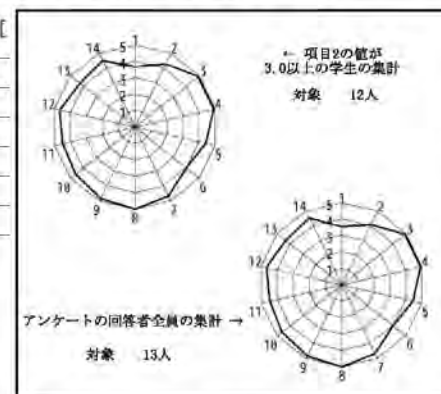
1) The goals of the class were to deliver content using a collaborative teaching style and I believe this goal was accomplished as we did a great deal of pair and group work in Q3. The students had the opportunity to work together and express their ideas in a safe and understanding environment. I also believe that the students developed their vocabulary and their ability to express themselves in class. In the reading portion of the class we engaged in surveying materials, skimming, scanning, and predicting outcomes of stories. Students also had the chance to write about what they had read.

2) most of the student responses in the numerical data seem satisfactory between 4 and 5, with the exception of Question 1, which received a score under 4. There is still improvement needed on my part in this regard.

3) In Q4 I hope to improve my own teaching style in response to individual student needs as I am becoming more aware of each student's individual talents. I hope to continue to help students improve their writing by way of the weekly reading summaries they are writing and engage in more speaking in the communication portion of the course. I will develop students' ability to engage in debate and give them the chance to show their dramatic ability through live play. There may also be the opportunity to give a short speech and/ or book summary presentation in the final week of class.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[S]10
授業コード 11A11-050
教員名 平出 優子
教員コード 102521
登録人数 18
回答数 13
回答率 72.2%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

英語IIIコミュニケーションスキルズの授業はスピーキングとリーディングから構成される。Q3のスピーキングの目標は、指定された写真及び自分で選んだ写真2枚についてそれぞれ2分間で詳細に英語で描写出来るようになることであった。描写の仕方については、毎回の授業で①何の写真か一言で言う、②主な特徴を説明する、③写っている人や物を説明する、④前置詞を使って細かい特徴を説明する、⑤意見・感想を述べる、の5段階に分けて写真描写の練習を繰り返し行った。スピーキングテストの結果が全体的に非常に良かったので、学生は写真描写のコツを理解し、表現できるようになったと考える。授業評価の数値では学生の英語に対するモチベーションがあまり高くなかったため、教員が写真を授業で提供するだけでなく、学生が自分で選んだ写真の描写を毎回の宿題にするなど練習頻度を上げる工夫をした方が良かったと思う。

Q3のリーディングの目標は、流暢に英文を読むための様々な読解方略を効果的に使えるようになること、Extensive Readingにおいて目標語数に到達し、ブックレポートを提出することの2点であった。Q2に続きリーディングテストの結果と提出されたブックレポートの出来が良かったため、目標は十分に到達できたと考える。

Q4では難易度を上げ、更なるadvanced skillが身につくよう指導したいと考えている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[
SJ6
授業コード 11A11-056
教員名 SIMMONDS Brent
教員コード 103050
登録人数 19
回答数 4
回答率 21.1%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

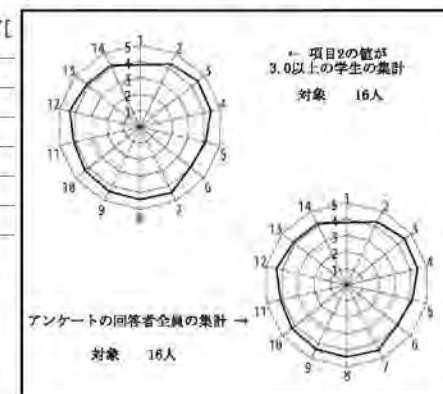
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Although generally pleased with the student evaluation I need to tighten up and improve in certain areas. I was a bit concerned that few students replied to the survey and will ensure students get further reminders in the next quarter. The students said that they would like more speaking practice but enjoyed short writing exercises each week. The students enjoyed the presentations and learning a little about gender issues but I need to provide more material in this area. The balance between the four skills was about right but I will add extra speaking to the syllabus in the next quarter. Efforts will be made to provide the students with further opportunities to speak about topics that interest them in every lesson. There were several problem areas that need attention. Firstly, students were beginning to lose interest in English as priority shifts to their majors. Secondly, students didn't take the writing or speaking activities as seriously as they could. Reminders from the teacher would benefit in this area. The class reading activity went well, students could develop their language ability. During this quarter I can build on the previous years' work and explore ways they can improve.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[
JJ13
授業コード 11A11-061
教員名 内川 元
教員コード 101922
登録人数 18
回答数 16
回答率 88.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はコミュニケーションをする上で欠かせない、聞く力と読む力をつけさせることに重点を置き、さらに日本人学習者の多くが持つ「英語を話すことへの壁」を壊すことを重要目標にして進めています。

生徒の授業態度および課題への取り組み姿勢は良好で、授業中も皆指示をしっかり守って各種タスクにきちんと取り組んでいます。そのため復習テスト、小テスト、リスニングおよびスピーキングテストの結果、レポートの出来もよく、大多数の生徒が概ね授業目標を達成しているものと思われます。

評価数値も目立って低いものではなく、自由記述欄でも改善点を上げた生徒はいませんでした。しかし1～3学期の様子を踏まえ、4学期はリーディング授業の内容に若干の変更を加えることを思いついたので、それを実行しその結果をもとに来年度以降の授業進行方法を再検討したいと思います。

今後も必要に応じて改善を続け、授業の質のさらなる向上を図っていきたいと思います。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ
J14
授業コード 11A11-064
教員名 SWEETLOVE, Douglas
教員コード 102522
登録人数 14
回答数 4
回答率 28.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

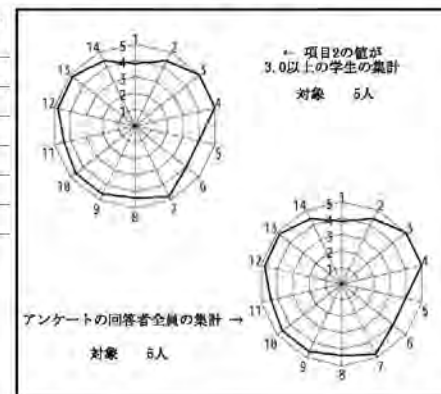
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①The goals of the course were largely achieved. I was able to teach both the reading and the conversation ends of the course, so I was able to be flexible about time management and scheduling.
- ②At first glance, the results are great. However, we have to take into account a couple of factors. First of all, I believe that students are given the same survey for every course. If so, this makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey for all classes will not spend much time or effort to fill it out, and won't consider their answers very carefully. I suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department.
- ③Nanzan could do some specific things to make teaching easier. For example, open the AV cabinets in all classrooms. Many other schools have open systems and I have never heard of any trouble with the equipment being stolen or damaged. The system at Nanzan discourages teachers from using the technical resources that are available. Also, eliminate the time wasting "internet security" quiz when teachers need computer help. It is frustrating for teachers and an extra burden for the computer system staff.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ
<再>1
授業コード 11A11-065
教員名 JONES William M.
教員コード 100263
登録人数 11
回答数 5
回答率 45.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

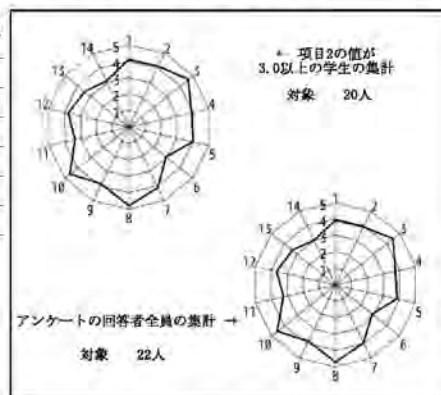


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is the first time instructor was evaluated on a repeaters class and thus instructor has no previous data for comparison, i.e., A/B comparison. The sample size was quite small (5 or so) as well as instructor now has 24 students in the repeaters class for Q4. Instructor was pleased with the progress the students made, not only in English, but in overcoming their reluctance to speak English and to interact with others. It's always challenging when students in a class have the following: different majors, various years and immensely different levels of language ability. Overall, Instructor was satisfied with the course and will try to improve techniques that help motivate students who have failed English classes in prior years and thus often bring some negative "energy" into the class. As is often the case, the pairing or grouping of students for conversation is crucial as it's been the experience of instructor that students who major in foreign languages tend to be more willing to communicate, and are often more proficient in speaking and listening, than others.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]3
授業コード 11A13-003
教員名 伊藤 実里
教員コード 045542
登録人数 25
回答数 22
回答率 88.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

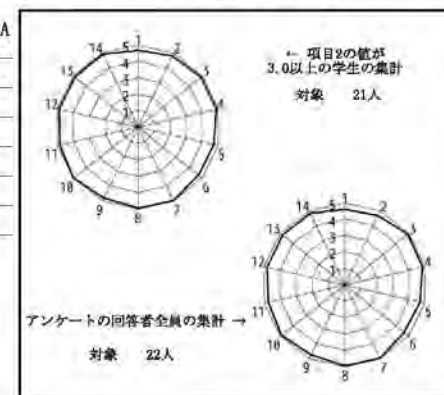


授業評価結果を踏まえた点検・評価

これまで担当してきた同様のコミュニケーションスキルズのクラスでの評価と比べ、このクラスでは全体的に満足度が低かったので反省点を考えたい。急に担当することになったという事情はあるが、1年生ではなく2年生の後半からのクラスであることに對する準備が不十分だったことがいちばんの理由だと思う。どちらかというスタートの1年間で身につけるべき実践的内容の授業の後半部分から参加してもらう形にしていたが、残念ながら英語圏ではないとはいえ留学経験を経た人たちの期待に応えるものではなかった。意見発表のプレゼンや読書課題についても、想定していたよりも難くこなす人たちだったので物足りなさはあったと思う。履修する人たちの背景や状況がわかったので、今回は申し訳なかったが、次年度のグループからは教科書のレベルや授業の中でのペアワークなどを見直し、手ごたえのある内容に改善したい。リーディングについては教科書の内容に関連したものをもっと読む時間を増やす工夫をしていきたい。言語面だけでなく、大人として知っていて損はない現実社会の話題についての知識を深め、自分の意見はどうなのかと考える機会となる内容としたいと思う。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]4
授業コード 11A13-004
教員名 CAPITIN-PRINCIPE, Abigail
教員コード 102955
登録人数 26
回答数 22
回答率 84.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

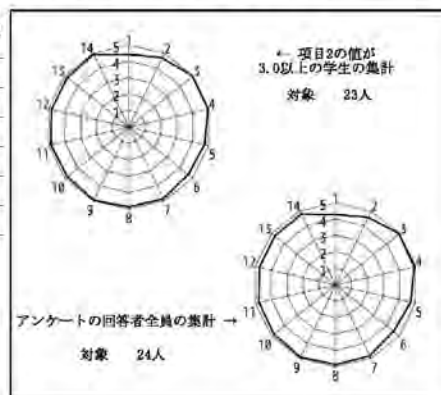


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of the class were, for the most part, met, in the course of the quarter. The students were interested in the lessons, and were actively engaged during the discussion activities. The use of both printed and online materials enhanced the classroom learning atmosphere. Giving students discussion time to prepare for presentations also helped them to actively participate in a group.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ[FA
FF, FS, FG]6
授業コード 11A13-006
教員名 SCRUGGS, Edward
教員コード 101864
登録人数 25
回答数 24
回答率 96.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

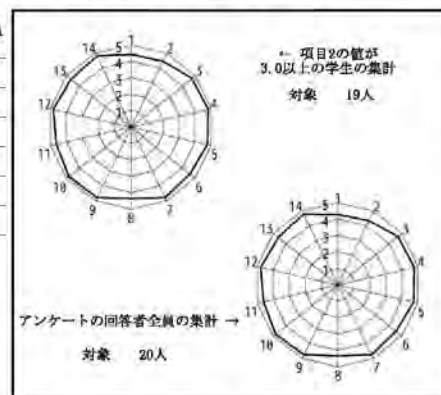


授業評価結果を踏まえた点検・評価

First of all I'm so happy that our students were pleased with the course. I feel this was a very kind evaluation. First of all, I'm most pleased to have received such a positive evaluation from this wonderful group of students. An advanced communication class presents a challenge for students and teacher alike so I am thankful for both their efforts and these very positive and helpful comments. I am happy to see that students seemed basically pleased with our class. Most of our original goals set out in the beginning of the term were met. One area that seems to be in need of some improvement centers on giving students the feeling that they have broadened their horizons through the course. Next term I plan to focus more on the content and thought of student projects. This will I believe, stimulate further interest and give an even deeper feeling of accomplishment to our very talented students. I hope we can continue and increase student interest in self-expression in the coming years. Many thanks for this fine class.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ[FA
FF, FS, FG]7
授業コード 11A13-024
教員名 NICKSICK, Thomas
教員コード 102113
登録人数 22
回答数 20
回答率 90.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

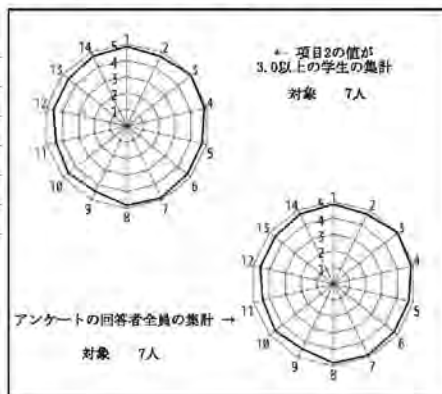


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Course goals included learning conversation strategies, improving vocabulary, being more confident when giving opinions, improving reading strategies, identifying main ideas and supporting details of texts, and guessing the meanings of words from context. The instructor was relatively successful in some areas. When asked if the instructor displayed sincerity and determination in his class management, the students' rating was 4.75. Regarding enough opportunities for questions, consultation with the instructor, or guidance, the students' rating was 4.80. When asked if the instructor took into account the degree of understanding of the students, the rating was 4.75. However, the instructor must improve other aspects of the class. When asked if students were making solid progress toward achieving the course's attainment target, the students' rating was 4.55. When asked if students were encouraged to proactively participate in class and become involved in the learning process, the students' rating was 4.60. Also, when asked if the students acquired new knowledge and deepened their understanding through the course, the students' rating was 4.60.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ<全>6
授業コード 11A13-029
教員名 FOX, Aaron
教員コード 103869
登録人数 24
回答数 7
回答率 29.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



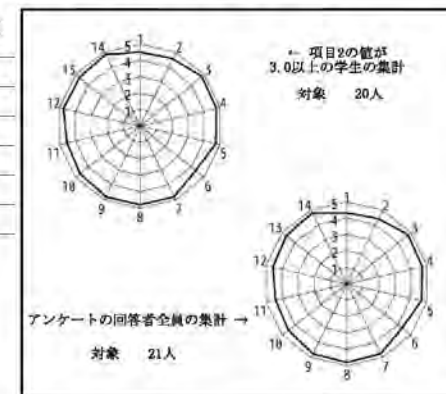
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were in line with those as laid out in detail in the FLEC-EED handbook for Communication skills in English V-I [E]. They were achieved. The reading goals was quite satisfactory and that based on the outcomes of the test scores and application of the skills covered.

For the next quarter, my primary goal is it increases the progress toward the speaking goals as stated in the FLEC-EED handbook. I will incorporate more discussion oriented activities alongside the reading skills and practice. In this past quarter, I divided both skills into discrete classes focused solely on either reading or speaking.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ<全>8
授業コード 11A13-031
教員名 LANDSBERRY, Lauren
教員コード 103626
登録人数 24
回答数 21
回答率 87.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



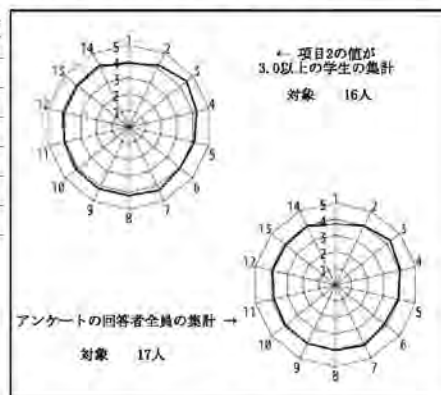
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This year I have really appreciated being in a larger classroom. It has been great to have extra room to spread out and do pair and group work or presentations. It has also been good to have a mixture of majors in the class as I think this offers more variety amongst the students. It was also nice to see some students from the previous quarter carry on to the next.

I felt that all of the goals that were set were achieved in the class. I also used some online activities with their smartphones to keep up their motivation.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIコミュニケーションスキルズ[S]2
授業コード 11A15-002
教員名 JARRELL, Douglas
教員コード 104102
登録人数 22
回答数 17
回答率 77.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

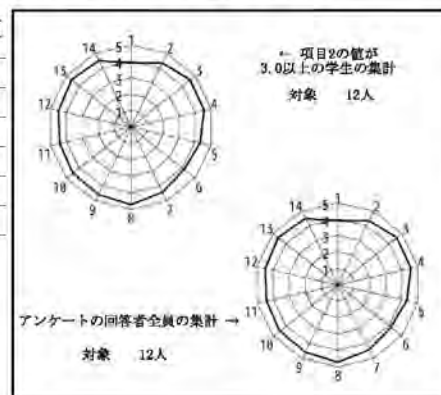


授業評価結果を踏まえた点検・評価

At the beginning of the quarter, the students were introduced to the Q3 syllabus and were shown the differences between Q3 and the previous quarter. The main speaking goal for the students was to maintain a discussion in groups of three for 10 minutes. When it became clear that discussions between two people led to a greater amount of speaking and more depth in the students' exchanges, students were paired off rather than organized into groups. Solid preparation with a worksheet before the discussions gave them the English and background knowledge that allowed them to express their opinions and arguments with a minimum of hesitation. In the reading part, students increased their knowledge of vocabulary and its usage, and they demonstrated their ability to choose the most appropriate words in the quizzes and tests. The student responses show that students are satisfied with the course and believe that their English is improving as a result. The course is going as planned, and I foresee no major changes in the course in Q4.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIコミュニケーションスキルズ[S]8
授業コード 11A15-010
教員名 ウエストビィ 三奈
教員コード 102952
登録人数 22
回答数 12
回答率 54.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目的は、①一年時からの多読を継続し、自己のレベルにあった本についてクラスメートに説明し、質疑応答ができること、②readingの教科書にある様々なトピックに関する記事を理解し自分の意見を述べるができること、そして③社会の中での様々な問題について意見を述べるとともに、それらに関連した自分の生活についてプレゼンをすることができるということである。多読に関しては、授業毎のBook Talkを通し、読んだ本の簡単な内容を紹介するとともに、自ら考えたdiscussion questionsについて意見を交わすことができるようになってきた。readingの教科書は一年時よりもレベルが上がったため戸惑う学生もいたが、ペアワークやグループワークを通して助け合いながら読解することができた。presentationに関しては、brainstorming, 1st draft writing, 2nd draft writing, pair practice, group practiceなどの過程を通し、まずは少人数の前でプレゼンをできるようになった。学生のアンケートの結果を見ても、当初の目標はほぼ達成できたと思う。今後の抱負としては、プレゼンの草稿段階での文法のミス、peer editingなどを用いてできるだけ少なくするよう繰り返し練習すること、プレゼンの事前準備としてgraphic organizerを使用したメモを用いることなどである。そして、徐々に大人数の前でプレゼンができるよう指導していきたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIコミュニケーションスキルズ
<再(理工学部生用)>
授業コード 11A15-014
教員名 MOORE, Douglas
教員コード 100954
登録人数 6
回答数 0
回答率 0.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

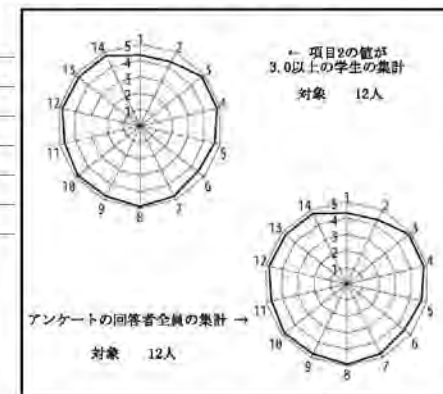
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class has overall done well with the material and classwork. In previous years there has sometimes been some confusion or inability to really accept the coursework, but this year the students are trying harder and doing better than many of their previous year classmates. Especially in the presentation grades, grades are up and the number of students who do not meet the minimum requirements are down. I hope the students continue to improve.

Overall this class has done well for me even though i feel the class textbooks are getting a little dated and it might be time to revise and review them with an eye for newer content and methods.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iライティング<J>3
授業コード 11A17-017
教員名 KHONDAKER, Taslima
教員コード 103598
登録人数 12
回答数 12
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

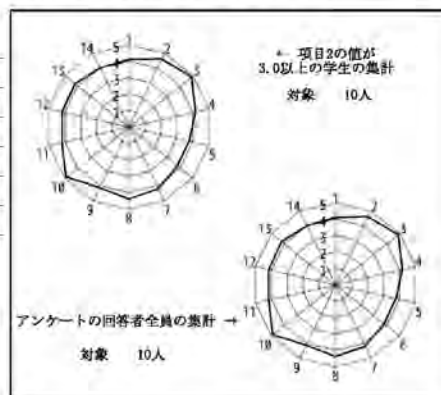


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course was to help students actively comprehend spoken messages, work out implied meanings, and develop organized points of view and try to express themselves by writing. As planned, I took fifteen classes without any make-up. I finished the full syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding Participation in the Class (Q1 to Q2), compared with the scores of 4.27 and 4.41 for the courses in the band of 11A01-001~11L.16-999, the scores of this course were 4.33 and 4.33. Regarding Evaluation of the Course in General (Q3 to Q7), compared with scores of 4.75, 4.57, 4.47, 4.28, and 4.68 for all courses, the scores for this course were 4.83, 4.83, 4.67, 4.50, and 4.758. Regarding Evaluation of the Class Management (Q8 to Q12), compared with scores of 4.74, 4.59, 4.69, 4.48, and 4.55 for all courses, the scores of this course were 4.92, 4.75, 4.83, 4.67, and 4.83. Regarding Overall Evaluation (Q13 to Q14), compared with scores 4.51 and 4.51 for all courses, the scores of this course were 4.75 and 4.75. As to Overall Impression of the Course (Q15 to Q17), the students did not give any comments.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語ライティング<全>2
授業コード 11A17-020
教員名 HAYES, Mary
教員コード 103625
登録人数 24
回答数 10
回答率 41.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) The goals set for this English writing course were achieved to a large extent. Progress was good in general, as the students increased their speed and confidence in expressing their own ideas on simple everyday topics without recourse to dictionaries and translation software. Their wordcounts improved for timed writing exercises. All were successful at producing several organized written assignments of an academic standard, typed and following standard formats.
- 2) Based on the charts, the class seemed to be satisfied with the class and their own progress at writing. As the class tended to be mixed level, I had to adjust my expectations and focus on giving individual coaching to the weaker students, while encouraging the more fluent to develop their skills to a higher level.
- 3) In future, I will work hard to create a comfortable atmosphere for writing and provide excellent input to motivate the best possible outcomes for all class members.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語ライティング<全>4
授業コード 11A17-022
教員名 佐藤 ゆかり
教員コード 047605
登録人数 22
回答数 4
回答率 18.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は、授業内でアンケートに答える時間をしっかりとらずに、授業終了後の時間を当てたので、アンケートをせずに帰る生徒がほとんどで、アンケートに答えた生徒が、わずか4人しかおらず、十分なデータがとれなかったことを反省しています。次回からは授業の最初の時間帯で、時間をしっかり確保したい。アンケートにこたえた4人の授業評価は良好なので、それはさておき、自身でこの授業を振り返る。大変静かなクラスで、生徒のやる気もあり、ライティングクラスではあるが、定期的に席替えをし、いろいろな生徒同士で、意見を交換し、一緒に考える時間を大切にしている。実際に個人のプロセスライティングに入るまでの導入の授業を大切に考えながら、発想、構造、語彙、文法、修辞など、様々な視点に刺激をあたえつつ、書き始める前段階の学習を教室内でできる工夫が、授業として定着してきたように感じています。問題としては、個別のフィードバックは時間的、規模的に困難なことで、授業前や、授業後に、任意で質問を受けるようにしている。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iディスカッション2

授業コード 11A19-002

教員名 木田 パルビン

教員コード 102322

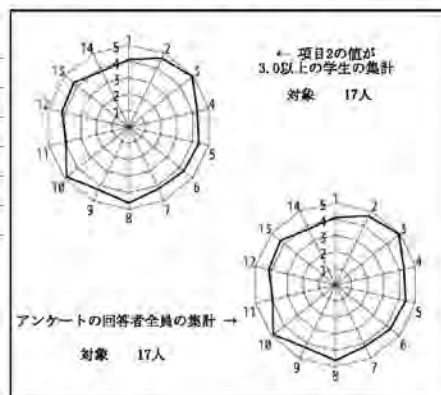
登録人数 21

回答数 17

回答率 81.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The aim of this course was to develop students' competence in participating and leading a pair/small group discussion while focusing on critical thinking on the topics introduced during the course. Students' practiced oral skills through discussion and then a short presentation based on their background knowledge (personal experiences) in addition to research work on the topic. The lessons followed a process approach of, first, discussing the topic, and then planning, organizing, and delivering an effective presentation in small groups of four or in front of the whole class. Watching the sample presentations on the video helped the students visually learn the techniques of delivering a speech such as voice projection and eye contact, as well as added- impacts such as showing pictures or using powerpoint to enforce a point of view. The vocabulary test was for the students to increase their vocabulary.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリーディング<全>2

授業コード 11A23-004

教員名 DAVANZO, Christopher

教員コード 101653

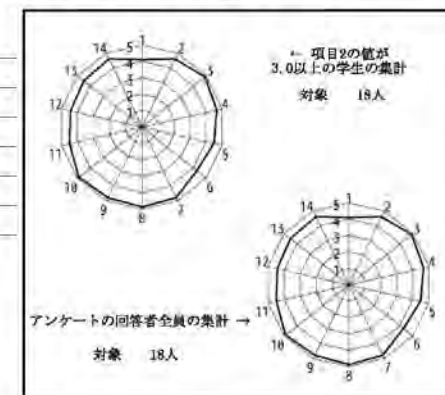
登録人数 22

回答数 18

回答率 81.8%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

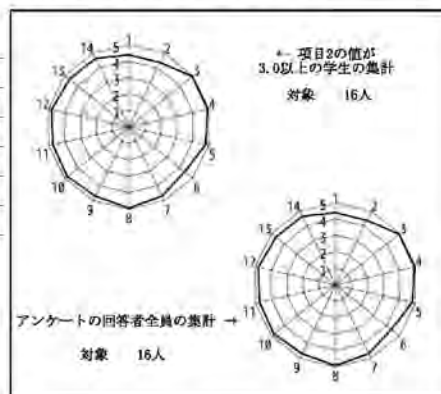


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was satisfied with these course evaluation results. First of all, the majority of students responded positively and indicated they were happy with the course, and felt they had improved. This quarter, I spent a lot of class time reading together with the class and having them discuss the readings in pairs. I gave them pre-reading activities, and these seemed to have boosted their understanding and level of engagement. In addition, I created other activities that dug more deeply into both the content and themes of the books we read. These activities went very smoothly, stimulated student interest and understanding, and seemed to get the students more motivated to read on their own. Based on both my own observations and the class evaluations as a whole, the focus on pre-reading and group reading activities was very productive. I intend to also create more and hopefully even better pair and large group discussion-based activities, so that students can gain the full benefit of both the teacher's expertise and the insights of their peers. I also plan to have more vocabulary review activities.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリーディング<全>4
授業コード 11A23-006
教員名 酒井 美納江
教員コード 046060
登録人数 24
回答数 16
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

テキストを使った学習については、文章の内容理解だけにとどまらず、自分の意見を英語で伝えたり、発展的な内容について調べグループごとに発表する課題を出来るだけ行った。評価には、通常の小テストに加え英語での個別インタビューを行うことを予告していたので、リーディングだけでなく、スピーキングやリスニングを多少でも意識した学習ができたのではないかなと思う。授業も時間の半分ほどは英語で行うようにした。しかし、今回のアンケートで、「授業は出来るだけ英語のみで行って欲しかった」との意見があり、自分自身に緊張感が足りなかったのではないかな、という良い反省材料をもらった。さらに、この回答者は「学生同士が話し合う時も英語を優先できればよかった」と記述していた。グループワークをすべて英語で行うのは、それぞれの学生の英語運用能力の差があり、難しいところではあるが、課題をシンプルにしたり、発話しなければならない内容にしっかりした枠組みを作っておくなどの工夫も十分できると思うので、Q4にはそれらが反映できるよう意識して授業を行っていこうと思う。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリーディング<全>8
授業コード 11A23-010
教員名 高野 洋子
教員コード 104147
登録人数 22
回答数 2
回答率 9.1%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 目標 1週間に2000WORDS程度の多読活動をするについて、学生が最初の2週間は活動が新鮮だったので、意欲を示し多読LOGを記入、クラスでのBOOKTALKを英語で行った。しかし、中盤、文化祭などの秋のイベントなどが多忙になったようで、読むことの意欲がさがる学生もでてきた。そのため、クラスで目標達成をするため、毎週2000語以下の本もOKにして、多読活動をするを生徒主導で決定した。記入LOGも簡素にしたので、読む一記録する一クラスで発表する一以上の過程が定着した。結果 総合語彙数は減ったが、毎週1冊英語本を読む学習は継続した。特にこのクラスは全学年、全学科の生徒が履修できるため、就職活動、インターンシップのため、授業を休む学生（特に4回生）が多かった。内定獲得しているが、不安からさらに就職活動しようかと相談を受けた学生には、大学で学ぶ重要点、特にREADINGは基礎である点を説明した。結果、授業に前向きに出席するようになった。

2. 英語新聞、STORY、TRUESTORYなど、多様な記事、英文を読む活動をしたので、学生は読解後、DISCUSSIONを通じて英文の内容理解を深めていった。しかし、学生の中には読解能力が低い学生もいたので、PEERシステムでお互い理解度を深めるための活動を取り入れた。また、スピードリーディングで速読を奨励したので、上位層の学生は自分の能力を向上させながら、協力することによって、読解能力を高めていた。

3. 読解活動に使用する英文は“国際理解”、国内問題、文化などを中心に選択したが、学生の希望をとりいれた英文を次回は使用したい。やはり、学習意欲があがる内容、学生が求める内容を使用することが大事なので、class evaluationを使用していたが、requestを書きやすいformに変更する所存である。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語リスニング＜全＞2

授業コード 11A25-024

教員名 加藤 尚子

教員コード 103630

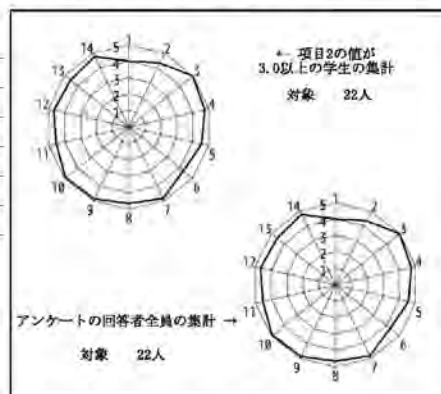
登録人数 24

回答数 22

回答率 91.7%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について：単語の音の強弱、リズム、ストレスなどを習得することをはじめ、短い会話を聞きメインアイデアを理解できること、そして1分の物語を口述筆記するという能力を習得することを目指しておりました。リズム、ストレス、そして単語の音の強弱を習得し始めたように感じ取られました。また、口述筆記については講義時間内での練習の成果もあり、クォーター当初よりも口述筆記という作業に慣れ、能力の向上が見受けられました。しかしながら、一部の生徒はやや苦手意識が残っているように見受けられました。短い会話を聞いてメインアイデアを聞き取ることに限っては大部分の生徒が習得できたと思えます。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：全体的に比較的易しかったという意見も一部ありました。また、楽しみながら講義を受けることができたという意見もありました。しかしながら、学生が到達目標に向けて力がついてきていると感じているのがやや低いように見受けられました。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：一部の学生の中に比較的易しかったという声がありましたので、その点を踏まえ次クォーター以降に向けて挑戦意欲を湧き上げるようなアクティビティを増やしていこうと思います。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語リスニング＜全＞6

授業コード 11A25-028

教員名 松見 誌野

教員コード 104166

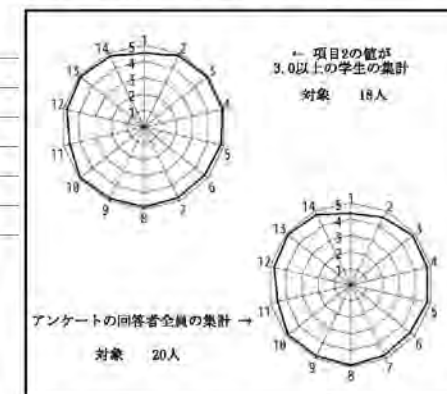
登録人数 24

回答数 20

回答率 83.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初設定していた目標と到達の程度については、Q6の質問「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」の問いに対する回答の平均値が4.65と比較的高い数値だったので、概ね多くの学生が目標到達できたと考えられる。学期末のリスニングテスト結果からも、ほとんどの学生が高い得点を獲得できたことから、目標であるリスニング力向上は概ね達成できたと考えられる。
- ②担当科目に関する自己評価については、Q1～Q14の全ての問いに対する回答の平均値が4以上であったことから、学生にとって満足度の高い授業運営ができたと考える。Q13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」の問いに対する回答の平均値は4.85と高い数値だったので、Listening Comprehensionのストラテジーを理解して頂けたと思う。
- ③次クォーターに向けての抱負としては、使用教材以外で、動画や洋楽を積極的に今後も活用し、学生のリスニング力向上の動機付けに寄与したいと思う。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語I翻訳<全>2

授業コード 14A05-002

教員名 加藤 普由子

教員コード 101654

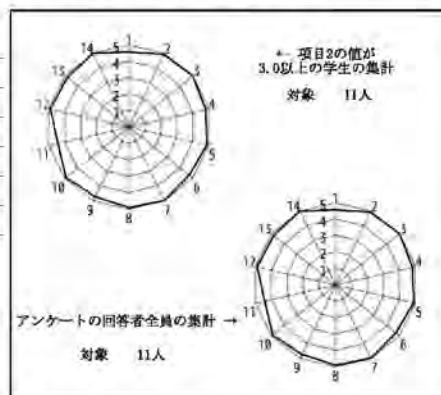
登録人数 15

回答数 11

回答率 73.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

15名中11名の回答結果であることを踏まえて、項目2の平均値が4.91であり、学生が課題に対して主体的に取り組んだと自己評価し、私自身も学生が内容理解やスキル習得に意欲的に取り組んでいたとの実感を得ている。全体評価として、この授業への満足度は5.00、本授業を通して新たに知識、技術、能力が獲得され、理解が深まったと述べているのは4.82という結果となり、総じて良かったと思う。学生の意欲、主体性は習得と深く関係していると実感する。他方で個々の疑問にも可能な限り対応することを試みた。自由回答の評価欄においても、「質問の時間が十分に与えられていた」「机間巡回のおかげで質問がしやすかった」「学生の解答への細かいアドバイス、具体的な使用例が提示され、ためになった」など、指導方法も学生の主体性とうまく相互作用した（項目12：4.91）。とは言え、学生全員への配慮が足りなかったところも数値に反映されており（例えば項目9：4.73、項目11：4.45）、今後の課題としたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語I通訳<全>2

授業コード 14A07-002

教員名 山田 秀子

教員コード 103595

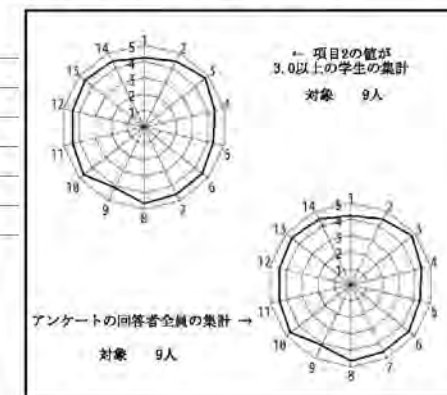
登録人数 18

回答数 9

回答率 50.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

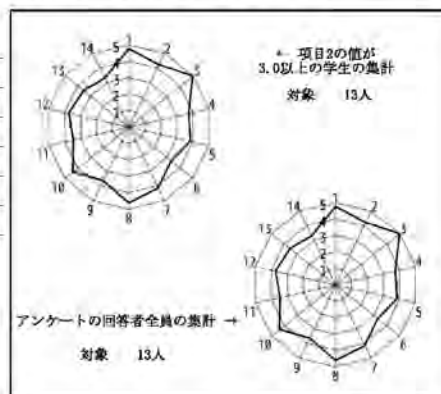


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は概ね達成できたと思う。予定していた通訳技法のうち80%程度を扱うことができた。アンケートでは、教員が学生の理解度に配慮して教材等を効果的に使って授業を進めたかをどうかを問う項目9の平均値が最も低かった。考えられる原因として、受講生の所属学部・専攻が多様で英語運用能力の差が比較的大きかったことが挙げられる。使用する教材の難易度を一定にしないで初級から中級まで扱ったため、教材によっては易しすぎる、または難しすぎるという印象を持った学生がいたと考えられる。しかし、ペアやグループ単位での演習を中心としたため、能力差がある学生間で教え合うことで互いに理解を深められたのではないかと考える。自由記述の回答に、いろいろな人と話す機会があったことを良かった点として挙げているものもあり、今後もこの形式で授業を進めていきたい。また、ゲストスピーカーを招いての通訳実習が良かったという回答もあった。一人に割り当てられる時間は限られるが、全員が実践的な通訳を体験できたことは有意義であった。今後も学期中に一度は実習を行っていく予定である。今期はPCLL教室を利用してシャドーイングや逐次通訳を録音し、学生は自身のパフォーマンスを客観的に評価することができた。ただ、機器に問題が発生したり、操作に手間取ったりすることも多かった。この点は今後の課題として改善につとめたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 実践英語IA<全>試験対策TOEIC2
授業コード 14A09-002
教員名 今川 奈美
教員コード 104146
登録人数 21
回答数 13
回答率 61.9%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①TOEICのテスト形式を知り、解き方のコツを習得するという目標は到達できたと思う。また、TOEICテスト頻出の語彙力を高めることにおいては、小テストである程度の結果が出ていたことから、大半の学生が到達できたと思う。しかし、レベルが高い学生については、授業評価の結果を見ると、この授業であまり能力を伸ばすことができなかったように思われる。
- ②授業全体の満足度の数値データが伸び悩んだ理由がいくつか考えられる。一つ目は、比較的レベルの高い生徒から、簡単すぎる、進度が遅いというコメントが複数あった。もう一つは、協働的授業により学びを促そうとしたが、生徒がそのような授業の形態を望んでいなかったことにある。生徒同士での活動よりも、たくさん問題を解いて解説を聞くことを学生が望んでいることがわかった。
- ③レベルの高い生徒にも対応できるような進度を配慮したい。また、協働的授業というよりも、演習に特化した授業を行っていきたいと思う。また、与えた課題の意図が上手く伝わっていなかった部分があったように感じるので、全員が理解できるような明確な説明を心がけたい。

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語A2
授業コード 40E04-002
教員名 MOORE, Jonathan
教員コード 101410
登録人数 17
回答数 4
回答率 23.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The overall scoring of the set of questions was very positive. Attendance was excellent. Students were engaged in the lessons. Students said they were self motivated in preparing for classes and review. They showed interest in English and realized the importance of English in the workplace. Each lesson began and ended on time. Students felt the pace of each lesson was appropriate. Students were given a syllabus on the first teaching day, and the course goals and grading were explained. Students could hear me and the audio equipment. PowerPoint made lectures for the non-English majors easier to understand. The class was adjusted to the student's needs and level. There were no behavior problems in the class. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to give each student individual consultation and instruction. Students were encouraged to participate in class. Students seemed very interested in communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques and skills. Overall, students were very satisfied with the class.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IIIライティング2

授業コード 42G06-002

教員名 BINFORD, Paul

教員コード 046037

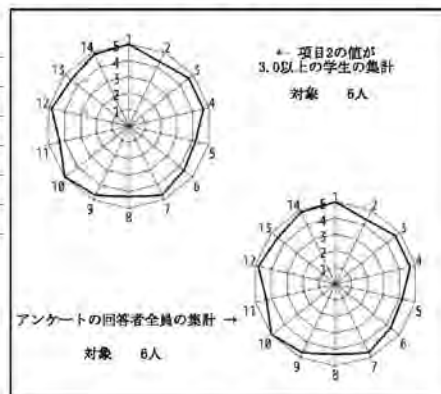
登録人数 6

回答数 6

回答率 100.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

From looking at the comments of the students in Business English Writing, I see that the students understood the routine of the class. We rotated lessons between writing reports and business e-mails. The writing included market analyses about companies and e-mails related to business. The students were allowed to choose their own companies within the parameters explained by the teacher.

The textbook gave examples of common situations in the office, followed by exercises. The students generally felt this textbook to be accessible, meanwhile recognizing the usefulness of the language focus in later life. We also had weekly writing assignments with students exchanging e-mails on such topics a making a proposal, ordering and purchasing, making complaints. My feeling was that the students were learning useful vocabulary and sentence structure.

In the following classes I will emphasize the practical usefulness of the reference section at the end of the textbook. I believe that cross referencing the difficult vocabulary will reinforce their retention. I will also encourage them to move up the scale of the written reports.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IIIライティング3

授業コード 42G06-003

教員名 VIADO Cora

教員コード 100553

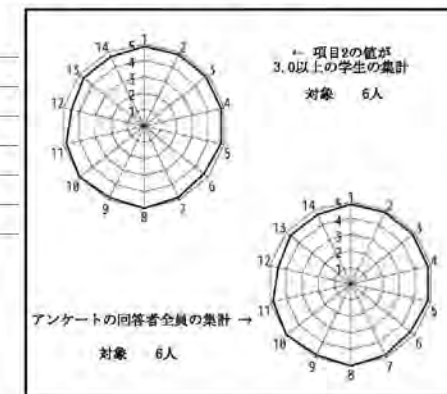
登録人数 6

回答数 6

回答率 100.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

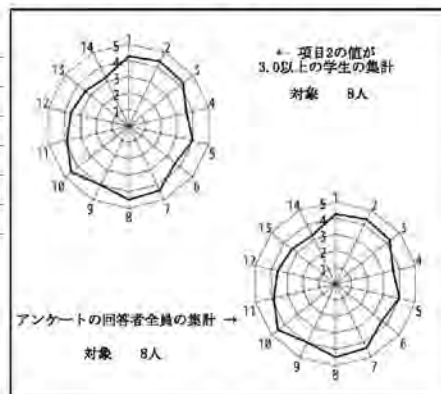


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class was delivered using a combination of lecture and seminar styles. Students learned how to use different types of English-language business correspondence, such as business letters, business faxes, business e-mail, and business proposals in order to develop important skills related to business and writing. Timed writing on a variety of topics was done regularly so as to encourage writing in English and to monitor one's progress. Opportunities for sharing ideas and written work were provided and students showed interest in getting to know more about their classmates. These activities created rapport and camaraderie among the students. The overall significantly positive results of the students' evaluation indicate the students' general satisfaction with the content and dynamics used in class. The students' comments show that they enjoyed the class and appreciate the practical dimension of the lesson, particularly the chance to use the computer and to write business emails. There is a need to pay attention to students' questions and inquiries, and to allot more time for class discussion.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English III1
授業コード 48A07-001
教員名 PALISADA Eloisa
教員コード 055830
登録人数 11
回答数 8
回答率 72.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



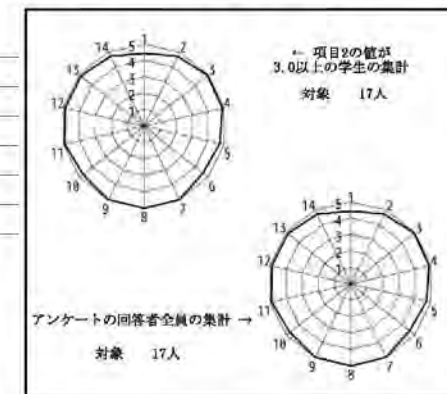
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course continues to develop students' skills started in the previous 2 Quarters: to gain an appropriate level of academic and oral proficiency, critically analyze thought-provoking content/current issues. Eight out of 11 responded to this survey. Eighty-five percent of the class are of varied nationalities; had previous educational training outside Japan. Their English competency is an advanced level.

With the diversity of backgrounds, class involvement and discussion were generally active and enriching. That is why there seems to be a mismatch between what is going on in class with the survey results. Two students gave a perfect 100% in all the items, two: almost perfect as well; another two totaled 75%; but the last two totaled 50% or less only. The average then became low. It would seem improbable that there are students who think they have not acquired any new knowledge at all from the course. Every week they brought in a current news article for discussion; engage in active learning, train in academic writing, vocabulary, do research and presentation. There's rapport with everyone that facilitates learning and teaching experience. I believe that students who have missed classes missed opportunities to learn actively and were the ones who rated themselves lower and thus less satisfied in general. As a teacher, I face the challenge to provide time for ample mutual feedback, structure the class apt to students' diverse levels of understanding, pace and sustain their motivation to learn proactively. Despite the seemingly low rating, I can still say it is satisfying to have these students in class where confidence, openness, and active participation are evident.

2019年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English III7
授業コード 48A07-007
教員名 水野 真紀
教員コード 101981
登録人数 18
回答数 17
回答率 94.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標は概ね達成できた。4技能を駆使して今期の主要テーマ、メディアについて学習することができた。教科書の読み物に加え、ニュース、新聞、ネット動画などさまざまなソースから情報をインプットして、分析と考察を行い、結果を個別ではプレゼンテーションとレポート、グループでは英字新聞制作でアウトプットをした。英語のスキルに加え、アカデミックな学習スキルも学んだ。ほかの数値と比べて多少低い設問2については、課題に加えて新聞製作に時間をとられ、主体的に学ぶ余裕が持てなかったのかもしれない。同様に設問6についても新聞製作と期末レポートの比重が重い、今期は特にライティングによる自己表現が困難であったと考えられる。しかし、設問13と14の数値は比較的高く、自由記述ではメディアに対して批判的思考ができるようになった、新聞製作では協働作業により完成させたことで達成感を得られたと肯定的意見がみられる。今後の課題は、引き続き適正に日本語を使用することである。課題やグループ活動の説明と手順は念のため日本語でも説明を加えているが、わかりやすい英語で丁寧に行うべきだ考える。学生の様子を見ながら調整していく。